

平成 16 年度
独立行政法人国立美術館
東京国立近代美術館年報



目次 Contents

美術・工芸部門

I 作品収集・修理等

1 作品収集

- 6 — 1-1 美術作品[日本画 油彩 その他 版画 水彩・素描 彫刻(立体造形) 書 写真 資料]
6 — 1-2 工芸作品[陶磁 染織 漆工 金工 木工 竹工 ガラス 人形 グラフィック・デザイン 工業
デザイン その他 資料]

2 平成16年度新収蔵作品

- 7 — 2-1 美術作品[日本画 油彩 その他 版画 水彩・素描 彫刻(立体造形) 写真]

3 作品修理

- 19 — 2-2 工芸作品[陶磁 ガラス 染織 人形 金工 その他]

- 23 — 3-1 美術作品

- 25 — 3-2 工芸作品

II 公衆への観覧

1 展覧会

- 26 — 1-1 観覧者数 1-1-1 本館 1-1-2 工芸館

- 27 — 1-2 これまでの展覧会一覧

- 49 — 1-3 平成16年度企画展覧会一覧表

- 50 — 1-4 平成16年度企画展覧会記録

- 59 — 1-5 常設展・所蔵作品展示記録

2 作品貸与・特別観覧

- 64 — 2-1 作品貸与 2-1-1 本館 2-1-2 工芸館

- 65 — 2-2 特別観覧 2-2-1 本館 2-2-2 工芸館

- 66 — 1 本館 2 工芸館

III 調査研究

IV 教育普及

1 普及活動

- 69 — 1-1 資料の収集及び図書室の公開

- 70 — 1-2 児童生徒を対象とした事業 1-2-1 本館 1-2-2 工芸館

- 72 — 1-3 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク等 1-3-1 本館 1-3-2 工芸館

- 81 — 1-4 大学等との連携 1-4-1 本館 1-4-2 工芸館

- 83 — 1-5 ボランティア 1-5-1 本館 1-5-2 工芸館

2 刊行物

- 85 — 2-1 企画展覧会カタログ 2-1-1 本館 2-1-2 工芸館

- 88 — 2-2 目録・ガイド等 2-2-1 本館 2-2-2 工芸館

- 90 — 2-3 研究紀要・年報等

- 91 — 2-4 美術館ニュース『現代の眼』索引

- 92 — 3-1 広報 3-1-1 本館 3-1-2 工芸館

- 93 — 3-2 美術館情報システムによる普及・広報

映画部門

I 作品収集・復元等

1 作品収集

- 96 — 1-1 映画フィルム 1-2 映画関係資料

2 保存／復元

- 99

3 カタロギング／

ドキュメンテーション

- 100

II 公衆への観覧

1 企画上映等

- 101 — 1-1 観覧者数

- 103 — 1-2 企画上映 1-2-1 上映企画一覧 1-2-2 平成16年度企画上映記録

- 153 — 1-3 展示 1-3-1 展示企画一覧 1-3-2 平成16年度展示記録

2 優秀映画鑑賞推進事業

- 156

3 作品貸与・特別映写・複製利用

- 164

III 調査研究

IV 教育普及

1 普及活動

- 173 — 1-1 資料の収集及び図書室の公開

- 174 — 1-2 児童生徒を対象とした事業

- 175 — 1-3 講演会・シンポジウム等

- 176 — 1-4 映画製作専門家養成講座

- 177 — 1-5 大学等との連携

2 刊行物

- 178 — 2-1 NFCカレンダー等 2-2 NFCニューズレター 2-3 目録・ガイド等

3 広報

- 182 — 3-1 広報 3-2 美術館情報システムによる普及・広報

記録

1 国際交流

- 184 — 1-1 平成16年度招聘者一覧

- 186 — 1-2 平成16年度来館者

2 日誌

- 188

3 予算

- 189 — 3-1 平成16年度歳出予算一覧

4 名簿

- 190

1 作品収集 List of Acquisitions

1-1 美術作品

種別	平成16年度収集点数	所蔵総点数
日本画	3	717
油彩 その他	4	1,128
版画	11	1,848
水彩・素描	6	557
彫刻(立体造形)	6	392
書	0	19
写真	57	1,402
資料	0	3,135
合計	87	9,198

1-2 工芸作品

種別	平成16年度収集点数	所蔵総点数
陶磁	4	559
染織	1	354
漆工	0	215
金工	1	345
木工	0	52
竹工	0	34
ガラス	13	97
人形	1	59
グラフィック・デザイン	0	582
工業デザイン	0	143
その他	1	9
資料	0	19
合計	21	2,468

2-1 美術作品 Art Works

平成16年度における美術作品の購入、受贈による新収蔵作品は次のとおり。日本画3点(購入2点、受贈1点)、油彩 その他4点(購入3点、受贈1点)、版画11点(購入3点、受贈8点)、水彩・素描6点(受贈6点)、彫刻(立体造形) 6点(購入5点、受贈1点)、写真57点(購入29点、受贈28点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation of works of art during fiscal 2004 were as follows: 3 works of Japanese-style painting (2 purchased, 1 donated); 4 works of oil painting, etc. (3 purchased, 1 donated); 11 works of print (3 purchased, 8 donated); 6 works of watercolor and drawing (6 donated); 6 works of sculpture (5 purchased, 1 donated); and 57 photographic works (29 purchased, 28 donated).

日本画

Japanese-style Paintings

加山又造 (1927-2004)

千羽鶴

昭和45年
絹本彩色・屏風 6曲1双
各167.0×372.0cm
第34回新制作展(東京都美術館、1970年)
加山みどり氏寄贈
J-716

KAYAMA, Matazo (1927-2004)

A Thousand Cranes

1970
color on silk, a pair of six-fold screens
each 167.0×372.0cm

中村岳陵 (1890-1969)

豊幡雲

昭和11年
紙本彩色・屏風 6曲1隻
155.5×358.0cm
左下に印章
第1回改組帝展(東京府美術館、1936年)
購入
J-717

NAKAMURA, Gakuryo (1890-1969)

A Pretty Bank of Clouds

1936
color on paper, six-fold screen
155.5×358.0cm

村上華岳 (1888-1939)

松山雲煙

大正14年
絹本彩色・額
46.4×140.0cm
左下に印章
第5回国画創作協会展
(東京、日本美術協会ほか、1926年)
購入
J-715

MURAKAMI, Kagaku (1888-1939)

Pine-covered Mountains in the Mist

1925
color on silk, framed
46.4×140.0cm

油彩 その他
Oil Paintings, etc.

堂本右美 (1960-)

Kanashi-11

平成16年
油彩・キャンバス
194.2×259.2cm
個展 (東京、ギャラリー小柳ビューイングルーム、
2004年)
購入
O-1160

Domoto, Yuumi (1960-)

Kanashi-11

2004
oil on canvas
194.2×259.2cm

野見山暁治 (1920-)

口うるさい景色

平成11年
油彩・キャンバス
194.0×194.0cm
右下に署名
個展 (東京、ギャラリー山口、1999年)
購入
O-1159

NOMIYAMA, Gyoji (1920-)

A Nagging Scene

1999
oil on canvas
194.0×194.0cm

野見山暁治 (1920-)

風景 (ライ・レ・ローズ)

昭和35年
油彩・キャンバス
89.7×145.3cm
右上に署名、年記
個展 (パリ、ジャンヌ・カステル画廊、1960年)
作者寄贈
O-1161

NOMIYAMA, Gyoji (1920-)

Landscape (L' Haÿ-les-Roses)

1960
oil on canvas
89.7×145.3cm

柳瀬正夢 (1900-1945)

門司港

大正8年
油彩・キャンバス
88.0×141.0cm
左下に署名、年記
柳瀬正夢遺作展 (愛媛県立美術館、1978年)
購入
O-1158

YANASE, Masamu (1900-1945)

The Port of Moji

1919
oil on canvas
88.0×141.0cm

版画
Prints

加納光於 (1933-)

「波動説」- intaglioをめぐって

No.12

昭和59-60年
銅版 (カラー・インタリオ) A.P.
41.8×56.7cm
左下に刷番号；右下に署名
購入
P-1836

KANO, Mitsuo (1933-)

Wave Theory:

Concerning Intaglio No.12

1984-85
color intaglio A.P.
41.8×56.7cm

加納光於 (1933-)

「波動説」- intaglioをめぐって

No.28

昭和60年
銅版 (カラー・インタリオ) A.P.
69.7×49.7cm
左下に刷番号；右下に署名
購入
P-1837

KANO, Mitsuo (1933-)

Wave Theory:

Concerning Intaglio No.28

1985
color intaglio A.P.
69.7×49.7cm

加納光於(1933-)
「波動説」- intaglioをめぐって

No.33

昭和60年
銅版(カラー・インタリオ) A.P.
68.7×49.5cm
左下に刷番号; 右下に署名
購入
P-1838

KANO, Mitsuo(1933-)
Wave Theory:
Concerning Intaglio No.33
1985
color intaglio A.P.
68.7×49.5cm

加納光於(1933-)
《稲妻捕り》L-No.16V

昭和52年
リトグラフ A.P.
62.3×50.2cm
左下に刷番号; 右下に署名
作者寄贈
P-1839

KANO, Mitsuo(1933-)
Catcher of Lightning L-No.16V
1977
lithograph A.P.
62.3×50.2cm

加納光於(1933-)
《稲妻捕り》L-No.19

昭和52年
リトグラフ A.P.
47.1×58.1cm
左下に刷番号; 右下に署名
作者寄贈
P-1840

KANO, Mitsuo(1933-)
Catcher of Lightning L-No.19
1977
lithograph A.P.
47.1×58.1cm

加納光於(1933-)
《稲妻捕り》L-No.24

昭和52年
リトグラフ A.P.
59.4×46.3cm
左下に刷番号; 右下に署名
作者寄贈
P-1841

KANO, Mitsuo(1933-)
Catcher of Lightning L-No.24
1977
lithograph A.P.
59.4×46.3cm

加納光於(1933-)
《稲妻捕り》L-No.25

昭和52年
リトグラフ A.P.
62.4×50.3cm
左下に刷番号; 右下に署名
作者寄贈
P-1842

KANO, Mitsuo(1933-)
Catcher of Lightning L-No.25
1977
lithograph A.P.
62.4×50.3cm

加納光於(1933-)
《稲妻捕り》L-No.26V

昭和52年
リトグラフ A.P.
62.3×50.3cm
左下に刷番号; 右下に署名
作者寄贈
P-1843

KANO, Mitsuo(1933-)
Catcher of Lightning L-No.26V
1977
lithograph A.P.
62.3×50.3cm

松本旻(1936-)
100個の「くろまめ」-I

昭和47年
銅版(エッチング 凹版) 1/5
76.0×41.9(89.9×54.1) cm
左下に刷番号; 右下に署名
「創作版画10人展」(「少しづつ違う100個のくろまめ
(I)」(東京、京王百貨店版画サロン特別室,1972
年)
倉橋夏子氏遺贈
P-1844

MATSUMOTO, Akira(1936-)
One Hundred Black Beans-I
1972
etching intaglio 1/5
76.0×41.9(89.9×54.1) cm

松本旻(1936-)
100個の「くろまめ」-III

昭和47年
銅版(エッチング 空摺り) 2/5
77.0×42.0(90.0×54.0) cm
左下に刷番号; 右下に署名
作者寄贈
P-1845

MATSUMOTO, Akira(1936-)
One Hundred Black Beans-III
1972
etching embossing 2/5
77.0×42.0(90.0×54.0) cm

松本旻(1936-)
3個の「くろまめ」

昭和47年
銅版(エッチング 凹版、凸版、空摺り) 24/100
7.5×13.0(28.0×37.6) cm
左下に刷番号; 右下に署名、年記
作者寄贈
P-1846

MATSUMOTO, Akira(1936-)
Three Black Beans
1972
etching intaglio, relief and embossing
24/100
7.5×13.0(28.0×37.6) cm

水彩・素描

Watercolors & Drawings

杉本健吉 (1905-2004)

多度山

昭和19年
コンテ・紙
43.6×53.0cm
杉本武氏寄贈
D-405

SUGIMOTO, Kenkichi (1905-2004)

Mt. Tado

1944
conté on paper
43.6×53.0cm

杉本健吉 (1905-2004)

伊賀上野 (開化寺)

昭和19年頃
コンテ・紙
69.2×51.6cm
杉本武氏寄贈
D-406

SUGIMOTO, Kenkichi (1905-2004)

Igaeno, Kaikaji Temple

c.1944
conté on paper
69.2×51.6cm

杉本健吉 (1905-2004)

回廊 (大和の寺風景)

昭和19年頃
コンテ・紙
57.0×45.0cm
杉本武氏寄贈
D-407

SUGIMOTO, Kenkichi (1905-2004)

Cloister, a Temple in Yamato

c.1944
conté on paper
57.0×45.0cm

杉本健吉 (1905-2004)

五百羅漢

昭和20年
コンテ、水彩・紙
57.4×45.0cm
杉本武氏寄贈
D-408

SUGIMOTO, Kenkichi (1905-2004)

Five Hundred Arhats

1945
conté and watercolor on paper
57.4×45.0cm

野見山暁治 (1920-)

枯れたもの

昭和45-46年
インク、グアッシュ・紙
56.7×76.7cm
作者寄贈
D-403

NOMIYAMA, Gyoji (1920-)

The Withered

1970-71
ink and gouache on paper
56.7×76.7cm

野見山暁治 (1920-)

枯れた葉

昭和46-47年
インク、パステル・紙
56.7×75.8cm
作者寄贈
D-404

NOMIYAMA, Gyoji (1920-)

Withered Leaves

1971-72
ink and pastel on paper
56.7×75.8cm

彫刻(立体造形)

Sculptures

遠藤利克(1950-)

Trieb-近代-身体

平成9年
水、天然ゴム、合板、ポンプ、鉄、銅
93.0×197.5×121.0cm
個展(東京、秋山画廊、1997年)
購入
S-398

ENDO, Toshikatsu(1950-)

Trieb - Modernity - Body

1997
water, natural rubber, plywood, pump, iron
and copper
93.0×197.5×121.0cm

菅木志雄(1944-)

景留斜継

平成16年
木、ワイヤーロープ
790.0×630.0×372.0cm
平成16年度第4回所蔵作品展「近代日本の美術」
(東京国立近代美術館、2004-05年)
購入
S-397

SUGA, Kishio(1944-)

Kei-ryu-sha-kei

2004
wood and wire rope
790.0×630.0×372.0cm

菅木志雄(1944-)

止空散様

平成16年
アルミニウム、石
222.0×836.0×324.0cm
平成16年度第4回所蔵作品展「近代日本の美術」
(東京国立近代美術館、2004-05年)
作者寄贈
S-399

SUGA, Kishio(1944-)

To-ku-san-yo

2004
aluminum and stone
222.0×836.0×324.0cm

高村光太郎(1883-1956)

兎

明治32年頃
木
12.0×11.6×14.1cm
高村光太郎・智恵子展(神奈川県立近代美術館、
1956年)
購入
S-394

TAKAMURA, Kotaro(1883-1956)

Rabbit

c.1899
wood
12.0×11.6×14.1cm

トニー・クラッグ(1949-)

メーター (計測器)

平成15年
木
125.0×195.0×140.0cm
個展(サンパウロ、ガレリア・トーマス・コーン、
2003年)
購入
S-395

CRAGG, Tony(1949-)

The Meter

2003
wood
125.0×195.0×140.0cm

ビル・ヴィオラ(1951-)

追憶の五重奏

平成12年
ビデオ・インスタレーション(リアープロジェク
ション、15分間)
画面サイズ: 140.0×250.0cm
個展(ニューヨーク、ジェームズ・コーアン・ギャ
ラリー、2001年)
購入
S-396

VIOLA, Bill(1951-)

The Quintet of Remembrance

2000
video installation (rear-projection, 15minutes)
Screen Size: 140.0×250.0cm

写真

Photographic Works

岡上淑子(1928-)

作品B

昭和25年
コラージュ・紙
38.3×25.0cm
作者寄贈
D-409

OKANOUE, Toshiko(1928-)

Work B

1950
collage on paper
38.3×25.0cm

岡上淑子(1928-)

作品E

昭和26年
コラージュ・紙
30.1×24.0cm
作者寄贈
D-410

OKANOUE, Toshiko(1928-)

Work E

1951
collage on paper
30.1×24.0cm

岡上淑子(1928-)

人形師

昭和26年
コラージュ・紙
20.6×24.6cm
作者寄贈
D-411

OKANOUE, Toshiko(1928-)

Puppeteer

1951
collage on paper
20.6×24.6cm

岡上淑子(1928-)

夜間訪問

昭和26年
コラージュ・紙
35.6×25.4cm
「抽象と幻想」展(国立近代美術館、1953年)
購入
D-419

OKANOUE, Toshiko(1928-)

A Night Visit

1951
collage on paper
35.6×25.4cm

岡上淑子(1928-)

室内

昭和26年
コラージュ・紙
34.5×25.8cm
「抽象と幻想」展(国立近代美術館、1953年)
購入
D-420

OKANOUE, Toshiko(1928-)

Interior

1951
collage on paper
34.5×25.8cm

岡上淑子(1928-)

長い一日

昭和26年
コラージュ・紙
28.9×26.2cm
「抽象と幻想」展(国立近代美術館、1953年)
購入
D-421

OKANOUE, Toshiko(1928-)

A Long Day

1951
collage on paper
28.9×26.2cm

岡上淑子(1928-)

無情な光景

昭和26年
コラージュ・紙
29.4×26.2cm
「抽象と幻想」展(国立近代美術館、1953年)
購入
D-422

OKANOUE, Toshiko(1928-)

A Scene without Feeling

1951
collage on paper
29.4×26.2cm

岡上淑子(1928-)

夜

昭和26年
コラージュ・紙
40.1×30.1cm
作者寄贈
D-412

OKANOUE, Toshiko(1928-)

Night

1951
collage on paper
40.1×30.1cm

岡上淑子(1928-)

終曲の午後

昭和27年
コラージュ・紙
35.6×25.2cm
「抽象と幻想」展(国立近代美術館、1953年)
購入
D-423

OKANOUE, Toshiko(1928-)

Afternoon of the Finale

1952
collage on paper
35.6×25.2cm

岡上淑子(1928-)

怠惰な恋人

昭和27年
コラージュ・紙
30.8×26.4cm
「抽象と幻想」展(国立近代美術館、1953年)
購入
D-424

OKANOUE, Toshiko(1928-)

A Lazy Sweetheart

1952
collage on paper
30.8×26.4cm

岡上淑子(1928-)

窓辺

昭和27年
コラージュ・紙
22.6×17.7cm
作者寄贈
D-413

OKANOUE, Toshiko(1928-)

At the Window

1952
collage on paper
22.6×17.7cm

岡上淑子(1928-)

地球の果て

昭和27年
コラージュ・紙
35.7×26.0cm
作者寄贈
D-414

OKANOUE, Toshiko(1928-)

The End of the Globe

1952
collage on paper
35.7×26.0cm

岡上淑子(1928-)

孤独の讃歌

昭和27年
コラージュ・紙
35.7×24.8cm
作者寄贈
D-415

OKANOUE, Toshiko(1928-)

Song in Praise of Solitude

1952
collage on paper
35.7×24.8cm

岡上淑子(1928-)

脚

昭和27年
コラージュ・紙
43.5×28.4cm
作者寄贈
D-416

OKANOUE, Toshiko(1928-)

A Leg

1952
collage on paper
43.5×28.4cm

岡上淑子(1928-)

宣誓

昭和28年
コラージュ・紙
25.0×20.8cm
作者寄贈
D-417

OKANOUE, Toshiko(1928-)

An Oath

1953
collage on paper
25.0×20.8cm

岡上淑子(1928-)

白昼夢

昭和29年
コラージュ・紙
33.8×26.4cm
購入
D-425

OKANOUE, Toshiko(1928-)

Daydream

1954
collage on paper
33.8×26.4cm

岡上淑子(1928-)

花嫁

昭和29年
コラージュ・紙
21.3×25.8cm
購入
D-426

OKANOUE, Toshiko(1928-)

Bride

1954
collage on paper
21.3×25.8cm

岡上淑子 (1928-)

とらわれ人

昭和29年
コラージュ・紙
27.8×23.0cm
購入
D-427

OKANOUE, Toshiko (1928-)

Captives

1954
collage on paper
27.8×23.0cm

岡上淑子 (1928-)

閃光

昭和29年
コラージュ・紙
34.6×15.9cm
購入
D-428

OKANOUE, Toshiko (1928-)

Flashes

1954
collage on paper
34.6×15.9cm

岡上淑子 (1928-)

散る

昭和31年
コラージュ・紙
28.3×23.6cm
作者寄贈
D-418

OKANOUE, Toshiko (1928-)

Falling

1956
collage on paper
28.3×23.6cm

川田喜久治 (1933-)

「ラスト・コスモロジー」より

うろこ雲と隠れ蓑

昭和54年
ゼラチン・シルバー・プリント
38.2×56.7 (50.8×60.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1347

KAWADA, Kikuji (1933-)

Scaly Cloud and the Invisible Mantle
Tree from “The Last Cosmology”

1979
gelatin silver print
38.2×56.7 (50.8×60.7) cm

川田喜久治 (1933-)

「ラスト・コスモロジー」より

グラスハウスと空

昭和56年
ゼラチン・シルバー・プリント
51.3×34.2 (55.7×45.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1348

KAWADA, Kikuji (1933-)

Glasshouse and Sky from
“The Last Cosmology”

1981
gelatin silver print
51.3×34.2 (55.7×45.7) cm

川田喜久治 (1933-)

「ラスト・コスモロジー」より

月による十字

昭和61年
ゼラチン・シルバー・プリント
55.9×37.3 (60.7×50.8) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1349

KAWADA, Kikuji (1933-)

Cross of Moons from
“The Last Cosmology”

1986
gelatin silver print
55.9×37.3 (60.7×50.8) cm

川田喜久治 (1933-)

「ラスト・コスモロジー」より

部分日蝕

昭和62年
ゼラチン・シルバー・プリント
56.8×38.2 (60.7×50.8) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1350

KAWADA, Kikuji (1933-)

A Partial Eclipse from
“The Last Cosmology”

1987
gelatin silver print
56.8×38.2 (60.7×50.8) cm

川田喜久治 (1933-)

「ラスト・コスモロジー」より

昭和最後の太陽、昭和64年1月7日

平成元年
ゼラチン・シルバー・プリント
51.4×34.3 (55.8×45.8) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1351

KAWADA, Kikuji (1933-)

The Last Sunrise of the Showa Era,
7th January, Showa 64 from
“The Last Cosmology”

1989
gelatin silver print
51.4×34.3 (55.8×45.8) cm

川田喜久治 (1933-)

「ラスト・コスモロジー」より

昭和最後の太陽、昭和64年1月7日

平成元年
ゼラチン・シルバー・プリント
51.3×34.3 (55.7×45.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1352

KAWADA, Kikuji (1933-)

The Last Sunrise of the Showa Era,
7th January, Showa 64 from
“The Last Cosmology”

1989
gelatin silver print
51.3×34.3 (55.7×45.7) cm

川田喜久治 (1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
昭和最後の太陽、昭和64年1月7日
平成元年
ゼラチン・シルバー・プリント
51.4×34.3 (55.7×45.8) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1353

KAWADA, Kikuji (1933-)
The Last Sunrise of the Showa Era,
7th January, Showa 64 from
“The Last Cosmology”
1989
gelatin silver print
51.4×34.3 (55.7×45.8) cm

川田喜久治 (1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
水くらげ
平成3年
ゼラチン・シルバー・プリント
51.3×34.3 (55.7×45.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1354

KAWADA, Kikuji (1933-)
A Moon-Jelly Fish from
“The Last Cosmology”
1991
gelatin silver print
51.3×34.3 (55.7×45.7) cm

川田喜久治 (1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
ポニー・テール
平成4年
ゼラチン・シルバー・プリント
37.8×38.0 (55.7×45.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1355

KAWADA, Kikuji (1933-)
Living Room Cultivation “Pony-Tail”
from “The Last Cosmology”
1992
gelatin silver print
37.8×38.0 (55.7×45.7) cm

川田喜久治 (1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
12の太陽
平成4年
ゼラチン・シルバー・プリント
34.3×51.5 (45.7×55.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1356

KAWADA, Kikuji (1933-)
Twelve Suns from
“The Last Cosmology”
1992
gelatin silver print
34.3×51.5 (45.7×55.7) cm

川田喜久治 (1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
太陽と飛行船
平成5年
ゼラチン・シルバー・プリント
44.2×35.8 (55.7×45.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1357

KAWADA, Kikuji (1933-)
The Sun and an Airship from
“The Last Cosmology”
1993
gelatin silver print
44.2×35.8 (55.7×45.7) cm

川田喜久治 (1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
樹林
平成6年
ゼラチン・シルバー・プリント
37.8×38.0 (55.6×45.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1358

KAWADA, Kikuji (1933-)
Woody Field from
“The Last Cosmology”
1994
gelatin silver print
37.8×38.0 (55.6×45.7) cm

川田喜久治 (1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
白い球体
平成6年
ゼラチン・シルバー・プリント
37.9×37.8 (55.8×45.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1359

KAWADA, Kikuji (1933-)
The White Balls from
“The Last Cosmology”
1994
gelatin silver print
37.9×37.8 (55.8×45.7) cm

川田喜久治 (1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
マティラ岬にて
平成6年
ゼラチン・シルバー・プリント
37.9×38.0 (55.7×45.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1360

KAWADA, Kikuji (1933-)
Matira Point from
“The Last Cosmology”
1994
gelatin silver print
37.9×38.0 (55.7×45.7) cm

川田喜久治 (1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
ゴーギャン美術館にて
平成6年
ゼラチン・シルバー・プリント
37.9×38.0 (55.7×45.7) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1361

KAWADA, Kikuji (1933-)
Front Yard at Paul Gauguin Museum
from “The Last Cosmology”
1994
gelatin silver print
37.9×38.0 (55.7×45.7) cm

川田喜久治(1933-)
「ラスト・コスモロジー」より
聖なる木、三百年のカボック

平成6年
ゼラチン・シルバー・プリント
37.8×38.0(55.7×45.6) cm
ed. 2/5、裏面に題名、署名
作者寄贈
Ph-1362

KAWADA, Kikuji(1933-)
Holly-Tree, Three Hundred Age of a
Tree, Kapok from “The Last Cosmology”
1994
gelatin silver print
37.8×38.0(55.7×45.6) cm

鈴鹿芳康(1947-)
風曼陀羅 #0551 / 柏崎

平成4年
タイプCプリント
175.0×225.0cm
個展(京都芸術センター、2000年)
作者寄贈
Ph-1363

SUZUKA, Yoshiyasu(1947-)
Wind Mandala #0551/
Kashiwazaki
1992
type C print
175.0×225.0cm

鈴鹿芳康(1947-)
風曼陀羅 #0998 / 沼津

平成10年
タイプCプリント
175.0×225.0cm
個展(京都芸術センター、2000年)
作者寄贈
Ph-1364

SUZUKA, Yoshiyasu(1947-)
Wind Mandala #0998 / Numazu
1998
type C print
175.0×225.0cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 上野動物園、東京都

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.8×36.0(40.4×50.7) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1365

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Ueno Zoological Gardens, Tokyo
from “ZOO”
1984
gelatin silver print
23.8×36.0(40.4×50.7) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 多摩動物公園、東京都

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.8×36.0(40.4×50.6) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1366

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Tama Zoo, Tokyo from “ZOO”
1984
gelatin silver print
23.8×36.0(40.4×50.6) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 上野動物園、東京都

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.9×36.0(40.5×50.7) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1367

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Ueno Zoological Gardens, Tokyo
from “ZOO”
1984
gelatin silver print
23.9×36.0(40.5×50.7) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 伊豆バイオパーク、静岡県

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.9×36.1(40.5×50.8) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1368

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Izu Bio Park, Shizuoka from
“ZOO”
1984
gelatin silver print
23.9×36.1(40.5×50.8) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 伊豆バイオパーク、静岡県

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.9×36.1(40.5×50.8) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1369

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Izu Bio Park, Shizuoka from
“ZOO”
1984
gelatin silver print
23.9×36.1(40.5×50.8) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 伊豆サボテン公園、静岡県

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.9×36.2(40.5×50.9) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1370

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Izu Shaboten Koen (Cactus Park) ,
Shizuoka from “ZOO”
1984
gelatin silver print
23.9×36.2(40.5×50.9) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 行川アイランド、千葉
県

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.9×36.1(40.5×50.8) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1371

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Namegawa Island, Chiba from
“ZOO”
1984
gelatin silver print
23.9×36.1(40.5×50.8) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 上野動物園、東京都

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.9×36.1(40.5×50.8) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1372

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Ueno Zoological Gardens, Tokyo
from “ZOO”
1984
gelatin silver print
23.9×36.1(40.5×50.8) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 東武動物公園、埼玉
県

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.9×36.1(40.5×50.8) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1373

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Tobu Zoo, Saitama from “ZOO”
1984
gelatin silver print
23.9×36.1(40.5×50.8) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 野毛山動物園、神奈
川県

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.8×36.1(40.4×50.8) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1374

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Nogeyama Zoo, Kanagawa from
“ZOO”
1984
gelatin silver print
23.8×36.1(40.4×50.8) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 多摩動物公園、東京
都

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.8×36.0(40.4×50.6) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1375

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Tama Zoo, Tokyo from “ZOO”
1984
gelatin silver print
23.8×36.0(40.4×50.6) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 多摩動物公園、東京
都

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.9×36.1(40.5×50.8) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1376

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Tama Zoo, Tokyo from “ZOO”
1984
gelatin silver print
23.9×36.1(40.5×50.8) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 伊豆サボテン公園、静
岡県

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
27.1×40.6(40.4×50.6) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1377

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Izu Shaboten Koen (Cactus Park) ,
Shizuoka from “ZOO”
1984
gelatin silver print
27.1×40.6(40.4×50.6) cm

林隆喜(1946-)
「ZOO」より 東武動物公園、埼玉
県

昭和59年
ゼラチン・シルバー・プリント
23.9×36.2(40.5×50.8) cm
裏面に署名、題名、撮影年
購入
Ph-1378

HAYASHI, Takanobu(1946-)
Tobu Zoo, Saitama from “ZOO”
1984
gelatin silver print
23.9×36.2(40.5×50.8) cm

ヤロスラフ・レスレル(1902-1990)
天窓

大正12年(平成13年)
ゼラチン・シルバー・プリント
20.5×20.1(22.8×22.4) cm
「ヤロスラフ・レスレル・ポートフォリオ No.2」(ブ
ラハ・ハウス・オブ・フォトグラフィ、2001)所収、
ed. 1/15、裏面にスタンプ、プリント番号、エディ
ション番号
購入
Ph-1379

RÖSSLER, Jaroslav(1902-1990)
Skylight
1923(2001)
gelatin silver print
20.5×20.1(22.8×22.4) cm

ヤロスラフ・レスレル (1902-1990)

ゲルタ

大正13年(平成13年)
ゼラチン・シルバー・プリント
20.6×20.0 (22.8×22.2) cm
「ヤロスラフ・レスレル・ポートフォリオ No.2」(ブラハ・ハウス・オブ・フォトグラフィ、2001)所収、
ed. 1/15、裏面にスタンプ、プリント番号、エディ
ション番号
購入
Ph-1380

RÖSSLER, Jaroslav (1902-1990)

Gerta
1924 (2001)
gelatin silver print
20.6×20.0 (22.8×22.2) cm

ヤロスラフ・レスレル (1902-1990)

セルフ・ポートレイト

昭和4年(平成13年)
ゼラチン・シルバー・プリント
20.6×20.1 (22.8×22.3) cm
「ヤロスラフ・レスレル・ポートフォリオ No.2」(ブラハ・ハウス・オブ・フォトグラフィ、2001)所収、
ed. 1/15、裏面にスタンプ、プリント番号、エディ
ション番号
購入
Ph-1381

RÖSSLER, Jaroslav (1902-1990)

Self-portrait
1929 (2001)
gelatin silver print
20.6×20.1 (22.8×22.3) cm

ヤロスラフ・レスレル (1902-1990)

題名不詳(写真詩)

年代不詳(平成13年)
ゼラチン・シルバー・プリント
20.6×20.0 (22.8×22.2) cm
「ヤロスラフ・レスレル・ポートフォリオ No.2」(ブラハ・ハウス・オブ・フォトグラフィ、2001)所収、
ed. 1/15、裏面にスタンプ、プリント番号、エディ
ション番号
購入
Ph-1382

RÖSSLER, Jaroslav (1902-1990)

Title Unknown (photogenic poem)
n. d. (2001)
gelatin silver print
20.6×20.0 (22.8×22.2) cm

ヤロスラフ・レスレル (1902-1990)

風景

昭和38年(平成13年)
ゼラチン・シルバー・プリント
20.6×20.0 (22.8×22.2) cm
「ヤロスラフ・レスレル・ポートフォリオ No.2」(ブラハ・ハウス・オブ・フォトグラフィ、2001)所収、
ed. 1/7、裏面にスタンプ、プリント番号、エディ
ション番号
購入
Ph-1383

RÖSSLER, Jaroslav (1902-1990)

Landscape
1963 (2001)
gelatin silver print
20.6×20.0 (22.8×22.2) cm

平成16年度における工芸作品の購入・受贈による新収蔵作品は次のとおり。陶磁4点(購入3点、受贈1点)、染織1点(購入1点)、金工1点(購入1点)、ガラス13点(受贈13点)、人形1点(購入1点)、その他1点(購入1点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation, or management transfer of crafts during fiscal 2004 were as follows: 4 ceramic works (3 purchased, 1 donated); 1 textile (1 purchased); 1 metal work (1 purchased); 13 items of glass work (13 donated); 1 item of doll (1 purchased); and 1 other works (1 purchased).

陶磁

Ceramic Works

北大路魯山人(1883-1959)

織部蓋物

昭和15-20年頃

陶器

h11.2 w25.3 d25.3cm

購入

Cr0635

KITAOJI, Rosanjin (1883-1959)

Square bowl with cover, *oribe* ware

c.1940-45

stoneware

h11.2 w25.3 d25.3cm

コパー、ハンス(1920-1981)

キクラデス・フォーム

昭和47年

陶器

h23.5 w12.3 d5.1cm

購入

Cr0636

COPER, Hans (1920-1981)

Cycladic Arrow Form

1972

stoneware

h23.5 w12.3 d5.1cm

鈴木治(1926-2001)

器

昭和40年

陶器

h42.0 w23.3 d17.5cm

個展(資生堂ギャラリー)、第2回ジャパン・アート・フェスティバル(ニューヨーク、1967)

寄贈

Cr0634

SUZUKI, Osamu (1926-2001)

Vase Object

1965

stoneware

h42.0 w23.3 d17.5cm

リー、ルーシー(1902-1995)

鉢

昭和54年

磁器

h9.8 D20.8cm

購入

Cr0637

RIE, Lucie (1902-1995)

Bowl

1979

porcelain

h9.8 D20.8cm

ガラス
Glass Works

藤田喬平 (1921-2004)

流動 流

昭和42年
ガラス、街吹き
h40.0 w22.0 d22.0cm
個展(日本橋高島屋)
寄贈
GI0088

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Flowing Nagare-Flow

1967
glass, blowing
h40.0 w22.0 d22.0cm

藤田喬平 (1921-2004)

花瓶 火の踊

昭和45年
ガラス、街吹き
h24.0 w17.0 d17.0cm
寄贈
GI0089

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Vase, "Dance of Fire"

1970
glass, blowing
h24.0 w17.0 d17.0cm

藤田喬平 (1921-2004)

金環銘々皿 5客

昭和46年
ガラス、街吹き
各h4.0 D18.0cm
寄贈
GI0090

FUJITA, Kyohei (1921-2004)
Individual plates, "Gold-rimmed"

1971
glass, blowing
each h4.0 D18.0cm

藤田喬平 (1921-2004)

飾筥 平城の都

昭和56年
ガラス、型吹き
h13.0 w23.0 d23.0cm
寄贈
GI0091

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Ornamental box, "Old Capital Heijo"

1981
glass, mold-blowing
h13.0 w23.0 d23.0cm

藤田喬平 (1921-2004)

蓋物向付 5客

昭和58年
ガラス、街吹き
各h9.0 D14.0cm
個展(日本橋高島屋)
寄贈
GI0092

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Lidded bowls

1983
glass, blowing
each h9.0 D14.0cm

藤田喬平 (1921-2004)

迎い風

平成3年
ガラス
h75.0 w51.0 d40.0cm
個展(日本橋高島屋)
寄贈
GI0093

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Head Wind

1991
glass
h75.0 w51.0 d40.0cm

藤田喬平 (1921-2004)

追う風

平成3年
ガラス
h81.0 w45.0 d25.0cm
個展(日本橋高島屋)
寄贈
GI0094

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Tail Wind

1991
glass
h81.0 w45.0 d25.0cm

藤田喬平 (1921-2004)

飾筥 竹取物語

平成6年
ガラス、型吹き
h18.0 w30.5 d24.5cm
寄贈
GI0095

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Ornamental box, "Tale of *Taketori*"

1994
glass, mold-blowing
h18.0 w30.5 d24.5cm

藤田喬平 (1921-2004)

飾宮 夜桜

平成8年
ガラス、型吹き
h23.0 w24.0 d21.0cm
寄贈
G10096

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Ornamental box, “Cherry Blossoms at Night”

1996
glass, mold-blowing
h23.0 w24.0 d21.0cm

藤田喬平 (1921-2004)

飾宮 瑞雲

平成9年
ガラス、型吹き
h25.0 w29.5 d26.0cm
個展 (日本橋高島屋)
寄贈
G10097

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Ornamental box, “Auspicious Cloud”

1997
glass, mold-blowing
h25.0 w29.5 d26.0cm

藤田喬平 (1921-2004)

飾宮 紅白梅

平成9年
ガラス、型吹き
h19.5 w23.5 d23.5cm
個展 (日本橋高島屋)
寄贈
G10098

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Ornamental box, “Red and White Plum Blossoms”

1997
glass, mold-blowing
h19.5 w23.5 d23.5cm

藤田喬平 (1921-2004)

飾宮 細雪

平成10年
ガラス、型吹き
h26.5 w28.0 d20.5cm
個展 (日本橋高島屋)
寄贈
G10099

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Ornamental box, “Fine-flaked Snow”

1998
glass, mold-blowing
h26.5 w28.0 d20.5cm

藤田喬平 (1921-2004)

飾宮 琳派

平成13年
ガラス、型吹き
h25.0 w28.2 d20.7cm
寄贈
G10100

FUJITA, Kyohei (1921-2004)

Ornamental box, “Rimpa”

2001
glass, mold-blowing
h25.0 w28.2 d20.7cm

染織

Textiles

築城則子 (1952-)

小倉縞木綿帯 分水嶺

平成16年
綿、織
w34.7cm
購入
Tx0354

TSUIKI, Noriko (1952-)

Sash, “Watershed” , Kokura-type fabric, striped pattern

2004
cotton, weaving
w34.7cm

人形
Dolls

四谷シモン (1944-)

解剖学の少年

昭和58年
紙、木、ガラス、毛、布、皮
h139.7 w59.9 d27.7cm
購入
DI0059

YOTSUYA, Shimon (1944-)

Anatomical Boy

1983
paper, wood, glass, hair, cloth, hide
h139.7 w59.9 d27.7cm

金工
Metal Works

橋本真之 (1948-)

運動膜・切片群

平成16年
銅板、鍛造
h205.0cm
個展 (ギャラリー NIKI)
購入
Mr0357

HASHIMOTO, Masayuki (1948-)

Evolving Membrane and Snippet Pieces

2004
copper plate, hammering
h205.0cm

その他
Other Works

ベルメール、ハンス (1902-1975)

人形

昭和10年-50年 (昭和58年)
写真 (10点)
25.0×25.0cm
購入
Or0092

BELLMER, Hans (1902-1975)

Doll

1935-75 (1983)
photograph
25.0×25.0cm

平成16年度に修理した美術作品は、次のとおり。日本画9点、油彩 その他13点、版画23点、水彩・素描19点、彫刻(立体造形) 2点、資料1点、戦争記録画1点である。

◆日本画

J-79 森田恒友《関西ところどころ》
継ぎ目の解体処理。

J-148 福田平八郎《雨》
剥落止め処理、洗浄、補彩補紙、額新調。

J-163 池田蕉園《さつき》
シミ除去。

J-183 上村松園《静》
カビ痕除去、剥落止め処理、洗浄、掛幅装への仕立て替え。

J-234 小林古径《橋》
剥落止め処理、洗浄、掛幅装への仕立て替え。

J-238 小林古径《馬郎婦》
剥落止め処理、洗浄、掛幅装への仕立て替え。

J-701 加山又造《月と犀》
カビ痕除去。

J-702 加山又造《湖と鹿》
カビ痕除去。

J-703 加山又造《草原》
カビ痕除去。

◆油彩 その他

O-2 安井曾太郎《金蓉》
接着、洗浄、補彩。

O-164 東郷青児《サルタンバンク》
接着、洗浄。

O-169 鳥海青児《畑》
接着、充填整形、補彩。

O-185 荒井龍男《朱の中の朱》
接着、洗浄、充填整形、補彩。

O-195 岡田謙三《元禄》
接着、充填整形、補彩、付着物除去、洗浄。

O-384 須田国太郎《法観寺塔婆》
接着、充填整形、補彩。

O-482 山本鼎《裸婦》
接着、洗浄、充填整形、補彩。

O-615 住谷磐根《作品》
洗浄、充填整形、補彩。

O-847 鳥海青児《石だたみ》
接着、充填整形、補彩。

O-850 ピカソ, パブロ《ラ・ガルーブの海水浴場》
接着、充填整形、補彩。

O-1056 今井俊満《コンポジション》
接着、充填整形、補彩。

O-1135 秋岡美帆《光の間02-5-16-4》
皺伸ばし処理。

O-1142 菅井汲《フェスティバル W》
木枠新調、補彩。

◆版画

P-78 関野準一郎《フィレンツェのいらか》
洗浄、付着物除去、支持体の強化、繙い、プレス。

P-104 小野忠重《工場街》
洗淨、付着物除去、繕い、プレス。

P-135-3 川瀬巴水《「旅みやげ 第一集」より 房州 岩井の浜》
洗淨、付着物除去、繕い、殺菌、漂白、防黴、プレス、補彩。

P-135-4 川瀬巴水《「旅みやげ 第一集」より 小浜 堀川》
洗淨、付着物除去、繕い、殺菌、漂白、防黴、プレス、補彩。

P-135-5 川瀬巴水《「旅みやげ 第一集」より 金沢 浅野川》
洗淨、付着物除去、繕い、殺菌、漂白、防黴、プレス、補彩。

P-135-6 川瀬巴水《「旅みやげ 第一集」より 金沢 ながれのくるわ》
洗淨、付着物除去、繕い、殺菌、漂白、防黴、プレス、補彩。

P-135-8 川瀬巴水《「旅みやげ 第一集」より 秋の越路》
洗淨、付着物除去、繕い、殺菌、漂白、防黴、プレス、補彩。

P-138-4 川瀬巴水《「旅みやげ 第一集」より 陸奥 蔦沼》
洗淨、付着物除去、繕い、殺菌、漂白、防黴、プレス、補彩。

P-555 金光松美《マダム・オックスナード》
洗淨、付着物除去、プレス。

P-703 日和崎尊夫《石の唇 B》
洗淨、付着物除去、脱酸処理。

P-709 山本鼎《支那婦人》
洗淨、付着物除去、脱酸処理、繕い、プレス。

P-1081 藤牧義夫《出をまつ》
台紙との分離。

P-1090 藤牧義夫《やまやま》
台紙との分離、プレス。

P-1123 深沢索一《奈良大和風景》
洗淨、付着物除去、繕い、プレス。

P-1210 駒井哲郎《ラジオ・アクティヴィティ・イン・マイ・ルーム》
洗淨、脱酸処理、プレス。

P-1219 駒井哲郎《夜の森》
洗淨、付着物除去、脱酸処理、繕い、プレス。

P-1223 駒井哲郎《化石》
洗淨、付着物除去、脱酸処理、プレス。

P-1632 吉原治良《円》
洗淨、プレス。

P-1654 浜田知明《カタコンベ》
洗淨、脱酸処理、プレス。

P-1656 菅井汲《作品6》
スチレンボードとの分離、付着物除去、繕い。

P-1681 クラーヴェ、アントニ《王》
洗淨、付着物除去。

P-1734 小枝繁昭《Still Life with Pot on the Table #2》
洗淨、付着物除去、繕い、殺菌、漂白、防黴、プレス。

P-1777 マーデン、ブライス《キャロライン・タチアナのための12の眺望》
プレス。

◆水彩・素描

W-53 沢田哲郎《作品》
ベニヤ板との分離、付着物除去、繕い。

W-99 脇田和《鳥を持つ女》
洗淨、付着物除去、プレス。

W-130 レジェ、フェルナン《アブストラクト・コンポジション》
洗淨、付着物除去。

D-2-3 土田麦僊《菊の写生》
軸芯部分交換、裏打ち、繕い。

D-15 佐分真《デッサン B》
洗淨、付着物除去、繕い、プレス。

D-23 奥村土牛《文楽人形頭 松王丸》
洗淨、付着物除去、プレス。

D-25 梅原龍三郎《ヴェニス》
洗淨、付着物除去、プレス。

D-28 須田国太郎《樹根》
洗淨、付着物除去、裏打ち。

D-34 福田平八郎《切炭》
付着物除去、支持体の強化。

D-46 山口正城《作品》
洗浄、付着物除去、セロハン接着、繕い、プレス。

D-48 小出檐重《海》
洗浄、付着物除去、繕い、プレス。

D-50A 戸張孤雁《素描》
ラベルの除去。

D-50B 戸張孤雁《素描》
ラベルの除去。

D-52 戸張孤雁《素描》
ラベルの除去。

D-54 戸張孤雁《素描(綱渡り)》
ラベルの除去。

D-55 戸張孤雁《素描》
ラベルの除去。

D-56 戸張孤雁《素描(玉乗り)》
ラベルの除去。

D-213 佐分真《風景(クーイー)》
洗浄、付着物除去、支持体の強化、繕い、プレス。

D-299 速水御舟《風景素描(林丘寺堀外の道)》
パネルとの分離、支持体の強化。

◆彫刻(立体造形)

S-96 長谷川栄作《華》
洗浄、変色箇所絵具除去、補彩。

S-187 佐藤忠良《うずくまる裸婦》
補彩。

◆資料

M-632-51 岸田劉生《[白狗](日本画残欠)》
洗浄、付着物除去、支持体の強化、繕い、プレス。

◆戦争記録画

X-83 高島達四郎《東部印度チンスキヤ飛行場爆撃》
接着、充填整形、補彩。

3-2 工芸作品

平成16年度における工芸作品の修理は、漆工9点である。

◆漆工

Lc0022 田所芳哉《三彩茶入》
汚れの除去、擦傷・打傷の修復等。摺り漆養生。

Lc0048 田所芳哉《乾漆高台蓋物》
汚れの除去、擦傷・打傷の修復等。摺り漆養生。

Lc0055 田所芳哉《乾漆六角鉢》
汚れの除去、擦傷・打傷の修復等。摺り漆養生。

Lc0010 音丸耕堂《彫漆齊文茶入》
汚れの除去、擦傷の修復等。摺り漆養生。

Lc0012 音丸耕堂《彫漆貝母文菓子器》
汚れの除去、擦傷の修復等。摺り漆養生。

Lc0013 音丸耕堂《彫漆銀連糸茶入》
汚れの除去、擦傷の修復等。摺り漆養生。

Lc0014 音丸耕堂《彫漆茶入》
汚れの除去、擦傷の修復等。摺り漆養生。

Lc0081 音丸耕堂《堆漆桐の実茶器》
汚れの除去、擦傷の修復等。摺り漆養生。

Lc0082 音丸耕堂《堆漆亀香合》

Ⅱ 公衆への観覧

1 展覧会 Exhibitions

1-1 観覧者数

1-1-1 本館

美術展

観覧者総数(人) 520,302

回数	展覧会名	観覧者数(人)
	所蔵作品展 近代日本の美術	195,831
411	「国吉康雄」展	33,450 (平成16年度中)
412	「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」	11,922
413	「琳派 RIMPA」	166,524
415	「木村伊兵衛展」	27,238
416	「草間彌生—永遠の現在」	31,961
418	「痕跡—戦後美術における身体と思考」	9,332
420	「ゴッホ展 孤高の画家の原風景」	44,044 (平成16年度中)

1-1-2 工芸館

工芸展

観覧者総数(人) 100,964

回数	展覧会名	観覧者数(人)
	所蔵作品展	58,075
414(工72)	「非情のオブジェ 現代工芸の11人」	11,643
417(工73)	「人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉」	19,099
419(工74)	「河野鷹思のグラフィック・デザイン—都会とユーモア」	12,147

回数 展覧会名

昭和27年度[1952]

- 1 日本近代美術展—近代絵画の回顧と展望
Modern Japanese Art: Retrospective and Perspective of Modern Painting
- 2 近代洋画の歩み—西洋と日本
Development of Modern Western-Style (Oil) Painting: Europe and Japan

昭和28年度[1953]

- 3 世界のポスター展
World Posters
- 4 日本画の流れ—系譜と展開
Mainstream of Japanese-Style Painting: Its Schools and Development
- 5 近代彫塑展—西洋と日本
Modern Sculpture: Europe and Japan
- 6 現代写真展—日本とアメリカ
The Exhibition of Contemporary Photography—Japan and America
- 7 四人の画家(小茂田青樹・土田麦僊・中村彝・萬鐵五郎)
Exhibition of Four Artists: Seiju Omoda, Bakusen Tsuchida, Tsune Nakamura, Tetsugoro Yorozu
- 8 抽象と幻想—非写実絵画をどう理解するか
Abstraction and Fantasy: How to Understand Non-figurative(Non-realistic) Painting
- 9 近代の肖像画
Exhibition of Modern Japanese Portraiture
- 10 第27回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 27th Venice Biennial Exhibits from Japan
- 11 国吉康雄遺作展
Posthumous Exhibition of Yasuo Kuniyoshi

昭和29年度[1954]

- 12 大正期の画家
The Exhibition of the Painting of the Taisho Era
- 13 グロピウスとバウハウス—近代建築工芸運動の出発
Gropius and Bauhaus: Start of Modern Architecture and Craft Movements
- 14 黒田清輝展
Exhibition of Seiki Kuroda
- 15 水彩と素描
Exhibition of Water Colors and Drawings
- 16 世界の児童画
Exhibition of World Children's Art
- 17 四人の画家(佐伯祐三・前田寛治・村上華岳・広島晃甫)
Exhibition of Four Painters—Yuzo Saeki, Kanji Maeta, Kagaku Murakami, Koho Hiroshima
- 18 現代の眼—日本の美術史から
Today's Focus: On the History of Japanese Art

- 19 19人の作家—戦後の絵画・彫刻
同時開催 第3回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Living Nineteen Japanese Artists: Painting and Sculpture in the Past Ten Years
Preview Exhibition of the 3rd São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 20 松方コレクション国立美術館建設協賛展
Exhibition in Liaison with the Establishment of The National Museum of Western Art
- 21 明治初期洋画展—近代リアリズムの展開
Western-Style Painting of the Early Meiji Era

昭和30年度[1955]

- 22 日米抽象美術展
Abstract Art Exhibition: Japan and U. S. A.
- 23 巨匠の20代
Great Masters in their Twenties
- 24 日米水彩画展
Joint Exhibition of American and Japanese Water Colours
- 25 現代日本の書・墨の芸術—ヨーロッパ巡回展の国内展示
Contemporary Japanese Calligraphy: Art in Sumi
- 26 晩期の鉄斎
Tessai in His Last Period
- 27 四人の作家(下村観山・荻原守衛・霽光・橋本平八)
Exhibition of Four Artists: Kanzan Shimomura, Morie Ogiwara, Aimitsu, Heihachi Hashimoto
- 28 現代の眼—アジアの美術史から
Today's Focus: Eastern Art Seen Through Eyes of the Present
- 29 明治以後の風俗画
Genre-Painting in the Meiji, Taisho and Showa Eras
- 30 第28回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 28th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和31年度[1956]

- 31 安井曾太郎遺作展
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 32 現代の版画—日本とエコール・ド・パリ
Contemporary Prints: Japanese Artists and l' École de Paris
- 33 今日の写真—日本とフランス
Contemporary Photography: Japan and France
- 34 日本の風景
Japanese Scenery
- 35 日本の彫刻—上代と現代
Exhibition of Japanese Sculpture: Contemporary versus Bronze Buddhist Statues, and Mask of the Asuka and the Nara Period
- 36 菊池契月遺作展
Posthumous Exhibition of Keigetsu Kikuchi
- 37 日本の風刺絵画
Japanese Satirical Painting (Cartoons)

- 38 近代日本の名作
Masterpieces of Modern Japanese Painting
- 39 第4回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 4th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 40 20世紀のデザイン—ヨーロッパとアメリカ
20th Century Design in Europe and America

昭和32年度[1957]

- 41 墨の芸術—中国と日本の絵画
Suiboku Paintings of China and Japan
- 42 前衛美術の15人
同時開催 アメリカ現代美術
15 Vanguard Artists
Special Showing of 8 Contemporary American Artists
- 43 第1回東京国際版画ビエンナーレ展(於 読売会館)
特別展示 歌麿と北斎
The 1st International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
Exhibition of Utamaro and Hokusai
- 44 四人の作家(平福百穂・小林徳三郎・武井直也・三岸好太郎)
Exhibition of Four Artists: Hyakusui Hirafuku, Tokusaburo Kobayashi,
Naoya Takei, Kotaro Migishi
- 45 最近のドイツ版画
Deutsche Druckgraphik der letzten Jahre
- 46 17人の作家
Living Seventeen Japanese Artists
- 47 第1回安井賞候補新人展
The 1st Yasui Award Exhibition
- 48 近代日本絵画の歩み(於 京都市美術館)
Development of Modern Japanese Painting

昭和33年度[1958]

- 49 近代日本における名作の展望—絵画と彫刻
Masterpieces of Modern Japanese Painting and Sculpture
- 50 抽象絵画の展開
Development of Japanese Abstract Painting
- 51 四人の作家(小川芋銭・梶田半古・佐分真・北脇昇)
Exhibition of Four Artists: Usen Ogawa, Hanko Kajita,
Makoto Saburi, Noboru Kitawaki
- 52 オーストラリア・ニュージーランド巡回 日本現代美術展国内展示
Preview Exhibition of Contemporary Japanese Art Exhibition to be
circulated in Australia and New Zealand
- 53 川合玉堂遺作展
Posthumous Exhibition of Gyokudo Kawai
- 54 白隠の芸術—水墨画と書
Hakuin's Art: Suiboku Painting and Calligraphy
- 55 第2回安井賞候補新人展
The 2nd Yasui Award Exhibition

- 56 近代日本美術の常時陳列
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 57 戦後の秀作
Postwar Outstanding Works of Art
- 58 近代日本の静物画
同時開催 ブラジル近代建築展－新首都建築
Still-life in Modern Japanese Painting
Modern Brazilian Architecture

昭和34年度[1959]

- 59 第5回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 5th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 60 近代木彫の流れ
Development of Modern Sculpture in Wood
- 61 現代日本の陶芸
Contemporary Japanese Ceramic Art
- 62 横山大観遺作展
Posthumous Exhibition of Taikan Yokoyama
- 63 ヨーロッパ巡回 棟方志功展国内展示
Preview Exhibition of Shiko Munakata Exhibition to be circulated in Europe
- 64 第3回安井賞候補新人展
The 3rd Yasui Award Exhibition
- 65 近代日本美術の常時陳列
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 66 現代写真展 1959年
同時開催 ハインツ・ハリエク＝ハルケの抽象光画
Contemporary Photographs 1959
Deutsche Lichtgrafik Werke von Heinz Hajek-Halke
- 67 近代日本の素描(アメリカ巡回展国内展示)
同時開催 マリノ・マリーニのリトグラフ
Japanese Drawings in XXth Century (Preview of the Travelling
Exhibition in U. S. A.
Lithographs by Marino Marini
- 68 日本画の新世代
Recent Development in Japanese Style Painting
- 69 第30回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Preview Exhibition of the 30th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和35年度[1960]

- 70 超現実絵画の展開
同時開催 ブラジルのポエマ・コンクレート
Development of Surrealistic Paintings
Brazilian Poema Concrete
- 71 四人の作家(菱田春草・瑛九・上阪雅人・高村光太郎)
Exhibition of Four Artists: Shunso Hishida, Ei-kyu, Gajin Kosaka,
Kotaro Takamura
- 72 現代の眼－原始美術から
Today's Focus: Primitive Art Seen Through Eyes of the Present

- 73 近代日本美術の常時陳列
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 74 日本人の手—現代の伝統工芸
同時開催 芸術としての写真
Contemporary Japanese Handicrafts: Contemporary Traditional Crafts
Photographs as Art
- 75 小林古徑遺作展
Posthumous Exhibition of Kokei Kobayashi
- 76 第2回東京国際版画ビエンナーレ展
The 2nd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 77 第4回安井賞候補新人展
The 4th Yasui Award Exhibition
- 78 現代写真展1960年
同時開催 アニメーションの芸術
Contemporary Photographs 1960
Animation Art
- 79 現代スペイン絵画展
Exposicion: Contrastes en la Pintura Española de Hoy
- 80 第6回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
同時陳列 現代日本の版画
Preview Exhibition of the 6th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
Contemporary Japanese Prints

昭和36年度[1961]

- 81 文部省新収品を中心とする常時陳列
Permanent Exhibit: Mainly New Acquisitions of the Ministry of Education
- 82 現代美術の実験
Adventure in Today's Art of Japan
- 83 近代日本の名作展—日本画・洋画(於 仙台)
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 84 近代日本油絵の流れ(於 日本橋三越)
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 85 近代日本の名作展(於 札幌)
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 86 近代日本彫刻の流れ(於 日本橋三越)
Development of Sculpture in Modern Japan
- 87 近代日本画の流れ(於 日本橋三越)
Development of Japanese-Style Painting in Modern Japan
- 88 近代日本の洋画(於 大阪市立美術館)
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 89 第5回安井賞候補新人展(於 プリチストン美術館)
The 5th Yasui Award Exhibition
- 90 現代日本の版画(於 銀座松坂屋)
Contemporary Japanese Prints
- 91 現代絵画の展望(於 日本橋三越)
Prominent Works of Contemporary Japanese Painting

昭和37年度[1962]

- 92 近代日本の造形—油絵と彫刻
Oil Painting and Sculpture in Modern Japan
- 93 近代日本の造形—絵画と彫刻
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 94 近代の屏風絵
Painting on Folding Screen in Modern Japan
- 95 第3回東京国際版画ビエンナーレ展
特別展示 写楽
The 3rd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo Sharaku
- 96 四人の作家(坂田一男・野田英夫・近藤浩一路・藤川勇造)
同時開催 フランス映画史展
Exhibition of Four Artists: Kazuo Sakata, Hideo Noda, Koichiro Kondo, Yuzo Fujikawa
History of French Films
- 97 第6回安井賞候補新人展
The 6th Yasui Award Exhibition
- 98 現代写真展 1961—62年
Contemporary Photographs 1961-62
- 99 近代日本の絵画と彫刻
Painting and Sculpture of Modern Japan
- 100 須田国太郎遺作展
Posthumous Exhibition of Kunitaro Suda
- 101 現代の油絵と版画
Contemporary Oil Painting and Prints

昭和38年度[1963]

- 102 ビュッフェ展—その芸術の全貌
同時陳列 現代の日本画
Bernard Buffet: Exposition au Japon 1963
Contemporary Japanese-Style Paintings
- 103 彫刻の新世代
New Generation of Japanese Sculptures
- 104 現代の眼—暮らしの中の日本の美
同時陳列 近代の日本画
Today's Focus: Traditional Daily Implements of Japan Seen Through Eyes of the Present
Modern Japanese-Style Paintings
- 105 近代日本の絵画と彫刻
Painting and Sculpture of Modern Japan
- 106 近代日本美術における1914年
同時陳列 近代日本の素描
1914: The Beginning of an Era in Modern Japanese Art
Modern Japanese Drawings
- 107 北大路魯山人の芸術
同時陳列 日本の抽象絵画
The Art of Rosanjin Kitaoji
Japanese Abstract Paintings

- 108 第7回安井賞候補新人展
同時開催 マヤ芸術の拓本展
The 7th Yasui Award Exhibition
Rubbed Prints of Mayan Art
- 109 滞欧作とその後
同時陳列 織田一磨の版画
Japanese Artists: A Contrast Seen before and after Sojourning in Europe or America
Kazuma Oda's Prints
- 110 近代作家の回顧(富田溪仙・太田聴雨・佐藤玄々・石井柏亭・中西利雄)
同時開催 第32回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Posthumous Exhibition of five Artists: Keisen Tomita, Chouu Ota, Gengen Sato, Hakutei Ishii, Toshio Nakanishi
Preview Exhibition of the 32nd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和39年度[1964]

- 111 児島善三郎遺作展
Posthumous Exhibition of Zenzaburo Kojima
- 112 ピカソ展—その芸術の70年
Pablo Picasso Exhibition: Japan 1964
- 113 京都の日本画—円山応挙から現代まで
Japanese Painting in Kyoto: from Okyo Maruyama to Present Generation
- 114 現代国際陶芸展
同時陳列 本館所蔵の日本画
International Exhibition of Contemporary Ceramic Art
Japanese-style Paintings from the Museum Collection
- 115 近代日本の名作—オリンピック東京大会芸術展示
Masterpieces of Modern Japanese Art: Art Exhibition during Tokyo Olympics
- 116 第4回東京国際版画ビエンナーレ展
The 4th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 117 第8回安井賞候補新人展
同時陳列 新収集の日本画
The 8th Yasui Award Exhibition
New Pieces of Japanese-Style Paintings in the Museum Collection
- 118 戦中世代の画家
Painters of the "Senchu" Generation
- 119 戦後の絵画—所蔵作品を中心として
同時開催 第8回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
同時陳列 古賀春江の水彩
Postwar Paintings: Mainly from the Museum Collection
Preview Exhibition of the 8th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
Harue Koga's Water Colors

昭和40年度[1965]

- 120 近代における文人画とその影響—日本と中国
Modern "Bunjin-ga" of China and Japan and its Influence
- 121 近代日本の裸体画
同時陳列 新収集の油絵と彫刻
Paintings of Nudes in Modern Japan
New Pieces of the Museum Collection: Oil Painting and Sculpture

- 122 近代作家の回顧(小杉放庵・木村莊八・前川千帆・藤井浩祐)
同時開催 ユーゴスラビア現代版画展
Exhibition of Four Artists: Hoan Kosugi, Shohachi Kimura, Sempan Maekawa, Koyu Fujii
Exhibition of Contemporary Prints in Yugoslavia
- 123 近代日本の油絵―所蔵品による
Oil Paintings of Modern Japan from the Museum Collection
- 124 院展芸術の歩み―戦前
The Retrospective Exhibition of the INTEN: The Prewar Period
- 125 在外日本作家展―ヨーロッパとアメリカ
Exhibition of Japanese Artists Abroad: Europe and America
- 126 第1回日本芸術祭出品作品国内展示
The 1st Preliminary Show of Japan Art Festival
- 127 第9回安井賞候補新人展
同時陳列 2人のアメリカの写真作家
The 9th Yasui Award Exhibition
Two American Photographers
- 128 現代美術の新世代
New Generation of Contemporary Art
- 129 近代の日本画―所蔵作品による
同時開催 第33回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Modern Japanese-Style Paintings from the Museum Collection
Preview Exhibition of the 33rd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和41年度[1966]

- 130 現代の眼―東洋の幻想
Today's Focus: Fantasy of the Orient Seen Through Eyes of the Present
- 131 近代作家の回顧―岸田劉生
Posthumous Exhibition of Ryusei Kishida
- 132 ポーランドのポスター
現代写真の10人
Posters of Poland
Ten Artists of Contemporary Japanese Photography
- 133 ミロ展
Miro Exhibition
- 134 現代アメリカ絵画展
Exhibition of Contemporary American Painting
- 135 第5回東京国際版画ビエンナーレ展
The 5th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 136 第10回安井賞候補新人展
特別陳列 安井賞の作家たち―受賞作品とその後
The 10th Yasui Award Exhibition
Yasui Award Artists: Their Awards and Later Works
- 137 所蔵作品による近代日本の美術―大正から昭和前期の絵画
同時開催 第9回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Modern Japanese Art from the Museum Collection: Paintings from Taisho to Early Showa Eras
Preview Exhibition of the 9th São Paulo Biennial Exhibits from Japan

昭和42年度[1967]

- 138 グラフィック・アート USA
Graphic Art USA
- 139 近代日本の版画
Modern Japanese Prints
- 140 第2回日本芸術祭出品作品国内展示
The 2nd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 141 近代日本の水彩と素描
Modern Japanese Water Colors and Drawings
- 142 現代イタリア美術展
Exhibition of Contemporary Italian Art
- 143 ソ連絵画50年展
50 Years of Painting U. S. S. R.
- 144 第11回安井賞候補新人展
特別陳列 安井曾太郎の遺作
The 11th Yasui Award Exhibition
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 145 近代日本の油絵—大正・昭和(戦前)を中心として/
—昭和(戦後)を中心として
同時開催 第34回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示
Oil Paintings of Modern Japan: mainly from the Taisho and Showa (prewar) Periods: mainly from the Showa (postwar) Period
Preview Exhibition of the 34th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和43年度[1968]

- 146 現代陶芸の新世代
New Generation of Ceramic Art in Japan
- 147 第3回日本芸術祭出品作品国内展示
The 3rd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 148 ダダ展
Dada
- 149 韓国現代絵画展
Contemporary Korean Painting
- 150 東西美術交流展—明治100年記念
Mutual Influences between Japanese and Western Art
- 151 第6回東京国際版画ビエンナーレ展
The 6th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo

昭和44年度[1969]

- 152 現代世界美術展—東と西の対話
Contemporary Art: Dialogue between the East and the West
- 153 ヘンリー・ムーア展
Henry Moore Exhibition in Japan, 1969
- 154 現代ドイツ建築展
Moderne Deutsche Architektur
- 155 第4回ジャパニ・アート・フェスティバル出品作品国内展示
The 4th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 156 フランス現代タピスリー展
Tapisserie Française d' aujourd' hui

157 ピカソ近作版画展
Picasso's Recent Works in Prints

昭和45年度[1970]

- 158 富本憲吉遺作展
Posthumous Exhibition of Kenkichi Tomimoto
- 159 ベン・シャーン展
Ben Shahn
- 160 第5回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示
The 5th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 161 1970年8月 現代美術の一断面
August 1970: Aspects of New Japanese Art
- 162 現代イギリス美術展
Contemporary British Art
- 163 現代インド絵画展
Contemporary Indian Painting
- 164 第7回東京国際版画ビエンナーレ展
The 7th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 165 バウハウス50年展
Bauhaus Exhibition

昭和46年度[1971]

- 166 近代日本美術における1930年
Around 1930 in Modern Japanese Art
- 167 ルネ・マグリット展
La Rétrospective René Magritte
- 168 第6回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示
The 6th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 169 新収蔵作品の展示—日本画・版画・工芸・書
New Acquisition: Japanese-Style Painting, Prints, Crafts, and Calligraphy
- 170 近代作家の回顧—山口薫
Posthumous Exhibition of Kaoru Yamaguchi
- 171 現代ドイツ美術展
ZEITGENÖSISCHE DEUTSCHE KUNST
- 172 現代の陶芸—アメリカ・カナダ・メキシコと日本
Contemporary Ceramic Art: Canada, U. S. A., Mexico and Japan
- 173 戦後日本美術の展開—具象表現の変貌
Development of Postwar Japanese Art: Figurative Art
- 174 新収蔵作品の展示—油絵と彫刻
New Acquisition: Oil Painting and Sculpture

昭和47年度[1972]

- 175 現代スウェーデン美術展
Swedish Art 1972: A Contemporary Theme
- 176 近代イタリア美術の巨匠たち
Masters of Modern Italian Art from the Collection of Gianni Mattioli

- 177 昭和46年度新収蔵作品の展示
同時陳列 本館所蔵の素描
New Acquisition 1971
Drawings in the Museum Collection
- 178 開館20年記念 現代の眼—近代日本の美術から
The 20th Anniversary Exhibition: Today's Focus: on Modern Japanese Art
- 179 第8回東京国際版画ビエンナーレ展
The 8th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 180 ヨーロッパの日本作家
Japanese Artists in Europe
- 181 平櫛田中展
The Retrospective Exhibition of Denchu Hirakushi

昭和48年度[1973]

- 182 現代ユーゴスラヴィア美術展
Contemporary Yugoslav Art
- 183 戦後日本美術の展開—抽象表現の多様化
Development of Postwar Japanese Art: Abstract and Non-Figurative
- 184 新収蔵作品の展示
同時陳列 東京国立博物館より移管の日本画
New Acquisition 1972
Japanese-Style Paintings Transferred from the Tokyo National Museum
- 185 近代日本美術史におけるパリと日本
Modern Japanese Art and Paris
- 186 ジャコモ・マンズー展
Exhibition of Giacomo Manzu
- 187 アメリカの日本作家
Japanese Artists in the Americas
- 188 近代作家の回顧—新海竹蔵・福田豊四郎
Modern Japanese Artists in Retrospect: Takezo Shinkai, Toyoshiro Fukuda

昭和49年度[1974]

- 189 アンドリュー・ワイエス展
Works of Andrew Wyeth
- 190 徳岡神泉遺作展
Posthumous Exhibition of Shinsen Tokuoka
- 191 15人の写真家
Fifteen Photographers Today
- 192 現代メキシコ美術展
Contemporary Mexican Art
- 193 第9回東京国際版画ビエンナーレ展
The 9th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 194 近代日本の美術
Modern Japanese Art
- 195 福田平八郎遺作展
Posthumous Exhibition of Heihachiro Fukuda

昭和50年度[1975]

- 196 ポール・デルボオー展
Paul Delvaux
- 197 前田青邨展
The Retrospective Exhibition of Seison Maeda
- 198 香月泰男遺作展
Posthumous Exhibition of Yasuo Kazuki
- 199 新収蔵作品の展示
同時陳列 ソ連寄贈・福田平八郎作品展
New Acquisition 1973 and 1974
Exhibition of Works by Heihachiro Fukuda: Donation from the U. S. S. R.
- 200 シュルレアリスム展
Surrealism
- 201 フランス工芸の美—15世紀から18世紀のタピスリー
同時陳列 ジョセフ・アルバースの形成・連接
Merveilles de la Tapisserie Française
Josef Albers: Formulation, Articulation
- 202 ドイツ・リアリズム 1919—1933
Realistische Tendenzen Deutscher Kunst 1919-1933 Eine Ausstellung aus Museen der DDR

昭和51年度[1976]

- 203 ルフィーノ・タマヨ展
Exhibition Rufino Tamayo
- 204 安田靉彦展
The Retrospective Exhibition of Yukihiko Yasuda
- 205 恩地孝四郎と「月映」
Koshiro Onchi and “Tsukuhae”
- 206 シャガール展
Exposition Mark Chagall
- 207 キュービズム展
Cubism
- 208 第10回東京国際版画ビエンナーレ展
The 10th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 209 今日の造形〈織〉—ヨーロッパと日本
Fiber Works: Europe and Japan
- 210 新収蔵作品の展示
New Acquisition 1975

昭和52年度[1977]

- 211 浜田庄司展
The Retrospective Exhibition of Shoji Hamada
- 212 素朴な画家たち
Peintres Naifs
- 213 新収蔵作品の展示
New Acquisition 1975
- 214 フォンタネージ、ラグーザと明治前期の美術
Fontanesi, Ragusa e l' arte Giapponese nel primo periodo Meiji

	215	Ⅰ1 工芸館開館記念展 現代日本工芸の秀作 Masterpieces of Contemporary Japanese Crafts: Commemorative Exhibition for Opening of the Crafts Gallery
	216	今日の造形〈織〉—アメリカと日本 Fiber Works: Americas and Japan
	217	フリードリヒとその周辺 Casper David Friedrich und Sein Kreis
昭和53年度[1978]	218	マリノ・マリーニ展 Exhibition Marino Marini
	219	斎藤義重展 SAITO Yoshishige Exhibition 1978
	220	Ⅰ2 松田権六展 Gonroku Matsuda Exhibition
	221	佐伯祐三展 50th Year Posthumous Exhibition Yuzo Saeki
	222	世界現代工芸展 スカンディナヴィアの工芸 World Contemporary Crafts Exhibition: Scandinavian Craft
	223	ヨーロッパのポスター—その源流から現代まで L' Affiche en Occident de ses origines a nos jours
	224	Ⅰ3 近代日本の色絵磁器 Enamelled Porcelain of Modern Japan
	225	新収蔵美術作品の展示—昭和52年度 New Acquisition 1977
昭和54年度[1979]	226	没後50年記念 岸田劉生展 50th Year Posthumous Exhibition Ryusei Kishida
	227	第11回東京国際版画ビエンナーレ展 The 11th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
	228	Ⅰ4 昭和52, 53年度収蔵工芸作品の展示 New Acquisition 1977 and 1978 (Craft)
	229	Ⅰ5 近代日本の漆芸 Lacquer Art of Modern Japan
	230	ドロシー展 ロベールとソニア Robert / Sonia Delaunay
	231	ブリジット・ライリー展—視覚の眩惑 Bridget Riley: Works 1959-78
昭和55年度[1980]	232	新収蔵美術作品の展示—昭和53, 54年度 New Acquisition 1978 and 1979
	233	山口長男・堀内正和展—日本の抽象美術のパイオニア Exhibition YAMAGUCHI Takeo & HORIUCHI Masakazu
	234	Ⅰ6 伝統と現代 日本の型染 KATAZOME Japanese stencil and print dyeing: Tradition and Today

昭和56年度[1981]

- 235 ポンピドゥ・センター／20世紀の美術
Le Musée National d' Art Moderne Centre Georges Pompidou/ L' Art du 20e Siècle
- 236 **Ⅰ7** 現代ガラスの美—ヨーロッパと日本
Contemporary Glass: Europe and Japan
- 237 マチス展
Matisse Exhibition
- 238 **Ⅰ8** 石黒宗麿展—陶芸の心とわざ
Munemaro Ishiguro Exhibition
- 239 **Ⅰ9** 八木一夫展—火と土のメッセージ
The Ceramic Artist Kazuo Yagi
- 240 20世紀カナダ絵画展
20th Century Canadian Painting
- 241 東山魁夷展
Kaii Higashiyama Exhibition
- 242 ムンク展—一生の不安 愛と死
Munch Exhibition
- 243 **Ⅰ10** 現代ガラスの美—オーストラリア, カナダ, アメリカと日本
Contemporary Glass: Australia, Canada, U. S. A. & Japan
- 244 1960年代—現代美術の転換期
The 1960's: Decade of Change in Contemporary Japanese Art
- 245 **Ⅰ11** 現代の食器—注ぐ
Contemporary Vessels: How to pour
- 246 坂本繁二郎展
Hanjiro Sakamoto Exhibition

昭和57年度[1982]

- 247 開館30周年記念展Ⅰ 近代日本の美術—1945年以後
The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 1 [1945-]
- 248 **Ⅰ12** 開館30周年記念展 近代日本の工芸
The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Crafts
- 249 アメリカに学んだ日本の画家たち展
—国吉・清水・石垣・野田とアメリカン・シーン絵画
Japanese Artists Who Studied in U. S. A. and The American Scene
- 250 開館30周年記念展Ⅱ 近代日本の美術—1945年以前
The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 2 [1900-1945]
- 251 **Ⅰ13** 近代日本のガラス工芸—明治初期から現代まで
Modern Japanese Glass: Early Meiji to Present
- 252 ベルギー象徴派展
Symbolism in Belgium
- 253 **Ⅰ14** イギリスのニードルワーク
British Needlework
- 254 **Ⅰ15** 黒田辰秋展—木工芸の匠
KURODA Tatsuaki: Master Wood Craftsman

昭和58年度[1983]

- 255 ピカソ展
Picasso
- 256 フランシス・ベーコン
Francis Bacon: Paintings 1945-1982
- 257 **E16** 伝統工芸30年の歩み
30 Years of Modern Japanese Traditional Crafts
- 258 現代美術における写真—1970年代の美術を中心として
Photography in Contemporary Art
- 259 **E17** モダニズムの工芸家たち—金工を中心にして
Modernism and Craftsmen The 1920' s to the 1930' s
- 260 20世紀アメリカのポスター ニューヨーク近代美術館所蔵による
The modern American Poster
- 261 村上華岳展
Kagaku Murakami Exhibition

昭和59年度[1984]

- 262 ティッセン・コレクション名作展—近代絵画の展開
Modern Masters From The Thyssen-Bornemisza Collection
- 263 三次元性—ドイツ彫刻の現在
Dreidimensional: Aktuelle Kunst aus der Bundesrepublik Deutschland
- 264 **E18** 河井寛次郎—近代陶芸の巨星
Kanjiro Kawai
- 265 構成主義と幾何学的抽象
Constructivism and the Geometric Tradition
- 266 **E19** 今日のジュエリー—世界の動向
Contemporary Jewelry: The Americas, Australia, Europe and Japan
- 267 現代美術への視点—メタファーとシンボル
Metaphor and / or Symbol: A Perspective on Contemporary Art
- 268 新収蔵作品展—昭和58、59年度
New Acquisition 1983 and 1984
- 269 **E20** 竹の工芸—近代における展開
Modern Bamboo Craft
- 270 棟方志功展
Shiko Munakata

昭和60年度[1985]

- 271 **E21** 現代染織の美—森口華弘・宗廣力三・志村ふくみ
Kimono as Art: Modern Textile Works by Kako Moriguchi, Rikizo Munehiro, and Fukumi Shimura
- 272 モディリアーニ展
Modigliani
- 273 写実の系譜 I—洋風表現の導入 江戸中期から明治初期まで
Development of Western Realism in Japan
- 274 現代デザインの展望—ポストモダンの地平から
Contemporary Landscape, From the Horizon of Postmodern Design
- 275 プロイセン文化財団ベルリン国立美術館所蔵 19世紀ドイツ絵画名作展
Meisterwerke deutscher Malerei des 19. Jahrhunderts aus der Nationalgalerie Berlin: Staatliche Museen Stiftung Preußischer Kulturbesitz

	276	Ⅰ22 人形工芸 昭和期を中心にして Modern Japanese Dolls
昭和61年度[1986]	277	松本竣介展 Shunsuke Matsumoto Exhibition 1986
	278	所蔵作品による全館陳列—近代日本の美術 Modern Japanese Art from the Museum Collection
	279	近代の見なおし ポストモダンの建築1960—1986 Revision der Moderne: Postmoderne Architektur 1960-1986
	280	写実の系譜 II—大正期の細密描写 An Eye for Minute Details: Realistic Painting in the Taisho Period
	281	京都の日本画1910—1903 Nihon-ga the Kyoto School 1910-1930
	282	Ⅰ23 1960年代の工芸—昂揚する新しい造形 Forms in Aggression: Formative Uprising of the 1960s
	283	昭和60, 61年度 新収蔵作品展 New Acquisitions 1985 and 1986
	284	ゴーギャン展—楽園を求めて Paul Gauguin: In Search of Paradise
昭和62年度[1987]	285	カンディンスキー展 Kandinsky
	286	Ⅰ24 木工芸—明治から現代まで Modern Woodcraft
	287	杉山 寧展 Yasushi Sugiyama
	288	Ⅰ25 現代陶芸の美 加守田章二展 KAMODA Shoji: A Prominent Figure in Contemporary Ceramics
	289	若林奮展—今日の作家 Isamu Wakabayashi
	290	難波田龍起展—今日の作家 Tatsuoki Nambata
	291	ブリュッセル王立歴史博物館所蔵—ヨーロッパのレース Dentelles Européennes
	292	梅原龍三郎遺作展 Ryuzaburo Umehara Retrospective
昭和63年度[1988]	293	ルネ・マグリット展 René Magritte
	294	所蔵作品による全館陳列—近代美術における人間像 The Image of Man in Modern Japanese Art from the Museum Collection
	295	Ⅰ26 図案の変貌 Design in Transition
	296	写実の系譜 III—明治中期の洋画 Realistic Representation III: Painting in Japan 1884-1907

	297	工27 現代イギリスの工芸 Contemporary British Crafts
	298	オディロン・ルドン展 Odilon Redon
平成元年度[1989]	299	高山辰雄展 Tatsuo Takayama
	300	所蔵作品による全館陳列—昭和の美術 Art of the Showa Period: From the Museum Collection
	301	工28 生命のかたち—熊倉順吉の陶芸 Organs that Provoke: Ceramic Works of Junkichi Kumakura
	302	現代美術への視点—色彩とモノクローム A Perspective on Contemporary Art: Color and/or Monochrome
	303	工29 能弁なオブジェ—現代アメリカ工芸の展開 The Eloquent Object: The Evolution of American Art in Craft Media since 1945
平成2年度[1990]	304	工30 ヴァン・ド・ヴェルド展 Van de Velde Exhibition
	305	文展の名作[1907—1918] Masterpieces from the Buntten Exhibition 1907-1918
	306	手塚治虫展 Osamu Tezuka Exhibition
	307	写真の過去と現在 The Past and the Present of Photography
	308	工31 グラフィックデザインの今日 Graphic Design Today
	309	移行するイメージ 1980年代の映像表現 Images in Transition: Photographic Representation in the Eighties
平成3年度[1990]	310	工32 富本憲吉展 TOMIMOTO Kenkichi
	311	荒川修作の実験展—見る者がつくられる場 Constructing the Perceiver — ARAKAWA: Experimental Works
	312	工33 大英博物館所蔵品による アフリカの染織 African Textiles
	313	古賀春江—創作のプロセス 東京国立近代美術館所蔵作品を中心に Harue Koga — The Creative Process: A Show Built Around the Museum Collection
	314	イサム・ノグチ展 Isamu Noguchi Retrospective 1992
平成4年度[1992]	315	ルネ・ラリック展 René Lalique
	316	現代美術への視点—形象のはざまに A Perspective on Contemporary Art: Among the Figures

- 317 アボリジニの美術 伝承と創造／オーストラリア大地の夢
Crossroads Toward A New Reality: Aboriginal Art from Australia
- 318 セバスチャン・サルガド—人間の大地
Sebastião Salgado: In Human Effort
- 319 **工34** 塗りの系譜
Nuances in Lacquer: 70 Years of Innovations
- 320 フォーヴィズムと日本近代洋画
Fauvism and Modern Japanese Painting

平成5年度[1993]

- 321 小川芋銭展
OGAWA Usen Retrospective
- 322 柳原義達展
Yoshitatsu Yanaguihara: A Retrospective
- 323 **工35** 現代の陶芸 (I) 山陰の陶窯—出西窯
Contemporary Japanese Ceramic Shussai Kiln: Folk Craft in San' in Area
- 324 国画創作協会回顧展
Kokuga-Sosaku-Kyokai Retrospective
- 325 黒田アキ 廻廊＝メタモルフォフォーゼ
Aki Kuroda: Corridor=Metamorphosis
- 326 **工36** 現代の型染—くりかえすパターン
Contemporary Stencil Dyeing and Printing: The Repetition of Patterns
- 327 山本丘人展
YAMAMOTO Kyujin Retrospective

平成6年度[1994]

- 328 木村忠太展
Chuta Kimura
- 329 **工37** イスラエルの工芸—アリックス・ド・ロスチャイルド財団のコレクションを中心にして—
Israeli Contemporary Crafts —Featuring the Collection of the Alix de Rothschild Foundation—
- 330 写実の系譜 IV—「絵画」の成熟 1930年代の日本画と洋画
Realistic Representation IV: Master Paintings in Japan in the 1930s
- 331 **工38** 素材の領分—素材を見直しはじめた美術・工芸・デザイン
The Domain of the Medium: New Approaches to the Medium in Art, Craft, Design
- 332 日本の美—伝統と近代
The Traditional Beauty in Japanese Art
- 333 **工39** 現代の彫漆
Choshitsu [Carved Lacquer] Today
- 334 若林奮展—素描という出来事
Isamu Wakabayashi: Works on Paper
- 335 メトロポリタン美術館所蔵 抽象表現主義—紙の上の冒険
同時開催 国内所蔵 アメリカ抽象表現主義の名作展
Abstract Expressionism: Works on Paper, Selections from The Metropolitan Museum of Art
Abstract Expressionism: Masterpieces from Japanese Collections

	336	Ⅰ40 〈珠玉の陶芸〉板谷波山展 ITAYA Hazan Retrospective
平成7年度[1995]	337	東京国立近代美術館と写真 1953-1995 Photography and The National Museum of Modern Art, Tokyo 1953-1995
	338	Ⅰ41 コンテンポラリー・ジュエリー ―日本の作家30人による― Contemporary Jewelry: Exploration by thirty Japanese artists
	339	Ⅰ42 アール・デコのポスター Art Déco Posters
	340	辰野登恵子 1986-1995 Toeko Tatsuno 1986-1995
	341	Ⅰ43 生活の中の工芸―1950-1960年代のモダン・クラフト Crafts in Everyday Life in the 1950s and the 1960s
	342	Ⅰ44 現代美術への視点 絵画、唯一なるもの A Perspective on Contemporary Art: Painting — Singular Object
	343	ドナウの夢と追憶：ハンガリーの建築と応用美術 1896-1916 Panorama: Architecture and Applied Arts in Hungary 1896-1916
	344	現代世界のポスター 東京国立近代美術館所蔵品より Contemporary Posters from Museum's Collection
	345	石元泰博展 現在の記憶 Yasuhiro Ishimoto: Remembrance of Things Present
	346	身体と表現 1920-1980 ポンピドゥーセンター所蔵作品から La Dimension du Corps 1920-1980
平成8年度[1996]	347	岸田劉生 所蔵作品と資料の展示 同時開催 平成5-7年度新収蔵作品展 KISHIDA Ryusei: Works and Archives from the Museum Collection New Acquisition 1993-1995
	348	東京国立近代美術館・国立西洋美術館 所蔵作品による 交差するまなざし―ヨーロッパと近代日本の美術 The Crossing Visions: European and Modern Japanese Art from the Collections of The National Museum of Western Art & The National Museum of Modern Art, Tokyo
	349	Ⅰ45 亀倉雄策のポスター 時代から時代へ 1953年-1996年の軌跡 Yusaku Kamekura Poster Exhibition
	350	Ⅰ46 磁器の表現 1990年代の展開 New Expression in Porcelain: Developments in the 1990s
	351	90年代の韓国美術から―等身大の物語 An Aspect of Korean Art in the 1990s
	352	東松照明写真展 インターフェイス Shomei Tomatsu: Interface
	353	プロジェクト・フォー・サバイバル 1970年以降の現代美術再訪 Project for Survival
	354	理知と幻想のシュルレアリスト 北脇昇展 Noboru Kitawaki: A Retrospective
	355	Ⅰ47 藤井達吉展―近代工芸の先駆者 Tatsukichi Fujii: A Pioneer in Modern Crafts

平成9年度[1997]

- 356 モダニズムの光跡 恩地孝四郎・椎原治・瑛九
Traces of Light in Modernism: Koshiro Onchi, Osamu Shiihara and Ei-kyu
- 357 絵画の大地を揺り動かした画家 萬鐵五郎展
YOROZU Tetsugoro Retrospective
- 358 モダン・デザインの父 ウィリアム・モリス展
William Morris
- 359 **Ⅰ48** 福田繁雄のポスター—視覚の遊気
Posters of FUKUDA Sigeo: An Artist of Visual Wit
- 360 アルフレッド・スティーグリッツと野島康三
Alfred Stieglitz and Yasuzo Nojima
- 361 土田麦僊展
TSUCHIDA Bakusen: A Retrospective
- 362 **Ⅰ49** 増村増城展—漆の美・塗の造形
MASUMURA Mashiki: Intrinsic and Formal Beauty of Lacquer
- 363 村岡三郎展
Saburo Muraoka
- 364 **Ⅰ50** トーネ・ヴィーゲラン展—ノルウェーの現代アート・ジュエリー—
Tone Vigeland: Norwegian Art Jewelry
- 365 文人画の近代—鉄斎とその師友たち—
Destination of the Literary School Painting in Modern Ages: Tessai and Teachers and Friends
- 366 写真の現在—距離の不在
Photography Today: The Absence of Distance
- 367 加山又造展
Matazo Kayama Exhibition

平成10年度[1998]

- 368 **Ⅰ51** 竹内碧外展 木工芸・わざと風雅
Elegance of Woodwork: Art of TAKEUCHI Hekigai
- 369 20世紀の“線描”—〈生成〉と〈差異〉
Making It Visible — Graphic Elements in 20th Century Art
- 370 **Ⅰ52** 永井一正ポスター展—Life
Posters of Kazumasa Nagai [life]
- 371 土谷武展 しなやかな造形, 生成するかたち
Takeshi Tsuchitani: A Retrospective
- 372 **Ⅰ53** 「かたち」の領分—機能美とその転生
The Domain of the Form — Functional Beauty and its Transmigration
- 373 京都の工芸[1910-1940] 伝統と変革のはざまに
Crafts Reforming In Kyoto[1910-1940] A Struggle Between Tradition AND Renovation
- 374 大辻清司写真実験室
Kiyoji Ohtsuji Retrospective: Experimental Workshop of Photography
- 375 **Ⅰ54** 鈴木治の陶芸—詩情のオブジェ
Ceramic Art of SUZUKI Osamu: Poetry in Ceramic Works
- 376 鐺木清方展—回想の江戸・明治 郷愁のロマン
KABURAGI Kiyokata: A Retrospective

平成11年度[1999]

- 377 **Ⅰ55** 本野東一の染色
MOTONO TOICHI: A Retrospective
- 378 横山操展
Misao Yokoyama: A Retrospective
- 379 **Ⅰ56** 田中一光ポスター展—伝統への接点
Beyond Tradition: An Exhibition of IKKO TANAKA's Posters
- 380 **Ⅰ57** 加藤土師萌の陶芸：近代陶芸の精華
Hajime Kato: The Quintessence of Modern Japanese Ceramic Art
- 381 石内都 モノクローム—時の器
Miyako Ishiuchi: Time Textured in Monochrome
- 382 顔—絵画を突き動かすもの(於 国立西洋美術館)
VISAGE: Painting and the Human Face in 20th Century Art

平成12年度[2000]

- 383 **Ⅰ58** 杉浦非水展 都市生活のデザイナー
SUGIURA HISUI: A Retrospective
- 384 **Ⅰ59** うつわをみる—暮らしに息づく工芸—
Thoughts on Contemporary Vessels
- 385 トーマス・シュトゥルツ：マイ・ポートレート
Thomas Struth: My Portrait
- 386 **Ⅰ60** ドイツ陶芸の100年—アール・ヌーヴォーから現代作家まで—
German Ceramics in 20th Century
- 387 美術館を読み解く—表慶館と現代の美術(於 東京国立博物館 表慶館)
Reading the Art Museum: Hyokeikan and Art of Today

平成13年度[2001]

- 388 **Ⅰ61** 1930年代日本の印刷デザイン—大衆社会における伝達
Japanese Posters and tsHandbills in the 1930s: Communication in Mass Society
- 389 **Ⅰ62** 現代の布—染と織の造形思考—
Contemporary Textile —Weaving and Dyeing: Ways of Formative Thinking
- 390 **Ⅰ63** 京都の工芸[1945-2000]
Crafts in Kyoto: 1945-2000
- 391 未完の世紀:20世紀美術がのこすもの
The Unfinished Century: Legacies of 20th Century Art
- 392 カンディンスキー展
Kandinsky

平成14年度[2002]

- 393 写真の現在 2 サイト—場所と光景
Photography Today 2—[sáit] site/sight
- 394 **Ⅰ64** 森正洋—陶磁器デザインの革新—
Masahiro Mori: A Reformer of Ceramic Design
- 395 小倉遊亀展
Yuki Ogura: A Retrospective
- 396 **Ⅰ65** 昭和の桃山復興展
Modern Revival of Momoyama Ceramics: Turning Point Toward Modernization of Ceramics

- 397 現代美術への視点 連続と侵犯
A Perspective on Contemporary Art: Continuity/Transgression
- 398 ヴォルフガング・ライプ展
Wolfgang Laib
- 399 **Ⅰ66** クッションから都市計画まで—ヘルマン・ムテジウスと
ドイツ工作連盟:ドイツ近代デザインの諸相 1900-1927
From Cushion to Urban-Planning Hermann Muthesius and the
German Werkbund: Modern Design in Germany 1900-1927
- 400 青木繁と近代日本のロマンティズム
Shigeru AOKI and Romanticism in Modern Japanese Art
- 401 **Ⅰ67** 今日の人形芸術 想念の造形
Contemporary Dolls: Formative Art of the Human Sentiment

平成15年度[2003]

- 402 牛腸茂雄展
Shigeo Gocho: A Retrospective
- 403 **Ⅰ68** オーストラリア現代工芸3人展:未知の形を求めて
Light Black: Three Contemporary Australian Craftspersons
- 404 地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画
Dreams of the Horizon: Fantastic Paintings in Japan, 1935-1945
- 405 **Ⅰ69** 三代藍堂 宮田宏平—金属造形の先駆け
Rando Miyata III: A Retrospective
- 406 野見山暁治展
Gyoji Nomiyama: A Retrospective
- 407 **Ⅰ70** 現代の木工家具
Contemporary Furniture and Woodworks in Japan
- 408 旅—「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン
Traveling: Towards the Border
- 409 **Ⅰ71** あかり:イサム・ノグチが作った光の彫刻
Akari: Light Sculptures by Isamu Noguchi
- 410 ヨハネス・イッテン—造形芸術への道
Johannes Itten: Wege zur Kunst
- 411 国吉康雄展
Yasuo Kuniyoshi: A Retrospective

1-3 平成16年度企画展覧会一覧表 Table of Exhibitions, 2004

回数	展覧会名			備考
会期	延日数	入場者数	一日平均	
411	国吉康雄展			共催展
16.3.23-5.16 (うち平成16年度41日間)	50日	37,291人 (うち平成16年度33,450人)	746人	
412	ブラジル：ボディ・ノスタルジア			特別展
16.6.8-7.25	42日	11,922人	284人	
413	琳派 RIMPA			共催展
16.8.21-10.3	43日	166,524人	3,873人	
414	非情のオブジェ 現代工芸の11人			特別展
(工72) 16.9.18-12.5	68日	11,643人	171人	
415	木村伊兵衛展			特別展
16.10.9-12.19	62日	27,238人	439人	
416	草間彌生—永遠の現在			特別展
16.10.26-12.19	48日	31,961人	666人	
417	人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉			企画展
(工73) 16.12.11-17.2.27	65日	19,099人	294人	
418	痕跡—戦後美術における身体と思考			交換展
17.1.12-2.27	41日	9,332人	228人	
419	河野鷹思のグラフィック・デザイン—都会とユーモア			特別展
(工74) 17.1.12-2.27	41日	12,147人	296人	
420	ゴッホ展 孤高の画家の原風景			共催展
17.3.23-5.22 (うち平成16年度9日間)	60日	44,044人	4,894人	

会 期
平成16年6月8日～7月25日(42日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、BrasilConnects
共 催
国際交流基金
後 援
ブラジル大使館
特別協賛
Havaianas
協 賛
トヨタ自動車株式会社、松下電器産業株式会社、Banco do Brasil
協 力
Varig Brasil Airlines
入場者
11,922人(一日平均284人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館)第546号(2004年6-7月)「ブラジルの曲線、ゆるる海の記憶」(管啓次郎)
現代の眼(東京国立近代美術館)第546号(2004年6-7月)「スイカジュース(スッコ・ド・メランシーア)とチーズパン(ボンディケージョ)―即興と変容のダイナミズム」(神谷幸江)
Luca 第6号(2004年7月1日)「太陽とボサノバの国から現代アートがやってきた」(松下幸子)
毎日新聞 2004年7月7日「多彩なブラジル美術の今:美術評論家・金澤毅さんと見る」(木村知勇)
朝日新聞 2004年7月15日「ブラジル:ボディ・ノスタルジア展」(大西若人)
美術手帖 第853号(2004年8月号)「ブラジル:ボディ・ノスタルジア 輻輳する『身体』の想像力」(林道郎)

412 ブラジル：ボディ・ノスタルジア

日本ではあまり知られていないブラジルの現代美術を、同国の近代美術の歴史も踏まえながら紹介しようとする試み。この国の美術が欧米のモダニズムの成果をどのように咀嚼し、固有の社会・文化状況に接合しながら新しい表現を模索していったかを検証した。

具体的には、ブラジル美術に顕著な「身体」というテーマに焦点を絞り、その様々な取り組みを3人の物故作家と6人の現代作家を織り交ぜて展示することにより、時代を越えて連なる創造の源泉を探ることにした。展覧会は前半と後半に分けられ、前半ではブラジルの現実や歴史が直截的に刻み込まれたエネルギッシュな身体表現を、後半では鑑賞者の身体と美術作品との関係を探求するような観客参加型の作品を展示した。その結果、「身体」を媒介にすることで成立する、社会に対する批評精神と世界に対しての開放性に、ブラジル美術の特質が存在することを明らかにするとともに、すでに多方面で開拓された「身体」という問題に、いまなお新鮮な表現を生み出す可能性が秘められていることを提示した。

Brazil: Body Nostalgia

Brazil: Body Nostalgia featured contemporary Brazilian art, which is not very well known in Japan, presented with some reference to the history of modern art in the country. It examined how Brazilian artists digested European and American modernism to carve out new expressions from the native rock of Brazilian society and culture.

Focusing on “the body”, a recurring theme in Brazilian art, the exhibition looked at the diverse activities of nine artists, six living and three deceased, to explore the fountainhead of creativity that has run through Brazilian art through the ages.

The exhibition was divided into two sections. The first section highlighted energetic expressions of the body that etch out the realities and history of Brazil in sharp relief. The second part consisted of interactive works of art that explored the relationship between art and the physicality of the viewer. The intent was to reveal, through the two sections, how Brazilian art is characterized by a spirit of social critique and openness to the world realized through the artist's focus on the body. The exhibition also proved that there is still room for fresh and novel expressions of the body, despite all the many ways in which the subject has been treated in the past.



会 期
平成16年8月21日～10月3日(43日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、東京新聞
後 援
文化庁、千代田区
協 力
日本航空、JR東日本
入場者
166,524人(一日平均3,873人)

雑誌・新聞関連記事

現代の眼(東京国立近代美術館)第547号(2004年8-9月)
「琳派の生々流転」(小林忠)

現代の眼(東京国立近代美術館)第547号(2004年8-9月)
「ワのRIMPAウィーンのRIMPA」(馬淵明子)

東京新聞 2004年8月28日「琳派 RIMPA」展に寄せて」
(辻惟雄)

東京新聞 2004年8月22日「琳派」(古田亮)

東京新聞 2004年9月3～7日「琳派RIMPA」展」(小林忠、山下裕二、草薙奈津子、森村泰昌、池内紀)

東京新聞 2004年9月23日～25日琳派RIMPA展を見て」(松永貞、奥谷博、岡本敏子)

朝日新聞 2004年9月16日「美術 琳派RIMPA」展」(辻惟雄)

新美術新聞 2004年9月1日「琳派 RIMPA」展」(古田亮)

美術手帖 第849号(2003年10月号)「琳派からRIMPAへ」(古田亮)、「RIMPAを語る」(杉本博司、山下裕二、奥村博)

芸術新潮 2004年9月「日本絵画史のリンパ腺」(北澤憲昭)

文化庁月報 2004年7月「琳派 RIMPA」(古田亮)

Newsweek 2004年9月6日「The Gold Rash」(Kay Itoi)

読売新聞(夕刊) 2004年9月8日「問い直される「琳派」」(前田泰二)

The Japan Times 2004年9月8日「Art's ancient Moderns, Rimpa's classic style is reinvented」(Tai Kawabata)

美術研究 第385号(2005年2月号)「琳派展」展評(戸田禎祐)

民族藝術 Vol.21 2005年3月「東京国立近代美術館「琳派 RIMPA」展」(神林恒道)、「琳派的なるものはなにか」(福本繁樹)



413 琳派 RIMPA

本展には、琳派を近代日本人の美意識の反映としてとらえ直して見ようという狙いがあった。俵屋宗達、尾形光琳、酒井抱一と連なる近世琳派の系譜も、近代日本の文脈に照らして見ると、はじめから「歴史」としてあったのではなく、近代人の眼が発見してきたものである。近代美術館の琳派展として、明治・大正・昭和戦前期に繰り返し起こった近代日本画の琳派ブームにスポットを当て、また、今日まで連綿と息づく近代琳派の精華を再検証した。

そして、琳派の普遍性や世界性を問うRIMPA展の試みが本展の最大の特徴であった。歴史やジャンルを超えて、クリムトなどの西洋絵画をはじめ、近代洋画、現代美術など20世紀に現れた様々な作品を幅広く視野に入れながら、いわゆる琳派的なるものとは何かを探ることを目指した。


第一章「光琳—近代が再発見した日本美」：尾形光琳の代表作を展示。第二章「宗達・光悦—芸術における個性と統合」：俵屋宗達と本阿弥光悦の名作を集めた。第三章「江戸から明治へ—抱一・其一を中心に」：光琳以降の琳派の諸相を酒井抱一からはじまる「江戸琳派」の系譜を中心に明治中期までたどった。第四章「琳派の近代—菱田春草から加山又造まで」：下村観山にはじまる近代作家たちが生み出した装飾的表現の総体を近代琳派と位置付けた。第五章「RIMPAの世界—きらめき・型・反復」：固定概念としての琳派をいったん忘れ、海外の作例を含めて近現代のさまざまな芸術をひろく見渡しながら、伝統的琳派と重ね合わせて展示した。40作家、81件で構成した。

RIMPA

An objective of the exhibition was to re-interpret the Rimpa school as a reflection of modern Japanese aesthetic. Modern Rimpa artists who stand as heirs to the great Rimpa masters Tawaraya Sotatsu, Ogata Korin and Sakai Hoitsu came to be recognized as such with the distance of time, seen from the context of modern Japan. The exhibition re-examined the essences of the modern Rimpa school, which continues strong today, and focused also on Rimpa booms among modern Japanese artists of the Meiji, Taisho and pre-war Showa eras.

The greatest characteristic of the exhibition was its attempt to elucidate the universality of Rimpa. Its aim was to define the essential quality of Rimpa by taking a broad look at a diverse variety of artwork produced in the 20th Century regardless of genre or time period, including works of Western artists such as Gustav Klimt and Western-style paintings by Japanese artists.

The exhibition, consisting of 81 works by 40 artists, was organized into five parts. Part I (Korin: Japanese Beauty Rediscovered in the Modern Era) presented representative works by the great master Ogata Korin. Part II (Sotatsu Koetsu: Individuality and Fusion in the Arts) brought together the masterpieces of Sotatsu and Koetsu. Part III (From the Edo to the Meiji: Featuring Hoitsu and Kiitsu) looked at post-Koetsu Rimpa artists up to the mid-Meiji period, with the main focus on the Edo Rimpa that began with Sakai Hoitsu. Part IV (Modern Rimpa: From Hishida Shunso to Kayama Matazo) highlighted Shimomura Kanzan and other more recent artists, whose works can be positioned as modern Rimpa owing to their uniquely decorative expressions. Part V (World Rimpa: Sparkling, Forms, Reiteration) goes beyond the conventional demarcation of Rimpa to encompass a wide variety of modern and contemporary art by Japanese and non-Japanese artists in juxtaposition with traditional Rimpa creations.

会 期
平成16年9月18日～12月5日(68日間)
会 場
工芸館
主 催
東京国立近代美術館
入場者
11,643人(一日平均171人)
雑誌・新聞関連記事
まいにちミニニュース 268 2004年9月7日「近代工芸の名品を収集展示」
陶業時報 2004年9月25日「近代工芸の名品を収集展示する国内唯一の専門館」
毎日新聞(夕刊) 2004年10月4日「非情のオブジェ 11人 国立近代美術館 工芸館で」(石川健次)
現代の眼(東京国立近代美術館)第548号(2004年10-11月)「非情のオブジェ—現代工芸の11人」展によせて(不動美里)
現代の眼(東京国立近代美術館)第548号(2004年10-11月)「織ることをめぐって」(上原美智子)
現代の眼(東京国立近代美術館)第548号(2004年10-11月)「“土のかたち”を求めて—虚から延へ—」(伊村俊見)
朝日新聞(夕刊) 2004年10月26日「工芸を問いながら「非情」に」(山盛英司)
Art Outing (web/ACE Japan) 2004年11月5日「Cool and Light: New Spirit in Craft Making」(Lois Adele Lydens)
中日新聞 2004年11月22日「心華やぐ工芸品」(井上昇治)
読売新聞(夕刊) 2004年10月27日「美術館博物館情報 非情のオブジェ」(今井陽子)
炎芸術 80号 「造形する意志」(今井陽子)


414(工72) 非情のオブジェ 現代工芸の11人

戦後、「用と美」とを旨とする工芸の世界に、いわゆる「オブジェ」の制作が始まったことは、工芸の領域の拡大に重要な意義をもたらした。この間工芸はさまざまな角度から見直され、表現に一層の豊かさが加わるとともに工芸のアイデンティティーの問い直しが試行されたが、近年、それまで展開されてきた主題と外観の両面における重厚感の追求とは異なる、すっきりとした軽やかさを特色とする作風が多くみられるようになった。本展はこうした状況に着目し、文学性などの価値観を排して工芸の本質に挑む制作の姿勢とその作品を表わすために、展覧会名には「非情」の語を用いた。陶芸、ガラス、染織の各分野において活躍する11名の作品を並べ、世代や素材、技法、形式による差異を超えて共有される価値観の提示を試みた。

COOL & LIGHT: New Spirit in Craft Making

The start of objets d'art production after the war served to open up significantly the boundaries of craft, whose original raison d'être rested on providing utility with beauty. From then to the present, "crafts" have undergone diverse re-evaluations while achieving ever greater creativity, and various re-definitions of craft have come and gone. In recent years, there has been an increase in pieces featuring lightness and simplicity, in contrast to the previous emphasis on gravity and profoundness in both subject matter and appearance.

Cool & Light was so named to celebrate the creative attitude and output of artists who have done away with rhetoric to concentrate on the inherent meaning of craft. The exhibition sought to highlight the common values contained in the works of 11 leading ceramic, glass and textile artists who vary in age, technique, style and material of choice.



会 期
平成16年10月9日～12月19日(62日間)
会 場
本館ギャラリー4、 所蔵品ギャラリー (4、3階)
共 催
朝日新聞社
協 力
特種製紙株式会社
入場者
27,238人(一日平均439人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館) 第548号(2004年10-11月)「外国のグラフィック雑誌に見る木村伊兵衛の報道写真」(白山真理)
朝日新聞 2004年10月6日「木村伊兵衛展 戦前戦後の名作シリーズで紹介」(無署名)
朝日新聞 2004年10月9日「木村伊兵衛展始まる」(無署名)
朝日新聞 2004年10月20日「木村伊兵衛展 小型カメラの達人の仕事」(無署名)
公明新聞(日曜版) 2004年10月24日「今なぜ木村伊兵衛か」(金子隆一)
産経新聞 2004年11月2日「木村伊兵衛展 昭和のスピード表現」(生田誠)
Metropolis #555 2004年11月12日「Ihei Kimura: The Man with the Camera - A Japanese Photographic Maestro Turns His Lens on Man and Nature」(Jeff Michael Hammond)
The Daily Yomiuri 2004年11月25日「Kimura's camera captures postwar Japan」(Robert Reed)
アサヒカメラ 2004年12月号「木村伊兵衛と映画」(展示作品紹介)
高知新聞 2005年1月9日「美術随想 月のはじめに22 写真のとき」(鍵岡正謹)

415 木村伊兵衛展

木村伊兵衛(1901-1974)は1930年代初頭、新興写真の運動の中で頭角を現し、以降晩年にいたるまで常に一線で活躍した、日本近代写真史上もっとも重要な写真家の一人である。本展では、報道写真という新分野にとりくみ、また肖像写真や舞台写真、街頭でのスナップ写真など、広範なテーマでそれぞれに優れた仕事を残した木村の業績を回顧するとともに、「報道写真」をキーワードに、現代の写真表現につながるその仕事の意義の検証を試みた。

展覧会は、初期から終戦直後までの、印刷物等を通して社会へ流通した仕事を紹介する第一部と、戦後の円熟期の作品を展示する第二部で構成した。第一部では雑誌やポスターなど、木村の写真を用いた印刷物を多数展示し、また会場を当館の所蔵作品展「近代日本の美術」のなかに時代順に数箇所に分けて組み込むことで、同時代との関連を呈示した。第二部では、そのカメラワークのエッセンスを抽出することを主眼とし、木村自身によってプリントされた貴重な印画を中心に、代表作である「秋田」や「街角」などのシリーズを展示した。

Ihei Kimura - The Man with the Camera

Ihei Kimura (1901 - 1974) is one of the most important figures in the history of modern Japanese photography. He first came to prominence in the early 1930's as a member of the Shinko Shashin (new photography) movement and remained at the forefront of his field well into his later years.

The Man with the Camera presented a retrospective of Ihei Kimura, who left behind superior works in diverse fields of photography, including reportage, street, portrait and stage. At the same time, it examined his works around the key words reportage photography to identify their significance to contemporary photographic expression.

The retrospective consisted of Part I, which took a look at Kimura, photographs in print from his early period to right after the war, and Part II, which presented works taken in the post-war period when Kimura had matured as an artist. Part I included many magazines and posters using his photos. The displays were divided into several time periods and placed within the appropriate time slots of MoMAT, permanent exhibition (Modern Japanese Art from the Museum Collection). Part II had as its main purpose the elucidation of the essence of Kimura's camerawork. It included such representative works as the Akita and On the Street series and consisted mostly of valuable prints made personally by Kimura.



会 期
平成16年10月26日～12月19日(48日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、 京都国立近代美術館
入場者
31,961人(一日平均666人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館)第548号(2004年10-11月) 「草間彌生私記」(谷川渥)
現代の眼(東京国立近代美術館)第548号(2004年10-11月) 「永遠の少年少女を生きる—草間彌生」(木幡和枝)
週刊文春 2004年10月7日号 「草間彌生—永遠の現在」 (無署名)
読売新聞 2004年10月14日(夕刊) 「川端邸に草間さん初 期作」(前田恭二)
読売新聞 2004年10月25日(夕刊) 「草間彌生さん 川端 康成氏との出会い」(前田恭二)
ぴあ 2004年10月28日(No.1074) 展覧会紹介(齊藤博美)
東京新聞 2004年11月13日 展評(藤田一人)
Metropolis 2004年11月19日 展評(Andrew Conti)
The Asahi Shimbun 2004年11月19日 展評(C. B. Liddell)
UNIVERS DES ARTS JAPON 2004年11月20日発行 展覧会紹介(無署名)
公明新聞 2004年11月30日 展評(藤田一人)
てんとう虫 2004年11月号 「私のベストチョイスART」(城 戸真亜子)
美術手帖 第857号(2004年11月号) 展覧会紹介(無署名)
テイズド&コンフェーズド ジャパン 2004年11月号 展覧会 紹介(署名:SU)
新美術新聞 2004年12月1日(No.1042) 「草間彌生展— 永遠の現在」(松本透)
朝日新聞 2004年12月1日(夕刊) 展評(西田健作)
日本経済新聞 2004年12月2日 展評(宝玉正彦)
週刊新潮 2004年12月2日号 展覧会紹介(無署名)
読売新聞 2004年12月8日(夕刊) 「回顧2004 美術」(前田 恭二)
The Daily Yomiuri 2004年12月9日 展評(Chiyono Sugiyama)
朝日新聞 2004年12月13日(夕刊) 「回顧2004 美術」(田中 三蔵)
毎日新聞 2004年12月14日(夕刊) 「美術この1年」(三田晴 夫)
日本経済新聞 2004年12月14日 「回顧2004 美術」(宝玉 正彦)
市民タイムス 2004年12月22日 「聞いたり見たり」(古川寿 一)
文化庁月報 2004年12月号 展覧会紹介(河本信治)
流行通信 2004年12月号 展覧会紹介(前川あかね)
ミセス 2004年12月号 展覧会紹介(高木陽子)
ぴあ アートワンダーランド 2004年12月10日発行 「トットが どっと 草間彌生」(水玉強迫)
en taxi 2004年12月27日発行(No.8) 「宇宙のこころ」(石 田千)
Art Monthly Australia 2004年12月-2005年1月号 展 覧会紹介
Memo男の部屋 2004年1月号 展覧会紹介(ジョー・スズ キ)
家庭画報INTERNATIONAL EDITION 2005年1月 Interview(Yayoi Kusama)
タワー・バースト 2005年1月号 「芸術GoGo!」(東谷隆司)
美術手帖 第861号(2005年1月号) 「草間彌生 永遠の現 在」(池上あかこ)

416 草間彌生—永遠の現在

本展は、1957年に渡米して以来欧米の美術界で高い評価を受け、1974年に帰国後も国際的な活躍を続ける草間彌生を取り上げた、国立美術館では初めての個展であった。絵画、彫刻、パフォーマンス、ビデオ・インスタレーションなどきわめて多方面にわたる草間の活動を総合的に見直すために、出品作品を厳選し、かつ、作者10歳時のスケッチから最近作までを網羅した。それらを草間の現在の仕事との関係の中で見渡すため、時代ごとに並べるのではなく、空間性を重視した展示に努めた。また本展は、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館及び広島市現代美術館、熊本市現代美術館、松本市美術館の共同研究・調査のもとに組織され、図録は、各館それぞれの展覧会内容を総合的に盛り込む形で編集・制作した。

出品作品110点の内訳は、絵画33点、水彩・素描24点、コラージュ15点、彫刻29点、DVD映像作品3点、インスタレーション6点である。

YAYOI KUSAMA Eternity-Modernity

Eternity-Modernity was the first ever one-person exhibition of Yayoi Kusama given by a national art museum. Kusama gained recognition in the American and European art worlds after moving to the United States in 1957 and has continued to work at the forefront of the international art scene after her return to Japan in 1974. The exhibition consisted of items carefully selected to give an overview of Kusama, highly diverse body of work, which ranges from paintings and sculptures to performances and video installations, and included sketches made at age 10 as well as recent creations. To view the pieces in relation to Kusama's current work, they were exhibited with a spatial orientation rather than on a chronological basis.

The exhibition was organized on the basis of joint research with The National Museum of Modern Art, Kyoto, Hiroshima City Museum of Contemporary Art, Contemporary Art Museum, Kumamoto, and Matsumoto City Museum of Contemporary Art. The exhibition catalogue gave a comprehensive view of pieces shown at the respective museums.

On display in Tokyo were 110 items in total: 33 paintings, 24 watercolors and drawings, 15 collages, 29 sculptures, 3 DVD productions and 6 installations.



会 期
平成16年12月11日～平成17年2月27日 (65日間)
会 場
工芸館
主 催
東京国立近代美術館
入場者
19,099人(一日平均294人)
雑誌・新聞関連記事
陶業時報 1501号 (2004年11月25日) 「もう一つの富本憲吉」
The Japan Times 2004年12月22日 「Dreams for a perfectly set table come true」(Robert Yellin)
文化庁月報 No.435 (2004年12月号) 「人間国宝の日常のうつわ—もう一つの 富本憲吉」(唐澤昌宏)
マナビィ No.42 (2004年12月号)「人 間国宝の日常のうつわ—もう一つの富 本憲吉」(唐澤昌宏)
現代の眼(東京国立近代美術館)第549 号(2004年12月-2005年1月)「富本憲吉 先生の思い—出—京都時代を中心として」 (小山喜平)
中日新聞 2005年1月19日「人間国 宝の日常のうつわ展・富本憲吉の創意 工夫光る」(高満津子)
読売新聞 2005年1月29日(夕刊)『美』 と『用』矛盾に立ち向かう(前田恭二)
メイプル 81号 (2005年1月号)「本日 は美術館めぐり 連載9」(久保京子)
日本経済新聞 2005年2月2日「華麗 な作陶支えた量産思想」(竹田博志)
朝日新聞 2005年2月10日(夕刊)「生 活重視の「民芸」の原点」(田中三蔵)
サライ Vol.17 No.4 (2005年2月17日 号)「色絵磁器の名匠 富本憲吉」(菅 谷淳夫)
陶磁郎 41号 (2005年2月17日発行) 「やきものの展覧会案内 展覧会に Q&A」(唐澤昌宏)
陶説 623 (2005年2月号)「富本憲吉 の日常のうつわ」(唐澤昌宏)
目の眼 No.342 (2005年3月号)「特 集富本憲吉の美と生活」(辻井喬・唐澤 昌宏)
陶説 625 (2005年4月号)「人間国宝 の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉」 (外館和子)

417(工73) 人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉

富本憲吉(1886-1963)は、戦前には個人の美意識に基づく作品の制作を始めた先駆者として活動し、また戦後には、色絵磁器で第1次の重要無形文化財保持者となるなど、日本の近代陶芸の歴史における重要な陶芸家の一人である。富本が、鑑賞のための高価な陶器を制作する一方で、日常のうつわにも強い関心を寄せ積極的に制作に関わったことはこれまであまり知られていない。本展は、富本憲吉の作品のもう一つの側面である量産陶磁器にスポットを当てた。

展覧会は二部構成とした。第一部は、富本が制作の拠点とした「大和(安堵)」・「東京」・「京都」に区分して、本展のテーマに基づく作品を時代順に紹介した。第二部は、一般によく知られる色絵金銀彩・白磁・染付の代表作を時代順に展示し、日常のうつわとの関連性や技法上の特徴などを比較できるようにした。

展示作品については、Ⅰ：富本の日常のうつわ、Ⅱ：富本創案による量産品、Ⅲ：第二部の作品、Ⅳ：図案・書画などの参考資料、Ⅴ：Ⅳ以外の参考資料に分類し、陶磁作品106件、参考資料34件で構成した。なかでも、全国各地の窯業地に赴き制作した日常のうつわについては、写真資料や関連資料を添えて、制作地や技法などのバリエーションが確認できるように、とくに配慮した。また、作品および資料には、できる限り作品解説を付けるなど工夫を行った。

Daily Vessels by Kenkichi Tomimoto, the Master of Ceramic Art

Kenkichi Tomimoto (1886 - 1963) is one of the most important figures in the history of modern Japanese ceramics. He was among the first to create ceramic works based on a personal sense of aesthetics and the very first to be designated a Living National Treasure, so designated for his superb overglaze enamels.

While Tomimoto is well known for his expensive, ornamental pieces, it is not widely known that he had also been interested in vessels for everyday use and actively took part in their production. The exhibition focused on mass-produced ceramics, a different and lesser known side of Tomimoto.

The exhibition was divided into two sections. Section I was a chronological presentation of daily vessels created by Tomimoto, divided into the three locations where he had based his activities: Yamato, Tokyo and Kyoto. Section II featured his famous overglaze enamels in gold and silver, white porcelain and blue underglazes, presented in chronological order to allow visitors to compare differences in technique as well as connections with his daily vessels.

On display were (1) vessels for daily use made by Tomimoto, (2) mass-produced items designed by Tomimoto, (3) Tomimoto, masterpieces, (4) design sketches and notes, and (5) other background material. There were altogether 106 ceramic pieces and 34 background items. Everyday vessels created by Tomimoto at ceramic production centers in various parts of Japan were displayed with relevant photographs and other background material, with attention paid to showing variations in technique and production center. Explanatory notes were added wherever possible.

会 期
平成17年1月12日～2月27日(41日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、 京都国立近代美術館
協 力
資生堂、日本航空
入場者
9,332人(一日平均228人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館)第549号(2004年12月-2005年1月)『『記号—解釈』から『痕跡—証言』へ』(辻成史)
京都新聞 2004年11月27日「痕跡展同列にまみえる内外の作品」(岩本敏明)
読売新聞(九州) 2004年12月18日「視線：過激な前衛作品『痕跡』展で存在感」(小林清人)
現代詩手帖 第48巻(2005年1月号)「現代美術の起源へ」(倉石信乃)
未来 No.461(2005年2月)『痕跡』の交錯と重層 戦後美術の挑発」(林道郎)
読売新聞 2005年2月11日「裂く、焼く—『痕跡』の作品展」(前田恭二)

418 痕跡—戦後美術における身体と思考

第二次大戦後、現代美術の領域で多くの画期的な表現が生み出された。本展では、1950年代から1970年代後半において、日本、アメリカ、ヨーロッパで創造された表現を、「痕跡」という観点から見直すことにより、多様な作品の秘める共通点と差異、影響関係と独自性を検証するとともに、現代美術に対する新しい見方を提案することを目指した。

この展覧会は、肖像画や風景画のように「なにかに似ている」ことを原理として成立するのではなく、作家の身体や思考と物質との接触がもたらす、「なにごとか」の結果として生まれたイメージを「痕跡」と名づけ、戦後の現代美術の流れをこうした「痕跡」の系譜として捉えなおすものである。日本においては具体美術協会からもの派にいたる一連の動向、アメリカにおいては抽象表現主義からコンセプチュアル・アートにいたる現代美術の主要な動向のほとんどが展示され、さらにウィーン・アクションイズムやアナ・メンディエタをはじめとする一連の女性作家など、これまで日本でほとんど紹介されていない作品も集めた。

全体は「表面」「行為」「身体」「物質」「破壊」「転写」「時間」「思考」の8章で構成され、およそ60人の作家、120点におよぶ国も時代も表現のスタイルも異なった動向を「痕跡」という視点から検証することで、戦後美術の大きな流れを支えた、表現を表現として成立させる原点を浮かび上がらせた。

TRACES - Body and Idea in Contemporary Art

Many innovative expressions emerged in the field of contemporary art after the Second World War. *TRACES* took a new look at artistic expressions in Japan, the United States and Europe from the 1950's to the late 1970's, focusing on images that were generated as a consequence of the artist's body or perception coming into contact with physical matter—calling such images “traces”—rather than images that were created to resemble something, such as portraits or landscapes. By doing so, it sought to illuminate differences and similarities in diverse works of art as well as influences and points of uniqueness, simultaneously suggesting a new way of appreciating contemporary art.

Looking at currents in postwar art as genealogies of “traces”, the exhibition focused on the Gutai and Mono-Ha movements in Japan and covered nearly all major movements in American contemporary art, from abstract expressionism to conceptualism. It also featured Viennese actionism, as well as works by Anna Mendieta and other female artists who have not been shown in Japan. The overall presentation of 120 items by 60 artists was organized into eight sections: Surface, Action, Body, Material, Destruction, Transfer, Time and Idea.

By examining “traces” in different styles of expression from different countries and time periods, the exhibition sought to elucidate the essence of non-representational expression, which has been a major force in the development of art in the postwar era.

会 期
平成17年1月12日(水)～2月27日(日) (41日間)
会 場
本館ギャラリー4
主 催
東京国立近代美術館
入場者
12,147人(一日平均296人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館)第549号(2004年12月-2005年1月)「河野鷹思さん追思」(臼田捷治)
現代の眼(東京国立近代美術館)第549号(2004年12月-2005年1月)「映画と河野鷹思」(田中真澄)
産経新聞 2005年2月1日 「卓越したエスプリのセンス」(生田誠)
朝日新聞 2005年2月10日 「[美術]河野鷹思展—皮肉利いたデザイン」(西田健作)
DTP WORLD 第81号(2005年3月号)「河野鷹思のグラフィック・デザイン」(無記名)



419 河野鷹思のグラフィック・デザイン—都会とユーモア

日本のグラフィック・デザインの黎明期から確立期にかけて活躍したグラフィック・デザイナー河野鷹思(1906-1999)は、時流に与しない個性的で強靱な意志と様式を打ち出し、多彩な活動を展開した。河野の作品は、日々進展する新しい生活とその根底に流れる日本の伝統的な感性を融合した作風で知られる。本展では、グラフィック・デザインの本来の目的を表現と融合させた一連の作品によってその業績を回顧するとともに、その仕事が生んだ日本のグラフィック・デザイン史に占める重要な位置と今日に投げかける意味を探った。

展示作品は、戦前松竹キネマ宣伝部に所属し制作したポスターや雑誌広告から、戦後の日宣美(日本宣伝美術会)展に出品された作品まで、代表作を含む111件で構成した。河野の活動は戦前と戦後の2つに大きく分けられるが、作品の根底に流れる河野のデザインの特質は変わらないため、とくにはっきりとした区分を設けず、作品の様式の変遷が一望できるような展示構成をとった。また、今日で言うグラフィック・デザインの範疇にとどまらない、舞台デザイン、ディスプレイ・デザイン等の多彩な活動を展開した作家でもあるため、その活動の幅広さを示すために、画像・映像資料を作成し、会場で紹介した。

Graphic Design of KONO Takashi - Humor & City

Takashi Kono (1906 - 1999), who contributed greatly to the development of graphic design in Japan during its early years, instilled in his works an individualistic style based on an indomitable spirit that did not cater to the trends of the times. Kono, who had been involved in a broad range of activities, is best known for his fusion of modern life with the sensibilities of traditional Japan.

Humor & City presented an overview of Kono's works, which combine artistic expression with the original function of graphic design. It explored the key role that his works have played in the history of Japanese graphic design as well as their significance to the present day.

The retrospective covered 111 items ranging from prewar posters and magazine ads designed during his years with the advertising section of Shochiku Kinema Company to postwar works presented at the Japan Advertising Artist Club Exhibitions. Many of Kono's most famous works were included. The displays were organized to allow visitors to observe changes in his style over his entire career rather than dividing the exhibit into individual time periods. While Kono's activities can be largely divided into the prewar and postwar periods, the underlying features that characterize his designs are the same throughout. To show all the other fields in which Kono had been involved, such as stage and display designs, audio-visual background materials were produced and shown at the exhibit.



会 期
平成17年3月23日(水)～5月22日(日) (うち平成16年度9日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、NHK、NHKプロモーション、東京新聞
後 援
外務省、文化庁、オランダ大使館
協 賛
昭和シェル石油、スズキ、損保ジャパン、大日本印刷、トヨタ自動車
協 力
日本航空、日本通運
連携協力
財団法人2005年日本国際博覧会協会
入場者
44,044人(一日平均4,894人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館)第550号(2005年2-3月)「ファン・ゴッホを展示すること」(アンドレアス・ブリューム、保坂健二朗訳) 婦人画報 2005年2月号「東京国立近代美術館『ゴッホ展』開催記念特別企画 ゴッホの旅路」(無署名) The Daily Yomiuri 2005年3月31日 “‘Breaking the legend’ of Vincent van Gogh” (Tom Baker) 美術手帖 2005年4月号「墓から展覧会へのシフト オーヴェールを訪れて」(保坂健二朗)、「ファン・ゴッホ 孤高の画家の(現)風景 グローバル・メガ・マーケット時代のお色直し」(園府寺司) 日本経済新聞 2005年4月2日「名作の横顔 南仏で得た光と色彩」(〔律〕) 産経新聞 2005年4月3日「比較展で迫るゴッホの素顔」(岡本耕治) 朝日新聞 2005年4月7日「新たなゴッホ 知る喜び」(木下長宏) 朝日新聞 2005年4月15日「ツウのひと声 100年先を行ってたゴッホ」(村田真) 毎日新聞(夕刊) 2005年4月20日「『ゴッホ展』を見て 強い訴求力の源泉とは」(高島直之) The Asahi Shimbun 2005年4月22日 “Putting van Gogh in his place” (Michael Victor) 東京新聞 2005年4月23日「ゴッホ展に寄せて 歴史的文脈の中で見直すゴッホ」(園府寺司) 東京新聞 2005年4月27日「ゴッホ神話を考える」(三浦篤) The Japan Times 2005年5月4日 “Mad artist myth could no longer holds Vincent van Gogh in context” (Colin Liddell) 読売新聞(夕刊) 2005年5月20日「手帳 画家ゴッホの実像を探る」(前田恭二)

420 ゴッホ展 孤高の画家の原風景

本展は、近代美術を代表する画家フィンセント・ファン・ゴッホ(1853-1890)の実像を改めて紹介しようとするものである。これまで多くの展覧会が開催され、無数の文章が書かれてきたファン・ゴッホは、「狂気」「天才」「情熱」といった形容でもって生涯が伝説化してしまっており、作品も、そうした理解のもとで解釈されがちであった。そこで本展は、孤高の画家となっていたファン・ゴッホの作品を、彼が所有していた、あるいは見知っていた作品や資料と並べて展示し、彼の芸術の成立背景が視覚的に明らかになることを目指した。

具体的には、画家となる以前に職業として目指していた宗教への関心、版画の収集などを通じて関心を深めていた労働者への関心(以上、オランダ時代)、印象派、フランス自然主義文学、浮世絵といった同時代の芸術一般の受容(以上、パリ時代)、ユートピアという19世紀的な思想の実践(アルル時代)、巨匠の作品の模写、そして自然の描写(以上、サン＝レミ、オーヴェール＝シュル＝オワーズ時代)に着目した。ファン・ゴッホ作品40点、関連作家の作品26点、資料関係57点が展示された。

Van Gogh in Context

The exhibition sought to bring to light the real Vincent van Gogh (1853 - 1890), one of the leading artists of the 19th century. Van Gogh, the subject of numerous exhibitions and countless essays, has been made into a legend with such descriptions as “mad”, “genius” and “passionate”—and his works also tend to be interpreted in that light. To counter the widespread perception of van Gogh as an isolated artist, Van Gogh in Context displayed the works of the artist in juxtaposition with paintings by other artists owned by or familiar to van Gogh to provide a visual understanding of how his art gradually took shape under diverse influences.

Specifically, the exhibition focused on the following themes: Religion, to which van Gogh originally intended to dedicate his life, and laborers, interest in whom was stoked through his collection of prints (both in his Dutch years); the influences of Impressionist paintings, French Naturalist literature, ukiyoe and other contemporaneous art currents (Paris); the 19th century concept of utopia (Arles); and reproduction of works by Great Masters and depiction of nature (Saint-Rémy-de-Provence and Auvers-sur-Oise). On display were 40 works by van Gogh and 26 by related artists, plus 57 items of background interest.



会 期

(平成15年度第5回)：平成16年3月5日～5月16日
(65日間/うち平成16年度41日間)
第1回：平成16年5月22日～8月12日(71日間)
第2回：平成16年8月21日～10月3日(43日間)
第3回：平成16年10月9日～12月19日(62日間)
第4回：平成16年12月25日
～平成17年2月27日(53日間)
第5回：平成17年3月5日～5月22日
(75日間/うち平成16年度24日間)

会 場

本館所蔵品ギャラリー

入場者

(平成15年度第5回)：
22,700人(1日平均 554人)
第1回：21,197人(1日平均 299人)
第2回：79,748人(1日平均 1,855人)
第3回：33,648人(1日平均 543人)
第4回：17,488人(1日平均 330人)
第5回：21,050人(1日平均 877人)

1-5 常設展・所蔵作品展示記録 Permanent Exhibit, 2004

a. 近代日本の美術

常設展(所蔵作品展)「近代日本の美術」は、わが国の近代美術の歴史的展開を、外国作品を交えながら系統的に展覧することを主要な目的としている。4階から2階にかけての約3,000㎡の所蔵品ギャラリーに、第1章「明治・大正期の美術」、第2章「昭和戦前期の美術」、第3章「戦時と『戦後』の美術」、第4章「1950-60年代の美術」、第5章「現代美術ー1970年代以降」という構成で、20世紀初頭から現代に至る絵画、水彩、素描、版画、写真、彫刻作品を毎回200～250点展示した。年間5回の展示替えを行い、主要作品はできるだけいつでも鑑賞できるように配慮しながらも、会期ごとに展示作品のかなりの部分を入れ替え、各作家及び時代の多面的な相貌を幅広く鑑賞できるように努めた。

また、時代順の展示の他に、昨年度に引き続き、展示室の一部分を用いた特集展示を行った。その内容は以下のとおりである。

◆平成16年5月22日(土)～8月12日(木)

特集展示(4階)：佐伯祐三

版画コーナー(3階)：大正期の版画ー創作版画と新版画

写真コーナー(3階)：セバスチャン・サルガド

所蔵作品展(2階ギャラリー4)：加山又造

◆平成16年8月21日(土)～10月3日(日)

特集展示(4階)：薨光

版画コーナー(3階)：長谷川潔

写真コーナー(3階)：東松照明

所蔵作品展(2階ギャラリー4)：若林奮

◆平成16年10月9日(土)～12月19日(日)

版画コーナー(3階)：明治から昭和にかけての水彩画

◆平成16年12月25日(土)～平成17年2月27日(日)

特集展示(4階)：母子像

版画コーナー(3階)：「新版画」の世界ー伝統的木版画の再生

写真コーナー(3階)：ニュー・ヴィジョンー大戦間期の近代的写真表現

◆平成17年3月5日(土)～5月22日(日)

特集展示(4階)：描かれた景観ー移りゆく東京

版画コーナー(3階)：二つの版画集 ココシュカとコリント

写真コーナー(3階)：椎原治

所蔵作品展(2階ギャラリー4)：戦後日本画の新風ー横山操と中村正義

a. Modern Japanese Art from the Museum Collection

The permanent exhibition *Modern Japanese Art from the Museum Collection* presents a systematic review of the historical development of modern art in Japan. Included are works by non-Japanese artists to offer a well-rounded survey. Housed in the Museum Collection Gallery, which covers some 3,000 square meters on the second, third and fourth floors, the exhibition typically consists of 200 - 250 pieces of paintings, watercolors, drawings, prints, photographs and sculptures from the early 20th century to the present. The

pieces are grouped into five sections designed to follow the course of modern Japanese art in chronological order: the Meiji and Taisho Periods, the prewar Showa Period, during and after the War, the 1950s to 1960s and the 1970s and Beyond. While major works are kept on show as much as possible, the overall presentation is altered five times annually. A considerable portion of the works exhibited is replaced with every new presentation to allow visitors to appreciate the multifaceted characteristics of each artist or time period.

In addition to the main historical survey, sections were set aside on each floor for the following special-interest exhibits:

◆May 22–August 12, 2004

Topic in Focus (4th Floor) : Yuzo Saeki

Print Corner (3rd Floor) : *Sosaku-Hanga* [Creative Prints]; *Shin-Hanga* [New Prints]

Photography Corner (3rd Floor) : Sebastião Salgado

Matazo Kayama from the Museum Collection (2nd floor, Gallery 4)

◆August 21–October 3, 2004

Topic in Focus (4th Floor) : Ai-mitsu

Print Corner (3rd floor) : Kiyoshi Hasegawa

Photography Corner (3rd Floor) : Shomei Tomatsu

Isamu Wakabayashi from the Museum Collection (2nd floor Gallery 4)

◆October 9–December 19, 2004

Print Corner (3rd floor) : Watercolors from Meiji to Showa Periods

◆December 25, 2004–February 27, 2005

Topic in Focus (4th Floor) : Mother and Child

Print Corner (3rd floor) : *Shin-Hanga*; Reviving the Traditional Woodcut

Photography Corner (3rd Floor) : New Vision–Photography between the World Wars

◆March 5–May 22, 2005

Topic in Focus (4th Floor) : Depicted Scenes – Tokyo in Transition

Print Corner (3rd floor) : Oskar Kokoschka and Lovis Corinth

Photography Corner (3rd Floor) : Osamu Shiihara

Misao Yokoyama and Masayoshi Nakamura – A New Phase in Postwar Japanese-style Painting from the Museum Collection (2nd floor, Gallery 4)

会 期
平成16年2月10日～4月11日 (56日間/うち平成16年度11日間)
会 場
工芸館
入場者
6,495人(1日平均590人)

b. 近代工芸の名品一花

日本の近代工芸の優れた図案意匠のうち、特に典型的でもある、自然の四季折々の美しさと豊かな情感を表象する“花”という主題に焦点をあて、陶磁や染織、漆芸、金工、人形等の工芸館が所蔵する名品116点によって、工芸の特質と魅力とを作家が豊かに表現してきた美を明らかにした。なお、染織作品は会期半ばで展示替えをした。

b. Modern Japanese Crafts from the Museum Collection : Flower Design

Flowers are one of the most typical motifs seen in the decorative patterns of modern Japanese crafts. They are much favored by designers for representing the seasonal beauty of nature. Focusing on flowers as a unifying theme, the exhibition featured 116 masterpieces from the Crafts Gallery Collection, including ceramics, textiles, lacquerware, metalworks and dolls. Through these items, the exhibition revealed the characteristic allure of craftwork and showcased artists' eloquent expressions of beauty. (Note: Textile items were renewed midway through the exhibition.)

会 期
平成16年4月20日～6月27日 (60日間)
会 場
工芸館
入場者
15,278人(1日平均255人)

c. アール・デコの精華

1920年代にヨーロッパで流行した装飾様式であるアール・デコの名品を展示し、合わせてその影響を受けた日本のアール・デコ作品を展示する。テーブルウェア、カーマスコット、家具、照明器具、装飾パネル、バイオリンケースなどの工芸作品に加え、ポスターや雑誌などが展示された。

c. Modern Crafts and Design from the Museum Collection : Art Deco

The exhibition spotlighted masterpieces of Art Deco, an ornamental style that became extremely popular in Europe in the 1920's, together with works by Japanese artists influenced by the Art Deco style. On display were tableware, car mascots, furniture, lamps, decorative panels, violin cases and other articles of craft, as well as posters and magazines.



会 期

平成16年7月3日～9月5日 (56日間)

会 場

工芸館

入場者

11,393人 (1日平均203人)

**会 期**

平成16年12月11日～平成17年2月27日 (65日間)

会 場

工芸館

入場者

19,099人 (1日平均294人)

d. 動物のモチーフ

夏休みの子ども企画として立案されたもので、動物をモチーフとして制作された工芸・デザイン作品の展覧会である。陶磁、染織、漆芸、金工、ガラスなどの工芸作品に加えて、デザイン作品等も展示した。蒔絵、友禅、溶接した金属板、鋳造ガラスなど様々な素材や技法を用いて表現された作品が展示され、動物園を思わせる会場となった。また、展覧会期間中、子どもを対象にワークシートを発行するとともに、「動物にがおえ大会」を開催し、小学生の描いた動物の似顔絵を会場に掲示した。

d. Creatures : Modern Crafts and Design from the Museum Collection

Creatures, featuring crafts and designs with animal motifs, was organized as a summer program for children. A large variety of materials and techniques were represented, including *maki-e* picture scrolls, *yuzen* dyed fabrics, welded metal plates and cast glass. The pieces included ceramics, textiles, lacquerware, metalwork and glass in addition to design works—all with animal shapes or designs, creating a veritable zoo in the exhibition hall. Work sheets for children were distributed during the exhibition. An animal picture contest was also held, and animal drawings by grade school children were displayed on the walls.

e. 近代日本の陶芸

近代日本の代表的な陶芸作品を展示した。日本の陶芸には伝統、創作、クラフト、前衛などの諸傾向があるが、今回は「人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉」展(伝統、クラフト系)と同時開催ということもあり、創作、前衛系に絞り、鈴木治「馬」、鯉江良二「土に還る」などを展示した。

e. Modern Japanese Ceramic Art from the Museum Collection

Japanese ceramics are largely divided by style into traditional, Nitten-style, utilitarian and avant-garde. The exhibition focused on works by Nitten-style and avant-garde artists in order to provide a contrast to the exhibition spotlighting Kenkichi Tomimoto (traditional/utilitarian) held concurrently at the Crafts Gallery. Works such as *Horse* by Osamu Suzuki and *Return to Earth* by Ryoji Koie were shown.

会 期
平成17年3月8日～4月17日 (38日間/うち平成16年度22日間)
会 場
工芸館
入場者
5,810人(1日平均264人)

f. I 人間国宝の花／II 近代工芸の百年

所蔵作品による人間国宝が手がけた花を主題とする作品展示と近代工芸の歴史をたどる展示。I では、四季豊かな日本では花の主題は文様や形などに特に多用され、多くの名品を生んできたが、今回は中でも人間国宝による選りすぐりの名品を展示した。II では、明治、大正～昭和初期のモダニズムや民藝、戦後の伝統工芸、創作や前衛の工芸、クラフトなどの作品を通じ、明治以降、近代工芸が始まってから今日までの各時代の動向をたどった。

f. Modern Japanese Crafts from the Museum collection : I Flower Design by Living National Treasures II A History of Modern Crafts

Exhibits of pieces from the Museum Collection, one featuring articles with floral themes created by Living National Treasures and another providing an overview of the history of modern crafts. Floral patterns and shapes are seen widely in Japanese craftwork, reflecting the seasonal beauties of nature with which the country is richly blessed. While numerous masterpieces with floral motifs have been produced, Exhibit I focused on some of the best created by Living National Treasures. Exhibit II traced the development of modern Japanese crafts from the Meiji period onwards, examining Modernist and Mingei (folk craft) influenced pieces from the Meiji, Taisho and early Showa periods and traditional, Nitten-style, utilitarian and avant-garde crafts of the postwar era.



2 作品貸与・特別観覧

2-1 作品貸与

2-1-1 本館

種別	平成16年度貸与件数		平成16年度貸与点数	
	国内	国外	国内	国外
絵画	57	2	178	2
水彩	2	0	3	0
版画	6	0	42	0
素描	2	0	7	0
彫刻	5	0	10	0
書	1	0	1	0
写真	3	0	19	0
資料	1	0	2	0
合計	77	2	262	2

展覧会協力

以下の展覧会に、作品を多数貸し出すなどの協力を行った。

◆展覧会名 会場(会期)

- ◆「東山魁夷 ひとすじの道」展(16年度より継続)
横浜美術館(2004.1.5－2.24)／兵庫県立美術館(2004.4.3－5.23)
- ◆「再考：近代日本の絵画 美意識の形成と展開」展
東京藝術大学大学美術館・東京都現代美術館(2004.4.10－6.20)
- ◆「日本の版画 1931-1940 棟方志功登場」
千葉市美術館(2004.8.31－10.3)
- ◆「HANGA 東西交流の波」展
山口県立萩美術館・浦上記念館(2004.9.11－10.24)／東京藝術大学大学美術館(2004.11.13－2005.1.16)／三重県立美術館(2005.2.11－3.27)
- ◆「自然をめぐる千年の旅－山水から風景へ－」展
愛知県美術館(2005.3.11－5.8)

2-1-2 工芸館

種別	平成16年度貸与件数		平成16年度貸与点数	
	国内	国外	国内	国外
陶磁	9	1	27	3
染織	4	0	22	0
漆工	5	0	8	0
金工	10	0	43	0
木工	1	0	1	0
竹工	2	0	5	0
ガラス	0	0	0	0
人形	4	0	1	0
グラフィック・デザイン	1	0	7	0
工業デザイン	1	0	7	0
その他	2	0	2	0
合計	39	1	123	3

展覧会協力

以下の展覧会に、作品を多数貸し出すなどの協力を行った。

◆展覧会名 会場(会期)

- ◆日本伝統工芸展50年記念展「わざの美」
高岡市美術館、高松市美術館他(2003.5.27-2004.6.27)
- ◆Isamu Noguchi and Modern Japanese Ceramics
Japanese American National Museum, Los Angeles他(2003.5.4-2004.5.3)
- ◆2005年日本国際博覧会開催記念「世紀の祭典 万国博覧会の美術」展
東京国立博物館他(2004.7.6-2005.3.6)
- ◆「日本のわざと美」展—重要文化財とそれを支える人々—
岡山県立美術館、群馬県立近代美術館(2004.11.19-2005.2.6)
- ◆International Arts and Crafts Exhibition
Victoria and Albert Museum他(2005.3.17-2006.5.20)

2-2 特別観覧

2-2-1 本館

区分	平成16年度利用件数		平成16年度利用点数	
	有償	無償	有償	無償
写真撮影	1	0	24	0
写真原版使用(JPEG含む)	169	5	589	9
映画(テレビジョン・ビデオ)	9	0	20	0
撮影 熟覧	0	5	0	83
合計	179	10	633	92

2-2-2 工芸館

区分	平成16年度利用件数		平成16年度利用点数	
	有償	無償	有償	無償
写真撮影	4	1	8	1
写真原版使用(JPEG含む)	27	1	61	2
映画(テレビジョン・ビデオ)	1	0	1	0
撮影 熟覧	9	1	76	4
合計	41	3	146	7

1 本館

◆一條彰子

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

教育普及レポート「春休み!こども美術館」/『現代の眼』546号

教育普及レポート「KIDS★MOMAT 2004 東京国立近代美術館のなつやすみ」/『現代の眼』549号

◆大谷省吾

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「北脇昇《紫野の景観》を読み解く」/『現代の眼』547号

「戦後日本画の新風—横山操と中村正義」/『現代の眼』550号

「前衛画家と地方性—小川原脩と北脇昇を例に—」/『日本文化の多重構造—近代日本美術に見る多文化的要素の系譜 1900年～1980年』平成14～16年度科学研究費補助金研究成果報告書

◆尾崎正明

「琳派・RIMPA展—はじめに—」、作品解説/『琳派 RIMPA』展カタログ

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「解題『華岳追憶』—村上華岳についてのメモ—」/『日本文化の多重構造—近代日本美術に見る多文化的要素の系譜 1900年～1980年』平成14～16年度科学研究費補助金研究成果報告書

◆鈴木勝雄

「ブラジル:ボディ・ノスタルジア」、「ブラジルのモダニズム:前衛とナショナル・アイデンティティ」/『ブラジル:ボディ・ノスタルジア』展 カタログ

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「序論 民俗と芸術—誰がなぜ『地方』を必要とするのか。—」/『日本文化の多重構造—近代日本美術に見る多文化的要素の系譜 1900年～1980年』平成14～16年度科学研究費補助金研究成果報告書

◆竹内万里子

解説、年譜/『木村伊兵衛』展カタログ

◆都築千重子

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「近年の新収蔵作品について(平成11～15年度 美術作品)」版画・水彩・素描/『現代の眼』545号

[東京国立近代美術館の半世紀]連載24「東京国際版画ビエンナーレの開催」/『現代の眼』548号

◆中林和雄

「絵画の百年」、作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「マティス試論」/『東京国立近代美術館研究紀要』第9号

「近年の新収蔵作品について(平成11～15年度 美術作品)」概要、油彩 その他/『現代の眼』545号

[東京国立近代美術館の半世紀]連載23「近代美術館と同時代」/『現代の眼』547号

◆中村麗子

「近代の琳派観、その周辺」、作品解説/『琳派 RIMPA展』カタログ

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「竹内栖鳳〈雨霽〉についての試論」/『東京国立近代美術館研究紀要』第9号

◆古田 亮

「琳派からRIMPAへ」、各章解説、作品解説、近世琳派年表、近現代琳派評価史/『琳派 RIMPA』展カタログ

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「近年の新収蔵作品について(平成11～15年度 美術作品)」日本画/『現代の眼』545号

報告「国際シムポジウム『琳派・RIMPA』」/『現代の眼』548号

◆保坂健二郎

作品解説/『琳派 RIMPA展』カタログ

解説/「草間彌生」展カタログ

章解説、作品解説/『ゴッホ展—孤高の画家の原風景』カタログ

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「無根拠ゆえにバロックは装飾を求める—青木淳の《U bis》をめぐって」/『現代の眼』545号

「ファン・ゴッホを展示するということ」(アンドレアス・ブリューム)訳・解説/『現代の眼』550号

「研究ノート：日本の建築におけるリージョナリズムをめぐって」/『日本文化の多重構造—近代日本美術に見る多文化的要素の系譜 1900年～1980年』平成14～16年度科学研究費補助金研究成果報告書

◆増田玲

「木村伊兵衛、カメラを持つ人」、解説/『木村伊兵衛展』カタログ

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「近年の新収蔵作品について(平成11～15年度 美術作品)」写真/『現代の眼』545号

「濱谷浩『雪国』、『裏日本』について」/『日本文化の多重構造—近代日本美術に見る多文化的要素の系譜 1900年～1980年』平成14～16年度科学研究費補助金研究成果報告書

◆松本 透

「鎮魂と再生—草間彌生の芸術」、解説/『草間彌生』展カタログ

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

◆水谷長志

「アートライブラリから 美術図書館の横断検索」/『現代の眼』546号

「ミュージアム・アズ・パブリッシャー 『現代の眼』におもうこと」/『現代の眼』549号

◆三輪健仁

「自由のためのエクササイズ:1950-64年のブラジル美術」/『ブラジル:ボディ・ノスタルジア』展カタログ

作品解説/『琳派 RIMPA展』カタログ

章解説、作品解説/『ゴッホ展—孤高の画家の原風景』カタログ

作家作品解説/『東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画』

「近年の新収蔵作品について(平成11~15年度 美術作品)」彫刻(立体造形) / 『現代の眼』545号

2 工芸館

◆今井陽子

「外側の線」、作家解説/「非情のオブジェ—現代工芸の11人」展カタログ

「タッチ&トーク~工芸館ボランティアガイドの試み」/『現代の眼』550号

「動物のモチーフ」展こどもセルフガイド「たんけん!こども工芸館」/同展子ども向け鑑賞教材

◆金子賢治

「倒錯芸術論考」/『東京国立近代美術館紀要』第9号

「歴史の中の河野鷹思」/「河野鷹思のグラフィック・デザイン—都会とユーモア」展カタログ

◆唐澤昌宏

展覧会予告「人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉」/『現代の眼』548号

「富本憲吉の日常のうつわ」、各章解説、作品解説/「人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉」展カタログ

小山喜平:富本憲吉先生の思い出—京都時代を中心として(インタビュー・構成)/『現代の眼』549号

◆北村仁美

「近代工芸における琳派再評価の道程」/「琳派 RIMPA」展カタログ

「河野鷹思の初期活動をめぐって」/「河野鷹思のグラフィック・デザイン—都会とユーモア」展カタログ

「周縁が語る中心—荒川豊蔵の黄瀬戸」/『現代の眼』546号

◆富田康子

河野鷹思年譜/「河野鷹思のグラフィック・デザイン—都会とユーモア」展カタログ

「工芸論の座標軸」/『東京国立近代美術館紀要』第9号

「中村錦平《日本趣味解題》—叛逆の憂鬱」/『現代の眼』550号

◆諸山正則

[東京国立近代美術館の半世紀]連載22「開館記念展『現代日本工芸の秀作』開催、それに続く特別展」/『現代の眼』545号

展覧会予告「Ⅰ 人間国宝の花 Ⅱ 近代工芸の百年」/『現代の眼』550号

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Art Libraries and Other Reference Materials

本館アトライブラリは4,809件の図書・カタログを受け入れ、平成16年度末現在の蔵書総数は、95,681点の図書・カタログと、3,283誌の雑誌となった。また、平成16年度中に行った資料の交換件数は、国内機関との間で269件、国外機関との間で211件であった。昨年3月に公開した東京都現代美術館、横浜美術館とのALC(美術図書館横断検索)についても順調に稼動しており、閉架資料の利用件数が大幅に拡大している。また、昨年11月、OPAC(公開図書検索システム)をバージョンアップして、多言語対応とし、音標符号文字、簡体字、ハングルの表示を可能にさせて、より正確な書誌情報の提供に努めた。アトライブラリについては、ALCの紹介とともに、『図書館雑誌』(日本図書館協会)ほかの専門誌、及び全国紙(『朝日新聞』)において、積極的に広報された。

工芸館図書閲覧室は、1,144件の図書・カタログを受け入れ、平成16年度末現在の蔵書総数は12,235点の図書・カタログと655誌の雑誌となった。また、図書閲覧室の存在が次第に認知されてきたことや、平成16年1月から始まった工芸館ガイドスタッフの知識の向上のために、蔵書が活発に利用され、昨年度の260人に対し、平成16年度は438人と、約1.7倍の利用者があった。

[本館]

	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	308	240	107	655	20,942冊
洋図書	102	16	238	356	9,080冊
国内展覧会カタログ	19	1,346	208	1,573	39,277冊
海外展覧会カタログ	50	632	1,543	2,225	26,382冊
和雑誌					2,532誌
洋雑誌					751誌
アトライブラリ開室日数	平成16年4月1日－平成17年3月31日				223日

[工芸館]

	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	21	148	63	232	4,408冊
洋図書	1	20	4	25	517冊
国内展覧会カタログ	0	402	163	565	6,711冊
海外展覧会カタログ	1	65	256	322	599冊
和雑誌					597誌
洋雑誌					58誌
工芸館図書閲覧室開室日数	平成16年4月1日－平成17年3月31日				170日

1-2 児童生徒を対象とした事業

1-2-1 本館

■学校等の団体での来館者に対し、ギャラリートーク、ガイドンス、修学旅行、職場見学などの対応を随時行った(大学生に関しては、「大学等との連携」を参照のこと)。

合計21件(469名)

小学校4件(143名) 中学校12件(290名) 高等学校5件(36名)

*小学校には、深谷市教育委員会生涯学習課アーティスト倶楽部、ガールスカウト千葉県第39団ジュニア部門を含む。

■美術鑑賞教育に関する研究を目的とし、小・中・高校教員及び教育関係者に向けて以下の事業を行った。

・研究会などへの協力(講演、展示解説等)

合計7件(147名)

荒川区中学美術部会、極東ロシア美術教育関係者グループ、東大和市公立中学校教育研究会美術部会、千代田区教育会美術部会、埼玉県伊那町教育研究会図工美術部会、文京区小学校教育研究会図工部、練馬区図画工作研究会
・小・中・高校教職員のための研修会(「ゴッホ展 教職員研修会」)

日時：平成17年3月31日(木)午後2時から(60分)

会場：東京国立近代美術館本館講堂

講師：保坂健二郎(企画課研究員)

聴講者数：128名

■ボランティアによる小・中学生向けプログラムを行った。

・「夏休み!こども美術館」として、ボランティア「MOMATガイドスタッフ」によるギャラリートーク及びワーク(ギャラリートークと連動した制作実習)を行った。

小学生プログラム 4回(93名)

日時：平成16年7月31日(土)、8月1日(日)

中学生プログラム 6回(55名)

日時：平成16年8月6日(金)、7日(土)、8日(日)

・「春休み!こども美術館」として、春休みの期間中、ボランティアガイドスタッフによるギャラリートークを行った。

小学生プログラム 4回(128名)

日時：平成17年3月26日(土)、27日(日)

■小・中学生向けセルフガイドの制作及び無料配布を以下のとおり行った。

・「鑑賞ノススメ・こども版」を夏休み中の来館児童に配布した。

・「ゴッホ展セルフガイド」を、都内の小・中学校と来館児童に配布した。



■外部講師によるギャラリートーク

「MOMATの絵をアレナスさんと鑑賞しよう」

日時：平成17年3月29日(火) 午後3時から(110分)

講師：アメリカ・アレナス(美術館教育研究者)

会場：所蔵品ギャラリー

聴講者数：35名(小学5・6年生)

共催：三井物産

■ホームページによる広報

当館の主要作品の図版・解説が掲載された「こどものページ」を運営した。

■夏休み企画として、本館・工芸館・フィルムセンター共同スタンプラリー「KIDS★MOMAT」を行った。

1-2-1 工芸館

■学校等の団体での来館者に対し、ギャラリートーク、ガイダンス、修学旅行、職場見学などの対応を随時行った(大学生に関しては、「大学等との連携」を参照のこと)。

合計 6件(112名)

中学校 3件(17名) 高校 3件(95名)

■ホームページ内に「こども工芸館」を設け、作品鑑賞のポイント、素材・技法の特性などを画像入りでわかりやすく解説した。

■平成16年6月から、児童生徒を対象とした触知による作品鑑賞補助と創意向上のために、工芸館ガイドスタッフによるガイドとワークショップ「どきどき!こども工芸館」を開始した。

■常設展「動物のモチーフ」会期中、児童生徒を対象に以下の事業を行った。

・小・中学生を対象として、展覧会に関連したワークシート「たんけん!こども工芸館」を作成し、学校等及び来館した小・中学生に配付して鑑賞の一助となるようにした。また、ワークシートに動物似顔絵を描くシートを添付して「動物がおえ大会」を実施し、参加児童の作品は2階展示ホール及び休憩室に掲示するとともに、リングファイルでまとめて閲覧できるようにした。

・小・中学生を対象としたワークショップを開催し、外部講師として招いた出品作家や陶芸家の指導のもと、紙粘土でお面を作成した(参加者 15名)。

◆「国吉康雄」展講演会

「国吉康雄の夢の島」

日時：平成16年4月10日(土) 午後2時から午後3時

講師：市川政憲(愛知県美術館館長)

聴講者数：57名

「国吉康雄の不思議な空間」

日時：平成16年4月24日(土) 午後2時から午後3時

講師：蔵屋美香(企画課主任研究官)

聴講者数：117名

◆「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展講演会

「ブラジル・人類学・映像」

日時：平成16年6月26日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：今福龍太(札幌大学教授)

聴講者数：116名

「ブラジル・モデルニズモの射程：タルシラと食人主義」

日時：平成16年6月27日(日) 午後2時から午後3時30分

講師：古谷嘉章(九州大学教授)

聴講者数：56名

「トロピカリア：音楽・美術・映画・演劇のミックス・アート、その歴史と現在」

日時：平成16年7月3日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：中原 仁(音楽評論家)

聴講者数：132名

「〈証と伝承〉としてのシネマ・ノーヴォ」

日時：平成16年7月10日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：榎木 章(映画評論家)

聴講者数：66名

「シネ・トランス&トラッシュ ブラジル映画の〈開かれた口〉」

日時：平成16年7月11日(日) 午後2時から午後3時30分

講師：赤坂大輔(映画評論家)

聴講者数：66名

「トランスアトランティックなブラジル」

日時：平成16年7月17日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：東 琢磨(音楽評論家)

聴講者数：65名

「オスカー・ニーマイヤーの建築とブラジリア」

日時：平成16年7月18日(日) 午後2時から午後3時30分

講師：五十嵐太郎(建築史家)＋白井良邦(Casa BRUTUS編集者)

聴講者数：145名

「ブラジルにおける舞踊について」

日時：平成16年7月19日(月)午後2時から午後3時30分

講師：國吉和子(舞踊評論家)

聴講者数：100名

「ブラジル現代美術の水脈—身体の蜜が揺らされて…」

日時：平成16年7月24日(土)午後2時から午後3時30分

講師：林 道郎(上智大学助教授)

聴講者数：108名

「『ブラジル日記』から」

日時：平成16年7月25日(日)午後2時から午後3時30分

講師：吉増剛造(詩人)

聴講者数：154名

◆「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展イベント

コンサート「リオからの風：ショーロ」

日時：平成16年7月16日(金)午後6時から午後7時

出演：熊本尚美(Flute)、笹子重治(Guitar/ショーロクラブ)、秋岡 欧(Cavaquinho&Bandolim/ショーロクラブ)、Robson Amaral(Percussion)

聴講者数：200名

「詩と映像によるパフォーマンス」

日時：平成16年7月23日(金)午後7時から午後8時

出演：吉増剛造+マリリア

聴講者数：146名

◆「琳派 RIMPA」展講演会

「琳派再考」

日時：平成16年9月18日(土)午後2時から午後3時

講師：古田 亮(美術課主任研究官)

聴講者数：152名

◆国際シンポジウム「琳派・RIMPA」

日時：平成16年8月28日(土)午前10時から午後16時30分

発表者：村重 寧(早稲田大学教授)、玉蟲敏子(武蔵野美術大学教授)、天野知香(お茶の水女子大学助教授)、ヨハネス・ヴィーニンガー(オーストリア工芸博物館学芸員)、北澤憲昭(跡見学園女子大学教授)、古田 亮(美術課主任研究官)

聴講者数：139名

助成：財団法人ポーラ美術振興財団

協力：東京文化財研究所

◆「木村伊兵衛展」ギャラリートーク

日時：平成16年10月22日(金)午後6時から午後7時

講師：増田 玲(美術課主任研究官)

聴講者数：45名

日時：平成16年12月17日(金)午後6時から午後7時

講師：増田 玲(美術課主任研究官)

聴講者数：55名

◆「草間彌生—永遠の現在」展講演会

「無限の反復—草間彌生の世界」

日時：平成16年11月13日(土) 午後2時から午後3時

講師：建畠哲(多摩美術大学教授)

聴講者数：69名

「個人とコレクションと草間彌生と」

日時：平成16年11月28日(日) 午後2時から午後3時

講師：高橋龍太郎(精神科医、コレクター)、宮津大輔(会社員、コレクター)

聞き手：松本 透(企画課長)

聴講者数：124名

「永遠の現在—草間彌生の近作を中心に」

日時：平成16年12月4日(土) 午後2時から午後3時

講師：松本 透(企画課長)

聴講者数：95名

◆「草間彌生—永遠の現在」展ギャラリートーク

日時：平成16年11月5日(金) 午後6時から午後7時

講師：保坂健二郎(企画課研究員)

聴講者数：39名

日時：平成16年12月10日(金) 午後6時から午後7時

講師：松本 透(企画課長)

聴講者数：56名

◆「痕跡—戦後美術における身体と思考」展講演会

「痕跡が美術になる時」

日時：平成17年1月30日(日) 午後2時から午後3時30分

講師：尾崎信一郎(京都国立近代美術館主任研究官)

聴講者数：95名

◆「ゴッホ展 孤高の画家の原風景」講演会

「白黒で、そして色彩で制作すること—ファン・ゴッホにおける色調への関心」

日時：平成17年3月24日(木) 午後6時から午後7時30分

講師：シラール・ファン・ヒューフテン(ファン・ゴッホ美術館チーフ・キュレーター)

聴講者数：82名

◆所蔵作品展「近代日本の美術」 研究員による所蔵品ガイド

日時：平成16年5月22日(土) 午後2時から午後3時

担当研究員：古田 亮(美術課主任研究官)

聴講者数：32名

日時：平成16年8月21日(土) 午後2時から午後3時

担当研究員：中林和雄(美術課長)

聴講者数：43名

日時：平成16年10月9日(土) 午後2時から午後3時

担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)

聴講者数：10名

日時：平成16年12月25日(土)午後2時から午後3時
担当研究員：中村麗子(美術課研究員)
聴講者数：30名

日時：平成17年3月5日(土)午後2時から午後3時
担当研究員：大谷省吾(美術課研究員)
聴講者数：34名

◆所蔵作品展「近代日本の美術」 研究員によるハイライトツアー

日時：平成16年4月4日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：大谷省吾(美術課研究員)
聴講者数：17名

日時：平成16年5月2日(日)午前11時から午後0時15分
担当研究員：一條彰子(企画課主任研究官)
聴講者数：40名

日時：平成16年6月6日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：蔵屋美香(企画課主任研究官)
聴講者数：40名

日時：平成16年7月4日(日)午前11時から午後0時20分
担当研究員：増田 玲(美術課主任研究官)
聴講者数：48名

日時：平成16年8月1日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：保坂健二郎(企画課研究員)
聴講者数：67名

日時：平成16年9月5日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：鈴木勝雄(企画課研究員)
聴講者数：46名

日時：平成16年10月3日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)
聴講者数：42名

日時：平成16年11月7日(日)午前11時から午後0時10分
担当研究員：中村麗子(美術課研究員)
聴講者数：30名

日時：平成16年12月5日(日)午前11時から午後0時
担当研究員：増田 玲(美術課主任研究官)
聴講者数：26名

日時：平成17年1月2日(日)午前11時から午後0時15分
担当研究員：古田 亮(美術課主任研究官)
聴講者数：60名

日時：平成17年1月3日(月)午前11時から午後0時30分
担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)
聴講者数：30名

日時：平成17年2月6日(日) 午前11時から午後0時30分
担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)
聴講者数：35名

日時：平成17年3月6日(日) 午前11時から午後0時30分
担当研究員：都築千重子(美術課主任研究官)
聴講者数：35名

◆所蔵作品展「近代日本の美術」 研究員によるフライデートーク

「現代絵画とストライプ」
日時：平成16年4月16日(金) 午後6時から午後6時50分
担当研究員：保坂健二郎(企画課研究員)
聴講者数：17名

「日本の近代美術は、西洋の模倣なのか？—シュルレアリスムを例に」
日時：平成16年5月14日(金) 午後6時から午後6時45分
担当研究員：大谷省吾(美術課研究員)
聴講者数：48名

「大正期の絵画」
日時：平成16年6月18日(金) 午後6時から午後7時
担当研究員：松本 透(企画課長)
聴講者数：23名

「国際都市東京・1920年—中村彝《エロシェンコ氏の像》を中心に」
日時：平成16年7月23日(金) 午後6時から午後6時45分
担当研究員：蔵屋美香(企画課主任研究官)
聴講者数：23名

「風景—場所の力」
日時：平成16年8月27日(金) 午後6時から午後7時
担当研究員：鈴木勝雄(企画課研究員)
聴講者数：52名

「1970年前後の美術—メディアの拡張、あるいは再考」
日時：平成16年9月17日(金) 午後6時から午後7時
担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)
聴講者数：34名

「日本画家の肖像とその芸術」
日時：平成16年10月29日(金) 午後6時から午後7時
担当研究員：古田 亮(美術課主任研究官)
聴講者数：16名

「木村伊兵衛の“現代性”について」
日時：平成16年11月19日(金) 午後6時から午後7時
担当研究員：増田 玲(美術課主任研究官)
聴講者数：28名

「大正期の『新版画』をめぐる」
日時：平成17年1月28日(金) 午後6時から午後7時
担当研究員：都築千重子(美術課主任研究官)
聴講者数：8名

「戦後の日本画―東山魁夷、杉山寧、高山辰雄を中心に」
日時：平成17年2月18日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：尾崎正明(副館長)
聴講者数：24名

「描かれた景観―移りゆく東京」
日時：平成17年3月25日(金)午後6時から午後7時
担当研究員：中村麗子(美術課研究員)
聴講者数：25名

◆「アフターファイブに美術鑑賞」
日時：平成17年3月29日(火)午後6時30分から8時30分
講師：アメリア・アレナス(美術館教育研究者)
聴講者数：66名
共催：三井物産
広報協力：文化庁(丸の内元気文化プロジェクト)

1-3-2 工芸館

◆「非情のオブジェ―現代工芸の11人」展ギャラリートーク
日時：平成16年9月19日(日)午後2時から午後3時
講師：築城則子(出品作家)
聴講者数：51名

日時：平成16年9月26日(日)午後2時から午後3時
講師：川口 淳(出品作家)
聴講者数：39名

日時：平成16年10月10日(日)午後2時から午後3時
講師：清水真由美(出品作家)
聴講者数：35名

日時：平成16年10月17日(日)午後2時から午後3時
講師：今井陽子(工芸課主任研究官)
聴講者数：10名

日時：平成16年10月31日(日)午後2時から午後3時
講師：高見澤英子(出品作家)
聴講者数：45名

日時：平成16年11月7日(日)午後2時から午後3時
講師：高橋禎彦(出品作家)
聴講者数：64名

日時：平成16年11月14日(日)午後2時から午後3時
講師：金子賢治(工芸課長)
聴講者数：47名

日時：平成16年11月28日(日)午後2時から午後3時
講師：田嶋悦子(出品作家)
聴講者数：51名

◆「人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉」展ギャラリートーク

「陶芸家、富本憲吉について」

日時：平成16年12月19日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：辻本 勇(富本憲吉記念館館長)

聴講者数：74名

「富本憲吉の日常のうつわ」

日時：平成17年1月9日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)

聴講者数：54名

「富本憲吉先生の思い出」

日時：平成17年1月16日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：柳原睦夫(陶芸家、大阪芸術大学教授)

聴講者数：48名

「近代陶芸と富本憲吉」

日時：平成17年2月6日(土) 午後2時から午後3時

講師：金子賢治(工芸課長)

聴講者数：136名

「富本憲吉の量産について」

日時：平成17年2月20日(土) 午後2時から午後3時

講師：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：45名

◆「河野鷹思のグラフィック・デザイナー 都会とユーモア」展ギャラリートーク

日時：平成17年1月15日(土) 午後3時から午後4時

講師：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：16名

日時：平成17年1月29日(土) 午後3時から午後4時

講師：望月 積(東京藝術大学名誉教授)

聴講者数：34名

日時：平成17年2月4日(土) 午後3時から午後4時

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：26名

日時：平成17年2月19日(土) 午後3時から午後4時

講師：仲條正義(グラフィック・デザイナー)、井上芳子(和歌山県立近代美術館学芸員)

聴講者数：83名

◆「アール・デコの精華」展ギャラリートーク

日時：平成16年4月24日(土) 午後2時から午後3時

講師：今井陽子(工芸課主任研究官)

聴講者数：27名

日時：平成16年5月8日(土) 午後2時から午後3時

講師：富田康子(工芸課客員研究員)

聴講者数：31名

日時：平成16年5月15日(土)午後2時から午後3時
講師：木田拓也(工芸課研究員)
聴講者数：21名

日時：平成16年5月22日(土)午後2時から午後3時
講師：北村仁美(工芸課研究員)
聴講者数：19名

日時：平成16年5月29日(土)午後2時から午後3時
講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)
聴講者数：20名

日時：平成16年6月5日(土)午後2時から午後3時
講師：諸山正則(工芸課主任研究官)
聴講者数：27名

◆「動物のモチーフ」展ギャラリートーク

「文様の楽しみ」
日時：平成16年7月4日(日)午後2時から午後3時
講師：今井陽子(工芸課主任研究官)
聴講者数：35名

「風景の中の小動物」
日時：平成16年7月11日(日)午後2時から午後3時
講師：諸山正則(工芸課主任研究官)
聴講者数：7名

「動物モチーフと私の制作」
日時：平成16年7月18日(日)午後2時から午後3時
講師：安藤 泉(出品作家、鍛金造形家)
聴講者数：45名

「形象と造形」
日時：平成16年7月25日(日)午後2時から午後3時
講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)
聴講者数：9名

「動物立体表現—古代から現代へ」
日時：平成16年8月1日(日)午後2時から午後3時
講師：金子賢治(工芸課長)
聴講者数：45名

「動物をモチーフにした近代工芸の名品」
日時：平成16年8月8日(日)午後2時から午後3時
講師：木田拓也(工芸課研究員)
聴講者数：12名

「モチーフ表現と素材」
日時：平成16年8月15日(日)午後2時から午後3時
講師：冨田康子(工芸課客員研究員)
聴講者数：12名

「動物のイメージを楽しむ」

日時：平成16年8月22日(日) 午後2時から午後3時

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：17名

◆「Ⅰ 人間国宝の花/Ⅱ 近代工芸の百年」展ギャラリートーク

日時：平成17年3月13日(日) 午後2時から午後3時

講師：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：20名

日時：平成17年3月20日(日) 午後2時から午後3時

講師：唐澤昌宏(工芸課主任研究官)

聴講者数：21名

日時：平成17年3月27日(日) 午後2時から午後3時

講師：北村仁美(工芸課研究員)

聴講者数：35名

■博物館実習生

当館の「博物館実習受入要項」に基づき、次の大学から9名の実習生を受け入れた。

学習院大学、共立女子大学、多摩美術大学、東京家政大学、東京工芸大学、東京造形大学、千葉大学、一橋大学大学院、武蔵野美術大学

実習内容

概要や講義のほか、来館者と作品を繋ぐ橋渡しとしての役割を学んでもらうため、所蔵品から各自1作品を選び、模擬ギャラリートークの課題を盛り込んだ。なお、実習生には事前に実習内容を知らせ、館の提示した課題図書(『ギャラリーガイド 近代日本美術のあゆみ』東京国立近代美術館)の通読を課した。

実習日程

- 8月23日 ガイダンス／当館の概要・理念と方針／教育普及係の仕事／企画渉外係の仕事・グループワーク「展覧会をつくる」
- 8月24日 情報資料係の仕事・ライブラリ紹介・文献の調べ方／質疑応答(展覧会、企画課の仕事を中心に)／課題説明・所蔵品ガイド見学・課題準備
- 8月25日 展示係の仕事・所蔵品ギャラリー概説／絵画彫刻係の仕事・収蔵庫見学／課題準備
- 8月26日 写真係の仕事・収蔵庫見学／版画係の仕事・収蔵庫見学／質疑応答(コレクション、美術課の仕事を中心に)／課題準備
- 8月27日 トーク発表／総合ディスカッションとまとめ

■大学等の団体での来館者に対して、随時対応した。

・大学授業、学会等への協力 5件6回(196名)

女子美術大学短期大学(2件)、女子美術大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学、中央大学

・生涯学習施設等への協力 10件11回(312名)

相模原市民ギャラリー学生ボランティア、市川市美術館を読む会(2件)、津久井町民大学グリーンカレッジつくい、習志野市袖ヶ浦公民館寿学級、所沢市民大学、(社)北沢法人会、中央大学三十年会、慶応婦人三田会、東京三菱銀行社会貢献室、世田谷ARTLOVERS

■博物館実習

当館の「博物館実習受入要項」に基づき、次の大学から4名の実習生を受け入れた。

学習院大学、多摩美術大学、武蔵野美術大学、京都造形芸術大学

実習内容：講義、館内見学、作品取り扱いなど

実習日程

8月23日：展示の企画と実施①、作品の取り扱い①

8月24日：図書の収集と管理、工芸館の概要

8月25日：作品の収集と管理、タッチ&トーク見学

8月26日：教育普及活動について、作品の取り扱い②

8月27日：展覧会の企画と実施②

■校外授業としての作品熟覧を以下のとおり行った。

大学3件7回(152名)

平成16年6月24日(東京芸術大学陶芸教室)(20名)

7月15日(東京芸術大学陶芸教室)(18名)

7月18日(武蔵野美術大学芸術文化学科)(11名)

11月18日(東京芸術大学彫金教室)(25名)

12月1日(多摩美術大学染織学科)(48名)

平成17年1月28日(多摩美術大学金属学科)(15名)

2月15日(東京芸術大学陶芸教室)(15名)

■所蔵作品解説ボランティア「MOMATガイドスタッフ」の活動内容

常設展開館日に所蔵作品についてのギャラリートークを行ったほか、依頼のあった団体へのガイドを行った。また、春休み、夏休みの「こども美術館」や学校からの申し込みに対応して、小・中学生へのギャラリートークや制作指導を行った。常設展の展示替えごとに例会を開催し、研究員の展示に関する講義を受け、その時々の問題点等について協議しながら、トーク・プログラムを運営している。9、10月には担当研究員により個別にトーク指導と面談を行ったほか、フォローアップ研修として11月13日に「写真作品の鑑賞について」（当館研究員による）、2月19日に「彫刻鑄造の諸技法」（台東区立朝倉彫塑館学芸員・村山万介氏、有限会社櫻井美術鑄造・櫻井淳一氏による）を行った。後者には、工芸館及び国立西洋美術館のボランティアも任意で参加した。また、埼玉県立近代美術館、及び水戸芸術館現代美術センターの解説ボランティアグループとの交流を行った。

■MOMATガイドスタッフによる所蔵品ガイド

登録人数：20名

期間：平成16年4月1日ー平成17年3月31日

延べ回数：289回

参加総数：3,802名（1回平均13人）

（平成15年度会期5のうち4月1日～5月16日）41回/679名/平均17名

会期1 70回/603名/平均9名

会期2 42回/1,164名/平均28名

会期3 61回/538名/平均9名

会期4 52回/517名/平均10名

会期5 23回/301名/平均13名

活動内容：開館日の毎日午後2時より約1時間、来館者との対話を交えながら、所蔵作品についてのギャラリートークを行った。

工芸館では、ボランティアのガイドスタッフにより、作品や資料に実際に触れながらのトークと来館者との対話を交えながら展示作品を前にしたギャラリートークをあわせて行う、「タッチ&トーク」を開催した。

また、「どきどき!こども工芸館」として、夏休み中の8月27日(金)、28日(土)と、特別展「非情のオブジェ」開催中の11月21日(日)、及び春休み中の2005年3月27日(日)に、幼児から小学生を年齢でグループ分けをして実施し、さらにかねて要望があった外国人のための「英語ガイド」を8月29日(日)、11月23日(火、祝)の2回実施した。ガイドを行うに当たっては、展示ごとに内容等に関する担当研究員のレクチャーを行い、さらに各種類のタッチ&トークに応じた綿密な打ち合わせとリハーサルを行って対応した。

会場の展示作品とタッチコーナーで触れる作品及び資料が関連付けられることによって来館者とのトークに活気もたらされ、専門性の高い工芸に対する鑑賞のポイントを分かりやすくガイドしてより深い関心と理解とが得られた。

■工芸館ガイドスタッフによるガイド

登録人数：19名

期間：平成16年6月9日－平成17年3月30日

【タッチ&トーク】(対象：一般)

延べ回数：69回

参加者数：タッチ902名・トーク966名

【どきどき!こども工芸館】(対象：幼稚園～小学生)

延べ回数：4回

参加者数：63名

【英語ガイド】(対象：外国人)

延べ回数：2回

参加者数：14名

2 刊行物 Publications

2-1 企画展覧会カタログ

2-1-1 本館



ブラジル ボディ・ノスタルジア

22.2×15.3cm/180p

本文：

ブラジル：ボディ・ノスタルジア(鈴木勝雄)

図版

タルシラ・ド・アマラル

ミゲル・リオ・ブランコ

アドリアナ・ヴァレジョン

ディアス&リートヴェーク

リジア・クラーク

エルネスト・ネト

ミラ・シェンデル

ブリジダ・バルタール

リヴァーネ・ノイエンスワフンダー

FRAME 1 ブラジルのモダニズム：前衛とナショナル・アイデンティティ (鈴木勝雄)

FRAME 2 自由のためのエクササイズ：1950-64年のブラジル美術(三輪健仁)

FRAME 3 困難な時代のアート：1964-80年前後(アラーシ・アマラル)

FRAME 4 身体への憧憬：過去そして現在(リゼッチ・ラグナード)

略歴

さらに知るための文献リスト

出品リスト

Brazil: Body Nostalgia (Katsuo Suzuki)

FRAME 1 Modernism in Brazil : Avant-garde and National Identity (Katsuo Suzuki)

FRAME 2 Exercise for Freedom : Brazilian Art, 1950-64 (Kenjin Miwa)

FRAME 3 Art in difficult times (1964-c.1980) (Aracy Amaral)

Arte num periodo dificil (1964-c.1980)

FRAME 4 “Longing for the body”, yesterday and today (Lisette Lagnado)

“Longing for the body”, ontem e hoje

編集担当：鈴木勝雄/三輪健仁

翻訳：小川紀久子/勝矢桂子/佐藤実/山本仁志/ヴェロニカ・コルデイロ/イザベル・パーブブリッジ

表紙：柿木原政広(アートディレクション)、前沢拓馬(デザイン)

編集：東京国立近代美術館

制作：印象社

発行：東京国立近代美術館 ©2004



琳派 RIMPA

29.7×21.2cm/240p

本文：

琳派・RIMPA展—はじめに—(尾崎正明)

琳派からRIMPAへ(古田亮)

図版目録

近代工芸における琳派再評価の道程—その言論を中心に—(北村仁美)

近代の琳派観、その周辺(中村麗子)

近世琳派年表(古田亮 編)

近現代琳派評価史(古田亮 編)

作品目録(古田亮/生野諭 編)

How Rimpa Gained International Recognition (Furuta Ryō)

出品作品一覧

編集担当：古田亮/中村麗子

編集補佐：生野諭(多摩美術大学附属図書館)

翻訳：マーサ・マクリントク/小川紀久子/まい子・ベア

制作：アイメックス・ファインアート

印刷：日本写真印刷

発行：東京国立近代美術館/東京新聞 ©2004



木村伊兵衛展

25×19cm/112p

本文：

木村伊兵衛、カメラを持つ人 (増田玲)

Ihei Kimura, The Man with the Camera (Rei Masuda)

図版

年譜 (竹内万里子 編)

作品リスト

Commentary on the Plates

編集：東京国立近代美術館 増田玲/鈴木勝雄/竹内万里子 (客員研究員)

翻訳：小川紀久子/山本仁志

デザイン：桑畑吉伸

制作：コギト

発行：東京国立近代美術館 ©2004



草間彌生—永遠の現在

26.5×25.5cm/312p

本文：

創造のプロセス (草間彌生)

A Process to Creation (Yayoi Kusama)

鎮魂と再生—草間彌生の芸術 (松本透)

魂のおきどころ (澁田見彰)

草間彌生の創造の展開—ニューヨーク時代における (出原均)

ディスレクシアの記憶の海へ—私的憧憬の告白として (南島宏)

図版

年譜

文献目録

作品リスト

Requiem and Resurrection: The Art of Yayoi Kusama (Tohru Matsumoto)

Respite for the Spirit (Akira Shibutami)

The Creative Evolution of Yayoi Kusama in New York (Hitoshi Dehara)

The Sea of Dyslexic Memory — A Confession of Personal Yearnings (Hiroshi Minamishima)

編集担当：東京国立近代美術館 松本透/保坂健二郎

広島市現代美術館 出原均

熊本市現代美術館 南島宏

松本市美術館 澁田見彰

編集補助：国立新美術館設立準備室 長屋光枝

翻訳：後町幸枝/スタンリー・N・アンダーソン/富井玲子/日本コンベンションサービス/ロビン・

トンプソン (アルファコーポレーション) /山本仁志

アートディレクション&デザイン：中島英樹 (中島デザイン)

表紙撮影：ホンマタカシ ©2004

編集：東京国立近代美術館/広島市現代美術館/熊本市現代美術館/松本市美術館

制作：美術出版デザインセンター

印刷：大日本印刷株式会社

発行：東京国立近代美術館/広島市現代美術館/熊本市現代美術館/松本市美術館

©2004 草間彌生/東京国立近代美術館/広島市現代美術館/熊本市現代美術館/松本市美術館



痕跡—戦後美術における身体と思考

29.5×21.5cm/354p

本文：

痕跡—苛酷なる現実としての美術 (尾崎信一郎)

イメージ—航跡 (ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン)

指標と似せもの (リチャード・シフ)

超過とプロセス—ウィーン・アクションズ (フーベルト・クロッカー)

図版

1. 表面
2. 行為
3. 身体
4. 物質

5. 破壊
6. 転写
7. 時間
8. 思考

作品リスト

List of Works

作家解説

関係年表(尾崎信一郎 編)

TRACES—Art as Harsh Reality (Shinichiro Osaki)

L'image-sillage (Georges Didi-Huberman)

Index and Counterfeit (Richard Shiff)

Überschreitung und Prozess—Wiener Aktionismus (Hubert Klocker)

編集：尾崎信一郎

執筆：ジョルジュ・ディディ＝ユベルマン／リチャード・シフ／フーベルト・クロッカー／尾崎信一郎

翻訳：森元庸介／藤原貞朗／池田祐子／松谷誠子

編集協力：村上明子

デザイン：宮谷一孝(株式会社エヌ・シー・ピー)

印刷：株式会社便利堂

発行：京都国立近代美術館

©2004 京都国立近代美術館



ゴッホ展—孤高の画家の原風景

28.5×23cm/222p

本文：

序 ファン・ゴッホを美術展で歴史的コンテクストとともに語ること(圀府寺司)

フィンセント・ファン・ゴッホは「孤高の画家」だったのか(エフェルト・ファン・アイテルト)

カタログ

I. 宗教から芸術へ(圀府寺司)

II. 農民の労働、芸術のメタファー(藤島美菜)

III. バリー間から光へ(三輪健仁)

IV. アルルーユートピア(保坂健二郎)

V. サン＝レミ、オーヴェール＝シュル＝オワーズ(村上博哉)

ファン・ゴッホ：風景画の諸相(クリス・ストルウェイク)

ヘレーネ・クレラー＝ミュラーと彼女のファン・ゴッホ・コレクション(ピート・ド・ヨンゲ)

美術館紹介ファン・ゴッホ美術館/クレラー＝ミュラー美術館

フィンセント・ファン・ゴッホ年譜(藤島美菜 編)

主要参考文献(藤島美菜 編)

作家別索引

編集：東京国立近代美術館/国立国際美術館/愛知県美術館/東京新聞

執筆：エフェルト・ファン・アイテルト/クリス・ストルウェイク/ピート・ド・ヨンゲ/圀府寺司/

保坂健二郎/三輪健仁/村上博哉/藤島美菜

翻訳：スタイナー紀美子/村山智子/村上博哉/森美樹

デザイン：桑畑吉伸

制作：コギト

印刷：大日本印刷

発行：NHK/NHKプロモーション/中日新聞社 ©2005

Van Gogh in Context [Supplement]

28.5×23cm/40p

本文：

Foreword: Exhibiting van Gogh in a Historical Narrative Context (Tsukasa Kodera)

Vincent van Gogh: a not so isolated artist (Evert van Uiter)

On Some Aspects of Van Gogh's Landscapes (Chris stolwijk)

Helene Kröller-Müller and her Vincent van Gogh collection (Piet de Jonge)

Translated by : Michéle Hendricks / Rachel Esner / Kimiko Steiner

Designed by : Yoshinobu Kuwahata

Produced by : Cogito, Inc.

Published by : NHK / NHK Promotions / The Chunichi Shimbun ©2005

2-1-2 工芸館



非情のオブジェ—現代工芸の11人

29.7×22.7cm/94p

本文：

外側の線 (今井陽子)

Line in the Groove (Yoko Imai)

図版

作家・作品解説

作家略歴

出品目録

編集：金子賢治/諸山正則/今井陽子

翻訳：ルーシー・S・マクレリー

制作：(株)三和プリンティング

発行：東京国立近代美術館 ©2004

人間国宝の日常のうつわ—もうひとつの富本憲吉

29.7×22.7cm/116p

本文：

富本憲吉の日常のうつわ (唐澤昌宏)

Daily Vessels by Kenkichi TOMIMOTO (Masahiro Karasawa)

図版

大和時代

東京時代

京都時代

関連資料

署名集

年譜 (木田拓也編)

主要参考文献

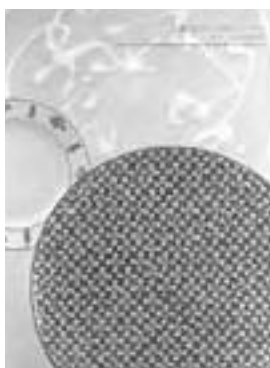
出品目録

編集：金子賢治/唐澤昌宏/木田拓也

翻訳：ギャビン・フルー /山本仁志

制作：ニューカラー写真印刷株式会社

発行：東京国立近代美術館 ©2004



河野鷹思のグラフィック・デザイン

29.7×21.5cm/105p

本文：

歴史の中の河野鷹思 (金子賢治)

Takashi Kono in History (Kenji Kaneko)

図版

河野鷹思のグラフィックデザイナー—初期活動をめぐって (北村仁美)

Graphic Designs of Takashi Kono: The Background (Hitomi Kitamura)

年譜 (富田康子編)

出品作品リスト

参考文献 (小豆嶋珠美編)

編集：金子賢治/富田康子/北村仁美

翻訳：高山シンシア/ルーシー・S・マクレリー /山本仁志

デザイン：内藤敏昭

制作：第一印刷 (株)

発行：東京国立近代美術館 ©2005

2-2 目録・ガイド等

2-2-1 本館

近代日本の美術 会場案内

10.5×21cm (四つ折り)

ブラジル：ボディ・ノスタルジア 作品解説

36.4×25.7cm



琳派 RIMPA展 出品目録
21×15cm(二つ折り)
フロアマップ

木村伊兵衛展 Floor Guide
21×15cm(二つ折り)
略年譜

草間彌生：永遠の現在 Floor Guide
10×21cm(三つ折り)
草間彌生略歴
執筆：松本透
デザイン：中島デザイン
制作：美術出版デザインセンター
印刷：大日本印刷株式会社
発行：東京国立近代美術館 ©2004

ゴッホ展—孤高の画家の原風景 展示構成・解説
29.7×21.0cm(二つ折り)
解説執筆：保坂健二郎

ゴッホ展 こどもセルフガイド
21.0×14.8cm(四つ折り)
執筆・編集：東京国立近代美術館 白濱恵里子/一條彰子
国立国際美術館 藤吉祐子
デザイン・制作：日本写真印刷株式会社



東京国立近代美術館所蔵名品選 20世紀の絵画
26.3×19cm/310p
本文：
絵画の100年(中林和雄)
図版
日本画
洋画
海外作品
作家作品解説
作品リスト
作家索引
発行：東京国立近代美術館／光村推古書院
発行所：光村推古書院
編集：東京国立近代美術館
レイアウト：文京図案室
制作：ニューカラー写真印刷株式会社
©東京国立近代美術館 2005

2-2-2 工芸館

所蔵作品展 アール・デコの精華 出品目録・フロアガイド
21.0×29.7cm(二つ折り)

所蔵作品展 動物のモチーフ 出品目録・フロアガイド
21.0×29.7cm(二つ折り)

たんけん!こども工芸館 わたしをさがして ワークシート
21.0×15.0cm/8p(リング止め)
印刷：(株)三和プリンティング
編集・発行：東京国立近代美術館

非情のオブジェ—現代工芸の11人 出品目録・フロアガイド
21.0×29.7cm(二つ折り)

人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉
同時開催 所蔵作品展 近代日本の陶芸 出品目録・フロアガイド
21.0×29.7cm(二つ折り)

所蔵作品展 I 人間国宝の花／II 近代工芸の百年 出品目録
21.0×29.7cm(二つ折り)

鑑賞カード

15×14cm/全12枚(表：カラー図版、裏：解説)

太田備《藍胎蒔繪文箱 蝶》1986年

寺井直次《金胎蒔絵水指 春》1976年

黒田辰秋《赤漆流稜文飾箱》1957年頃

生野祥雲齋《白竹一重切花入 くいな笛》1967年

小川雄平《陶製黒豹置物》1933年

清水卯一《青磁 大鉢》1973年

前史雄《沈金箱 朝霧》1998年

ダンテ・マリオニ《青い花器》1997年

小名木陽一《赤い手ぶくろ》1976年

鈴木長吉《十二の鷹》1893年

久保田繁雄《The Wave Space II》1988年

平田郷陽《桜梅の少将》1936年



近代工芸案内—東京国立近代美術館工芸館コレクションを中心として
Modern Craft Art Japan—Works from the Crafts Gallery,
The National Museum of Modern Art, Tokyo

21.0×14.8cm/128p 900円

序章 工芸の歴史—縄文から現代へ

I 工芸の起源と系譜

II 近代から現代へ

第I章 明治時代

第II章 大正・昭和時代

第III章 1945～1960年代

第IV章 1970～1980年代

第V章 1990年代以降

用語解説

作家索引/主要作家解説

近代工芸年表

編集：東京国立近代美術館 金子賢治/諸山正則/唐澤昌宏/今井陽子/木田拓也/北村仁美/富田康子/齊藤佳代

英訳：青山和平

デザイン：八木健夫/石森舞絵

制作：株式会社コエランス

発行：東京国立近代美術館 ©2005

2-3 研究紀要・年報等

東京国立近代美術館研究紀要 第9号

24×18.3cm/74p

マティス試論(中林和雄)

竹内栖鳳〈雨霽〉についての試論(中村麗子)

倒錯芸術論考(金子賢治)

工芸論の座標軸—あるいは“前衛工芸の日本”にかんする試論(富田康子)

発行所：東京国立近代美術館

制作：印象社

平成15年 東京国立近代美術館年報

25.6×18.3cm/192p

〈美術・工芸部門〉

I 作品収集・修理等/II 公衆への観覧/III 調査研究/IV 教育普及

〈映画部門〉

I 作品収集・復元等/II 公衆への観覧/III 調査研究/IV 教育普及



〈記録〉

発行：独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館

制作：美術出版デザインセンター



2-4 美術館ニュース『現代の眼』索引

545号 4-5月号

特集：近年の新収蔵作品から(1)

近年の新収蔵作品について(平成11～15年度 美術作品)

アール・デコフランス装飾美術の最後の光芒◆牟田行秀

[作品研究] 無根拠ゆえにバロックは装飾を求める—青木淳の《U bis》をめぐる◆保坂健二郎

[連載22] 東京国立近代美術館の半世紀◆諸山正則



546号 6-7月号

特集：ブラジル：ボディ・ノスタルジア

ブラジルの曲線、ゆれる海の記憶◆管 啓次郎

スイカジュース(スッコ・ド・メランシア)とチーズパン(ボンディケージョ)—即興と変容のダイナミズム◆神谷幸江

工芸品に見る動物◆横溝廣子

[教育普及レポート] 春休み! こども美術館/ワークショップ—〈花〉を染める

[作品研究] 周縁が語る中心—荒川豊蔵の黄瀬戸◆北村仁美

[アートライブラリから] 美術図書館の横断検索◆水谷長志



547号 8-9月号

特集1：琳派 RIMPA / 特集2：近年の新収蔵作品から(2)

琳派の生々流転◆小林 忠

バリのRIMPA ウィーンのRIMPA◆馬淵明子

近年の新収蔵作品について(平成11～15年度工芸作品)

[作品研究] 北脇 昇《紫野の景観》を読み解く◆大谷省吾

[連載23] 東京国立近代美術館の半世紀◆中林和雄



548号 10-11月号

特集1：草間彌生—永遠の現在/特集2：非情のオブジェ—現代工芸の11人

草間彌生私記◆谷川 渥

永遠の少年少女を生きる—草間彌生◆木幡和枝

「非情のオブジェ—現代工芸の11人」展によせて◆不動美里

織ることをめぐって◆上原美智子

「土のかたち」を求めて—虚から延へ—◆伊村俊見

外国のグラフ雑誌に見る木村伊兵衛の報道写真◆白山真理

[報告] 国際シムポジウム 琳派・RIMPA◆古田 亮

[連載24] 東京国立近代美術館の半世紀◆都築千重子



549号 12-1月号

特集：河野鷹思のグラフィック・デザイン

『現代の眼』創刊五十周年によせて◆辻村哲夫

ミュージアム・アズ・パブリッシャー 『現代の眼』におもうこと◆水谷長志

河野鷹思さん追思◆臼田捷治

映画と河野鷹思◆田中真澄

「記号—解釈」から「痕跡—証言」へ◆辻成史

富本憲吉先生の思い出—京都時代を中心として—◆小山喜平

[教育普及レポート] KIDS★MOMAT—2004年東京国立近代美術館のなつやすみ



550号 2-3月号

特集：ゴッホ—孤高の画家の原風景

ファン・ゴッホを展示するということ◆アンドレアス・ブリューム/訳・解説 保坂健二郎

工芸とモダニズム—工芸の現代性に関するエスキス◆北澤憲昭

戦後日本画の新風—横山操と中村正義◆大谷省吾

[教育普及レポート] タッチ&トーク—工芸館ボランティアガイドの試み

[作品研究] 中村錦平《日本趣味解題》—叛逆の憂鬱◆富田康子

[連載25] 東京国立近代美術館の半世紀◆大場正敏

3 広報

3-1 広報

3-1-1 本館

■マスメディア関係

年間スケジュール、プレスリリース(展覧会ごとに、内容を紹介する資料(A4判、フルカラー、約8P))と記者内見会(原則展覧会開催日の前日に開催)の案内を作成、新聞社・雑誌社・テレビ局・ウェブサイト管理会社・ライター等マスメディア関係約550件に配布。展覧会紹介、美術館紹介に関する取材、撮影、資料提供に随時対応。

- ・「びあ」との年間契約

代表的な情報誌「びあ」の展覧会紹介欄を年間で13枠買い取り、定常的な広報媒体とした。

- ・年始開館の告知

朝日新聞マリオン欄(12月31日付)に年始開館(1月2日から)の告知記事を掲載。

- ・週刊朝日百科「日本の美術館を楽しむ No.16」(2005年2月6日発行、朝日新聞社)に取材協力を行った。

■美術関係機関

年間スケジュールのほか、展覧会ごとのポスター、チラシを、美術館・美術学校・ギャラリー等約1,400件に送付(都内・関東近県の主要な国公立美術館など約60館にはチラシを交換送付)。

◆学校関係

年間スケジュールを小中高等学校約2,700件に送付。

◆そのほかの施設

年間スケジュール、チラシ、ポスターをホテル・観光協会等約170件に送付。展覧会に応じて、美術・文化関係で定評のある大型書店や飲食店・レコード店等に、チラシや割引券付フライヤー(葉書型、栞型)の配布、PR誌上での展覧会紹介等の協力を得ている。

- ・「ブラジル：ボディ・ノスタルジア」展においては、東京メトロとタイアップしたポスターの制作・掲出や、飲食店、アパレル店をターゲットとしたポストカードの制作・配布を行った。

- ・「草間彌生—永遠の現在」展においては、りそなカード株式会社と連携し、会報誌に展覧会情報を掲載した他、りそな銀行各支店でポスター等を掲示。

◆交通広告

展覧会ごとにJR、地下鉄、私鉄等でポスターを掲出。各鉄道会社のインフォメーション・ボードや広報誌へも情報を提供。

3-1-2 工芸館

工芸館では、3-1-1に掲げる活動に加え、次の2誌に所蔵品を取り上げた連載

を行い、近現代工芸及び東京国立近代美術館の活動全般の周知に努めるとともに、そのときどきの展覧会の広報普及を図った。

- ・「近代工芸の名作」『月刊チャイム銀座』（発行：株式会社和光）
その月の展覧出品作から名品を一点選び、その見所、歴史的意義、作家のプロフィールなどを解説。
- ・「古典が息づく現代の工芸 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より」『茶道誌 淡交』（発行：株式会社淡交社）
工芸作家の制作において、何世紀にもわたって伝えられてきた各時代のジャンルの異なる古典がさまざまな形で息づいている。この連載は所蔵作品の中から名品を一点選び、古典がどのように生かされ、作品制作と結びついているかをみることによって、工芸作品の奥の深さを解説。

また、次の広報誌に情報を提供し、各号で展覧会広報を行っている。

「展覧会情報」『I CLUB NEWS』（発行：株式会社伊勢丹）
在日外国人に対する展覧会情報の提供。

3-2 美術館情報システムによる普及・広報

平成7年度から、国立情報学研究所による学術情報ネットワークを介し、インターネット上に東京国立近代美術館ホームページを開設しており、平成16年度も各種展覧会、上映会、講演会などの催事情報の提供に努めた。8月には、館概要と展覧会情報を掲載した多言語ページ（英、独、仏、中、韓）を開設した。昨年度同様、日替わり情報を掲載して、迅速に最新情報を提供するとともに、メールマガジンを月刊で刊行した。

平成13年6月、独立行政法人国立美術館ホームページを開設したが¹、平成14年10月より「法人文書ファイル管理システム」を整備し、独立行政法人国立美術館に関する情報を広く公開することに努めていることは、従来どおり変わりはない。

平成16年11月に当館の蔵書検索システムをバージョンアップして、多言語化し、平成17年3月には独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム（試行版）を公開するなど、作品及び資料情報の提供の高度化に努めている。

主な日誌：

平成7年9月	学術情報ネットワーク接続 東京国立近代美術館＝東京大学大型計算機センター 64kbps 専用線
平成7年10月	東京国立近代美術館ホームページ開設
平成8年6月	「インターネット版展覧会カタログ」として、「岸田劉生 所蔵作品と資料の展示」のカタログの抜粋（カラー図版のページ）を掲載
平成8年9月	来館者向け情報提供端末を本館4階ロビーに1台設置
平成9年8月	「小・中学生のための鑑賞教室」を追加
平成9年10月	来館者向け情報提供端末を工芸館2階に1台設置
平成9年12月	新しい所蔵作品検索サービスをインターネットホームページに公開

平成10年8月	英文版ホームページを追加
平成13年12月	美術館のリニューアル・オープンのお知らせのページを追加
平成13年6月	独立行政法人国立美術館のホームページを開設
平成13年10月	東京国立近代美術館＝東京大学情報基盤センター 1.5Mbps 専用線
平成14年3月	工芸館のページのバリアフリー設備についての案内を追加
平成14年3月	ホームページでの所蔵作品検索システムを更新
平成14年10月	独立行政法人国立美術館「法人文書ファイル管理システム」を公開
平成15年1月	所蔵図書の検索OPACを公開
平成15年8月	東京国立近代美術館メールマガジンを創刊
平成15年10月	トップページデザインを更新し、以後、日替わり情報を日次更新で掲載
平成16年3月	東京都現代美術館美術図書室、横浜美術館美術図書室との横断検索を公開
平成16年8月	館概要と展覧会情報を掲載した多言語ページ(英、独、仏、中、韓)を開設
平成16年11月	当館の蔵書検索システムをバージョンアップして、多言語化
平成17年3月	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム(試行版)を公開

ホームページ上での公開・情報提供は、概略、次のような構成からなっている。
東京国立近代美術館ホームページの主な構成：

トピックス

美術館

工芸館

フィルムセンター

イベント

解説ボランティア

こどものページ

ライブラリ

情報検索

リンク

出版物

利用案内

交通情報

採用情報

お問い合わせ先

平成16年度は、各社からの購入、所蔵フィルムの不燃化や複製、寄贈等によって、収蔵本数は7,942本の増加となった。平成13年度より、主として映像文化製作者連盟加盟の文化・記録映画(短篇映画)製作会社に対し、「原版寄贈」の呼びかけを行っているが、平成16年度は、株式会社読売映像、株式会社クリックス、独立行政法人国際交流基金、精光映画社等の企業や団体について、寄贈手続きを完了した。原版フィルムという最終素材を永久保存する場としてのフィルムセンターの役割は、文化・記録映画のみならず劇映画の分野においても広がりを見せ、前年度の角川大映株式会社(現角川映画株式会社)に続き、平成16年度は松竹株式会社より4,040本に及ぶ大量の原版寄託を受けた。また、日活株式会社、劇団前進座株式会社、月桂冠株式会社等から、日本劇映画及び文化・記録映画の可燃性原版の寄贈を受けるとともに、横山隆一氏の遺族より氏の製作した日本アニメーション映画404本の原版をはじめとする大量の寄贈を受けた。

購入については、企画上映「映画女優 高峰秀子」のために、未収蔵であった出演作品のポジプリント及びデュープネガを多数購入したほか、東京フィルメックスとの共催企画「内田吐夢監督選集」のために、同監督作品の英語字幕付きプリントの購入を行った。また、企画上映「日本アニメーション映画史」「フィルムは記録する2005」のために、多くの日本アニメーション映画、文化・記録映画を購入するとともに、次年度開催の企画上映「映画監督 稲垣浩」のために先行調査及び購入を行った。海外同種機関との協力関係の中では、ロシアのゴスフィルムフォンドが所蔵する日本映画の中から297本を購入するとともに、中国の電影資料館が所蔵する中国映画の中から40年代、50年代の代表作を5本購入した。

種別	平成16年度収集本数	所蔵総本数
劇映画	1,169	10,304
文化・記録映画	1,573	17,518
アニメーション映画	882	1,956
ニュース映画	4,316	10,958
テレビ映画	0	3,688
優秀映画鑑賞推進事業用	2	5
国際映画祭出品事業用	0	21
合計	7,942	44,450

Total of 7,942 films were added to our collection this year. These prints were purchased, donated, or duplicated from the original nitrate films of our collection for preservation purposes. Through the Japan Association of Audiovisual Producers, Inc., we have been formally encouraging the production companies of cultural and documentary short films to donate the original films to NFC since 2001. This year, several organizations and companies including Japan Foundation completed the donation. The role of NFC as a permanent archive of the original films has expanded from the cultural and documentary films to encompass feature films, and NFC received

the deposit of 4,040 master films by Shochiku Co., Ltd which also put NFC in charge of almost all of their original films, just like Kadokawa Daiei did in the previous year. . Also, companies such as Nikkatsu, Zenshinza and Gekkeikan donated the original nitrate films of feature films as well as cultural and educational films. Family members of the late Ryuichi Yokoyama donated a bulk of materials including the original films of his 404 animation works.

In conjunction with the screening program “Hideko Takamine, Film Actress,” NFC purchased a number of prints and duplicate negatives of the films with her. For “Tomu Uchida Retrospective” co-organized with Tokyo FILMeX, NFC purchased prints with English subtitles. NFC purchased Japanese animation films and cultural, documentary films in conjunction with the programs “A History of Japanese Animation” and “Glimpses of Nippon 2005: A Japanese Documentary Tradition.” Also, research and purchase were conducted for the following year’s program, “Hiroshi Inagaki Retrospective at his Centenary.” Through the cooperation with various international institutions, NFC bought 297 titles of Japanese films from Gosfilmofond, Russia, and 5 titles of the representative films of the 1940s and 1950s Chinese cinema from China Film Archive.

Types of film	Added number in 2004	Total number of holdings
Feature	1,169	10,304
Cultural & Documentary	1,573	17,518
Animation	882	1,956
News	4,316	10,958
Television Movies	0	3,688
For Circulation Program	2	5
For Cultural Exchange Program	0	21
Total	7,942	44,450

1-2 映画関係資料 Non-film Materials

フィルムセンターで平成16年度中に寄贈を受けた映画関係資料は下記の通りである(図書資料は除く)。

- (1) Pathé-Baby 9.5mm映写機など小型映写機4点：植杉賢寿氏寄贈
- (2) 17.5mm映写機A型など国際トーキー株式会社関連資料10点：渡部修吉氏寄贈
- (3) 『元禄忠臣蔵』撮影台本など原健一郎旧蔵資料9点：鳥居士郎氏寄贈
- (4) アルマ9.5mm映写機(No.2269) 1点：黒須太郎氏寄贈
- (5) 映画人サイン色紙8点：遠藤博文氏寄贈
- (6) 高密工場記録写真アルバムなど高密関連資料135点：日本電子光学工業株式会社寄贈
- (7) Simplex E-7 (No.E2935) など映写機材2点：株式会社IMAGICA寄贈
- (8) 横田永之助、尾上松之助関連写真104点：水口薫氏、片山敬雅氏、片山ゆき子氏寄贈
- (9) 岩崎昶「映画の前説」録音CD：岩崎浩氏寄贈

- (10) THE PHANTOM SHIP カラー・セロファン原画(大藤信郎作)などアニメーション映画資料3点：森卓也氏寄贈
- (11) 映写機ヘッドマシン Super B8など映写機材3点：岡本寛治氏寄贈
- (12) 高橋春吉 建築認可申請書(1935年)など高橋工場関係資料7点：ミクニ映機製作所寄贈
- (13) 高峰秀子など映画女優ポートレート46点：松本裕介氏寄贈
- (14) 米国議会図書館からの映画返還調印式(1967年)写真など3点：福間敏矩氏寄贈
- (15) 9.5mm PATHE MOTO CAMERA(W16431)など小型映画機材2点：三田尊則氏寄贈

Non-film materials (excluding books) officially donated to NFC during 2004 are as follows:

- (1) 4 projectors including the Pathé-Baby 9.5mm projector from Masatoshi Uesugi,
- (2) 10 materials related to Kokusai Talkie Ltd. such as 17.5mm type A projector from Shukichi Watabe.
- (3) 9 materials which belonged to Kenichirō Hara including his script of *Genrokuchūshingura* from Shirō Torii,
- (4) Alma 9.5mm projector from Tarō Kurosu,
- (5) 8 pieces of square fine paper (*shikishi*) with filmmakers' autographs from Hirofumi Endo,
- (6) 135 materials related to KOMITZ including the photo album of the KOMITZ factory of the projector from Nippon Denshi Kogaku Kogyo Co., Ltd,
- (7) 2 projection equipments including Simplex E-7 from Imagica Corp.,
- (8) 104 still photographs related to Einosuke Yokota and Matsunosuke Onoe from Kaoru Mizuguchi, Keimasa Katayama and Yukiko Katayama,
- (9) CD recording of the *Eigano maesetsu* book by Akira Iwasaki from Hiroshi Iwasaki,
- (10) 3 materials related to animation films such as the original color cellophane sheet of The Phantom Ship (dir. Noburō Ōfuji) from Takuya Mori,
- (11) 3 projection equipments including Headmachine projector Super B8 from Kanji Okamoto,
- (12) 7 materials related to Takahashi factory of the projector including Harukichi Takahashi's application form for the approval of construction (1935) from Mikuni Company,
- (13) 46 pieces of portrait photographs of film actresses including Hideko Takamine from Yūsuke Matsumoto,
- (14) 3 pieces of photographs including one capturing the signing ceremony of repatriation of Japanese films from the United States Library of Congress (1967) from Thoshinori Fukuma,
- (15) 2 amateur filmmaking equipments including 9.5mm PATHE MOTO CAMERA from Takanori Mita.

フィルムセンター所蔵の可燃性フィルムを不燃化した例は73本(玩具フィルム37本を含む)であり、その中には、国内の法人・個人から寄贈を受けたフィルムのほか、オーストリアで保存されていた1907年の記録映画、ドイツで保存されていた戦前の文化映画、以前にオーストラリアから返還を受けた終戦直後の記録映画等、いずれも日本に関連するきわめて貴重な作品が含まれる。1-1で言及した購入フィルムにも、フィルムセンター以外の機関や製作会社が所有する可燃性素材等からデュープネガや上映プリントを複製したケース、すなわち実質的には不燃化と言えるケースが含まれている。デジタル復元事業としては、角川映画株式会社と共同で長篇カラー映画『新・平家物語』の復元を行ったほか、『瀧の白糸』の一部をデジタル復元することで国内業者の技術開発に協力し、『国士無双』ではオリジナル・フォーマットの違いによる修復結果の比較という新たな課題に取り組んだ。このほか、アニメーション映画特集の開催を機に、所蔵する原版等からの複製を必要に応じて行った。

NFC produced 73 safety duplicates of the nitrate prints of its collection (37 were toy films). They include titles donated by corporations and individuals within Japan as well as films from abroad such as the 1907 documentary film preserved in Austria, pre-war cultural films preserved in Germany, and documentary films of the immediate post-war period which had been repatriated from Australia. They are all very valuable works about Japan. The purchased films mentioned in Section 1-1 also include duplicated negative films and projection prints made from nitrate materials that belong to production companies and other outside institutions. NFC digitally restored color feature film *Shin Heike Monogatari* in collaboration with Kadokawa Pictures, and commissioned a domestic laboratory to digitally restore part of *Taki no shiraito*, thus contributing to the technological development of the laboratory. In addition, NFC tackled a new task of comparing the restored results of the materials in originally different formats during the process of restoration of *Kokusshimusō*. In relation to the screening program of animation films, NFC made a number of duplicates from the original materials in its collection.

フィルムセンターが所蔵する各種コレクションのカタロギングは文化庁の「文化財情報システム・美術情報システム」構築の一環として開発されたNFCD (National Film Center Database)を中心に行っている。

NFCD上で行っているフィルムの登録作業については、平成16年度は新規収蔵フィルムに加えて、コンピュータ・データベース導入以前のコレクションを対象とした遡及登録を行った。また、将来の公開に向けて、実際のフィルムの映像をチェックしながら日本の戦前期ニュース映画の詳細なコンテンツデータの収集も行っている。

映画関係資料のカタロギングでは、新規収蔵資料の日常的なカタロギングに加え、特にポスター・コレクションを対象とする抜本的な情報の整備を行った。これは、従来は散発的に作成されていたレコードと素材の再確認と照合、未登録レコードの新規作成、そして一元的な資料番号の付与にいたる作業を総合的に行うものであり、情報・資料係が設置された平成12年度から15年度にかけて実施したスチル写真の整備に続く作業となる。平成16年度中の処理件数は18,075件を数えた。

[Films]

NFC's collection is mostly catalogued by our in-house database, NFCD (National Film Center Database), that was designed as a part of "Cultural Properties and Art Objects Database System" initiated by Agency for Cultural Affairs.

In addition to newly purchased films, films that were acquired before the implementation of computerized systems were also entered retroactively in NFCD. Also, in order to prepare for the future screenings of the news films from the pre-war period, detailed descriptions of the contents were written down by viewing the films.

[Non-film materials]

In addition to routine cataloguing of newly acquired materials, we rearranged the information of the poster collection in a major way, following the similar project we engaged in about still photographs between 2000 and 2003. In the process, we first re-confirmed the materials and the records which used to be randomly made; second, we newly made the records of the un-registered materials, and then we introduced a unified numbering system. 18,075 records of posters have been completed in 2004.

Ⅱ 公衆への観覧

1 企画上映等

1-1 観覧者数

大ホール

【企画上映年間入場者総数】

■542作品・291プログラム・284日間・618回上映

■入場者総数90,865人 一般59.96% シニア24.85% 学生7.05% 小人0.18% 無料7.96%

■1回平均147人

219 日本・キューバ外交関係樹立75周年記念 キューバ映画への旅

Voyage to Cuban Cinema

平成16年4月6日(火)～4月25日(日)

20作品 15プログラム 18日間 36回上映

入場者総数4,590人(1回平均128人)

一般63.95% シニア17.47% 学生9.41% 小中生0.00% 無料9.17%

220 アジア映画－“豊穣と多様”

Asian Cinemas: “Fertile and Diverse”

平成16年4月27日(火)～6月27日(日)

54作品 54プログラム 54日間 108回上映

入場者総数10,812人(1回平均100人)

一般63.73% シニア18.63% 学生10.89% 小中生0.06% 無料6.69%

221 日本アニメーション映画史

A History of Japanese Animation

平成16年7月6日(火)～8月29日(日)

239作品 30プログラム 48日間 96回上映

入場者総数10,191人(1回平均106人)

一般64.77% シニア12.69% 学生12.49% 小中生1.17% 無料8.88%

222 映画女優 高峰秀子

Hideko Takamine, Film Actress

平成16年9月3日(金)～11月19日(金)

83作品 81プログラム 67日間 158回上映

入場者総数34,187人(1回平均216人)

一般55.13% シニア34.20% 学生3.84% 小中生0.04% 無料6.79%

223 第5回東京フィルメックス 特集上映 内田吐夢監督選集 映画真剣勝負

The 5th Tokyo FILMeX: Seriously Entertaining: The Battle for Uchida Tomu's Film Style

平成16年11月20日(土)～11月28日(日)

13作品 13プログラム 8日間 24回上映

入場者総数4,450人(1回平均185人)

一般63.66% シニア17.35% 学生7.06% 小中生0.00% 無料11.93%

224 特集・逝ける映画人を偲んで 2002-2003

In Memory of Film Figures We Lost in 2002-2003

平成16年12月7日(火)～平成16年12月26日(日)

平成17年1月18日(火)～平成17年2月20日(日)

63作品 57プログラム 48日間 114回上映

入場者総数17,735人(1回平均156人)

一般60.26% シニア25.78% 学生5.37% 小中生0.09% 無料8.50%

225 シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ無声映画傑作選

Silent Film Renaissance: An American Tradition

平成17年1月5日(水)～平成17年1月16日(日)

15作品 11プログラム 11日間 22回上映

入場者総数2,850人(1回平均130人)

一般69.51% シニア14.49% 学生7.47% 小中生0.07% 無料8.46%

226 フィルムは記録する2005：日本の文化・記録映画作家たち

Glimpses of Nippon 2005: A Japanese Documentary Tradition

平成17年2月22日(火)～平成17年3月27日(日)

55作品 30プログラム 30日間 60回上映

入場者総数6,050人(1回平均101人)

一般61.24% シニア16.84% 学生12.10% 小中生0.13% 無料9.69%

展示室

造形作品でみる 岡本忠成 アニメーションの世界

Artworks from the Animation Films of Tadanari Okamoto

平成16年4月6日(火)～平成16年8月29日(日)

120日間

入場者総数5,897人(1日平均49人)

映画女優 高峰秀子展

Exhibition: Hideko Takamine, Film Actress

平成16年9月3日(金)～平成17年3月27日(日)

164日間

入場者総数6,992人(1日平均43人)

1-2	企画上映 Screening Programs
-----	-------------------------

1-2-1	上映企画一覧(開館より平成15年度まで) Screenings from the Opening in 1970 until 2003
-------	--

回数	企画上映名
----	-------

昭和45年度[1970]

- 1 アメリカ古典映画の回顧
- 2 成瀬巳喜男監督の特集
- 3 シナリオライター野田高梧をしのぶ
- 4 フランス映画の歴史
- 5 ドイツ映画の回顧上映

昭和46年度[1971]

- 6 田中絹代特集 — 女優の歩みに見る日本映画史 —
- 7 内田吐夢監督の回顧上映
- 8 フランス映画の特集
- 9 アニメーション映画の回顧
- 10 小津安二郎監督の特集

昭和47年度[1972]

- 11 ベルギー映画の特集
- 12 占領下の日本映画
- 13 音楽映画の特集
- 14 新収蔵映画の上映
- 15 金語楼映画の上映
- 16 ポーランド映画の回顧
- *特別上映 第8回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
- 17 日本の記録映画特集 — 戦前篇 —

昭和48年度[1973]

- 18 イタリア映画の特集
- 19 溝口健二監督の特集
- 20 飯田蝶子特集
- *特別上映 ジョン・フォード監督追悼特別上映
- 21 1930年代ヨーロッパ映画特集
- 22 1930年代ヨーロッパ映画特集(再上映)
- 23 収蔵映画未公開作品の上映
- 24 — 交換映画祭 — 現代ブルガリア映画の展望

昭和49年度[1974]

- 25 五所平之助監督特集
- 26 特集・逝ける映画人を偲んで
- 27 日本の記録映画特集 — 戦後篇 —
- 28 監督研究 清水宏と石田民三
- 29 島津保次郎監督特集
- *特別上映 第9回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
- 30 フランス映画を創った人たち — 第1期
- 31 — ハンガリー映画祭 — ハンガリー映画の30年
映画史上の名作

土曜特集

昭和50年度[1975]

- 32 収蔵映画未公開作品の上映 ― 戦前の時代劇を集めて
- 33 ― エリザベス女王御訪日記念 ― 英国映画の史的展望
- 34 特集・逝ける映画人を偲んで〈1974-1975〉
- 35 ― 昭和50年度(第30回記念)芸術祭協賛 ― 芸術祭大賞映画の回顧
- 36 フランス映画を創った人たち ― 第2期
- 37 小津安二郎監督特集
- 土曜特集 映画史上の名作

昭和51年度[1976]

- 38 戦後日本映画の流れ〈1946-1962〉 ― 収蔵映画未上映作品より ―
- 39 戦前オーストリア映画の回顧〈1919-1937〉
- 40 監督研究 衣笠貞之助
- 41 特集・逝ける映画人を偲んで〈1975-1976〉
- 42 70年代ポーランド映画の展望
- 43 ― 建国200年記念 ― アメリカ映画の史的展望〈1894-1936〉
- *特別上映 第10回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
- 44 木下恵介監督特集
- 45 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 映画史上の名作

昭和52年度[1977]

- 46 ― 文化功労者記念 ― 黒沢明監督特集
- 47 監督研究 伊藤大輔
- 48 現代ブルガリア映画の展望
- 49 恐怖と幻想の映画特集
- 50 長編ドキュメンタリー映画10選
- 51 夏休み少年少女名作鑑賞
- 52 特集・逝ける映画人を偲んで〈1976-1977〉
- 53 映画に見る昭和十年代
- 54 日本映画技術の展望 ― 戦後30年 ―
- 55 カナダ映画の史的展望
- 56 ソ連映画の史的展望〈1923-1946〉
- 57 日本のアニメーション映画〈1924-1958〉
- 58 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 日本映画特選／各国特選／映画史上の名作／昭和十年代公開のフランス映画

昭和53年度[1978]

- 59 日本映画の流れ〈1961-1966〉 ― 収蔵映画未上映作品より ―
- 60 映画史上の名作(第1集)
- 61 溝口健二監督特集
- 62 夏休み少年少女名作鑑賞
- 63 特集・逝ける映画人を偲んで〈1977-1978〉
- 64 ― 生誕100年記念 ― マキノ省三とその人脈
- 65 映画史上の名作(第2集)
- 66 チャプリン初期短篇特集
- ― キーストン、エッサネイ、ミューテュアル、ファースト・ナショナル時代 ―
- 67 デンマーク映画の史的展望
- 68 田坂具隆監督特集
- 69 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 各国の音楽映画／各国特選／映画史上の名作/短篇・文化・記録映画特集

昭和54年度[1979]

- 70 長谷川一夫特集
- 71 映画史上の名作
- 72 特集・逝ける映画人を偲んで〈1978-1979〉
- 73 夏休み少年少女名作鑑賞
- 74 成瀬巳喜男監督特集
- 75 現代ベルギー映画の展望
- 76 牛原虚彦監督特集
- 77 豊田四郎監督特集
- 78 戦後フランス映画秀作特集〈1945-1954〉
- 79 監督研究 ジャン・ルノワール
- 80 オーストラリア映画の史的展望〈1919-1956〉
- 81 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 各国特選／戦前の音楽映画／米英映画特選／溝口健二監督特選／小津安二郎監督特選(サイレント篇)／短篇文化・記録映画特集

昭和55年度[1980]

- 82 戦後日本映画の流れ〈1967-1971〉 — 収蔵映画未上映作品から —
- 83 監督研究 クロード・ジュトラ
- 84 映画史上の名作
- 85 特集・逝ける映画人を偲んで〈1979-1980〉
- 86 夏休み少年少女名作鑑賞
- 87 — 近代映画協会30年記念 — 監督研究吉村公三郎と新藤兼人
- 88 戦後フランス映画秀作集〈1955-1960〉
- 89 小津安二郎監督特集
- 90 マーティン・スコセッシ監督特集
- 91 スイス映画の史的展望〈1941-1979〉
- 92 — 国際障害者年協賛 — 春休み少年少女名作鑑賞
- 小津安二郎監督特選(アンコール上映Ⅰ)
- 土曜特集 戦後フランス映画秀作集(アンコール上映)／映画史上の名作(アンコール上映)／一つの原作・二つの映画／短篇・文化・記録映画特集

昭和56年度[1981]

- 93 ジョルジュ・サドゥール賞受賞作品選集
- 94 映画史上の名作
- 95 稲垣浩監督特集
- 96 特集・逝ける映画人を偲んで〈1980-1981〉
- 97 夏休み少年少女名作鑑賞
- 98 1920年代のドイツ映画
- 99 日本のトーキー：誕生から確立へ
- 100 イタリア古典映画特集
- 101 日本映画史研究(1) — 東映映画30年の歩み —
- 102 フィンランド映画の史的展望〈1940-1977〉
- 103 収蔵映画未上映作品集〈外国篇〉
- 104 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 小津安二郎監督特選(アンコール上映Ⅱ)／映画史上の名作／清水宏監督研究／短篇・文化・記録映画特集

昭和57年度[1982]

- 105 映画史上の名作
- 106 D.W.グリフィス監督特集
- 107 夏休み少年少女名作特集
- 108 特集・逝ける映画人を偲んで〈1981-1982〉
- 109 日本映画史研究(2)―東宝映画50年の歩み―
- 110 現代イギリス映画の展望
- 111 スウェーデン映画の史的展望〈1910-1969〉
- 112 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 短篇・文化・記録映画特集

昭和58年度[1983]

- 113 映画史上の名作
- 114 ジョン・フォード監督特集〈1917-1946〉
- 115 夏休み少年少女名作鑑賞
- 116 特集・逝ける映画人を偲んで〈1982-1983〉
- 117 フランス映画の回顧〈1930-1946〉(1)
- 118 今井正監督特集
- 119 フランス映画の回顧〈1930-1946〉(2)
- 120 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 短篇・文化・記録映画特集

昭和59年度[1984]

- 121 フィルムセンター所蔵映画選集(1)
河村黎吉選集／テレンス・フィッシャー監督選集／ラルフ・トーマス監督選集／〈忠臣蔵〉映画選集／〈エノケン〉映画選集／マイケル・パウエル&エメリック・プレスバーク監督選集／〈鞍馬天狗〉映画選集／カルミネ・ガッローネ監督選集
- 122 1920年代のドイツ映画―表現主義と新即物主義の間
- 123 撮影監督 宮川一夫特集
- 124 夏休み少年少女名作鑑賞
- 125 特集・逝ける映画人を偲んで〈1983-1984〉
- 126 スペイン映画の史的展望〈1951-1977〉
- 127 フィルムセンター所蔵外国映画選集
- 土曜特集 短篇・文化・記録映画特集

昭和60年度[1985]

- 128 フィルムセンター所蔵日本映画選集 ― 名傍役の魅力 ―
吉川満子選集／藤原釜足選集／浦辺粂子選集／浜村純選集／清川虹子選集／殿山泰司選集
- 129 中国映画の回顧〈1922-1952〉
- 130 所蔵外国映画選集Ⅱ〈フィルムセンター焼失フィルムのための募金の会寄贈による〉
- 131 フィルムセンター所蔵日本映画選集 ― 映画カメラマンの魅力 〈1921-1944〉
水谷文次郎(至宏)選集／杉山公平選集／三村明選集／高橋通夫(與吉)選集／伊藤武夫選集
- 132 特集・逝ける映画人を偲んで〈1984-1985〉

昭和61年度[1986]	133	フィルムセンター所蔵外国映画選集 中南米映画選／北欧映画選／G.W.パプスト監督選／アナトール・リト ヴァック監督選／カール・リッター監督選／ヴィリ・フォルスト監督選／ジュ リアン・デュヴィヴィエ監督選／マルセル・シャンタル主演映画選／ 1930年代のヨーロッパ音楽映画選／オムニバス映画選／ドキュメンタ リー映画選／アニメーション映画選／“映画の映画”選／金曜特集・ 無声映画選
	134	日本映画史研究(3) — 蒲田映画の世界(1921-1936)
	135	アメリカ映画の名匠たち — ラオール・ウォルシュとその時代(1914- 1939)
	136	現代スイス映画の展望
昭和62年度[1987]	137	蒲田映画の若き日 — 小津・清水・成瀬
	138	フィルムセンター所蔵日本映画選集
	139	特集・逝ける映画人を偲んで(1986-1987)
	140	中国映画の回顧(1932-1964)
	141	フィルムセンター所蔵外国映画選集
	142	フィルムセンター所蔵日本映画選集(1)
昭和63年度[1988]	143	フィルムセンター所蔵日本映画選集(2)
	144	特集・逝ける映画人を偲んで(1987-1988)
	145	フィルムセンター所蔵映画選集 — 日本のアニメーション
	146	フィルムセンター所蔵外国映画選集 — D.W.グリフィスとその時代
平成元年度[1989]	147	フィルムセンター所蔵日本映画選集 — 新興キネマの世界
	148	フランス映画の黄金時代
	149	日本映画の系譜
	150	戦後ヨーロッパ映画秀作選
平成2年度[1990]	151	シナリオ作家 依田義賢特集
	152	特集・「ポーランド派」の映画
	153	特集・逝ける映画人を偲んで(1988-1989)
平成3年度[1991]	154	発掘された映画たち — 小宮登美次郎コレクション
	155	特集・逝ける映画人を偲んで(1990-1991)
平成4年度[1992]	156	内田吐夢監督特集
	157	孫瑜監督と上海映画の仲間たち 中国映画の回顧
	158	フィルムセンター所蔵日本映画選集
平成5年度[1993]	159	知られざるアメリカ映画
	160	特集・逝ける映画人を偲んで(1991-1993)
平成6年度[1994]	161	サイレント・ルネサンス 映画と音楽の新たな出会いに向けて

平成7年度[1995]

- 162 開館記念特集 フィルムは魅了する：銀幕の体験
- 163 開館記念特集 フィルムは記録する：日本の文化・記録映画作家たち
- 164 マキノ雅広の世界：「次郎長三國志」と「日本侠客伝」
- 165 インド映画の魅力
- 166 1930年代ヨーロッパ映画10選
- 167 女優 山田五十鈴
- 168 特集・逝ける映画人を偲んで〈1993-1994〉
- 169 第8回東京国際映画祭協賛企画 特集上映 日本映画の系譜
- 170 特別企画上映／映画生誕百周年記念 シネマの冒険 闇と音楽
- 171 コニカラー：甦る国産カラー・プロセス 「緑はるかに」特別上映会
- 172 映画生誕百周年記念 ゴーモン映画の100年 フランス映画の100年
- 173 映画生誕百周年記念 ジョルジュ・メリエス 夢と魔法の王国
- 174 ゴーモン映画秀作選
- 175 1950年代の青空と太陽 マスムラ ナカヒラ

平成8年度[1996]

- 176 日本映画の発見Ⅰ：無声映画時代
- 177 日本映画の発見Ⅱ：トーキーの開始と戦前の黄金時代
- 178 芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽 1996
- 179 ジャン・ルノワール、映画のすべて。
- 180 フィルムは記録する '97：日本の文化・記録映画作家たち

平成9年度[1997]

- 181 日本映画の発見Ⅲ：戦争の時代
- 182 特集・逝ける映画人を偲んで 1995-1996
- 183 芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽 1997
- 184 NFC所蔵外国映画選集 1970年代映画の一断面
- 185 フィルムは記録する '98：日本の文化・記録映画作家たち

平成10年度[1998]

- 186 日本映画の発見Ⅳ：占領下のNIPPON
- 187 特集・逝ける映画人を偲んで 1997
- 188 シネマの冒険 闇と音楽 1998
- 189 憧憬のフランス映画 ― 1930年代を中心に ―

平成11年度[1999]

- 190 日本映画の発見Ⅴ：栄光の'50年代
- 191 発掘された映画たち 1999
- 192 ハリウッド伝説 ハワード・ホークス映画祭
- 193 シネマの冒険 闇と音楽：フリッツ・ラング選集

平成12年度[2000]

- 194 特別追悼特集 偉大なる“K” (1)：小林正樹
- 195 特別追悼特集 偉大なる“K” (2)：黒澤明
- 196 特別追悼特集 偉大なる“K” (3)：木下恵介
- 197 シネマの冒険 闇と音楽：オランダの無声映画 オランダ映画博物館
無声映画コレクションより
- 198 フィルムは記録する2001：日本の文化・記録映画作家たち
- 199 発掘された映画たち2001：ロシア・ Gosフィルモフォンドで発見された
日本映画

平成13年度[2001]

- 200 中国映画史の流れ：無声後期からトーキーへ
- 201 日本映画の発見Ⅵ：1960年代
- 202 日本におけるイタリア2001 イタリア映画大回顧
- 203 フィルムで見る20世紀の日本

平成14年度[2002]

- 204 NFC所蔵外国映画選集 追憶のスター女優たち
- 205 日本映画の発見Ⅶ：1970年代
- 206 こども映画館 2002年の夏休み
- 207 2002年日韓国民交流年記念事業 韓国映画一栄光の1960年代
- 208 シネマの冒険 闇と音楽 D・W・グリフィス選集
- 209 特集・逝ける映画人を偲んで 1998-2001 (1)
- 210 こども映画館 2003年の春休み

平成15年度[2003]

- 209 特集：逝ける映画人を偲んで 1998-2001 (2)
- 211 発掘された映画たち2003
- 212 映画監督 市川崑
- 213 社団法人映像文化製作者連盟創立50周年記念 短篇映像メディアに見る現代日本
- 214 日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映画の現在
- 215 聖なる映画作家、カール・ドライヤー
- 216 小津安二郎生誕100年記念 小津安二郎の藝術
- 217 第4回東京フィルメックス 特集上映 清水宏 生誕100年
- 218 シリーズ・日本の撮影監督 (1)

会 期
平成16年4月6日～4月25日(18日間)
会 場
大ホール
上映回数
36回
入場者総数
4,590人(1回平均128人)
協 力
駐日キューバ大使館、キューバ国立映画芸術産業庁(ICAIC)、国際シネマ・ライブラリー
雑誌・新聞関連記事
朝日新聞 平成16年3月26日
朝日新聞 平成16年3月27日
朝日新聞 平成16年4月1日夕刊
公明新聞 平成16年4月2日
しんぶん赤旗 平成16年4月2日
THE JAPAN TIMES 平成16年4月2日
東京新聞 平成16年4月6日夕刊
しんぶん赤旗 平成16年4月8日
しんぶん赤旗 平成16年4月13日
図書新聞 平成16年4月17日
中央区fan4月号 平成16年3月19日
ぱどNo.283 平成16年3月26日
千葉ウォーカー No.8 平成16年3月31日
麻布時間vol.1 平成16年春
SALSA120% vol.65 平成16年3月
週刊文春 平成16年4月8日
情況5月号 平成16年4月
MUSIC MAGAZINE6月号 平成16年6月

219 日本・キューバ外交関係樹立75周年記念 キューバ映画への旅

日本とキューバの外交関係樹立75周年を記念して、駐日キューバ大使館などの協力を得て、ラテンアメリカを代表する映画大国の一つであるキューバの長篇映画12本、短篇記録映画6本及びショート・ショート・アニメーション集を上映した。

上映フィルムの大半は日本で配給済のプリントであったが、そのほかにキューバ国立映画芸術産業庁(ICAIC)の協力により本国から無償で提供された記録映画の異才サンチアゴ・アルバレス監督の代表作、日本とキューバの初の合作『キューバの恋人』など、従前のキューバ映画上映の枠では紹介されてこなかった作品が加わり、プログラムにこれまでにない厚みが生まれた。また、駐日キューバ大使館の所蔵する、キューバ独自のデザインによる映画ポスターを上映会場で展示したことは、キューバの映画産業のオリジナリティを示す点でも大いに役立った。

Voyage to Cuban Cinema

Commemorating the 75th year anniversary of establishing diplomatic relations between Cuba and Japan, NFC showed, with cooperation by the institutions such as Cuban Embassy in Japan, a program of Cuban cinema consisting of 12 feature films, 6 short documentary films, and a program of short-short animation films.

In addition to the titles that had already been theatrically released in Japan, we were able to borrow, from Instituto Cubano de Arte e Industria Cinematográficos (ICAIC), the prints of the representative work by extraordinary documentary director, Santiago Alvarez, and the first Cuba-Japan co-production *Kyuba no koibito*. These titles added diversity to the program. Also, by exhibiting the original posters of Cuban films from the collection of the Cuban Embassy in Japan, we were able to show the uniqueness of Cuban film industry.



1

4/6(火)3:00pm 4/14(水)7:00pm 4/25(日)1:00pm

レボリューション 革命の物語(87分・35mm・白黒) HISTORIAS DE LA REVOLUCIÓN

'60(ICAIC) 監脚トマス・グティエレス・アレア脚ホセ・エルナンデス、ウンベルト・アレナル監オテロ・マルテッリ、セルヒオ・ペナル監カルロス・ファリーニャス、アロルド・グラマトヘス、レオ・ブローウェル監エドゥアルド・モウレ、リリアン・ジェレーナ、フランシスコ・ラゴ、ミリアム・ゴメス、カリスト・マレーロ、ブラス・モラ、トマス・ロドリゲス、エンカルニト・ロハス、パスクアル・サモラ、レイナルド・ミラバジェス、カルメン・ベルナル、ヘドゥ・マスコルレト

2

4/6(火)7:00pm 4/15(木)3:00pm 4/24(土)4:00pm

ルシア(160分・35mm・白黒) LUCÍA

'68(ICAIC) 監脚ウンベルト・ソラス脚フリオ・ガルシア・エスピノーサ、ネルソン・ロドリゲス監ホルヘ・エレラ脚ペドロ・ガルシア・エスピノーサ監レオ・ブローウェル監ラケル・レプエルタ、エスリンダ・スニェス、アデーラ・レグラ、エドゥアルド・モウレ、ラモン・ブリト、アドルフ・ジャウラード、イダリア・アンレウス、エルミニア・サンチェス、シルビア・プラナス、フローラ・ラウテン、マリア・エレナ・モリネット、テテ・ベルガラ、フラビオ・カルデリン

3

4/7(水)3:00pm 4/17(土)1:00pm

最後の晚餐(115分・35mm・カラー) LA ULTIMA CENA

'77(ICAIC) 監脚トマス・グティエレス・アレア脚トマス・ゴンサレス、マリア・エウヘニア・アヤ監マリオ・ガルシア・ホヤ脚カルロス・アルディッティ監レオ・ブローウェル監ネルソン・ビジャグラ、シルバーノ・レイ、ルイス・アルベルト・ガルシア、ホセ・アントニオ・ロドリゲス、サムエル・クラクストン、マリオ・バルマセダ、イデルフォンソ・タマヨ、ミルタ・イバラ

4

4/7(水)7:00pm 4/16(金)3:00pm 4/24(土)1:00pm

天国の晚餐(112分・35mm・カラー) LOS SOBREVIVIENTES

'78(ICAIC) 監脚トマス・グティエレス・アレア脚アントニオ・ベニテス・ロホ、コンスタンテ・ディエゴ、マリア・エウヘニア・アヤ監マリオ・ガルシア・ホヤ脚ホセ・M・ピラ監レオ・ブローウェル監エンリケ・サンティエステバン、アナ・ビーニャ、レイナルド・ミラバジェス、フアニータ・カルデビージャ、ヘルマン・ピネリ、ピンセンテ・レプエルタ、レオノル・ボレロ、カルロス・デ・ラ・テヘラ、アナ・リリアン・レンテリア、カルロス・モクテスマ、アルマンド・ソレル

5

4/8(木)3:00pm 4/23(金)7:00pm

ダビドの花嫁(99分・35mm・カラー) UNA NOVIA PARA DAVID

'85(ICAIC) 監オランダ・ロハス脚セネル・パス監リビオ・デルガード脚メルビン・ハコメ脚パブロ・ミラネス監ホルヘ・ルイス・アルバレス、マリア・イサベル・ディアス・ラゴ、フランシスコ・ガットルノ、エディット・マッソーラ、タイス・バルデス、セサル・エボラ、リнда・ミラバル、ローランド・タラハーノ、フアン・ファルコン

6

4/8(木)7:00pm 4/17(土)4:00pm 4/20(火)3:00pm

フルカウント(96分・35mm・カラー) EN TRES Y DOS

'85(ICAIC) 監脚ローランド・ディアス脚エリセオ・アルベルト・ディエゴ監ギジェルモ・センテノ脚ルイス・ラコスタ脚ホセ・マリア・ビティエル監サムエル・クラクストン、イレラ・ブラーボ、マリオ・バルマセダ、アレハンドロ・ルゴ、エルピラ・セルベラ、ルイス・アルベルト・ガルシア、アロルド・ドミニケ、ボビー・サラマンカ、エンリケ・モリナ、オルランド・カシン、ペドロ・カルボ、フランク・ゴンザレス、アルベルト・モリナ

7

4/9(金)3:00pm 4/18(日)1:00pm

成功した男(109分・35mm・カラー) UN HOMBRE DE ÉXITO

'86(ICAIC) 監脚ウンベルト・ソラス脚フアン・イグレシアス監リビオ・デルガード脚メルビン・ハコメ脚ルイジ・ノーノ監セサル・エボラ、デジー・グラナドス、ルベンス・デ・ファルコ、ホルヘ・トリンチェト、マベル・ロチェ、ラケル・レプエルタ、カルロス・クルス、ミゲル・ナバロ、オマル・バルデス、ホルヘ・アリ、マックス・アルバレス、ノラ・モンテス、オルランド・コントラス

8

4/9(金)7:00pm 4/21(水)3:00pm

危険に生きて(92分・35mm・カラー) CLANDESTINOS

'87(ICAIC) 監原フェルナンド・ペレス脚ヘスス・ディアス監アドリアーノ・モレノ脚エデシオ・アレハンドロ脚ルイス・アルベルト・ガルシア、イサベル・サントス、スサーナ・ペレス、レネ・ロサーダ、アマト・デル・ピノ、ミゲル・グティエレス、ミゲル・ナバロ

9

4/10(土)1:00pm 4/16(金)7:00pm

公園からの手紙(90分・35mm・カラー) CARTAS DEL PARQUE

'88(ICAIC=テレビジョン・エスパニョーラ) 監脚トマス・グティエレス・アレア(原)脚ガブリエル・ガルシア・マルケス脚エリセオ・アルベルト・マリオ・ガルシア・ホヤ脚フェルナンド・ペレス・オレリ監ゴンサロ・ルバルカバ監ビクトル・ラブラーセ、イボンネ・ロペス、ミゲル・ナバーケ、ミルタ・イバラ、アドルフ・ジャウラード、エリオ・メサ、パウラ・アウ、アメリタ・ピタ、ダゴベルト・ガインサ、ラウル・エグレン、ホルヘ・アリ

10

4/10(土)4:00pm 4/21(水)7:00pm

ハロー ヘミングウェイ(90分・35mm・カラー)**HELLO HEMINGWAY**

'90(ICAIC) 監フェルナンド・ペレス脚マイダ・ロジェロ監フリオ・バルデス脚オネリオ・ララルデ脚エデシオ・アレハンドロ脚ラウラ・デ・ラ・ウス、ラウル・パス、エルミニア・サンチェス、ホセ・アントニオ・ロドリゲス、モDESTO・アラニス・フォン・デア・メーデン、マリア・イサベル・ディアス、エンリケ・モリーナ、マルタ・デル・リオ

4/11(日)1:00pm 4/22(木)7:00pm

苺とチョコレート(110分・35mm・カラー) FRESA Y CHOCOLATE
 '93(ICAIC=IMCINE=タバスコ・フィルム=テレ・マドリッド=SGAE) 監トマス・グティエレス・アレア(共同監督)フアン・カルロス・タビオ原脚セネル・パス脚マリオ・ガルシア・ホヤ美フェルナンド・オレリ音ホセ・マリア・ビティエル脚ホルヘ・ペルゴリア、ウラディミール・クルス、ミルタ・イバラ、フランシスコ・ガットルノ、ジョエル・アンヘリーノ、マリリン・ソラヤ、アンドレス・コルティナ、アントニオ・カルモナ、リカルド・アピラ、マリア・エレナ・デル・トロ、ゾランダ・オニヤ、ディアナ・イリス・デル・ブレルト

4/11(日)4:00pm 4/15(木)7:00pm 4/23(金)3:00pm

短篇集[1]: サンチアゴ・アルバレス選集(計63分)

ハノイ13日火曜日(38分・16mm・パートカラー)

HANOI, MARTES 13

'67(ICAIC) 監サンチアゴ・アルバレス脚イバン・ナボレスほか

79歳の春(25分・35mm・白黒・日本語字幕なし) 79 PRIMAVERAS

'69(ICAIC) 監サンチアゴ・アルバレス脚イバン・ナボレス

4/13(火)3:00pm 4/18(日)4:00pm

短篇集[2](計70分)

エル・メガノ(25分・35mm・白黒) EL MÉGANO

'55監脚フリオ・ガルシア・エスピノーサ、トマス・グティエレス・アレア脚アルフレード・ゲバラ、ホセ・マシッブ

われらの土地(19分・35mm・白黒) ESTA TIERRA NUESTRA

'59(軍映画局) 監トマス・グティエレス・アレア脚フリオ・ガルシア・エスピノーサ脚ホルヘ・エレーラ音フアン・ブランコ(解)フランシスコ・フォルカデ

侵略者に死を(16分・35mm・白黒・日本語字幕なし) MUERTE AL INVASOR

'61(ICAIC) 監サンチアゴ・アルバレス、トマス・グティエレス・アレア

はじめて映画を見た日(10分・35mm・白黒) POR PRIMERA VEZ

'67(ICAIC) 監脚オクタビオ・コルタサル脚ホセ・ロベス音ラウル・ゴメス

4/13(火)7:00pm 4/22(木)3:00pm

キューバ・アニメーション傑作集(計85分)

「キノスコピオ」シリーズ(29分・35mm・カラー) QUINOSCOPIO

'85~(ICAIC) 監フアン・パドロン脚ホアキン・ラバド(キーノ)動画マリオ・ガルシア・モンテス音ダニエル・ロングレス

「フィルミヌート」シリーズ(56分・35mm・カラー) FILMINUTO

'80~(ICAIC) 監脚マリオ・リバス、トゥリオ・ラッジ、フアン・パドロン脚アルフレード・ロドリゲスほか動画ホセ・レイジェス、ノエル・リマ音ダニエル・ロングレス

4/14(水)3:00pm 4/20(火)7:00pm 4/25(日)4:00pm

キューバの恋人(100分・35mm・白黒)

'69(黒木プロ=ICAIC) 監脚黒木和雄脚阿部博久、加藤一郎脚鈴木達夫音松村禎三脚津川雅彦、ジュリー・ブラセンシア、グロリア・リー、アルマンド・ウルバッチ、フランシスコ・カスティセーノ、ニコラス・ギリエン、ジャン・クロド、フィデル・カストロ首相

* 監=監督 原=原作 脚=脚本 脚=撮影 音=音楽 美=美術
 出=出演 解=ナレーション

会 期
平成16年4月27日～6月27日 (54日間)
会 場
大ホール
上映回数
108回
入場者総数
10,812人(1回平均100人)
共 催
福岡市総合図書館
雑誌・新聞関連記事
読売新聞 平成16年4月9日夕刊 REAL TOKYO HP 平成16年4月30日 KAIBIGAN No.155 平成16年5月1日 Malaysia Times 平成16年5月1日 SUMAI TIMES 平成16年5月1日 SHWE BAMER 平成16年5月1日 NUANSA INDONESIA MEDIA 平成16年5月1日 しんぶん赤旗 平成16年5月13日 朝日新聞 平成16年5月17日夕刊 公明新聞 平成16年5月28日 月刊インドネシア3月号 平成16年 なぎさ6月号 平成16年6月1日

220 アジア映画－“豊穣と多様”

アジア諸国の映画の収集・保存を大きな特色とし、平成16年には国際フィルム・アーカイヴ連盟に加盟した福岡市総合図書館との共催により、東南アジア・南アジア諸国の名作54本を上映した。うち41本は同図書館所蔵のフィルムである。

インド映画の上映は過去にも実施したが、東南アジア・南アジアの映画を総合的に上映したのはフィルムセンター初の試みである。福岡市総合図書館との緊密な連絡のもと、上映カレンダーの執筆を長年アジア映画の上映に携わってきた石坂健治氏(国際交流基金)に依頼し、専門家の知識を活用した。

Asian Cinemas: “Fertile and Diverse”

NFC co-organized this program with the Fukuoka City Public Library which joined FIAF (the International Federation of Film Archives) in 2004. The program consisted of 54 films from South-East and South Asian countries, and 41 of them were borrowed from the collection of the Library which is well-known for the collection and restoration of Asian films.

It was the first comprehensive program of South-East and South Asian films at NFC while Indian films had been shown before. We commissioned Kenji Ishizaka of the Japan Foundation, Asian film specialist, to write the program notes.



インド India

1

4/27(火)7:00pm 5/28(金)3:00pm
ストリート・シンガー (132分・35mm・白黒) STREET SINGER
'38監P・マジュムダール監ディリプ・グプタ音B・C・ポーラール
田K・L・サイガル、カーナン・デーヴィー (パラー)、ジャグディーシュ・
セーティー

2

4/27(火)3:00pm 5/29(土)4:00pm
詐欺師 (171分・35mm・白黒) SHREE 420 (Mr. 420)
'55監田ラージ・カプール原脚K・A・アッパース脚V・P・サーデー
監ラドゥ・カルマカル音シャンカル・ジャイキシャン田ナルギス、ナディ
ラー

3

4/28(水)3:00pm 5/29(土)1:00pm
渇き (147分・35mm・白黒) PYAASA (THE THIRSTY ONE)
'57監グル・ダット原グル・ダット、アブラール・アルヴィー 田アブラール・
アルヴィー 監V・K・ムールティ音S・D・バルマン田グル・ダット、ワヒー
ダー・ラフマーン、マラー・シンハー、ラフマーン、ジョニー・ウォーカー

4

4/28(水)7:00pm 5/30(日)1:00pm
音楽ホール (99分・35mm・白黒) JALSAGHAR (THE MUSIC
ROOM)
'58監田サタジット・レイ原タラシヨンコル・ボンドパッダエ監スプラタ・
ミトラ音ヴィラーヤト・カーン田チャピ・ビスワース、パドマー・デーヴィー、
ガンガーバダ・ハース、ペーガム・アクタール、ローシャン・クマリー

5

4/29(木・祝)1:00pm 5/28(金)7:00pm
紙の花 (149分・35mm・白黒) KAAGAZ KE PHOOL (PAPER
FLOWERS)
'59監グル・ダット田アブラール・アルヴィー 監V・K・ムールティ
音S・D・バルマン田グル・ダット、ワヒーダー・ラフマーン、ジョニー・
ウォーカー、ベビー・ナース、ヴィーナー

6

4/29(木・祝)4:00pm 6/1(火)3:00pm
雲のかげ星宿 (127分・35mm・白黒) MEGHE DHAKA TARA
(THE CLOUD CAPPED STAR)
'60監脚リトウィック・ガタク原ジャクティバダ・ラージグル監ディネー
ン・グプタ音ジョーティリンドラ・モイトラ田スプリヤー・チョウドリー、アニル・
チャテルジー

7

4/30(金)3:00pm 6/5(土)4:00pm
アマル・アクバル・アントニー (174分・35mm・カラー) AMAR
AKBAR ANTHONY
'77監マヌモハン・デサイ原J・M・デサイ夫人脚ブラヤグ・ラー
ジ監ピーター・ペレイラ音ラクシュミーカント=ピャーレーラール田アミ
ターブ・パッチャン、ヴィノード・カンナー、リシ・カプール、パルヴィーン・
パービー、ニートゥー・シン、シャバーナー・アーズミー

8

4/30(金)7:00pm 6/6(日)1:00pm
黄金のシーター (87分・35mm・カラー) KANCHANA SITA (GOLDEN
SITA)
'77監脚G・アラヴィンダン監シャージ・N・カルン音ラージーヴ・ター
ラーナート田ラームダース、ヴェンカテシュワルル、チンナプーリアー、
ケーシャヴ・パニッカル

9

5/1(土)4:00pm 6/4(金)3:00pm
ミュージカル女優 (143分・35mm・白黒) BHUMIKA (THE ROLE)
'77監シャーム・ベネガル脚ギリッシュ・カルナード、サッティヤデーウ・
ドゥーベー、シャーム・ベネガル監ゴーヴィンド・ニハーラーニー 音ヴァ
ンナージ・パーティーヤ 田スミター・パーティール、アモール・パーレー
カル、アナント・ナグ、ナスイールッディーン・シャー、アムリーシュ・
ブリー、クルブーシャン・カルバンダー、キラン・ヴァイラーレー

10

5/1(土)1:00pm 6/1(火)7:00pm
サーカス (130分・35mm・白黒) THAMPU (THE CIRCUS TENT)
'78監脚G・アラヴィンダン監シャージ・N・カルン音K・N・パニッカル、
M・G・ラーダークリシュナン田ゴビー、ヴェス、シェリラーマン、ジャ
ラジャ、ニラントゥ・ラーマ・ポトゥヴァル

11

5/2(日)1:00pm 6/2(水)7:00pm
苦いひとくち (92分・35mm・白黒) NEEM ANNAPURNA
'80監ブッダデーブ・ダスグプタ脚モルクマール・モジュムダル監モル・
ナエグ音デバシシュ・ダスグプタ田モニディパ・ラエ、ジュニム・ムコパッ
ダエ、パッショティ・ダスグプタ、ジョイタ・ショルカル、モノジト・ラヒリ、
ニハル・ラエ

12

5/2(日)4:00pm 6/3(木)3:00pm
魔法使いのおじいさん (89分・35mm・カラー) KUMMATTY (THE
BOGEY-MAN)
'79監G・アラヴィンダン脚K・N・パニッカル、G・アラヴィンダン監シャ
ージ・N・カルン美ナンプーディリ音M・G・ラーダークリシュナン、K・
N・パニッカル、G・アラヴィンダン田ラームニ、アショーカン、ヴィラー
シニ・リーマ

13

5/4(火・祝)1:00pm 6/2(水)3:00pm

おとぎ話(124分・35mm・カラー) BHAVI BHAVAI (A FOLK TALE)

'80監脚ケータン・メーハター 脚クリシュナカント“ブンミー” 音ゴウラング・ヴァース 音ナスイールツディーン・シャー、スミター・パーティル、モーハン・ゴーカレー、オーム・プリー、ディーナール・バータク、スハーシニー・ムレー、ベンジャミン・ギラーニー、ニメシュ・デーサーイー

14

5/4(火・祝)4:00pm 6/3(木)7:00pm

占拠(73分・35mm・カラー) DAKHAL (THE OCCUPATION)

'81監脚音ゴータム・ゴース 原スシール・ジャンー 脚ゴータム・ゴース、パルター・パネルジー 音ママター・シャンカル、ラビーン・セーン・グプタ、スニール・ムコッパチャイー、サジャル・ラーイ・チョウドリー、ビマル・デーブ、トゥバイ・ゴース、パプルー・サルカール、スシール・ジャンー

[English subtitled]

15

5/5(水・祝)1:00pm 6/4(金)7:00pm

対面(107分・35mm・カラー) MUKHAMUKHAM (FACE TO FACE)

'84監原脚アドウール・ゴーパーラクリシュナン 脚ラヴィ・ヴァルマー 音M・B・シュリーニヴァーサン 音P・ガンガ、B・K・ナーヤル、カヴィユール・ボンナマン、クリシュナ・クマール、カラマナ、ティラカン、ヴィシュワナータン、アショーカーン

16

5/5(水・祝)4:00pm 6/8(火)3:00pm

渡河(130分・35mm・カラー) PAAR (THE CROSSING)

'84監脚音ゴータム・ゴース 脚ゴータム・ゴース、パルター・パナルジー 音ナスイールツディーン・シャー、シャバーナー・アーズミー、オーム・プリー、ウトバル・ダット

17

5/6(木)3:00pm 6/9(水)7:00pm

ゴアの恋歌(141分・35mm・カラー) TRIKAL (PAST, PRESENT, FUTURE)

'85監原脚シャーム・ベネガル 脚アショーク・メーハター 音ヴァンラージ・パーティアー 音リーラー・ナードゥー、ニーナール・グプター、ナスイールツディーン・シャー、アニター・カーンワル、ソーニー・ラーズダン、ニキル・バガト

18

5/6(木)7:00pm 5/30(日)4:00pm

希望の行方(132分・35mm・カラー) DISHA (THE IMMIGRANTS)

'90監原脚サイー・バラランジペー 脚マドゥ・アンバト、G・S・パースカル 美マーダブ・ヤトレー、マダン・ボールカー 音アーナンド・モードク 音シャバーナー・アーズミー、ナーナール・バーテカル、ラグヴィール・ヤーダヴ、オーム・プリー、ラージシュリー・サーワント、ニル・プレー

19

5/7(金)3:00pm 6/8(火)7:00pm

ロージャー (140分・35mm・カラー) ROJA

'92監脚マニラトナム 脚サントーシュ・シヴァン 音A・R・ラフマーン 音アラヴィンダ・スワミ、マドゥバーラー、バンカジ・カプール

インドネシア Indonesia

20

5/7(金)7:00pm 6/5(土)1:00pm

ドゥルの少年期(86分・35mm・カラー) SI DOEL ANAK BETAWI (DOEL, THE BETAWI BOY)

'73監脚シュマンジャヤ 脚H・シャムスディン・ユスフ 音イスバンディ 音シュマンジャヤ、ラノ・カルノ、フィフィ・ユン、スカルノ・M・スール、トゥティ・キラナ、ベニヤミン・S

21

5/8(土)1:00pm 6/9(水)3:00pm

母(103分・35mm・カラー) IBUNDA (MOTHER)

'86監原脚トググ・カルヤ 脚ジョージ・カマルラー 音B・ペニー・MS 音イドゥリス・サルデン 音アレックス・コマン、ニニック・L・カリム、トゥティ・インドラ・マラオン、アユ・アザリ、カセプ・フシン、オニー・マヨル、リア・イラワン

22

5/8(土)4:00pm 6/10(木)3:00pm

一切れのパンの愛(97分・35mm・カラー) CINTA DALAM SEPOTONG ROTI (LOVE IN A SLICE OF BREAD)

'91監脚ガリン・スグロホ 脚M・サレン・ルスラニ 音サプト・ボエソノ 音ドウィキ・ダルマワン 音ティオ・バクサデウォ、アジ・マッサイド、リズキー・エルゼット・テオ、モニカ・ウマルディ、スピナ

カンボジア Cambodia

23

5/9(日)1:00pm 6/10(木)7:00pm

空白のページ(99分・35mm・カラー) WHITE PAGE

'91監脚ホー・クアン・ミン 脚レー・ディン・アン 音ダム・リン 音ブアン・デウン、ワン・ティー、ボラ&ハリ、ロック・チャンナラ

スリランカ Sri Lanka

24

5/9(日)4:00pm 6/11(金)3:00pm

運命線(89分・35mm・白黒) REKAWA (THE LINE OF DESTINY)

'56監原脚レスター・ジェームズ・ピーリス 脚ウィリアム・ブレイク 音スニール・サーンタ、K・A・ダヤーラトゥナ 音ソーマパーラ・ダルマプリアー、アイランガニー・ミーデニヤ、セーシャ・バリハッカーラ、マータル・フェルナンド

25

5/11(火)3:00pm 6/6(日)4:00pm

川のほとり (102分・35mm・カラー) GANGA ADDARA (RIVER'S EDGE)

’80監スミトラ・ピーリス 脚ドンナラ・カルナラトッナ 美ヘーマパーラ・ダルマセーナ 音ニマル・メンディス 出ワサンティ・チットラーニ、トーニ・ラナシンハ、リーナ・ディ・シルバ、サナトゥ・グナティラカ、ウィジャヤ・クマーラトウンガ、シャントウ・レーカー、ヘンリー・ジャヤセーナ

26

5/11(火)7:00pm 6/12(土)1:00pm

ジャングルの村 (125分・35mm・カラー) BADDEGAMA (VILLAGE IN THE JUNGLE)

’80監 脚レスター・ジェームズ・ピーリス 原レオナルド・ウルフ 出ジョー・アベューウィックラマ、マリーニー・フォンセカ、ナディーカ・グナセーカラ、トゥリーリシア・アベューコーン、ウィジャヤ・クマーラトウンガ、ヘンリー・ジャヤセーナ、D・R・ナーナヤッカーラ、トーニ・ラナシンハ、A・C・クラーク

27

5/12(水)3:00pm 6/11(金)7:00pm

心の闇 (80分・35mm・カラー) ANANTHA RATHRIYA (DARK NIGHT OF THE SOUL)

’95監 脚ブラサンナ・ヴィターナゲー 脚マヒンダパーラ 音ハルシャ・マカランダ 出ラウインドラ・ランデニヤ、スワルナ・マッラワアーラッチ、アショーカ・ピーリス、ヤショーダ・ウィマラダルマ

タイ Thailand

28

5/12(水)7:00pm 6/12(土)4:00pm

白象王 (100分・16mm・白黒・日本語字幕なし) THE KING OF THE WHITE ELEPHANT

’40監サン・ワスターン 脚ブリーディー・パノムヨン 脚ブラサート・スクム 美ヤーチャイ・チトラボン 音プラ・チェンドゥリヤーン 出レーヌー・クリットターコーン、スワット・ニエンチェーン、ルアン・シースラーン、パイリン・ニエンチェーン

29

5/13(木)3:00pm 6/13(日)1:00pm

傷あと (129分・35mm・カラー) PLAE KAO (THE SCAR)

’77監チュート・ソンスイー 原マイ・ムアンドゥーム 脚ラビボーン・トム・タートリー 脚カウィ・キアッティナン 美ウライ・シリソムパット 出ソーラボン・チャトリー、ナンタナー・ガオクラチャーン、スウィン・サワーンラット、サガー・アラムピー

30

5/13(木)7:00pm 6/19(土)1:00pm

スパンの血 (138分・35mm・カラー) LOED SUPAN

’79監チュート・ソンスイー 原ルアン・ヴィチットラカーン 脚トム・タートリー 脚カウィ・キアッティナン 美ウライ・シリソムパット 出パイロート・サングロリヴット、ララナー・サラワーン

31

5/14(金)3:00pm 6/13(日)4:00pm

やさ男 (117分・35mm・カラー) PHO PLAALAL

’80監チュート・ソンスイー 原カノック・レーカー 脚トム・タートリー (チュート・ソンスイー) 脚カウィ・キアッティナン、サラウット・ウディチャイ 出ソムパット・メータニー、ナワラット・ユッタナン

32

5/14(金)7:00pm 6/15(火)3:00pm

プアンとペーン (132分・35mm・カラー) PUEN-PAENG

’83監チュート・ソンスイー 脚トム・タートリー 脚カウィ・キアッティナン 出ソーラボン・チャトリー、ヴィロート・クワンタンム、ピヤ・トラクラートブー

パキスタン Pakistan

33

5/15(土)1:00pm 6/15(火)7:00pm

七つの海を越えて (88分・35mm・カラー) BAK SJU HAV (BEYOND THE SEVEN SEAS)

’91監 脚サイド・アンジュム、エスベン・トールシュテンソン 脚ハルヴォル・ネス 美インゲボルイ・クヴァンメ 音ザキール・フセイン 出サジド・フセイン、ザフル・マリク、ルビナ・J・ラナ、ハンス・クレヴェル、ピア・K・クリステンセン

バングラデシュ Bangladesh

34

5/15(土)4:00pm 6/16(水)3:00pm

車輪 (65分・35mm・カラー) THE WHEEL

’93監 脚モルシェドウル・イスラム 原セルム・アル・ディーン 脚アノワール・ホセイン 美アクラム・ホセイン 音ブロク・グプト 出アミール・ホク・チョードリ、アシシュ・コンドカル、ディララ・ザマーン、マープハ・モホシン・ジュヤ

フィリピン Philippines

35

5/16(日)1:00pm 6/16(水)7:00pm

まことの母 (96分・35mm・白黒) TUNAY NA INA (TRUE MOTHER)

’39監 脚オクタヴィオ・シロス 脚セサル・シロス 音ミゲル・ペランデ 出ロサリオ・モレノ、ルディー・コンセプション、ティタ・ドゥラン、エクセキエル・セゴビア、ナティ・ルビ

36

5/16(日)4:00pm 6/17(木)3:00pm

廃墟からの旅立ち (119分・16mm・白黒) ANAK DALITA (CHILD OF MISERY/THE RUINS)

’56監ランベルト・アベリャーナ 脚ロルフ・バイヤー 脚マイク・アクション 出トニー・サントス、ローサ・ロサル、ホセ・デ・コルドバ、ヴィック・シラヤン、リロイ・サルバドル、ローサ・アギーレ

37

5/18(火)3:00pm 6/19(土)4:00pm

ノリ・メ・タンヘレ(180分・35mm・白黒) NOLI ME TANGERE (TOUCH ME NOT)

'61監ヘラルド・デ・レオン原ホセ・P・リサル脚ヘラルド・デ・レオン、ホセ・フローレス・シバル監エマヌエル・ロハス、アルセニオ・バス美カルロス・V・フランシスコ音ティト・アレバロ監エドワード・デル・マル、エディタ・ピタル、ジョニー・モンテイロ

38

5/18(火)7:00pm 6/20(日)1:00pm

インシアン(93分・35mm・カラー) INSIANG

'76監リノ・ブロッカ脚マリオ・オハラ、ランベルト・E・アントニオ監コンラッド・バルタサル音ミンダ・D・アサルコン監ヒルダ・コロネル、モナ・リサ、ルエル・ヴェルナール、レス・コルテス

39

5/19(水)3:00pm 6/20(日)4:00pm

水の中のほくら(118分・35mm・カラー) NUNAL SA TUBIG (SPECK IN THE WATER)

'76監イシュマエル・ベルナル原脚ホルヘ・アラゴ監アルノルド・アルヴァロ美ベティ・ゴシンフィアオ音サ・ヴァニシング・トライブ監エリザベス・オロベサ、ジョージ・エストレガン、ダリア・ラミレス、エリヤ・ルアンシン、ルスティカ・カルビオ、ネニタ・ハナ

40

5/19(水)7:00pm 6/26(土)1:00pm

神のいない三年間(120分・35mm・カラー) TATLONG TAONG WALANG DIYOS (THREE GODLESS YEARS)

'76監脚マリオ・オハラ監コンラッド・バルタサル音ミランダ・D・アサルコン監ノラ・オノール、クリストファー・デ・レオン、ラファエル・ロコ・Jr.、オーランド・R・ナドレス、ペキエ・ガリヤガ、マリオ・エスクデロ、ヨランダ・ルナ

41

5/20(木)3:00pm 6/26(土)4:00pm

悪夢の香り(95分・16mm・カラー) MABABANGONG BANGUNGOT (PERFUMED NIGHTMARE)

'77監原キッドラット・タヒミック監ハルトムート・レルヒ美カタリーナ・ミュラー監キッドラット・タヒミック、マン・フェリイ、ドロレス・サンタマリア、ハルトムート・レルヒ、カタリーナ・ミュラー、ジョジェト・ボードリイ

42

5/20(木)7:00pm 6/27(日)1:00pm

トゥルンバ祭り(87分・16mm・カラー) TURUMBA

'83監脚キッドラット・タヒミック監ロベルト・イニゲス音マンディ・アフアング監ホーマー・アビアド、イニゴ・ヴィト、マリア・ベヒボル、パティ・アバリ

43

5/21(金)3:00pm 6/27(日)4:00pm

カルナル 愛の不条理(110分・35mm・カラー) KARNAL (OF THE FLESH)

'84監マリルー・ディアス＝アバヤ脚リカルド・リー監マノロ・アバヤ美フィエル・サバト音ライアン・カヤビャブ監チャリト・ソリス、フィリップ・サルヴァドール、セシル・カスティリオ、ヴィク・シラヤン

ベトナム Viet Nam

44

5/21(金)7:00pm 6/22(火)3:00pm

静か過ぎる町(73分・35mm・白黒) THỊ TRẤN YÊN TĨNH (THE QUIET TOWN)

'86監レー・ドゥック・ティエン脚ドアン・チュック・クイン監チャン・クオック・ズン美グエン・ゴック・トゥアン音ドー・ホン・クアン監チン・ティン、ラム・ピック、ブイ・バイ・ビン、トワイ・ハ200ン

45

5/22(土)1:00pm 6/17(木)7:00pm

夢の中のランプ(74分・35mm・白黒) NGỌN ĐÈN TRÔNG MƠ (LIGHT IN DREAM)

'87監ドー・ミン・トゥアン脚レー・ゴック・ミン監ファム・ゴック・ラン美グエン・ヴァン・グイー音ドー・ホン・クアン監トゥアン・ズン、トゥー・チャン、チン・ティン、トウエ・ミン

46

5/22(土)4:00pm 6/18(金)3:00pm

幸福になりたい(84分・35mm・白黒) NGƯỜI CẦU MAY (LUCK TRIER)

'89監トゥ・フイ脚ドアン・レー監チャン・クオック・ズン美ズオン・クイ・ヒエップ監レー・フォン監チャン・ゴック・ハイン、グオック・トア、タイン・トワイ、トー・トワイ

47

5/23(日)1:00pm 6/18(金)7:00pm

街角の歌(87分・35mm・カラー) ĐÔI HÁT RONG (THE STROLLING SINGERS)

'91監チャウ・フエ脚グエン・マイン・トゥアン監チャウ・クアン美ファン・クアン・ズン音ホン・ダン監トゥー・ハー、チャン・ルック、キム・タイン、ホアン・ソン

48

5/23(日)4:00pm 6/22(火)7:00pm

悪魔のしるし(85分・35mm・カラー) DẤU ẤU CU' A QUỶ (DEVIL'S MARK)

'92監ヴィエト・リン脚ファム・トワイ・ニャン監ドアン・クオック美ファ・ホン・フォン音フー・クアン監ゴック・ヒエップ、ドン・ズオン、レー・クン・バック

マレーシア Malaysia

49

5/25(火)3:00pm 6/23(水)7:00pm

女、妻、そして娼婦(118分・35mm・カラー) PEREMPUAN, ISTERI DAN JALANG (WOMAN, WIFE AND WHORE)

'93監脚ウ=エイ・ピン・ハジサアリ脚アジサン・イシヤク編ラシュ・サリム音アスミュー・ウマル脚ソフィア・ジェーン・ヒシャム、ナシル・ヒラン・カン、ユソフ・モハマド、フェッティ・ズー、ノーマ・ダマンフリ、M・ラジョリ

50

5/25(火)7:00pm 6/24(木)3:00pm

ジミ・アスマラ(105分・35mm・カラー) JIMI ASMARA

'94監エルマ・ファティマ原BNEスタジオ脚シャフディン・シャリフ編アリアス・マイディン脚ハニ・モフセン、ラジャ・アズラ、アスハ・スライマン、ジャマルディン・ハサン、マイズラ・ハムザ、ワン・マイムン

51

5/26(水)3:00pm 6/24(木)7:00pm

放火犯(70分・35mm・カラー) KAKI BAKAR (THE ARSONIST)

'94監脚ウ=エイ・ピン・ハジサアリ脚アリ・コン・フセイン美ジョハリ・ハミット音エンビー・C・ノール脚ハリット・サレ、アジザ・マザン、ガスリザル・ガスリ

[English subtitled]

52

5/26(水)7:00pm 6/25(金)3:00pm

愛しのサルマ(123分・35mm・カラー) SAYANG SALMAH

'95監編マハーディ・ムラー製ハジ・ムハマッド・アドゥ・ガニ脚モハマド・ハニ・マヒディン美ナズル・アスラフ・マザン編マハーディ・J・ムラー音アナン・アブ・ハサン脚アスハ・スライマン、ファウズィア・ナウイ、スィディ・オラザ、ソフィア・ジェーン、サリブ・ユーノス、ジャラルディン・ハサン、ウォン・スィ・ネム、オマディン・シブディン

ミャンマー Myanmar

53

5/27(木)3:00pm 6/25(金)7:00pm

にっぽんむすめ(85分・35mm・白黒・日本語字幕なし) JAPAN YINTHWE (THE JAPANESE DESCENDANT)

'36監ウー・ニイブ脚ウー・ニイブ、ウー・ティンベ、高尾光子、ウー・サンニェン

54

5/27(木)7:00pm 6/23(水)3:00pm

川の流れるように(115分・35mm・カラー) SOON YAI (DOWNSTREAM)

'89監脚チー・ソウ・トン脚チ・ミン・ルー音トランベット・ウィン・ウー脚チャー・ヘイン、キン・タン・ヌ、ウー・ウィン・スウェー、ドウ・ニン・チー

* 監=監督 原=原作 脚=脚本 撮=撮影 美=美術 編=編集
音=音楽 出=出演

会 期	
平成16年7月6日～8月29日(48日間)	
会 場	
大ホール	
会 期	
96回	
入場者総数	
10,191人(1回平均106人)	
雑誌・新聞関連記事	
公明新聞	平成16年6月11日
産経新聞	平成16年6月20日
毎日新聞	平成16年6月23日夕刊
定年時代	平成16年7月1日
高知新聞	平成16年7月2日
朝日新聞	平成16年7月3日夕刊
信濃新聞	平成16年7月8日夕刊
図書新聞	平成16年7月10日
埼玉新聞	平成16年7月10日
奈良新聞	平成16年7月10日
下野新聞	平成16年7月12日
しんぶん赤旗	平成16年7月16日
ぽど中央区・江東区西エリアNo.795	平成16年6月25日
芸術新潮7月号	平成16年6月
Pooka 絵本工房7月号	平成16年6月
Weeklyびあ	平成16年7月5日
STUDIO VOICE Vol.343	平成16年7月
中央区fan35号	平成16年7月9日
シネフロント6月号	平成16年
hanako No.795	平成16年7月21日
沼津市生涯学習情報紙「さんさんだより8月号」	平成16年7月28日
なぎさ8月号	平成16年8月1日
Tokyo Walker No.24	平成16年8月17日

221 日本アニメーション映画史

“漫画映画”の草創期である大正時代から、日本初の本格的な商業プロダクションである東映動画が軌道に乗る1960年前後までに製作された多様なアニメーション作品、そして1960年代後半から活躍を始め独自の地位を築いたアニメ作家・岡本忠成と川本喜八郎の作品、あわせて239本の国産アニメーション映画を作家別に上映した。

フィルムセンターの所蔵する1960年前後までのアニメーション作品のほとんどを上映することで、コレクションの深みを来場者に強く印象付けるとともに、展示企画「造形作品でみる岡本忠成アニメーションの世界」との連動により立体感のある企画となり、夏休み期間の児童・生徒の来場にも結びついた。さらに作品の調達や上映を通じて、作家の関係者や遺族とのつながりが生まれ、今後の国産アニメ史研究へも寄与した。

A History of Japanese Animation

The total of 239 Japanese animation films were shown in this program including the works made in the Taisho era (1912-26), the pioneer days of “*manga eiga* (cartoon movie),” works made around the 1960s when the first significant commercial production, Tōeidoga, became well under way, and works by artists Tadanari Okamoto and Kihachirō Kawamoto who started filmmaking in the 1960s and quickly established their unique statuses in the industry.

By showing the majority of the animation films in the NFC collection, this program showcased the richness of the collection to the public. Together with the related exhibition, “Artworks from the Animation Films of Tadanari Okamoto,” the program drew many children and students in the summer holidays. Network with animation filmmakers and their family members that was gained through acquisition of the films would benefit future research of Japanese animation films.



1

7/6(火)3:00pm 7/22(木)7:00pm 8/8(日)4:00pm

漫画映画の先駆者たち(計101分)

- 蟹満寺縁起(11分・35mm・白黒・無声)
'24(朝日キネマ合名社) 監画奥田彦彦、木村白山、内田吐夢
- 勤儉貯蓄 塩原多助(10分・35mm・白黒・トーキー版)
'25(朝日キネマ合名社) 画木村白山
- ノンキなトウサン竜宮参り(10分・35mm・白黒・無声)
'25(鈴木映画) 画木村白山
- 映画演説 政治の倫理化(32分・35mm・白黒・無声)
'26(スミカズ映画制作社) 原画画幸内純一
- 漫畫 魚の國(15分・35mm・白黒・無声)
'28(文部省) 画木村白山
- お江戸の春(6分・35mm・染色・無声・不完全)
'28(東亜キネマ) 画堀正木(柁木)統三画玉の浦人
- 四十人の盜賊(朱金昭)(17分・35mm・白黒・トーキー版)
'28(銀映社) 監鈴木俊夫画東浦康介画米原広画上野武夫

2

7/6(火)7:00pm 7/28(水)3:00pm 8/14(土)1:00pm

大藤信郎[1](計60分)

- 煙衣草物語(3分・35mm・染色・無声)
'24監大藤信郎
- 馬具田城の盜賊(10分・35mm・白黒・無声・短縮版)
'26(自由映画研究所) 監大藤信郎
- 切紙細工 西遊記 孫悟空物語(5分・35mm・白黒・無声・不完全)
'26(自由映画研究所) 監大藤信郎
- こがねの花(17分・35mm・白黒・無声)
'29(千代紙映画社) 画大藤信郎
- お閨所(8分・35mm・染色・無声)
'30(千代紙映画社) 監大藤信郎
- 兒童唱歌映画 村祭(2分・35mm・白黒・無声)
'30(千代紙映画社) 監大藤信郎
- 國歌 君が代(3分・35mm・白黒・無声)
'31(千代紙映画社) 監大藤信郎
- 心の力(12分・35mm・白黒・無声)
'31(千代紙映画社) 画大藤信郎

3

7/7(水)3:00pm 8/10(火)7:00pm

大藤信郎[2](計67分)

- 蛙三勇士(7分・35mm・調色・無声版)
'33(千代紙映画社) 画大藤信郎
- 沼の大將(8分・16mm・白黒・無声版)
'33(千代紙映画社) 画大藤信郎
- 天狗退治(10分・35mm・白黒・無声版)
'34(千代紙映画社) 画大藤信郎
- マンガ ちんころ平^{へい} 玉手箱(8分・35mm・白黒)
'36(千代紙映画社) 画大藤信郎
- 空の荒鷲 戦線漫画(8分・35mm・白黒)
'38(千代紙映画社) 画大藤信郎
- マレー沖海戦(26分・35mm・白黒)
'43(横浜シネマ商会) 監画大藤信郎

4

7/7(水)7:00pm 7/29(木)3:00pm 8/15(日)4:00pm

大藤信郎[3](計65分)

- 蜘蛛の絲(10分・35mm・白黒)
'46(三幸映画) 監画大藤信郎画芥川龍之介
- 雪の夜の夢(9分・35mm・白黒)
'47(千代紙映画社) 監画大藤信郎
- 聖書幻想譜 アダムとイブ(8分・16mm・カラー)
'51(日本色彩映画＝小西六写真工業) 画監大藤信郎画ハイドン画綱嶋初子、眞弓田一夫、白井正明
- KUJIRAくじら(8分・35mm・カラー)
'52(千代紙映画社) 画監大藤信郎画塚原哲夫
- マンガ 団子兵衛捕物帖 開けーごまの巻(四十人の盜賊)(10分・35mm・白黒)
'52(千代紙映画社) 監画大藤信郎画紙恭輔
- 花と蝶(9分・16mm・カラー)
'54(千代紙映画社) 監画大藤信郎(背景)熊川正雄画紙恭輔
- YUUREISEN[幽霊船](11分・35mm・カラー)
'56(千代紙映画社) 監画大藤信郎画平井康三郎

5

7/8(木)3:00pm 8/11(水)7:00pm

大藤信郎[4]:「古事記」シリーズ(計63分)

- 古事記抄 天の岩戸開きの巻(8分・35mm・白黒・不完全)
'55(大藤プロ) 監画大藤信郎画小野祖教画平井康三郎
- 古事記物語 第貳篇 八岐大蛇退治(10分・35mm・白黒)
'56(大藤プロ) 監画大藤信郎画小野祖教画平井康三郎
- 古事記物語 大国主命といなばの兎(10分・35mm・白黒)
'57(大藤プロ) 監画大藤信郎画小野祖教
- 古事記物語 天孫降臨の巻(8分・35mm・パートカラー)
'58(大藤プロ) 監大藤信郎画小野祖教画平井康三郎
- 古事記物語 皇孫家之 三つの宝(27分・35mm・白黒)
'59(大藤プロ) 監画大藤信郎画平井康三郎

7/8(木)7:00pm 7/31(土)1:00pm 8/10(火)3:00pm

山本早苗 [1] (計67分)

教育お伽漫画 兎と亀(6分・35mm・白黒・無声)

'24(ナカジマ活動写真部) 監戸田(山本)早苗

教育線画 姨捨山(16分・35mm・白黒・無声)

'25(東京漫画倶楽部) 監戸田(山本)早苗 監近藤正志

線畫 つば(17分・35mm・白黒・無声)

'25(山本漫画製作所) 画山本早苗

病毒の伝播(14分・35mm・白黒・無声)

'26(山本漫画製作所) 画山本早苗

お伽噺 日本一 桃太郎(9分・35mm・白黒・無声)

'28(タカマサ映画社) 画山本早苗 監相原隆昌

日本マンガ 太郎さんの冒険撮影(5分・35mm・白黒・トーキー版)

'29(タカマサ映画社) 画山本早苗 監相原隆昌

7/9(金)3:00pm 8/12(木)7:00pm

山本早苗 [2] (計72分)

五一ちいさん(11分・35mm・白黒・無声)

'31(文部省) 画山本早苗

兄弟こぐま(11分・35mm・白黒・無声)

'32(文部省) 画山本早苗

おいらの非常時(11分・35mm・白黒・無声)

'36(日本電報通信社) 原画山本早苗

なまげぎつね(11分・35mm・白黒・無声)

'41(文部省) 画山本早苗

敵機来らば(9分・35mm・白黒)

'42(三幸商会) 監 画山本早苗

お山の総動員(10分・35mm・白黒)

'42(加治商会) 監 画山本早苗

子宝行進曲(9分・35mm・白黒)

'42(加治商会) 監 画山本早苗

7/9(金)7:00pm 7/31(土)4:00pm 8/11(水)3:00pm

村田安司 [1] (計82分)

猿蟹合戦(5分・35mm・白黒・無声)

'27(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三 監 上野行清

蛸の骨(9分・35mm・白黒・無声)

'27(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三 監 上野行清

漫画 花咲館(4分・35mm・白黒・無声)

'28(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三 監 上野行清

文福茶釜(12分・35mm・白黒・無声)

'28(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三 監 上野行清

動物オリンピック大会(11分・35mm・白黒・無声)

'28(横浜シネマ商会) 監 画村田安司 原 青地忠三 監 飯田光治

漫画 蛙は蛙(10分・35mm・白黒・無声)

'29(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三

太郎さんの汽車(5分・35mm・白黒・無声)

'29(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三 監 上野行清

瘤取り(5分・35mm・白黒・無声)

'29(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三

二つの世界(11分・35mm・白黒・無声)

'29(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三

チュウキチは歸った(10分・35mm・白黒・トーキー版)

'29(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三 監 関屋五十二

7/10(土)1:00pm 8/12(木)3:00pm

村田安司 [2] (計84分)

スクリーンミュージック 国歌 君が代(3分・35mm・白黒・無声)

'30(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三 監 上野行清

漫画 おい等のスキー(9分・35mm・白黒・無声)

'30(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三

おいらの野球(10分・35mm・白黒・無声)

'30(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三

漫画 かうもり(9分・35mm・白黒・無声)

'30(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三 監 上野行清

漫画 猿正宗(8分・35mm・白黒・トーキー版)

'30(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三

タヌ吉のお話(11分・35mm・白黒・トーキー版)

'31(横浜シネマ商会) 画村田安司 監 古川緑波

驢馬(14分・35mm・白黒・無声)

'31(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三

狼は狼だ(11分・35mm・白黒・無声)

'31(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三

漫画レヴィュー 春(9分・35mm・白黒・無声)

'31(横浜シネマ商会) 画村田安司 原 青地忠三

10

7/10(土)4:00pm 8/13(金)3:00pm

村田安司[3] (計112分)

- 空の桃太郎(14分・35mm・白黒・無声)
'31(横浜シネマ商会) 画村田安司原脚青地忠三
- 海の桃太郎(9分・35mm・白黒・無声)
'32(横浜シネマ商会) 画村田安司原脚青地忠三
- 体育デー (8分・35mm・白黒・無声)
'32(横浜シネマ商会) 画村田安司原脚青地忠三
- 漫画 豚平と猿吉(8分・35mm・白黒・無声)
'32(横浜シネマ商会) 画村田安司原高橋蔵二
- のらくろ二等兵 教練の巻 演習の巻(12分・35mm・白黒・無声)
'33(横浜シネマ商会) 監画村田安司原田河水泡脚青地忠三
- 三公と蛸(20分・35mm・白黒・無声)
'33(横浜シネマ商会) 画村田安司原脚青地忠三
- 漫画 お猿の大漁(11分・35mm・白黒)
'33(横浜シネマ商会) 画村田安司原脚青地忠三
- のらくろ伍長(11分・35mm・白黒・無声)
'34(横浜シネマ商会) 画村田安司原田河水泡脚青地忠三
- 月の宮の女王様[改編版](11分・35mm・白黒)
'34(横浜シネマ商会) 画村田安司原脚青地忠三音三木鶏郎
- 居酒屋の一夜[改編版](8分・35mm・白黒)
'36(横浜シネマ商会) 画村田安司原今順太音三木鶏郎(オリジナルは古賀政男)

11

7/11(日)1:00pm 7/28(水)7:00pm 8/17(火)3:00pm

政岡憲三(計121分)

- 難船ス物語 第壱篇 猿ヶ嶋(24分・35mm・白黒・無声)
'30(日活大秦漫画映画部) 画政岡憲三原脚清水秀雄脚篠葎屋映治
- 茶釜音頭(10分・35mm・白黒)
'34(政岡映画美術研究所) 監脚政岡憲三原榎本三郎画熊川正雄、桑田良太郎、川島正義脚原田誠一
- べんけい対ウシワカ(7分・35mm・白黒)
'39(日本動画研究所) 監政岡憲三動熊川正雄、桑田良太郎
- フクチャン奇襲(11分・35mm・白黒)
'42(松竹動画研究所) 監脚政岡憲三動桑田良太郎、熊川正雄、土井研二音浅井拳嘩
- くもとちゅうりつぶ(15分・35mm・白黒)
'43(松竹動画研究所) 監脚脚政岡憲三原横山美智子動桑田良太郎、熊川正雄、土井研二、山本三郎ほか音弘田竜太郎
- 桜(春の幻想)(8分・35mm・白黒)
'46(日本漫画映画社) 監政岡憲三脚西倉喜代治音ウェーバー
- すて猫トラちゃん(21分・35mm・白黒)
'47(日本動画＝東宝教育映画) 監政岡憲三脚佐々木富美男音服部正
- トラちゃんと花嫁(15分・35mm・白黒)
'48(日本動画) 監政岡憲三脚松崎興志人脚篠下泰次動熊川正雄、中島清、林義雄ほか音服部正
- トラちゃんのカンカン虫(10分・35mm・白黒)
'50(日本動画) 監政岡憲三脚松崎興志人脚篠下泰次動熊川正雄、安部幸毅、浜桂太郎ほか音坂本良隆音三枝君子、安斎愛子、村尾護郎

12

7/11(日)4:00pm 8/13(金)7:00pm

瀬尾光世[1] (計89分)

- お猿の三吉 突撃隊(9分・35mm・白黒)
'34(日本マンガフィルム研究所) 監画瀬尾光世脚杉田三郎音西垣鉄雄
- 元禄恋模様 三吉とおさよ(8分・35mm・白黒・無声)
'34(日本マンガフィルム研究所) 監画瀬尾光世音西垣鉄雄
- のらくろ二等兵(11分・35mm・白黒)
'35(瀬尾発声漫画研究所) 監脚画瀬尾光世原田河水泡音落合朝彦
- のらくろ一等兵(10分・35mm・白黒)
'35(瀬尾発声漫画研究所) 監脚画瀬尾光世原田河水泡音落合朝彦
- いなばの国の兎さん(7分・35mm・白黒・無声)
'35(旭物産合資会社映画部) 監画瀬尾光世
- テク助物語(日の丸旗之助 山賊退治)(10分・35mm・白黒)
'38(芸術映画社) 監瀬尾光世、三木四郎原中島菊夫
- あひる陸戦隊(13分・35mm・白黒)
'40(芸術映画社) 監脚画瀬尾光世音服部正
- テク助物語 四十匹の狼[改編版](10分・35mm・白黒)
'40(芸術映画社) 監瀬尾光世脚栗原有蔵
- アリチャン(11分・35mm・白黒)
'41(芸術映画社) 監画瀬尾光世動持永只仁音服部正

13

7/13(火)3:00pm 7/29(木)7:00pm 8/15(日)1:00pm

瀬尾光世[2] (計107分)

- 桃太郎の海鷲(33分・35mm・白黒)
'42(芸術映画社) 監脚瀬尾光世脚篠橋國持永只仁、田辺利彦、橋本珠子、塚本静世脚栗原有茂音伊藤昇
- 海の神兵(74分・35mm・白黒)
'45(松竹動画研究所) 監脚脚瀬尾光世脚熊木喜一郎脚総政岡憲三動桑田良太郎、高木一郎、小幡俊治、木村一郎音古關裕而

7/13(火)7:00pm 8/14(土)4:00pm

大石郁雄と芦田巖(計102分)

うごきえこりのためひき

動絵狐狸達引(11分・35mm・白黒)

'33(P.C.L.漫画部) 監画大石郁雄画市野正二、藤田浩

トーキーの話(10分・35mm・白黒)

'36(P.C.L.) 監画大石郁雄画川口政一

森の五匹の動物たち(五匹の力)(7分・35mm・白黒)

'37(芦田漫画製作所) 監鈴木宏昌(芦田巖)

海國太郎 新日本島萬歳(8分・35mm・白黒)

'38(三幸商会漫画部) 画鈴木宏昌(芦田巖)、暮田博匡、船本衆司、福田里三郎

動物防諜戦(10分・35mm・白黒)

'41(国光教育映画社) 監画鈴木宏昌(芦田巖)、古沢秀雄画下倉彌一郎

協力防空戦(10分・35mm・白黒)

'42(宏昌漫画映画研究所) 構画芦田宏昌(巖) 監鈴木京一画福田里三郎、大工原章、坂上信二

バグダッド姫(37分・35mm・白黒・不完全)

'48(三幸映画社) 監原芦田巖画川西昭治画福田里三郎画服部良一

ポン助の腕くらべ(9分・35mm・白黒)

'51(東宝教育映画) 画大石郁雄、若林敏郎画池境

7/14(水)3:00pm 7/30(金)7:00pm 8/21(土)1:00pm

田中喜次と持永只仁(計113分)

煙突屋ペロロ[再公開サウンド版](23分・16mm・白黒)

'30(童映社) 監原田中喜次

オモチヤ箱シリーズ 第3話 絵本1936年(8分・35mm・白黒)

'34(J.O.トーキー漫画部) 画中野孝夫、田中喜次、永久義郎、西口黒、平泰陣

セロひきのゴーシュ(21分・35mm・白黒)

'49(日本映画社) 監(製)田中喜次原宮沢賢治監鈴木喜代治画黒田外喜雄、岩村加代画坂本良隆

つるのはね(11分・35mm・白黒)

'56(共同映画社＝日本アニメーション映画社) 監田中喜次画久保田晃構画諸橋一、長井泰治、土屋史郎画林光

瓜子姫とあまのじゃく(18分・35mm・白黒)

'56(電通映画社＝人形映画製作所) 監田中喜次監持永只仁画岸次郎

五匹の子猿たち(16分・35mm・白黒)

'56(電通映画社＝人形映画製作所) 監持永只仁監田中喜次画岸次郎(美)吉田謙吉画加藤三雄

ちびくろ・さんぼのとらたいじ(16分・16mm・白黒)

'56(電通映画社＝人形映画製作所) 監持永只仁画ヘレン・バーマン画村治夫画岸次郎画川本喜八郎画加藤三雄

7/14(水)7:00pm 8/19(木)3:00pm

佐藤吟次郎と「マー坊」シリーズ(計97分)

小鳥と兎(9分・35mm・白黒)

'36(佐藤線映画製作所) 監佐藤吟次郎、千葉洋路

マー坊の東京オリンピック大会(11分・35mm・白黒)

'36(佐藤線映画製作所) 監佐藤吟次郎、千葉洋路

マー坊の少年航空兵(10分・35mm・白黒)

'37(佐藤線映画製作所) 監佐藤吟次郎、千葉洋路画牧野周一

マー坊の大陸秘境探険(11分・35mm・白黒・不完全)

'38(佐藤線映画製作所) 監佐藤吟次郎画千葉洋路

マー坊の木下藤吉郎(11分・35mm・白黒)

'38(佐藤線映画製作所) 監佐藤吟次郎、千葉洋路

マー坊の鉄血陸戦隊(11分・35mm・白黒)

'41(佐藤線映画製作所) 監千葉洋路画牧野周一

マー坊の大陸宣撫隊 前篇 サークスの巻(17分・35mm・白黒)

'41(佐藤線映画製作所) 監千葉洋路画牧野周一

マー坊の南海奮戦記(12分・35mm・白黒)

'42(佐藤線映画製作所) 監千葉洋路

マー坊の落下傘部隊(5分・35mm・白黒・不完全)

'43(佐藤線映画製作所) 監千葉洋路画佐藤吟次郎

7/15(木)3:00pm 8/17(火)7:00pm

片岡芳太郎と「お猿の三吉」シリーズ(計84分)

漫画 おい等の生命線(9分・35mm・白黒・無声)

'34(横浜シネマ商会) 画片岡芳太郎、村田安司画笹本喜太郎

漫画 證城寺の狸囃子 塙団右衛門(塙団右衛門 化物退治の巻)(10分・35mm・白黒)

'35(日本マンガフィルム研究所) 画片岡芳太郎画原魔須多和光画西垣鉄雄

漫画 芋と兵隊(11分・35mm・白黒)

'42(塚本興業) 画片岡芳太郎画福田宗吉

魔法の靴(7分・35mm・カラー)

'51(日本色彩映画＝片岡プロ) 監画片岡芳太郎画竹岡信幸

浦島太郎(5分・35mm・カラー)

'52(日本視覚教材＝日本色彩映画) 監片岡芳太郎画村上良哉画山田耕造画上金史明、海江田妙子、岡本真佐子、阿部正明ほか画竹岡信幸

お猿三吉 僕等の海兵団(10分・35mm・白黒・無声・不完全)

'41(日本マンガフィルム研究所) 画片岡芳太郎

お猿の三吉 防空戦(11分・35mm・白黒・無声・中国語インタータイトル)

'42(日本マンガフィルム研究所) 画片岡芳太郎

お猿三吉 闘ふ潜水艦(12分・35mm・白黒)

'43(日本マンガフィルム研究所) 監山根幹人画片岡芳太郎画西垣鉄雄

お猿三吉 奮戦記(9分・35mm・白黒)

'43(日本マンガフィルム研究所) 画片岡芳太郎

18		
7/15(木)7:00pm	8/1(日)4:00pm	8/24(火)3:00pm

荒井和五郎(計101分)

- お蝶夫人の幻想(12分・16mm・白黒)
 ’40(朝日映画) 構 堀荒井和五郎、飛石仲也音三浦環
- 影絵映画 ジャックと豆の木(15分・16mm・白黒・無声)
 ’41(朝日映画) 構原 堀荒井和五郎、飛石仲也音福田宗吉
- 影絵映画 かぐや姫(25分・16mm・白黒・無声)
 ’42(朝日映画) 構原 堀荒井和五郎、飛石仲也音小船幸次郎
- ニッポンパンザイ(11分・35mm・白黒)
 ’43(朝日映画) 構三上良二、永富映次郎原米山忠雄影絵荒井和五郎、飛石仲也音前田一、木村一郎、浅野匠音飯田景応、若松巖音関屋五十二
- マッチ賣りの少女(10分・35mm・白黒)
 ’47(日本漫画映画社) 監脚荒井和五郎音安倍盛
- 椰子の実(10分・35mm・白黒)
 ’47(新世界映画社) 監画荒井和五郎音大中寅二
- お花のおひめさま(18分・35mm・白黒)
 ’48(日本教育映画社) 監画荒井和五郎

19	
7/16(金)3:00pm	8/22(日)1:00pm

熊川正雄と桑田良太郎(計96分)

- マンガワ 新猿蟹合戦(11分・35mm・白黒・無声)
 ’39(日本動画研究所) 監政岡憲三(実際は熊川正雄) 画宮下万三
- かんがーの誕生日(7分・35mm・白黒・無声)
 ’40(日本映画科学研究所)原画熊川正雄原木村阿弥子 撮木村角山 動桑田良太郎、土井研二、岡本庚、吉村祥
- 動物となり組(10分・35mm・白黒)
 ’41(日本映画科学研究所)原画熊川正雄 画桑田良太郎 撮木村角山
- 金太郎(9分・35mm・白黒)
 ’41(日本映画科学研究所) 原画 画桑田良太郎 動熊川正雄、土井研二、岡本庚、吉村祥ほか 撮木村角山音武政英策
- 闘球肉弾戦(15分・16mm・白黒)
 ’43(松竹動画研究所) 監桑田良太郎 画高木一郎 撮本庄吉雄 動熊川正雄、土井研二、山室正男ほか 音呉泰次郎
- 魔法のペン(11分・16mm・白黒)
 ’46(京都映画社) 監熊川政雄 原 画寿々喜多呂九平 撮山口別弘 動宇野一路、浜江蓉
- ぼっばやさん のんき駅長の巻(13分・35mm・白黒)
 ’48(日本動画) 監熊川政雄 画松崎與志人 撮 藪下泰司 動安部幸毅、濱桂太郎、森康二音坂本良隆
- のんき機関士(11分・35mm・白黒)
 ’49(東宝教育映画＝日本動画) 監熊川正雄 画松崎與志人 撮 藪下泰司 動浜桂太郎、安部幸毅、古沢秀雄、福井英一、もりやすじ音坂本良隆
- 動物大野球戦(9分・35mm・白黒)
 ’49(日本動画) 監 藪下泰司、熊川正雄 画桑木良三 音坂本良隆音木下華声

20		
7/16(金)7:00pm	8/1(日)1:00pm	8/18(水)3:00pm

横山隆一[1](計72分)

- フクチャンの潜水艦(30分・35mm・白黒)
 ’44(朝日映画社) 監原横山隆一 監関屋五十二 画 滋野辰彦 撮 持永只仁 動前田一
- ふくすけ(18分・35mm・カラー)
 ’57(おとぎプロ) 監原 堀横山隆一 動町山充弘、鈴木伸一、前田一音服部良一
- プラス50000年(10分・35mm・カラー)
 ’61(おとぎプロ) 監 構 動鈴木伸一 動秦泉寺博、町山充弘、山田幸弘、斉藤博、滝口明治、壬生理
- 五万匹(各3分30秒[計14分]・16mm・白黒)
 第7作「へんないのしし」、第8作「怪しいこぶ」、第13作「大豚走」、第21作「浮きかば」
 ’62-65(おとぎプロ)

21	
7/17(土)1:00pm	8/18(水)7:00pm

横山隆一[2](計69分)

- ひょうたんすずめ(55分・35mm・カラー)
 ’59(おとぎプロ) 監原画横山隆一 撮小松義孝、岡田英美子、大久保宏 動鈴木伸一、町山みつひろ、秦泉寺博、山本栄一ほか音宅孝二
- 五万匹(各3分30秒[計14分]・16mm[「口鍵」のみ35mm]・白黒)
 第29作「かみつきサボテン」、第32作「口鍵」、第46作「雪牛」、第48作「空飛ぶ狐」
 ’62-65(おとぎプロ)

22		
7/17(土)4:00pm	8/4(水)3:00pm	8/19(木)7:00pm

藪下泰司(計74分)

- かつば川太郎(18分・35mm・白黒)
 ’54(三井芸術プロ) 監 藪下泰司 原清水崑 画飯沢匡 撮 高城泰策、石川高明、山田耕造 画 古沢日出夫 動 森康二、市野正二、近藤進、諸橋一、長井泰治ほか 音 服部正 音 阿里道子
- うかれバイオリン(13分・35mm・カラー)
 ’55(日動映画) 監 画 藪下泰司 撮 高城泰策、石川光明 原 画 大工原章、森康二、古沢日出夫 動 市野正二、長沼寿美子、若松一、岡田弥生、内山孝 音 坂本良隆
- 一寸法師(15分・16mm・白黒)
 ’56(日動映画) 監 画 藪下泰司 撮 石川光明、田島実 原 画 大工原章 動 市野正二、長沼すみ子、岡田弥生ほか 音 横田昌久
- 黒いきりりと白いきりり(16分・35mm・カラー)
 ’56(日動映画) 監 藪下泰司 原 浜田廣介 画 森康二 撮 石川光明、佐倉紀行 原 画 森康二、熊川正雄 動 大工原章、市野正二、長沼寿美子、進藤進、内山孝、寺千賀雄 音 斎藤高順
- こねこのらくがき(12分・35mm・白黒)
 ’57(東映教育映画部) 監 藪下泰司 撮 石川光明 画 森康二、大工原章、市野正二、長沼寿美子、内山孝ほか 音 伊藤宣二

7/18(日)1:00pm 8/20(金)7:00pm

戦前・戦中作品集[1](計67分)

茶目子的一天(5分・35mm・白黒・無声)

'31(協力映画製作社) 監西倉喜代治

あめや狸(4分・35mm・白黒・無声)

'31(十字屋小型映画部)

三匹の小熊さん(10分・35mm・白黒・無声)

'31(婦人之友社) 監岩崎和原村山籌子画村山知義監並木晋作

FELIXノ迷探偵(9分・35mm・白黒・無声)

'32監荻野茂二

漫画の列国陸軍(28分・35mm・白黒・無声・不完全)

'32(桜井映画製作所)

與七郎の敬禮(11分・35mm・白黒・無声)

'33(文部省) 画木村白山

7/18(日)4:00pm 8/24(火)7:00pm

戦前・戦中作品集[2](計73分)

忍術 火の玉小僧 江戸の巻(10分・35mm・白黒)

'35(日活京都漫画部) 監画田中興志画舟木俊一、永久博郎、酒井七馬ほか画白木義信

火の玉小僧 山賊退治(9分・35mm・白黒)

'35(日活京都漫画部) 監田中興志画細井太郎、酒井七馬、永久博郎ほか画白木義信

新説カチカチ山(6分・35mm・白黒)

'36(J.O.トーキー漫画部) 画脚瀧市川崑画西山明男

お日様と蛙(10分・35mm・白黒・無声)

'36(横浜シネマ商会) 監画宮下萬三原杉山省三

風さわぎ[改編版](10分・35mm・白黒・無声)

'36(オールキネマ社) 監西倉喜代治

漫画 夢の招集令(9分・35mm・白黒)

'38(三幸商会)

チュウ児の羽衣(11分・16mm・白黒・無声)

'41(土田商会) 画瀧山口貞三

發声漫画 海の勇士(8分・35mm・白黒)

'42(日本映画科学研究所) 原動酒井七馬監木村角山画大阪マンガ會画野村直弘

7/20(火)3:00pm 8/21(土)4:00pm

戦後作品集[1](計112分)

森の鍛冶屋(8分・35mm・白黒)

'46(日本短篇映画社) 監原土井研二画山室正男監浅野完画林修ほか画弘田龍太郎

カチカチ山の消防隊(7分・35mm・白黒)

'47(日本漫画映画社) 監画小幡俊治原小鯖英一画村田安司画西垣鉄雄

ムクの木の話(20分・35mm・白黒)

'47(東宝教育映画) 監画丸山章治画山田耕造動若林敏郎、上野武雄画早坂文雄

にわとりと友達(14分・35mm・白黒)

'47(日本教育映画社) 監前田一

キツネとヒヨコ(8分・35mm・白黒)

'47(近代映画) 監森野佐登志(浅野恵) 原小柳耕二画枝島昭画里見修

キツネとサーカス(9分・35mm・白黒・不完全)

'48(近代映画) 監森野佐登志(浅野恵) 原小柳耕二画枝島昭画里見修

キツネと子守唄(7分・35mm・白黒)

'48(近代映画) 監森野佐登志(浅野恵) 原小柳耕二画枝島昭画里見修

まさかりかついで(6分・35mm・白黒)

'48(日本漫画映画社) 監古澤日出夫原上金好祐監喜多村保画伊藤宣二

鶏になったボチ(8分・35mm・白黒)

'48(京都映画) 監画寿々喜多呂九平画木村久次郎動神脇隼男、小沼武、福森繁画高橋半

古池繪巻 蛙と狐(9分・35mm・白黒)

'49(東宝教育映画) 原監西尾善行画山田耕造原画山田順治画琴寄金二、鈴木淳夫、奈良次雄動上野武夫画安倍盛

小人とあお虫(16分・16mm・白黒)

'50(東宝教育映画＝日本動画社) 監古沢秀雄原肥塚あきら画松崎與志人画東理仁朗画熊川正雄、浜康雅、もりやすじ、北島道雄、小幡俊治画坂本良隆

26

7/20(火)7:00pm 8/22(日)4:00pm

戦後作品集[2] (計92分)

ありとはと(15分・35mm・白黒)
'53(日動映画) 監脚湯原甫画古沢日出夫、森やすじ動進藤進、新城一
ほか画高城泰策、石川光明画坂本良隆

トラちゃんの冒険(14分・35mm・白黒)
'55(日動映画) 監脚湯原甫画高城泰策、石川光明画大工原章動長沼
寿美子、若松一、岡田弥生、内山孝画坂本良隆

王女とゆびわ 印度詩劇「シャクンタラー姫」より(15分・35mm・カ
ラー)
'56(東映教育映画部) 監脚上原信画佐藤昌道画森健二

かっぱのばあ太郎(13分・35mm・白黒)
'57(東映教育映画部) 監原画花野原芳明補佐熊川正雄画森武雄画笹
山茂、野沢和夫、内山孝ほか画伊藤宣二

こうもり[白黒版](9分・16mm・白黒)
'58(中井プロ) 画山野武夫脚中井金兵衛動東喜三郎、田中和男、井山
忠行ほか画吉沢博

ポロングター (26分・16mm・カラー)
'59(学習研究社) 監脚小野豪画中村聖、平井寛画高山良策、佐々木章、
加藤清治画有馬征子、新免郁子、千原玲子画林光画西川久保潔、須永宏、
加藤玉枝、伊島幸子

27

7/21(水)3:00pm 8/3(火)7:00pm 8/28(土)1:00pm

長篇カラー動画の誕生[1]

白蛇伝(79分・35mm・カラー)
'58(東映動画) 監脚数下泰司原上原信脚矢代静一画塚原孝吉、石川
光明原画大工原章、森康二動大塚康生、坂本雄作、喜多真佐武、紺野修
司、中村和子、寺千賀雄ほか画岡部一彦、橋本潔画木下忠司、池田正
義、鎗木創画森繁久弥、宮城まり子

28

7/21(水)7:00pm 7/30(金)3:00pm 8/29(日)1:00pm

長篇カラー動画の誕生[2]

少年猿飛佐助(83分・35mm・カラー)
'59(東映動画) 監脚数下泰司、大工原章原画一雄脚村松道平画大塚
晴郷、石川光明、山本明生原画大工原章、古沢日出夫、大塚康生、森康
二、熊川正雄画楠部大吉郎、寺千賀雄、中村和子、紺野修司、喜多真佐
武、杉山卓ほか画進藤誠吾画船村徹画西中村賀津雄、桜町弘子、宮崎照
男、松島トモ子、薄田研二、赤木春恵、吉田義夫、堺駿二

29

7/22(木)3:00pm 8/3(火)3:00pm 8/29(日)4:00pm

長篇カラー動画の誕生[3]

西遊記(88分・35mm・カラー)
'60(東映動画) 監数下泰司監脚手塚治虫画植草圭之助画大塚晴郷、
石川光明、杉山健児原画森康二、熊川正雄、大塚康生、大工原章、古沢
日出夫画紺野修司、喜多真佐武、楠部大吉郎、奥山玲子、寺千賀雄、月
岡貞夫ほか画矢野雅章、沼井肇画服部良一画小宮山清、新道乃里子、
木下秀雄、篠田節夫、関根信昭、白坂道子、武田国久、尾崎勝子、加藤
玉枝、巖金四郎

30

7/23(金)3:00pm 8/7(土)4:00pm 8/26(木)7:00pm

岡本忠成[1] (計79分)

ふしぎなくすり(14分・16mm・カラー)
'65(電通映画社) 監動岡本忠成原星新一脚村治夫画吉岡謙形田畑精
一、保坂純子画園哲太郎、マガリ文子画真鍋理一郎

ようこそ宇宙人(14分・16mm・カラー)
'66(電通映画社) 監動岡本忠成原星新一脚村治夫画吉岡謙形田畑精
一、保坂純子画及川功一、マガリ文子画広瀬量平画真理よし子、明石一、
香山裕、滝口順平、白石冬美

キツツキ計画(15分・16mm・カラー)
'66(電通映画社) 監動岡本忠成原星新一脚村治夫画吉岡謙形田畑精
一、保坂純子画及川功一画広瀬量平画西中村正、近石真介

《うたのシリーズ》
十人の小さなインディアン(2分・35mm・カラー)
'68(エコー) 監脚動岡本忠成画吉岡謙形田畑精一、保坂純子画及川
功一、上原隆蔵、見米豊画来宮洋一

おじいちゃんが海賊だった頃(4分・35mm・カラー)
'68(エコー) 監脚動岡本忠成画吉岡謙形田畑精一、保坂純子画及川
功一画横山善児

ホーム・マイホーム(4分・35mm・カラー)
'70(エコー) 監脚岡本忠成画吉岡謙、田村実画保坂純子画田畑博司、
真賀里文子画横山善児

花ともぐら(15分・35mm・カラー)
'70(学習研究社) 監脚岡本忠成原星新一脚坂間雅子、来道子画吉岡
謙、田村実画田畑精一、保坂純子、斉藤堅画見米豊、真賀里文子、及川
功一ほか画広瀬量平画岸田今日子

チコタン ぼくのおよめさん(11分・35mm・カラー)
'71(学習研究社) 監脚岡本忠成脚坂間雅子、来道子画田村実画吉
岡謙動真賀里文子、秦泉寺博、及川功一画小前隆、徳山正美、数藤雅
三画南安雄

7/23(金)7:00pm 8/7(土)1:00pm 8/25(水)3:00pm

岡本忠成[2] (計68分)

12月のうた(2分・16mm・カラー)

'71(エコー) 監岡本忠成 攝吉岡謙、田村実 画小前隆、若佐ひろみ 動秦泉寺博 音小室等

日本むかしばなし さるかに(19分・35mm・カラー)

'72(学習研究社) 監岡本忠成 攝吉岡謙、田村実 画田畑精一、保坂純子、数藤雅三 動真賀里文子、見米豊 音廣瀬量平 声入江洋佑、木村幌、新井和夫、大森孝、桜井ゆう子

モチモチの木(17分・35mm・カラー)

'72(エコー) 監岡本忠成 原齋藤隆介 攝吉岡謙、田村実 画保坂純子、若佐ひろみ、数藤雅三 動藤森誠代、尾崎良 音鶴沢清治 声豊竹呂大 夫

南無一病息災(18分・35mm・カラー)

'73(エコー) 監岡本忠成 原齋藤隆介 攝吉岡謙、田村実 画保坂純子、数藤雅三、若佐ひろみ 動荒木靖一、藤森誠代、秦泉寺博 音声及川恒平

《「人間いじめ」シリーズ》

旅は道連れ世は情(2分・35mm・カラー)

'73(エコー) 監岡本忠成 攝吉岡謙、田村実 画小前隆、徳山正美 動秦泉寺博、荒木靖一 声桂朝丸(ごこぼ)

うらめしでんわ(3分・35mm・カラー)

'75(エコー) 監岡本忠成 攝田村実 画小前隆、若佐ひろみ、峰岸裕和、横坂千鶴子 動秦泉寺博、吉田悟ほか 声桂朝丸

サクラより愛をのせて(3分・35mm・カラー)

'76(エコー) 監岡本忠成 攝田村実 画東川洋子 動吉田悟 声桂朝丸

おしずかに(4分・35mm・カラー)

'80(エコー) 監岡本忠成 攝神部彰 動吉田悟ほか 声桂朝丸

7/24(土)1:00pm 8/5(木)7:00pm 8/27(金)3:00pm

岡本忠成[3] (計72分)

小さな五つのお話(20分・35mm・カラー)

'74(エコー) 監岡本忠成 原東君平 攝田村実 画保坂純子、若佐ひろみ 画吉田悟、今中誠ほか 動秦泉寺博、吉良敬三、尾崎良 画小前隆、若井丈児ほか 音クニ河内 画岸田今日子

水のたね(19分・16mm・カラー)

'75(エコー) 監岡本忠成 攝田村実 画保坂純子、若佐ひろみ、石井寿美恵 動藤森誠代、尾崎良、秦泉寺博、荒木靖一、吉田悟、峰岸裕和ほか 音広瀬量平 声岸田今日子

あれはだれ？(21分・16mm・カラー)

'76(エコー＝日本記録映画研究所) 監岡本忠成 画おかもとただなり 攝たむらみの 画ほさかすみこ 動おぎざきりょう、ふじもりまさよ、よしださとる、みねざしひろかず、おおむかいときこ 音ひぐちやすお 声きしだきょうこ

《NHK「みんなのうた」》

オナカの大きな王子さま(2分・35mm・カラー)

'75(NHK＝エコー) 監岡本忠成 攝田村実 動秦泉寺博、吉田悟、指田英二、峰岸裕和 音小椋佳

シンフォニック・バリエーション(2分・35mm・カラー)

'76(NHK＝エコー) 監岡本忠成 攝田村実 画保坂純子 動藤森誠代、峰岸裕和 音オスカー・ブランド

雪の日のたより(2分・35mm・カラー)

'77(NHK＝エコー) 監岡本忠成 攝田村実 動峰岸裕和 音南安雄

ロバちゃっとすねた(2分・35mm・カラー)

'83(NHK＝エコー) 監岡本忠成 攝田村実 画渡辺雅子、中島佳子 動長崎希 音中村勝彦

メトロポリタン・ミュージアム(2分・35mm・カラー)

'84(NHK＝エコー) 監岡本忠成 攝田村実 画若佐ひろみ、中島佳子 動長崎希 音大貫妙子

コロは屋根のうえ(2分・35mm・カラー)

'86(NHK＝エコー) 監岡本忠成 攝田村実 画若佐ひろみ 動長崎希、石田卓也 音大貫妙子

33

7/24(土)4:00pm 8/6(金)3:00pm 8/25(水)7:00pm

岡本忠成 [4] (計75分)

ちからばし (11分・35mm・カラー)
'76(エコー) 監脚岡本忠成原小泉八雲 堀田村実形保坂純子 勳尾崎良、
峰岸裕和、大向とき子 音鶴沢清治 西岸田今日子

虹に向って (18分・35mm・カラー)
'77(電通＝電通映画社) 監脚岡本忠成原大川悦生 脚永倉薫平、東川
洋子 堀田村実形保坂純子 ほか 勳藤森誠代、峰岸裕和、秦泉寺博 ほか 音
及川恒平 西岸田今日子

りすのパナシ (22分・35mm・カラー)
'78(電通＝電通映画社) 監脚おかもとたけなり 原リダ・フォシェ 脚ひ
がしかわようこ、なかぐらくんべい 堀たまらみのる、いたみくにひこ 形まき
さかちずこ、ひがしかわようこ 他 勳ふじもりまさよ、おざきりょう 他 音ひぐち
やすお 他 音きしだきようこ

鬼がくれ山のソバの花 (24分・35mm・カラー)
'79(電通＝電通映画社) 監脚岡本忠成原小暮正夫 脚永倉薫平、東川
洋子 堀田村実、宮沢みきお 勳河田章子、長崎希、成川裕子 ほか 美小野
沢節子 ほか 音半田淳子、赤尾三千子 ほか 音長岡輝子、岸田今日子、鎗
田順吉

34

7/25(日)1:00pm 8/6(金)7:00pm 8/26(木)3:00pm

岡本忠成 [5] (計70分)

白い象 (23分・35mm・カラー)
'81(東映教育映画部＝エコー) 監脚岡本忠成原花岡大学 脚東川洋子
堀神部彰 ほか 形保坂純子 ほか 勳吉田悟、長崎希 ほか 音広瀬量平 西岸
田今日子、草野大悟

ふらいばんじいさん (21分・35mm・カラー)
'81(電通) 監脚岡本忠成原神沢利子 脚東川洋子、永倉薫平 堀田村実
形保坂純子、渡辺静子、阿彦よし子、若佐ひろみ 勳長崎希、吉田悟、渡辺
雅子、中島佳子、横川たか子 音広瀬量平 西岸田今日子、草野大悟

おこんじょうるり (26分・35mm・カラー)
'82(桜映画社＝エコー) 監脚岡本忠成原さねとうあきら 堀田村実、伊
丹邦彦 形保坂純子 ほか 勳藤森誠代、長崎希、吉田悟 ほか 音橋祐次郎、
堅田喜三久、中川善雄 音長岡輝子、小野寺かほる、木村富穂、後藤哲夫

35

7/25(日)4:00pm 8/5(木)3:00pm 8/27(金)7:00pm

岡本忠成 [6] (計77分)

注文の多い料理店 (19分・35mm・カラー)
'91(エコー＝桜映画社) 監脚岡本忠成原宮澤賢治 堀高橋明彦、中出
三記夫 音奥山玲子、阿部信子、吉良敬三、吉田悟、横川たか子、宮林英
子、秦泉寺博、鈴木伸一 ほか 美川下倫子、小野沢節子、徳山正美 音広
瀬量平

ハンドメイドアニメーション映画の世界 (58分・35mm・カラー)
2001(桜映画社) 監長崎希 堀田村実、山屋恵司

36

7/27(火)3:00pm 8/4(水)7:00pm 8/28(土)4:00pm

川本喜八郎 [1] (計103分)

花折り (14分・16mm・カラー)
'68 監脚形勳 川本喜八郎 堀吉岡謙三 三角永子、青山浩子 勳及川功一
音小森昭宏 音黒柳徹子

犬儒戯画 (8分・35mm・パートカラー)
'70 監脚形勳 美川本喜八郎 原横光利一 堀飯塚進、吉岡謙三 ニコラ・パ
タイユ、ジャン＝ミシェル・ソラント、フランソワ・グロワイエ、セルジュ・
フリボー

鬼 (8分・35mm・カラー)
'72 監脚勳 川本喜八郎 堀吉岡謙、田村実美 壬生露彦、中川涼 音鶴沢清
治

旅 (12分・35mm・カラー)
'73 監脚勳 川本喜八郎 堀吉岡謙、田村実勳 見米豊、荒木靖一 美小前隆、
徳山正美

詩人の生涯 (19分・35mm・カラー)
'74 監勳 川本喜八郎 原安部公房 堀田村実 勳見米豊、石川隆 音美小前
隆、徳山正美 音湯浅譲二

道成寺 (19分・35mm・カラー)
'76 監脚形勳 川本喜八郎 堀田村実 形若佐ひろみ、高橋佳代子 勳尾崎
良、峰岸裕和 ほか 美壬生露彦、中川涼 音松村禎三

セルフ・ポートレート (1分・35mm・カラー)
'88 監脚 川本喜八郎 堀田村実 形片山雅博 勳峰岸裕和 音北原じゅん

いばら姫またはねむり姫 (22分・35mm・カラー)
'90(川本プロ＝今日＝クラートキー・フィルム・ブラハ＝イジー・トルンカ・
スタジオ) 監脚 形 川本喜八郎 原西岸田今日子 堀田村実、J・ミュレル
形 J・ベズテック、J・ドレイシュ、V・ネヴォサト ほか 勳 V・ボスピーシ
ロヴァ、峰岸裕和 ほか 美 J・ルジチカ 音 S・ハヴェルカ 音 D・コラージョヴァ

37

7/27(火)7:00pm 8/8(日)1:00pm 8/20(金)3:00pm

川本喜八郎 [2] (計112分)

火宅 (19分・35mm・カラー)
'79 監脚形勳 川本喜八郎 堀田村実 形穂坂かほる 勳峰岸裕和、大向とき
子、吉田悟、宮澤みきお、秦泉寺博 美小前隆、徳山正美、原口智生 音武
満徹 音観世静夫

蓮如とその母 (93分・35mm・カラー)
'81(「蓮如とその母」製作推進委員会) 監脚勳 川本喜八郎 製安東民児
脚新藤兼人 堀田村実、伊丹邦彦 形佐藤三郎、穂坂かほる、牧野正倫 ほか
勳峰岸裕和、大向とき子、長崎希、宮澤みきお ほか 美小前隆、徳山正
美 ほか 音武満徹 音小池朝雄、大門正明、渡辺美佐子、池上季実子、三
國連太郎、小沢昭一、泉ピン子、高松英郎、黒柳徹子、岸田今日子

* 監＝監督・演出 構＝構成 製＝製作 原＝原作・原案 脚＝脚
本・脚色・台詞 堀＝撮影 画＝作画・漫画・絵がく・線画・線絵
形＝人形・人形造形・人形美術・キャラクターデザイン 勳＝動画・
アニメーション・アニメーションデザイン 美＝美術 音＝音楽・作曲
音＝声の出演・語り・解説・ナレーション・はなし

会 期
平成16年9月3日～11月19日 (67日間)
会 場
大ホール
上映回数
158回
入場者総数
34,187人(1回平均216人)
雑誌・新聞関連記事
日本経済新聞 平成16年8月7日夕刊
定年時代 平成16年8月下旬号
産経新聞 平成16年8月25日
朝日新聞 平成16年8月28日
東京新聞 平成16年8月31日夕刊
読売新聞 平成16年9月3日夕刊
信濃新聞 平成16年9月16日
茨城新聞 平成16年9月16日
上毛新聞 平成16年9月16日
下野新聞 平成16年9月16日
しんぶん赤旗 平成16年10月14日
日本経済新聞 平成16年11月8日
シネフロント328号 平成16年8月15日
ばど中央区・江東区西エリアNo.803 平成16年8月27日
FREEMODE vol.04 平成16年9月8日
週刊文春 平成16年9月9日
協同組合通信No.15113 平成16年9月9日
いきいき10月号 平成16年9月10日
キネマ旬報No.1415 平成16年10月
VOGUE NIPPON No.63 平成16年10月
婦人画報No.1216 平成16年10月
Weeklyぴあ 平成16年10月8日
なぎさ11月号 平成16年11月1日
いきいき11月号 平成16年10月
日本カメラ12月号 平成16年11月

222 映画女優 高峰秀子

天才子役を皮切りに少女スター、そして日本映画の黄金時代を代表する大女優へと飛躍し、日本映画史と昭和史を共に体現した女優・高峰秀子の50年にわたる業績を振り返り、その出演作品82本を2部に分けて上映した。

上映作品には著名な代表作を配する一方、配給会社との交渉により劇場公開以来ほとんど上映されることのなかった貴重な作品を多数加えたことで、ノスタルジーを喚起するにとどまらない、未知の映画を発見する映画アーカイヴとしての実力を見せることができた。また展示企画「映画女優 高峰秀子展」を同時開催したこと、出演作品のポスターを上映会場で展示したことで、昭和の文化史を飾るキャラクターとしての高峰秀子像を十全に演出することができた。

Hideko Takamine, Film Actress

By showing the total of 82 films, this program was a retrospective of Hideko Takamine, great actress who can be said to embody the history of Japanese cinema and of the Showa era (1926-89) with her long and brilliant career between 1929 when she debuted as a genius child actress and 1979 when she retired from acting.

In addition to the famous and popular films, this program also showed a significant number of rare titles which had rarely been screened after their initial release. By doing so, this program successfully fulfilled one of the important missions of film archives, that is, providing the opportunities to “discover” the unknown films. In addition, by holding the exhibition of the same title at the same time and by showing some posters of the films starring Hideko Takamine, we were able to present the actress as the cultural icon of the Showa era.



1

9/4(土)5:00pm 9/24(金)3:00pm

「十九の春」撮影風景(4分・16mm・白黒・無声・16fps)

麗人(118分・16mm・白黒・無声・24fps)

’30(松竹蒲田) **靱子の息子・岩夫** 監島津保次郎 原佐藤紅緑 脚本上徳三郎 脚本原昂美 脇田世根一 田栗島すみ子、岩田祐吉、二葉かほる、奈良真養、山内光、藤野秀夫、鈴木歌子、八雲恵美子、花岡菊子、岡村文子、小林十九二、渡辺篤、伊達里子

2

9/4(土)11:00am 9/28(火)3:00pm

七つの海[前後篇](152分・35mm・白黒・無声・20fps)

’31-32(松竹蒲田) **曽根百代** 監清水宏 原牧逸馬 脚本野田高梧 脚本佐々木太郎 脚本河野鷹思 田川崎弘子、若水絹子、武田春郎、鈴木歌子、岡譲二、江川宇礼雄、泉博子、宮島健一、高松栄子、野寺正一、坂本武、伊達里子

3

9/4(土)2:00pm 9/29(水)7:00pm

新道[前後篇](133分・35mm・白黒)

’36(松竹大船) **子爵の次女・京子** 監岡五所平之助 脚本菊池寛 脚本野田高梧 脚本原譲治 脚本五所福之助 脚本福田幸彦 脚本田中絹代、川崎弘子、佐野周二、上原謙、佐分利信、斎藤達雄、吉川満子、岡村文子、山内光、大山健二、笠智衆、出雲八重子

4

9/5(日)11:00am 9/24(金)7:00pm

花籠の歌(69分・35mm・白黒)

’37(松竹大船) **とんかつ屋の次女・浜子** 監岡平之助 脚本五所平之助 脚本原岩崎文隆 脚本野田高梧 脚本斎藤正夫 脚本脇田世根一 脚本久保田公平 脚本田中絹代、佐野周二、徳大寺伸、河村黎吉、岡村文子、谷麗光、出雲八重子、笠智衆

5

9/5(日)2:00pm 9/28(火)7:00pm

綴方教室(86分・35mm・白黒)

’38(東宝東京) **娘・正子** 監山本嘉次郎 脚本豊田正子 脚本木村千依男 脚本三村明美 脚本山岸田小高まさる、水谷史郎、徳川夢声、清川虹子、瀧澤修、赤木蘭子、三島雅夫、本間教子、音羽久米子、山形天洋、伊藤智子

6

9/5(日)5:00pm 9/29(水)3:00pm

チョコレートと兵隊(74分・35mm・白黒)

’38(東宝東京) **印刷所の娘・田辺茂子** 監佐藤武 脚本小林勝 脚本石川秋子 脚本吉野馨 脚本美吉松英海 脚本伊藤昇 脚本藤原釜足、澤村貞子、小高まさる、若葉きよ子、霧立のぼる、横山運平、生方賢一郎、若宮金太郎、一の瀬綾子、小西司郎、水谷史郎

7

9/11(土)11:00am

樋口一葉(83分・35mm・白黒)

’39(東宝東京) **大黒屋のみどり** 監並木鏡太郎 脚本八住利雄 脚本井春美 脚本久保一雄 脚本原明朗 脚本山田五十鈴、澤村貞子、堤真佐子、椿澄江、英百合子、水町庸子、清川虹子、大川平八郎、高田稔、嵯峨善兵、河村弘二

8

9/7(火)3:00pm 9/23(木・祝)5:00pm

その前夜(86分・35mm・白黒)

’39(東宝京都) **妹娘・おつう** 監萩原遼 脚本山中貞雄 脚本梶原金八 脚本河崎喜久三 脚本河東安英 脚本太田忠 脚本河原崎長十郎、中村靱右衛門、千葉早智子、清川玉枝、山田五十鈴、助高屋助藏、中村鶴藏、橘小三郎、山崎進藏、市川莚司、市川扇升、市川進三郎

9

9/7(火)7:00pm 9/25(土)11:00am

新篇 丹下左膳 隻眼の巻(62分・35mm・白黒)

’39(東宝東京) **吉野屋半左衛門の娘・お春** 監中川信夫 脚本藤川口松太郎 脚本貴船八郎 脚本安本淳美 脚本島康平 脚本伊藤昇 脚本大河内傳次郎、山田五十鈴、黒川彌太郎、岸井明、澤村貞子、鬼頭善一郎、清川莊司、鳥羽陽之助、永井柳太郎、汐見洋、御橋公、冬木京三、進藤英太郎

10

9/8(水)3:00pm 9/30(木)7:00pm

姉の出征(65分・35mm・白黒)

’40(東宝京都) **田口秀子** 監近藤藤彦 脚本眞壁博 脚本河崎喜久三 脚本北村高敏 脚本鈴木静一 脚本山根壽子、小杉義男、藤輪欣司、三田國夫、進藤英太郎、山田長正、森野鍛治哉、伊東薫、小高まさる、山島秀二、對馬和雄、江南通夫、山内八郎、水町庸子、濱路良子、香川澄子

11

9/8(水)7:00pm 9/23(木・祝)2:00pm

孫悟空[前後篇](135分・35mm・白黒)

’40(東宝東京) **お伽の姫** 監脚本山本嘉次郎 脚本三村明美 脚本山岸田小高まさる、水谷史郎、徳川夢声、清川虹子、瀧澤修、赤木蘭子、三島雅夫、本間教子、音羽久米子、山形天洋、伊藤智子

12

9/9(木)3:00pm 9/25(土)2:00pm

昨日消えた男(89分・35mm・白黒)

’41(東宝東京) **篠崎お京** 監マキノ正博 脚本小國英雄 脚本伊藤武夫 脚本樋野正雄 脚本鈴木静一 脚本長谷川一夫、山田五十鈴、徳川夢声、江川宇禮雄、川田義雄、鳥羽陽之助、清川虹子、清川莊司、進藤英太郎、鬼頭善一郎、藤田房子、渡辺篤、サトウ・ロクロー、杉寛、澤井三郎、坂東橘之助、藤間房子

13

9/9(木)7:00pm 9/26(日)11:00am

馬(127分・35mm・白黒)

’41(東宝東京＝映画科学研究所)**農家の娘・小野田いね**監脚山本嘉次郎攝唐澤弘光、三村明、鈴木博、伊藤武夫美松山崇吾北村滋章田藤原雄太(釜足)、竹久千恵子、二葉かほる、平田武、細井俊夫、市川せつ子、丸山定夫、澤村貞子、小杉義男、馬野都留子、松岡綾子、清川莊司、真木順

14

9/10(金)3:00pm 9/25(土)5:00pm

秀子の車掌さん(54分・35mm・白黒)

’41(南旺映画)**バスの車掌・おこまさん**監脚成瀬巳喜男原井伏鱒二攝東健美小池一美吾飯田信夫田藤原鶏太(釜足)、夏川大二郎、清川玉枝、勝見庸太郎、榊田敬治、山川ひろし、松林久晴、林喜美子、馬野都留子

北の三人(40分・35mm・白黒・不完全)

’45(東宝)航空基地の通信兵監佐伯清脚山形雄策攝中井朝一美平川透徹吾早坂文雄田原節子、山根壽子、藤田進、河野秋武、佐分利信、志村喬、田中春男、浅田健三、光一、小森敏、羽島敏子、中北千枝子、尾崎幸子

15

9/10(金)7:00pm 9/30(木)3:00pm

武蔵坊辨慶(87分・35mm・白黒)

’42(東宝東京)**牛若丸(後に義経)**監渡邊邦男原脚比佐芳武攝友成達雄美島康平吾服部良一田岡譲二、山田五十鈴、黒川彌太郎、小高まさる、高堂國典、進藤英太郎、佐山亮、小杉義男、岬洋二、清川莊司、石上郁、轟美津子

16

9/11(土)2:00pm 10/1(金)3:00pm

待って居た男[再公開版](98分・35mm・白黒)

’42(東宝映画)**お雪**監マキノ正博脚小國英雄攝山崎一雄美中古智吾鈴木静一田長谷川一夫、山田五十鈴、榎本健一、藤原鶏太(釜足)、大川平八郎、清川莊司、山本礼三郎、江川宇礼雄、横山運平、中村是好、鳥羽陽之助、柳谷寛、深見泰三、山根壽子、清川玉枝、澤村貞子

17

9/11(土)5:00pm 10/5(火)3:00pm

婦系圖[総集篇・再公開版](108分・35mm・白黒)

’42(東宝映画)**教授の娘・妙子**監マキノ正博原泉鏡花脚小國英雄攝三浦光雄美久保一雄吾鈴木静一田長谷川一夫、山田五十鈴、古川緑波、山本禮三郎、進藤英太郎、菅井一郎、小杉義男、瀧口新太郎、山根壽子、三谷幸子、田中筆子、澤村貞子、三益愛子、村瀬幸子

18

9/12(日)11:00am 10/1(金)7:00pm

愛の世界 山猫とみの話(93分・35mm・白黒)

’43(東宝映画)**山猫と呼ばれる少女・小田切とみ**監青柳信雄原佐藤春夫、坪田譲治、富澤有為男脚如月敏、黒川彌攝伊藤武夫美中古智吾鈴木静一田小高つとむ、加藤博司、里見藍子、谷間小百合、田中筆子、一の宮敦子、加藤照子、高津慶子、菅井一郎、進藤英太郎、永井柳作、下田猛、清川莊司

19

9/12(日)2:00pm 10/5(火)7:00pm

阿片戦争(115分・16mm・白黒)

’43(東宝映画)**広東の少女・麗蘭**監マキノ正博原松崎啓次脚小國英雄攝小原譲治美久保一雄吾服部良一田市川猿之助、原節子、河津清三郎、小杉義男、清川莊司、菅井一郎、進藤英太郎、浅田健三、山本礼三郎、丸山定夫、鈴木傳明、青山杉作、坂東好太郎

20

9/12(日)5:00pm 10/6(水)3:00pm

兵六夢物語(67分・35mm・白黒)

’43(東宝映画)**怪童女**監青柳信雄原獅子文六脚如月敏、志村敏夫攝伊藤武夫美安倍輝明吾栗原重一田榎本健一、霧立のぼる、黒川彌太郎、柳田貞一、中村是好、如月寛多、森健二、大江將夫、宏川光子、横尾泥海男

21

9/14(火)3:00pm 9/26(日)5:00pm

四つの結婚(63分・35mm・白黒・不完全)

’44(東宝)**四女・啓子**監青柳信雄脚太宰治脚八木隆一郎攝川村清衛美北川恵笥吾服部正田入江たか子、山田五十鈴、山根寿子、河野秋武、清川莊司、江川宇礼雄

22

9/14(火)7:00pm 10/2(土)11:00am

明日を創る人々(83分・35mm・白黒)

’46(東宝)**高峰**監脚山本嘉次郎監黒澤明、関川秀雄脚山形雄策攝三浦光雄、伊藤武夫、完倉泰一美北猛夫、北川恵司吾伊藤昇田藤田進、薄田研二、森雅之、竹久千恵子、志村喬、鳥羽陽之助、清水將夫、北澤彪、浅田健三、千葉一郎、椿澄枝、谷間小百合、三谷幸子、河野糸平、中北千枝子、浜田百合子

23

9/15(水)3:00pm 9/26(日)2:00pm

或る夜の殿様(112分・35mm・白黒)

’46(東宝)**越後屋の娘・妙子**監笠笠貞之助脚小國英雄攝河崎喜久三美久保一雄吾鈴木静一田長谷川一夫、藤田進、大河内傳次郎、山田五十鈴、飯田蝶子、吉川満子、志村喬、菅井一郎、清川莊司、進藤英太郎、清水將夫、北澤彪、清川玉枝、花岡菊子

24

9/15(水)7:00pm 10/2(土)2:00pm

大江戸の鬼(99分・35mm・白黒)

’47(新東宝映画)**おなつ**監萩原遼脚三村伸太郎攝安本淳美島康平吾鈴木静一田大河内傳次郎、長谷川一夫、黒川弥太郎、上山草人、汐見洋、田中春男、鬼頭善一郎、清川莊司、宮川五十鈴、高勢実乗、伊藤雄之助

25

9/18(土)11:00am
花ひらく 眞知子より(88分・35mm・白黒)
'48(新東宝映画) **曽根眞知子**監市川崑原野上彌生子脚八住利雄瀧小原議治美河野鷹思吾早坂文雄田上原謙、藤田進、吉川満子、三村秀子、田中春男、村田知英子、水原久美子、春山葉子、伊達里子、江見渉

26

9/18(土)2:00pm
三百六十五夜【総集篇】(119分・35mm・白黒)
'48(新東宝) **小牧蘭子**監市川崑原小島政二郎脚館岡謙之助瀧三村明美進藤誠吾吾服部正田上原謙、山根壽子、大日方傳、堀雄二、田中春男、鳥羽陽之助、清川莊司、河村黎吉、三村秀子、吉川満子、一の宮あつ子、葉村みき子、二葉あき子、江見渉、三原純

27

9/16(木)3:00pm 10/2(土)5:00pm
虹を抱く処女(87分・35mm・白黒)
'48(新東宝) **看護婦・北条あき子**監佐伯清瀧八田尚之瀧小原議治美松山崇吾早坂文雄田上原謙、若原雅夫、宇野重吉、田中春男、水原久美子、落合富子、三村秀子、香山みち子

28

9/16(木)7:00pm 10/3(日)11:00am
春の戯れ(109分・35mm・白黒)
'49(映画芸術協会＝新東宝) **お花**監瀧山本嘉次郎瀧山崎一雄美松山崇吾早坂文雄田徳川夢声、宇野重吉、飯田蝶子、三島雅夫、鳥羽陽之助、一の宮あつ子

29

9/17(金)3:00pm 10/3(日)2:00pm
グッドバイ(女性操縦法)【改題短縮版】(69分・35mm・白黒)
'49(新東宝) **かつぎ屋・永井きぬ子**監島耕二原太宰治瀧小国英雄瀧三村明美下河原友雄吾鈴木静一田森雅之、若原雅夫、清川玉枝、江川宇礼雄、高田稔、霧立のぼる、三村秀子、藤間紫、一の宮あつ子、清川虹子

30

9/17(金)7:00pm 10/9(土)2:30pm
銀座カンカン娘(67分・35mm・白黒・タイトル欠落)
'49(新東宝) **お秋**監島耕二脚中田晴康、山本嘉次郎瀧三村明美河野鷹思吾服部良一田灰田勝彦、笠置シヅ子、古今亭志ん生、岸井明、服部早苗、浦辺粂子、山室耕、松尾文人、三村秀子、中原謙三

31

9/18(土)5:00pm 10/6(木)7:00pm
処女宝(競う美女姉妹)【改題短縮版】(66分・35mm・白黒・タイトル欠落)
'50(新東宝) **立花真金**監島耕二原菊池寛脚野村浩将瀧三村明美河野鷹思吾齋藤一郎田上原謙、山村聡、高杉早苗、汐見洋、吉川満子、宮川玲子、青山五郎、若月輝夫、水原通子、鳥羽陽之助、江戸川蘭子、清川玉枝

32

9/19(日)11:00am 10/7(木)3:00pm
細雪(141分・35mm・白黒)
'50(新東宝) **蒔岡家の四女・妙子**監阿部豊脚谷崎潤一郎瀧八住利雄瀧山中進美進藤誠吾吾早坂文雄田花井蘭子、轟夕起子、山根壽子、伊志井寛、河津清三郎、田中春男、田崎潤、藤田進、堀雄二、鳥羽陽之助、香川京子

33

9/19(日)2:00pm 10/8(金)3:00pm
女の水鏡(90分・35mm・白黒)
'51(松竹大船) **社長令嬢・皆本苗子**監原研吉原舟橋聖一齋藤良輔、鈴木兵吾瀧森田俊保美河野鷹思吾加藤光男田柳永二郎、佐分利信、佐野周二、奈良真養、津島恵子、市川春代、東山千栄子、細川俊夫、増田順三、山田英子

34

9/19(日)5:00pm 10/7(木)7:00pm
我が家は楽し(91分・35mm・白黒)
'51(松竹大船) **植村家の長女・朋子**監中村登原脚田中澄江瀧柳井隆雄瀧厚田雄春美熊谷正雄吾黛敏郎田笠智衆、山田五十鈴、佐田啓二、櫻むつ子、高堂國典、楠田薫、青山杉作、増田順二、水上令子、奈良真養、南進一郎、岸恵子

35

9/21(火)3:00pm 10/10(日)5:00pm
カルメン故郷に帰る(86分・35mm・カラー)
'51(松竹大船) **リリイ・カルメン**監脚木下恵介瀧楠田浩之美小島基司、平高主計吾木下忠司、黛敏郎田佐野周二、笠智衆、井川邦子、坂本武、見明凡太郎、高堂國典、小林トシ子、三井弘次、望月美恵子(優子)、山路義人、磯野秋雄、桑原澄江

36

9/21(火)7:00pm 10/10(日)2:00pm
朝の波紋(103分・35mm・白黒)
'52(スタジオエイトプロ) **秘書・瀧本篤子**監五所平之助原高見順脚館岡謙之助瀧三浦光雄美進藤誠吾吾齊藤一郎田池部良、上原謙、岡田英次、香川京子、三宅邦子、沼田曜一、澤村契恵子、高田稔、滝花久子、吉川満子、浦邊粂子、岡本克政、田中春男、中村是好、清水将夫、汐見洋、大川平八郎、齊藤達雄、信欣三

37

9/22(水)3:00pm 10/9(土)5:00pm

東京のえくぼ(88分・35mm・白黒)

’52(新東宝)婦人警官・峯京子監松林宗恵脚小国英雄攝小原譲治美進藤誠吾音服部良一田上原謙、丹阿弥谷津子、柳家金語楼、清川虹子、古川緑波、小林桂樹、小倉繁、田中春男、江川宇礼雄

38

9/3(金)7:00pm 10/3(日)5:00pm

稲妻(87分・35mm・白黒)

’52(大映東京)小森清子監成瀬巳喜男原林芙美子脚田中澄江攝峰重義美仲美喜雄音齊藤一郎田三浦光子、香川京子、村田知英子、根上淳、小澤榮、浦辺粂子、中北千枝子、瀧花久子、植村謙三郎、杉丘毬子、丸山修、高品格、伊達正

39

9/22(水)7:00pm 10/10(日)11:00am

カルメン純情す(103分・35mm・白黒)

’52(松竹大船)カルメン監脚木下恵介攝楠田浩之美浜田辰雄音黛敏郎、木下忠司田若原雅夫、淡島千景、小林トシ子、三好榮子、東山千榮子、村瀬幸子、坂本武、日守新一、斎藤達雄、堺駿二、望月優子、多々良純、増田順二、須賀不二夫、高松榮子、北原三枝、高瀬乗二

40

9/23(木・祝)11:00am 10/8(金)7:00pm

明日はどちらだ(97分・35mm・白黒)

’53(新東宝=スタジオエイトプロ)芸妓・光奴監長谷部慶治原永井龍男脚長谷川公之脚鈴木博美伊藤寿一原六朗田舟橋元、三井弘次、柳永二郎、香川京子、島崎雪子、宇野重吉、池部良、和田孝、潮万太郎、小倉繁

41

9/3(金)3:00pm 10/9(土)11:00am

二十四の瞳(155分・35mm・白黒)

’54(松竹大船)教師・大石久子監脚木下恵介原壺井栄脚楠田浩之美中村公彦音木下忠司田月丘夢路、小林トシ子、井川邦子、田村高廣、笠智衆、夏川静江、浦辺粂子、清川虹子、浪花千栄子、明石潮、天本英世、高原駿雄、南真由美

Part2

1

10/12(火)3:00pm 10/31(日)2:00pm

与太者と海水浴(71分・35mm・白黒・無声・24fps)

’33(松竹蒲田)東山家の若様・敏行監野村浩将原脚柳井隆雄攝高橋与吉田磯野秋雄、三井秀男(弘次)、阿部正三郎、光川京子、加藤清一、井上雪子、日守新一

2

10/12(火)7:00pm 11/3(水・祝)11:00am

娘の願ひは唯一つ(71分・35mm・白黒)

’39(東宝東京)田村ひで子監斎藤寅次郎原曾我廼家五郎脚小国英雄脚友成達雄美山崎醇之輔音鈴木静一田渡辺篤、清川虹子、澤井三郎、澤村貞子、ギャング坊や、川端珠恵、神田千鶴子、杉寛、三條利喜江、サトウ・ロクロー、轟美津子、永井柳太郎、榎田敬二、山田長正

3

10/13(水)3:00pm 10/31(日)5:00pm

花つみ日記(73分・35mm・白黒)

’39(東宝京都)芸妓屋の娘・篠原栄子監石田民三原吉屋信子脚鈴木紀子攝山崎一雄美河東安英音鈴木静一田清水美佐子、葦原邦子、進藤英太郎、伊達里子、大倉文雄、三條利喜枝、花沢徳衛、林喜美子、御舟京子、松岡綾子、三邦英子、三田進、山田好良、伊井吟子

4

10/13(水)7:00pm 11/6(土)2:00pm

秀子の応援団長(71分・35mm・白黒)

’40(南旺映画)秀子監千葉泰樹脚高田保、山崎謙太攝中井朝一美小池一美音佐々木俊一田小杉義男、澤村貞子、清川玉枝、千田是也、伊達里子、若原春江、灰田勝彦、音羽久米子、加藤欣子、小高まさる

5

10/14(木)3:00pm 11/3(水・祝)2:00pm

ハナ子さん(71分・35mm・白黒)

’43(東宝映画)チヨ子さん監マキノ正博原杉浦幸雄脚山崎謙太、小森静男脚木塚誠一美北川恵司音鈴木静一田轟夕起子、山本礼三郎、英百合子、山根寿子、灰田勝彦、岸井明、中村彰、藤間房子、小島洋々、伊藤智子、橘薫、嵯峨善兵、伊達里子、澤井一郎、加納桂三

6

10/14(木)7:00pm 11/6(土)11:00am

幸福への招待(91分・35mm・白黒)

’47(新東宝映画)椎名ヒサ子監千葉泰樹原脚八木隆一郎脚河崎喜久三美下河原友雄音伊福部昭田大河内傳次郎、入江たか子、河津清三郎、花井蘭子、野上千鶴子、中村彰、藤村昌子、春山葉子、中村哲、清川玉枝、島かつ子、三條利喜江、田中春男

10/15(金)3:00pm 11/3(水・祝)5:00pm

女といふ城 マリの巻(88分・35mm・白黒)

’53(新東宝)**築地マリ**監阿部豊原小島政二郎脚館岡謙之助攝横山実美加藤雅俊音斎藤一郎田上原謙、高島忠夫、乙羽信子、鳥羽陽之助、小沢栄、安部徹、小川虎之助、南寿美子、千明みゆき、冬木京三、十朱久雄、清川玉枝

10/15(金)7:00pm 11/6(土)5:00pm

女といふ城 タ子の巻(84分・35mm・白黒)

’53(新東宝)**築地マリ**監阿部豊原小島政二郎脚館岡謙之助攝横山実美加藤雅俊音斎藤一郎田上原謙、高島忠夫、乙羽信子、鳥羽陽之助、小沢栄、安部徹、小川虎之助、南寿美子、千明みゆき、冬木京三、十朱久雄、清川玉枝

10/16(土)11:00am

煙突の見える場所(108分・35mm・白黒)

’53(新東宝=スタジオエイトプロ)**アナウンサー・東仙子**監五所平之助原雅名麟三脚小國英雄攝三浦光雄美下河原友雄音芥川也寸志田中絹代、上原謙、芥川比呂志、関千恵子、花井蘭子、坂本武、田中春男、三好栄子、浦辺糸子、星ひかる、中村是好、小倉繁、大原栄子、本間文子

10/16(土)2:00pm 11/2(火)3:00pm

雁(104分・35mm・白黒)

’53(大映東京)**お玉**監豊田四郎原森崎外朗成澤昌茂攝三浦光雄美伊藤嘉朗音團伊玖磨田上原謙、宇野重吉、東野英治郎、飯田蝶子、田中榮子、浦辺糸子、小田切みき、三宅邦子、伊達正

10/16(土)5:00pm 11/4(木)3:00pm

女の園(141分・35mm・白黒)

’54(松竹大船)**新入生・出石芳江**監脚木下恵介原阿部知二攝楠田浩之美中村公彦音木下忠司田高峰三枝子、岸恵子、久我美子、田村高廣、田浦正巳、三木隆、井川邦子、望月優子、東山千栄子、毛利菊枝、浪花千栄子、金子信雄、松本克平、山本和子、岡田和子

10/17(日)11:00am 11/2(火)7:00pm

この広い空のどこかに(109分・35mm・白黒)

’54(松竹大船)**泰子**監小林正樹脚楠田芳子、松山善太(善三) 攝森田俊保美平高主計音木下忠司田佐田啓二、久我美子、石浜朗、大木実、小林トシ子、田浦正巳、浦辺糸子、中北千枝子、三好栄子、日守新一、内田良平、野辺かほる、岡田和子

10/17(日)2:00pm 11/4(木)7:00pm

浮雲(122分・35mm・白黒)

’55(東宝)**幸田ゆき子**監成瀬巳喜男原林美美子脚水木洋子攝玉井正夫美中古智音齋藤一郎田森雅之、岡田茉莉子、山形勲、中北千枝子、加東大介、木匠マユリ、千石規子、村上冬樹、大川平八郎、金子信雄、ロイ・H・ジェームズ

10/17(日)5:00pm 11/5(金)3:00pm

渡り鳥いつ帰る(128分・35mm・白黒)

’55(東京映画)**アプレ娘・街子**監久松静児原永井荷風脚久保田万太郎、八住利雄攝高橋通夫、玉井正夫美伊藤嘉朗、小島基司音團伊玖磨田中絹代、森繁久彌、久慈あさみ、淡路恵子、岡田茉莉子、水戸光子、太刀川洋一、桂木洋子、織田政雄、浦辺糸子、左ト全、藤原釜足

10/19(火)3:00pm 11/5(金)7:00pm

遠い雲(99分・35mm・白黒)

’55(松竹大船)**冬子**監脚木下恵介脚松山善三攝楠田浩之美平高主計音木下忠司田佐田啓二、高橋貞二、田村高廣、石濱朗、田浦正巳、桂木洋子、小林トシ子、井川邦子、中川弘子、柳永二郎、坂本武、夏川静江、明石潮

10/19(火)7:00pm 11/7(日)11:00am

子供の眼(85分・35mm・白黒)

’56(松竹大船)**三田村喜世子**監川頭義郎原佐多稲子脚松山善三攝楠田浩之美平高主計音木下忠司田高峰三枝子、芥川比呂志、設楽幸嗣、丹阿弥谷津子、大木実、笠智衆、滝花久子

10/20(水)3:00pm 11/7(日)2:00pm

新・平家物語 義仲をめぐる三人の女(121分・35mm・カラー)

’56(大映京都)**冬姫**監脚衣笠貞之助原吉川英治脚成澤昌茂、辻久一攝杉山公平美柴田篤二音斎藤一郎田長谷川一夫、京マチ子、山本富士子、大河内傳次郎、黒川彌太郎、柳永二郎、進藤英太郎、志村喬、夏目俊二、杉山昌三九、細川俊夫、山路義人、羅門光三郎

10/20(水)7:00pm 11/13(土)11:00am

流れる(116分・35mm・白黒)

’56(東宝)**つた奴の娘・勝代**監成瀬巳喜男原幸田文脚田中澄江、井手俊郎攝玉井正夫美中古智音齋藤一郎田中絹代、山田五十鈴、岡田茉莉子、杉村春子、栗島すみ子、中北千枝子、賀原夏子、宮口精二、加東大介、中村伸郎、音羽久米子、南美江、上田吉二郎

19
10/21(木)3:00pm 11/7(日)5:00pm

「雲の墓標」より 空ゆかば(105分・35mm・白黒)
'57(松竹大船)坂井さち監脚堀内真直原阿川弘之脚高橋治彌山原治夫美萩原重夫菅池田正義田村高廣、田浦正巳、渡辺文雄、大木実、岸恵子、笠智衆、滝花久子、諸角啓二郎、十朱久雄、永田靖、佐竹明夫、永井達郎、川喜多雄二、菅佐原英一、伊沢一郎、内田良平

20
10/21(木)7:00pm 11/9(火)3:00pm

喜びも悲しみも幾歳月(162分・35mm・カラー)
'57(松竹大船)灯台員の妻・有沢さよ子監原脚本下恵介彌楠田浩之美伊藤熹朔、梅田千代夫脚本下忠司田佐田啓二、田村高広、中村賀津雄、桂木洋子、三井弘次、井川邦子、夏川静江、有沢正子、伊藤弘子、仲谷昇、北龍二、三木隆、櫻むつ子、明石潮、坂本武

21
10/22(金)3:00pm 11/9(火)7:00pm

風前の灯(79分・35mm・白黒)
'57(松竹大船)妻・佐藤百合子監脚本下恵介彌楠田浩之美梅田千代夫脚本下忠司田佐田啓二、田村秋子、南原伸二、小林トシ子、田中晋二、伊藤弘子、有沢正子、小瀬朗、小野良、サトウ・サブロー、佐藤芳秀、佐田彰二、里見孝二

22
10/22(金)7:00pm 11/13(土)2:00pm

張込み(116分・35mm・白黒)
'58(松竹大船)横川の後妻・さだ子監野村芳太郎脚本清張彌橋本忍彌井上晴二美逆井清一郎菅黛敏郎田大木実、田村高広、宮口精二、高千穂ひづる、菅井きん、清水将夫、内田良平、藤原釜足、浦辺粂子、小田切みき、北林谷栄、芦田伸介、近衛敏明

23
10/23(土)11:00am 11/10(水)3:00pm

無法松の一生(104分・35mm・カラー)
'58(東宝)未亡人・吉岡良子監脚稲垣浩原岩下俊作脚本伊丹万作彌山田一夫美植田寛脚本伊政磨田三船敏郎、芥川比呂志、飯田蝶子、笠智衆、田中春男、多々良純、中村伸郎、宮口精二、中北千枝子、有島一郎、左ト全、高堂国典、土屋嘉男、沢村いき雄、小杉義男、上田吉二郎

24
10/23(土)2:00pm 11/11(木)7:00pm

女が階段を上る時(111分・35mm・白黒)
'60(東宝)バーのマダム・矢代圭子監成瀬巳喜男脚本玉井正夫美中古智菅黛敏郎田森雅之、团令子、仲代達矢、加東大介、中村鴈治郎、小沢栄太郎、淡路恵子、山茶花究、多々良純、藤木悠、織田政雄、三津田健、細川ちか子、沢村貞子

25
10/23(土)5:00pm 11/10(水)7:00pm

笛吹川(117分・35mm・カラー)
'60(松竹大船)おけい監脚本下恵介原深沢七郎彌楠田浩之美伊藤熹朔、江崎孝坪脚本下忠司田村高広、市川染五郎、岩下志麻、川津祐介、田中晋二、中村萬之助、渡辺文雄、加藤嘉、井川邦子、安部徹、小林トシ子、山岡久乃、市原悦子

26
10/24(日)11:00am 11/11(木)3:00pm

名もなく貧しく美しく(129分・35mm・白黒)
'61(東京映画)秋子監脚本山善三脚本玉井正夫美中古智、狩野健吾林光田小林桂樹、原泉、荒木道子、根岸明美、草笛光子、加山雄三、高橋昌也、松本染升、沼田曜一、中北千枝子、南美江、一の宮あつ子、賀原夏子、河内桃子、藤原釜足、多々良純、織田政雄

27
10/24(日)2:00pm 11/12(金)3:00pm

永遠の人(103分・35mm・白黒)
'61(松竹大船)小作人の娘・さだ子監脚本下恵介彌楠田浩之美梅田千代夫脚本下忠司田佐田啓二、仲代達矢、乙羽信子、石浜朗、東野英治郎、藤由紀子、野々村潔、加藤嘉、永田靖、浜田寅彦、田村正和

28
10/24(日)5:00pm 11/16(火)3:00pm

山河あり(127分・35mm・白黒)
'62(松竹大船)ハワイ移民・井上きしの監脚本山善三脚本板栄二郎彌楠田浩之美戸田重晶(重昌)脚本下忠司田村高広、桑野みゆき、久我美子、小林桂樹、石浜朗、早川保、ミッキー・カーチス、三井弘次、加藤嘉、清水将夫、河野秋武、千之赫子、桂小金治

29
10/26(火)3:00pm 11/13(土)5:00pm

二人で歩いた幾春秋(102分・35mm・白黒)
'62(松竹大船)野中とら江監脚本下恵介原河野道工彌楠田浩之美浦山芳郎脚本下忠司田佐田啓二、久我美子、倍賞千恵子、山本豊三、野々村潔、菅井きん、小川虎之助、岸輝子、浜田寅彦、三崎千恵子、左右田一平、河野秋武

30
10/26(火)7:00pm 11/18(木)3:00pm

放浪記(123分・35mm・白黒)
'62(宝塚映画)林ふみ子監成瀬巳喜男脚本林芙美子、菊田一夫脚本手俊郎、田中澄江彌安本淳美中古智菅古関裕爾田中絹代、宝田明、加東大介、小林桂樹、草笛光子、仲谷昇、伊藤雄之助、多々良純、織田政雄、加藤武、文野朋子、賀原夏子、飯田蝶子

31
10/27(水)3:00pm 11/12(金)7:00pm

乱れる(98分・35mm・白黒)
'64(東宝)酒屋店主・森田礼子監成瀬巳喜男脚松山善三監安本淳美
中智音斉藤一郎田加山雄三、草笛光子、白川由美、浜美枝、三益愛
子、藤木悠、北村和夫、十朱久雄、浦辺粂子、柳谷寛、佐田豊、中山豊、
矢吹寿子、中北千枝子

32
10/27(水)7:00pm 11/14(日)11:00am

われ一粒の麦なれど(108分・35mm・白黒)
'64(東京映画)女医・根本倫子監脚松山善三監村井博美野野健音佐
藤勝田小林桂樹、大村崑、水谷良重、大辻伺郎、木村功、田崎潤、田中
春男、菅井きん、市原悦子、毛利菊枝、岡村文子、名古屋章、下元勉、浜
村純、天本英世

33
10/28(木)3:00pm 11/14(日)2:00pm

六條ゆきやま紬(106分・35mm・白黒)
'65(東京映画)六條家の嫁・いね監脚松山善三監岡崎宏三美小島基
司音佐藤勝田神山茂、毛利菊枝、フランキー堺、小林桂樹、大空真弓、
杉村春子、佐野周二、石山健二郎、出雲八重子、有馬昌彦、浜村純、小
林桂樹、田中筆子、大辻伺郎、宇佐美淳也、菅井きん、名古屋章

34
10/28(木)7:00pm 11/17(水)3:00pm

父と子 続・名もなく貧しく美しく(115分・35mm・白黒)
'67(東京映画)片山秋子監脚松山善三監岡崎宏三美小野友滋音船村
徹田小林桂樹、北大路欣也、内藤洋子、田村亮、大空真弓、加東大介、
原泉、乙羽信子、稲葉義男、当銀長太郎、丸山謙一郎、木村俊恵、古庄
敏行

35
10/29(金)3:00pm 11/17(水)7:00pm

華岡青洲の妻(99分・35mm・白黒)
'67(大映京都)母・於継監増村保造原吉佐和子脚新藤兼人監小林
節雄美西岡善信音林光田市川雷蔵、若尾文子、伊藤雄之助、渡辺美佐
子、丹阿弥谷津子、原知佐子、浪花千栄子、内藤武敏、伊達三郎、田武
謙三、木村玄、南部彰三、舟木洋一

36
10/29(金)7:00pm 11/14(日)5:00pm

鬼の棲む館(76分・35mm・カラー)
'69(大映京都)盗賊の妻・楓監三隅研次原谷崎潤一郎脚新藤兼人監
宮川一夫美内藤昭音伊福部昭田勝新太郎、新珠三千代、佐藤慶、五味
竜太郎、木村元、伊達岳志、伴勇太郎、松田剛武、黒木現

37
10/30(土)11:00am 11/16(火)7:00pm

恍惚の人(100分・35mm・白黒)
'73(芸苑社)立花昭子監豊田四郎原吉佐和子脚松山善三監岡崎宏
三美小島基司音佐藤勝田森繁久彌、田村高廣、乙羽信子、中村伸郎、
杉葉子、篠ヒロコ、伊藤高、市川泉、吉田日出子、神保共子、野村昭子、
浦辺粂子

38
10/30(土)2:00pm 11/18(木)7:00pm

スリランカの愛と別れ(116分・35mm・カラー)
'76(東宝映画＝俳優座映画放送)ジャカランタ夫人監原脚木下恵介
脚中井朝一美村木与四郎音木下忠司田北大路欣也、栗原小巻、小林
桂樹、津島恵子、小野川公三郎、片桐新、太田博之、ニランジャン・ペレ
ラ、スレン・サアヴァンドー、カピンダ・ワニニアラッチィ、アータ・デ・シ
ルヴァ

39
10/30(土)5:00pm 11/19(金)3:00pm

ふたりのイーダ(110分・35mm・カラー)
'76(ふたりのイーダプロ)広島島の祖母監脚松山善三原松谷みよ子監中
川芳久美村木忍音木下忠司田倍賞千恵子、上屋健一、原口祐子、山口
崇、宇野重吉、森繁久彌、田中筆子、砂塚英夫

40
10/31(日)11:00am 11/19(金)7:00pm

衝動殺人 息子よ(130分・35mm・カラー)
'79(松竹＝東京放送)川瀬雪枝監脚木下恵介原佐藤秀郎脚砂田量爾
脚岡崎宏三美重田重盛音木下忠司田若山富三郎、田中健、大竹しのぶ、
尾藤イサオ、高岡健二、田村高廣、中村玉緒、近藤正臣、藤田まこと、吉
永小百合、加藤剛、大地康雄

* 監＝監督・演出 原＝原作・原案 脚＝脚本・脚色・構成
 撮＝撮影 美＝美術・舞台設計・装置・美術監督
 音＝音楽・音楽監督 田＝出演
* クレジット中の太字は高峰秀子の役名です。

会 期
平成16年11月20日～11月28日 (8日間)
会 場
大ホール
共 催
特定非営利活動法人東京フィルメックス 実行委員会
上映回数
24回
入場者総数
4,450人(1回平均185人)
雑誌・新聞関連記事
時代劇マガジン 2004VOL.9 平成 16年10月6日
CUT 2004.11No.172 平成16年10 月19日
CDジャーナル 2004November 平成16年10月20日
プレミア日本版 12月号 平成16年10 月20日
朝日新聞 平成16年10月29日夕刊
定年時代 平成16年11月下旬号 平成16年11月15日
シネ・フロント 2004年11月号 平成 16年11月15日
しんぶん赤旗 平成16年11月18日
朝日新聞 平成16年11月20日
日本経済新聞 平成16年11月20日夕 刊
メンズダイジェスト首都圏版 通巻11号 平成16年11月22日
週刊文春 11月25日号 平成16年11 月25日
Weeklyぴあ 平成16年11月25日
図書新聞 平成16年11月27日
キネマ旬報11月下旬号 2004No.1417 平成16年11月15日
キネマ旬報12月上旬号 2004No.1418 平成16年12月1日
しんぶん赤旗 平成16年12月28日

223 第5回東京フィルメックス 特集上映 内田吐夢監督選集 映画真剣勝負

第5回東京フィルメックスとの共催企画として、巨匠内田吐夢監督の代表作13本を上映した(うち1本は有楽町朝日ホールでも音楽伴奏つきで上映)。すべての作品に英語字幕を付し、初日には若手映画作家によるトークイベントも行った。

昨年度の東京フィルメックスとの共催企画「清水宏 生誕100年」の好評に続き、映画祭の主要な観客である若年層の映画ファンをこうした黄金時代の名作に惹きつけたことは、共催の大きな意義であった。有楽町朝日ホールでの上映では、気鋭のミュージシャン大友良英氏のグループによる演奏が付され、あわせて内田吐夢再発見の好機となった。東京フィルメックスは多くの外国の上映関係者が参加することや、上映された全作品に英語字幕が付されているため海外映画祭で特集が組まれやすいことから、本企画で上映されたプリントが第34回ロッテルダム映画祭(平成17年1月26日～2月6日)等で上映されるなど、その後の海外展開にもつながっている。

The 5th Tokyo FILMeX: Seriously Entertaining : The Battle for Uchida Tomu's Film Style

Co-organized by the 5th Tokyo FILMeX, this program showed 13 representative films by director Tomu Uchida (One of them was also screened at the Yurakucho Asahi Hall with musical accompaniment played by Yoshihide Ōtomo's group.) All 13 films were subtitled in English. A talk event by young filmmakers was held on the opening day.

As was also the case with the successful Hiroshi Shimizu Retrospective in the previous year, it was very significant to co-organize this program with FILMeX especially because the festival draws a large number of young film fans many of who encountered films from the Golden Age of Japanese cinema such as Uchida's for the first time. As the FILMeX is attended by many international film specialists, some of the prints shown in this program were later screened at foreign festivals such as the 34th Rotterdam Film Festival (January 26~February 6, 2005.)



11/20(土)11:00am 11/28(日)5:00pm

血槍富士(94分・35mm・白黒)

’55(東映京都) 脚三村伸太郎 監吉田貞次 出片岡千恵蔵、月形龍之介、喜多川千鶴、田代百合子

11/20(土)2:00pm 11/26(金)7:30pm

たそがれ酒場(94分・35mm・白黒)

’55(新東宝) 監灘千造 監西垣六郎 出津島恵子、野添ひとみ、小杉勇、宇津井健

11/20(土)5:00pm 11/25(木)4:00pm

自分の穴の中で(125分・35mm・白黒)

’55(日活) 監八木保太郎 監峰重義 出三國連太郎、宇野重吉、月丘夢路、北原三枝、金子信雄

11/21(日)11:00am 11/27(土)2:00pm

黒田騒動(108分・35mm・白黒)

’56(東映京都) 監高岩肇 監吉田貞次 出片岡千恵蔵、大友柳太朗、薄田研二、高千穂ひづる

11/21(日)2:00pm 11/27(土)5:00pm

暴れん坊街道(95分・35mm・白黒)

’57(東映京都) 監依田義賢 監吉田貞次 出佐野周二、山田五十鈴、植木基晴、千原しのぶ

11/23(火・祝)11:00am 11/25(木)7:00pm

森と湖のまつり(113分・35mm・カラー)

’58(東映東京) 監植草圭之助 監西川庄衛 出高倉健、香川京子、三國連太郎、中原ひとみ

11/23(火・祝)2:00pm 11/28(日)11:00am

浪花の恋の物語(106分・35mm・カラー)

’59(東映京都) 監成沢昌茂 監坪井誠 出中村錦之助、有馬稲子、田中絹代、片岡千恵蔵

11/23(火・祝)5:00pm 11/27(土)11:00am

酒と女と槍(99分・35mm・カラー)

’60(東映京都) 監井手雅人 監鷺尾元也 出大友柳太朗、淡島千景、花園ひろみ、片岡千恵蔵

11/24(水)1:00pm 11/28(日)2:00pm

妖刀物語 花の吉原百人斬り(109分・35mm・カラー)

’60(東映京都) 監依田義賢 監吉田貞次 出片岡千恵蔵、水谷良重、木村功、山東昭子

11/24(水)4:00pm 11/26(金)1:00pm

恋や恋なすな恋(109分・35mm・カラー)

’62(東映京都) 監依田義賢 監吉田貞次 出大川橋蔵、嵯峨三智子、宇佐美淳也、月形龍之介

11/21(日)4:30pm 11/26(金)3:30pm

飢餓海峡(183分・35mm・白黒)

’65(東映東京) 監鈴木尚之 監仲沢半次郎 出三國連太郎、左幸子、伴淳三郎、高倉健

11/24(水)7:00pm

人生劇場 飛車角と吉良常(109分・35mm・カラー)

’68(東映東京) 監棚田吾郎 監仲沢半次郎 出鶴田浩二、高倉健、藤純子、若山富三郎、辰巳柳太郎

11/25(木)1:00pm

警察官(91分・35mm・18fps・白黒)

’33(新興キネマ) 監山内英三 監坂坂操一 出中野英治、小杉勇、松本泰輔、森静子

会 期
平成16年12月7日～12月26日/ 平成17年1月18日～2月20日 (48日間)
会 場
大ホール
上映回数
114回
入場者総数
17,735人(1回平均156人)
雑誌・新聞関連記事
図書新聞 平成16年10月23日 しんぶん赤旗 平成16年12月2日 文化庁月報No.434 平成16年11月号 なぎさ12月号 平成16年12月1日 hanako No.816 平成16年12月22日 中央区タウンHP 平成16年11月2日

224 特集・逝ける映画人を偲んで 2002-2003

日本映画界にそれぞれの足跡を残し逝去した映画関係者の業績をその代表作で偲び、回顧する、フィルムセンターの恒例企画であり、著名監督や俳優に限定されない幅広い映画人を追悼することで定評がある。大ベテランも夭折者も逝去の時期が近いという理由で同時に扱われるという性格を持つため、バラエティと意外性に富むラインアップを映画ファンに印象付けた。今回は2002年1月1日から2003年12月31日までの期間に亡くなった監督、俳優、技術スタッフなどを対象とした。深作欣二、蔵原惟繕、松田定次、清川虹子、団令子、水木洋子、笠原和夫の各氏をはじめとする約70名の映画人を、63作品・57番組番組の上映によって追悼した。

In Memory of Film Figures We Lost in 2002-2003

This series aims to pay homage to the recently deceased filmmakers by showing their representative works. Importantly, the series has always included a wider range of persons in the film industry beyond well-known directors and actors. In addition, as people pass away at different ages, the series is bound to show a wide variety of films both in contents and chronology. This year, we focused on 70 directors, actors, and technical staff who passed away between January 1, 2002 and December 31, 2003 by showing 63 films in 57 programs. The persons include Kinji Fukasaku, Koreyoshi Kurahara, Nijiko Kiyokawa, Reiko Dan, Yōko Mizuki, and Kazuo Kasahara.



1

12/7(火)3:00pm 1/29(土)11:00am

人情紙風船(86分・35mm・白黒)

’37(P.C.L.映画製作所＝前進座) 田山岸(河原崎)しづ江(又十郎の女房・おたき) 監脚山中貞雄原脚三村伸太郎攝三村明美久保一雄画太田忠田河原崎長十郎、中村鶴藏、中村翫右衛門、霧立のぼる、御橋公、坂東調右衛門、市川樂三郎、市川菊之助、岬たか子、原緋紗子

2

12/7(火)7:00pm 1/26(水)3:00pm

お母さんのつうしんぼ(97分・35mm・カラー)

’80(につかつ児童映画) 脚勝目貴久美菊川芳江監武田一成原宮川ひろ熊倉裕朗攝前田米造画寺島尚彦田藤田弓子、久保田理恵、斉藤喜之、二宮さよ子、佐野浅夫、桜むつ子、宮下順子、前田吟、山本道子、糸長真和、山口天平

3

12/8(水)3:00pm 1/29(土)2:00pm

鳳城の花嫁(85分・35mm・カラー)

’57(東映京都) 監松田定次田加賀邦男(秋山帯刀)、原健策(猿の三次) 画中山文夫攝川崎新太郎美鈴木孝俊画深井史郎田大友柳太朗、長谷川裕見子、中原ひとみ、志村喬、薄田研二、田崎潤、進藤英太郎、片岡栄二郎、杉狂児、三島雅夫、神田隆、明石潮

4

12/8(水)7:00pm 1/30(日)2:00pm

十兵衛暗殺剣(86分・35mm・白黒)

’64(東映京都) 監倉田準二田河原崎長一郎(城所早苗) 原紙屋五平画高田宏治攝わし尾元也美吉村晟画鑄木創田近衛十四郎、大友柳太朗、香川良介、林真一郎、北龍二、内田朝雄、大木悟郎、河村満和、神木真寿雄、国一太郎、鈴木金哉、唐沢民賢、原京市

5

12/9(木)3:00pm 1/30(日)11:00am

青葉城の鬼(101分・35mm・白黒)

’62(大映京都) 脚本多省三田藤原礼子(みや) 監三隅研次原山本周五郎画八尋不二美内藤昭画斎藤一郎田長谷川一夫、高田美和、藤村志保、宇津井健、天知茂、林与一、加藤嘉、柳永二郎、近藤美恵子、成田純一郎、阿井美千子、矢島陽太郎、細谷新吾

6

12/9(木)7:00pm 1/29(土)5:00pm

麻雀放浪記(109分・35mm・白黒)

’84(角川春樹事務所＝東映)監成田亨田名古屋章(上州虎)、天本英世(鉢巻)、吉田良全(チン六) 監脚和田誠原阿佐田哲也脚澤井信一郎 画安藤庄平美中村州志田真田広之、大竹しのぶ、加藤健一、高品格、加賀まりこ、鹿賀丈史、鹿内孝、内藤陳、逗子とんぼ、笹野高史

7

12/10(金)3:00pm 1/30(日)5:00pm

泥の河(105分・35mm・白黒)

’81(木村プロ) 製木村元保監小栗康平原宮本輝脚重森孝子 画安藤庄平美内藤昭画毛利蔵人田村高廣、加賀まりこ、芦屋雁之助、藤田弓子、朝原靖貴、柴田真生子、桜井稔、西山嘉孝、蟹江敬三、八木昌子、初音礼子、殿山泰司、松田明、鈴木淳、麻生亮

8

12/10(金)7:00pm 2/5(土)11:00am

近松物語(101分・35mm・白黒)

’54(大映京都) 監岡本健一監溝口健二原近松門左衛門脚川口松太郎、依田義賢 画宮川一夫美水谷浩画早坂文雄田長谷川一夫、香川京子、南田洋子、進藤英太郎、小澤榮、菅井一郎、田中春男、石黒達也、浪花千栄子、十朱久雄、荒木忍、東良之助

9

12/11(土)11:00am 1/25(火)7:00pm

からっ風野郎(96分・35mm・カラー)

’60(大映東京) 画安藤日出男監増村保造 画菊島隆三 画村井博美渡辺竹三郎画塚原哲夫(出)三島由紀夫、若尾文子、船越英二、川崎敬三、小野道子、水谷良重、根上淳、志村喬、山本禮三郎、三津田健、神山繁、倉田マユミ、潮万太郎、伊東光一、杉田康

10

12/11(土)2:00pm 1/26(水)7:00pm

非情都市(89分・35mm・白黒)

’60(東宝) 製市川久夫監鈴木英夫脚井手雅人 画逢沢譲美河東安英画池野成田三橋達也、司葉子、稲葉義男、東野英治郎、北沢彪、佐々木孝丸、平田昭彦、中丸忠雄、松下猛夫、上田吉二郎、松本染升、小川虎之助、菅井きん、江川宇礼雄、児玉清、納谷悟朗

11

12/11(土)5:00pm 1/27(木)3:00pm

絞死刑(118分・35mm・白黒)

’68(創造社＝ATG) 脚本岡康弘田小松方正(検事) 監脚大島渚 画田村孟、佐々木守、深尾道典美戸田重昌画林光田尹隆道、佐藤慶、渡辺文雄、小山明子、戸浦六宏、石堂淑朗、足立正生、松田政男、上野堯、薄井孝雄、寺島アキ子、桜井啓子

12

12/12(日)11:00am 1/25(火)3:00pm

喜劇 女は度胸(90分・35mm・カラー)

’69(松竹) 画山本直純田清川虹子(桃山ツネ) 監脚森崎東原山田洋次 画大西信行 画高羽哲夫 画熊井正雄 画渥美清、花沢徳衛、河原崎建三、倍賞美津子、沖山秀子、有島一郎、春川ますみ、中川加奈、大橋壮多、佐藤蛾次郎、久里千春

13
12/12(日)2:00pm 1/28(金)3:00pm
砂の器 (143分・35mm・カラー) '74(松竹＝橋本プロ) 監三嶋与四治田西島悌四郎(西蒲田署署長) 監野村芳太郎原松本清張園橋本忍、山田洋次園川又昂美森田郷平園 芥川也寸志田丹波哲郎、加藤剛、森田健作、島田陽子、山口果林、加藤 嘉、佐分利信、緒形拳、渥美清、春田和秀、笠智衆、夏純子、松山省三、 内藤武敏、春川ますみ、稲葉義男、花沢徳衛

14
12/12(日)5:30pm 1/27(木)7:00pm
サザエさん (86分・35mm・白黒) '56(東宝) 監笠原良三美植田寛出清川虹子(サザエの母・舟)、平凡 太郎(流しの男) 監青柳信雄原長谷川町子園遠藤藤精一園北猛夫園原 六朗出江利チエミ、小泉博、青山京子、松島トモ子、小畑やすし、柳家金 語楼、花菱アチャコ、藤原釜足、仲代達矢、白川由美、若山セツ子、沢村 いき雄

15
12/14(火)3:00pm 1/28(金)7:00pm
復讐するは我にあり (140分・35mm・カラー) '79(松竹＝今村プロ) 田清川虹子(浅野ひさ乃) 監今村昌平園佐木 隆三園馬場当園堀田真左久園佐谷晃能園池辺晋一郎園緒形拳、三国 連太郎、ミヤコ蝶々、倍賞美津子、小川真由美、清川虹子、殿山泰司、垂 水悟郎、絵沢萌子、白川和子、浜田寅彦、フランキー堺、北村和夫、火野 正平、佐木隆三、梅津栄

16
12/14(火)7:00pm 2/5(土)5:00pm
新日本珍道中 西日本の巻 (103分・35mm・カラー) '58(新東宝) 田坊屋三郎(赤川三郎)、平凡太郎、明智十三郎、御木本 伸介監園近江俊郎、曲谷守平園伊藤基彦園川内康範園杉本正二郎、 西本正美朝生治男園渡辺宙明田高島忠夫、宇津井健、鮎川浩、三ツ矢 歌子、大空真弓、久保菜穂子、高倉みゆき、坂東好太郎、若山富三郎、古 川ロッパ、由利徹、八波ひと志、南利秋、高田稔、小畑絹子、細川俊夫、 万里昌代、北沢典子、天知茂、三原葉子

17
12/15(水)3:00pm 2/5(土)2:00pm
その場所に女ありて (95分・35mm・カラー) '62(東宝) 監園鈴木英夫園升田商二園達沢譲美竹中和雄園池野成田 司葉子、大塚道子、水野久美、宝田明、山崎努、北あけみ、原知佐子、柳 川慶子、清水えみ、森光子、児玉清、浜村純、西村晃、織田政雄、稲葉義 男

18
12/15(水)7:00pm 2/6(日)5:00pm
人妻集団暴行致死事件 (96分・35mm・カラー) '78(日活) 田室田日出男(江口泰造)、古尾谷康雅(雅人)(歌川昭三)、 小松方正(歌川倉三) 監田中登園長部日出雄園佐治乾園森勝美柳生 一夫園石間秀機、篠原信彦田黒沢のり子、志方亜紀子、深見博、酒井昭、 絵沢萌子、戸田春子、遠藤征慈、岡本麗、辻伊万里

19
12/16(木)3:00pm 2/11(金・祝)11:00am
望みなきに非ず (93分・16mm・白黒) '49(新東宝) 監佐伯清田江見俊太郎(大野木浩) 原石川達三園八木 隆一郎園鑑鈴木博園下河原友雄園早坂文雄田小杉勇、竹久千恵子、大 日方傳、木暮實千代、堀雄二、若山セツコ、清川莊司、宮川玲子、倉橋亨、 伊藤雄之助

20
12/16(木)7:00pm 2/6(日)11:00am
昭和残侠伝 唐獅子牡丹 (89分・35mm・カラー) '66(東映京都) 監佐伯清園山本英明、松本功園林七郎園美藤田博園菊 池俊輔田高倉健、菅原謙二、三田佳子、保積べべ、池部良、津川雅彦、 清水まゆみ、赤木春恵、花澤徳衛、松方弘樹、田中春男、河津清三郎、山 本麟一、関山耕司、芦田伸介、沢彰謙

21
12/17(金)3:00pm 2/6(日)2:00pm
縮図 (131分・35mm・白黒) '53(近代映画協会) 田日高澄子(芸者・染福) 監園新藤兼人園徳田 秋聲園伊藤武夫園美茂孝園伊福部昭田乙羽信子、山田五十鈴、山村 聡、宇野重吉、山内明、沼田曜一、瀧澤修、菅井一郎、清水将夫、殿山泰 司、嵯峨善兵、進藤英太郎、柳永二郎、沢村貞子、朝霧鏡子、北林谷栄

22
12/17(金)7:00pm 2/12(土)11:00am
もず (95分・35mm・カラー) '61(文芸プロにんじんくらぶ) 原園水木洋子田日高澄子(波子)、清川 虹子(阿部ツネ) 監渡谷實園長岡博之園松山崇園武満徹田有馬稲子、 淡島千景、山田五十鈴、乙羽信子、川津祐介、永井智雄、高橋とよ、櫻む つ子、岩崎加根子、辻伊万里、佐藤慶、深見泰三、柏木優子

23
12/18(土)11:00am 2/1(火)3:00pm
雷電[前後篇] (160分・35mm・白黒) '59(新東宝) 田御木本伸介(関ノ戸)、江見俊太郎(本多中務大輔) 監園中川信夫園尾崎士郎園杉本彰園西本正美黒沢治安園小沢秀夫 田宇津井健、北沢典子、坂東好太郎、中村虎彦、舟橋元、小畑絹子、小 林重四郎、林幹、高松政雄、芝田新、石川冷、泉田洋志

24
12/18(土)2:30pm 2/3(木)3:00pm
丘は花ざかり (87分・35mm・カラー) '63(日活) 監堀池清園柿田勇園山本直純園石坂洋次郎園才賀明美坂 口武玄田浅丘ルリ子、川地民夫、二谷英明、村瀬幸子、桂木洋子、松下 達夫、立花由美、渡辺美佐子、永井智雄、伊藤雄之助、山内明、高田敏江、 飯田蝶子、原地東、金子光伸

25
12/18(土)5:00pm 2/1(火)7:00pm
幸福 (105分・35mm・カラー) '81(フォーライフ＝東宝映画) 脚 日高真也 監 岡市川崑 原 エド・マクベイン 脚 大藪郁子 監 長谷川清 脚 村木忍 音 石川鷹彦 、 岡田徹 田水谷豊 、 永島敏行 、 中原理恵 、 草笛光子 、 谷啓 、 市原悦子 、 永井英里 、 黒田留以 、 三條美紀 、 佐々木すみ江 、 新橋耐子 、 加藤武 、 常田富士男 、 小林昭二 、 阿藤海

26
12/19(日)11:00am 2/3(木)7:00pm
特急につぼん (85分・35mm・白黒) '61(東宝) 脚 笠原良三 脚 団令子 (鎌倉サヨ子)、 平凡太郎 (下谷) 監 川島雄三 原 獅子文六 監 遠藤精一 脚 小川一男 音 眞鍋理一郎 脚 フランキー堺 、 中島そのみ 、 白川由美 、 小沢栄太郎 、 滝田裕介 、 太刀川寛 、 柳川慶子 、 沢村貞子 、 横山道代 、 佐多契子 、 中真千子 、 堺左千夫 、 丘寵児 、 田武謙三 、 森川信 、 塩沢とき 、 中山豊

27
12/19(日)2:00pm 2/2(水)3:00pm
1999年の夏休み (90分・35mm・カラー) '88(ニュー・センチュリー・プロデューサーズ＝ソニービデオソフトウェアインターナショナル) 脚 岸田理生 編 富田功 監 金子修介 原 萩尾望都 脚 高間賢治 脚 山口修 音 中村由利子 脚 宮島依里 、 大寶智子 、 中野みゆき 、 水原里絵

28
12/19(日)5:00pm 2/4(金)3:00pm
ハワイ・ミッドウェイ大海空戦 太平洋の嵐 (118分・35mm・カラー) '60(東宝) 脚 国弘威雄 脚 山本廉 (船本大尉) 監 松林宗恵 脚 橋本忍 監 山田一夫 脚 北猛夫 、 清水喜代志 音 団伊玖磨 脚 夏木陽介 、 佐藤允 、 鶴田浩二 、 小泉博 、 三島耕 、 中丸忠雄 、 三船敏郎 、 田崎潤 、 村上冬樹 、 平田昭彦 、 小杉義男 、 池部良 、 土屋嘉男 、 藤田進 、 河津清三郎 、 上原謙 、 加東大介 、 三橋達也 、 小林桂樹 、 宝田明 、 堺左千夫 、 上原美佐 、 三益愛子 、 志村喬 、 榎本健一

29
12/21(火)3:00pm 2/11(金・祝)2:00pm
野良猫ロック ワイルドジャンボ (85分・35mm・カラー) '70(日活) 脚 范文雀 (アサ子) 監 脚 藤田敏八 原 船地慧 脚 永原秀一 監 安藤庄平 脚 斎藤よし男 音 堀り企画 脚 地井武男 、 藤竜也 、 前野霜一郎 、 夏夕介 、 梶芽衣子 、 佐々木賢 、 香川雅弘 、 夏純子 、 内田良平 、 白木マリ

30
12/21(火)7:00pm 2/12(土)2:00pm
風流深川唄 (87分・35mm・カラー) '60(東映東京) 脚 笠原和夫 脚 進藤誠吾 監 田山村聰 原 川口松太郎 監 西川庄衛 音 米山正夫 脚 美空ひばり 、 鶴田浩二 、 伊志井寛 、 山田五十鈴 、 杉村春子 、 片岡昭子 、 宮口精二 、 成瀬昌彦 、 柳永二郎 、 浜田格 、 吉川満子 、 神田隆

31
12/22(水)3:00pm 2/11(金・祝)5:00pm
日本侠客伝 浪花篇 (98分・35mm・カラー) '65(東映京都) 脚 笠原和夫 脚 村田英雄 (和田島義雄) 監 マキノ雅弘 脚 野上竜雄 、 村尾昭 監 三木滋人 脚 富田治郎 (音) 斎藤一郎 脚 鶴田浩二 、 高倉健 、 里見浩太郎 、 大友柳太朗 、 長門裕之 、 藤山寛美 、 南田洋子 、 入江若葉 、 五月みどり 、 八千草薫 、 内田朝雄 、 阿部九州男 、 天津敏 、 笠置シズ子

32
12/22(水)7:00pm 2/12(土)5:00pm
仁義なき戦い 広島死闘篇 (100分・35mm・カラー) '74(東映京都) 監 深作欣二 脚 笠原和夫 脚 室田日出男 (中原敬助)、 小松方正 (南良坂誠) 原 飯干晃一 脚 吉田貞次 脚 吉村晟 音 津島利章 脚 菅原文太 、 千葉真一 、 梶芽衣子 、 北大路欣也 、 山城新伍 、 名和宏 、 金子信雄 、 遠藤辰雄 、 小池朝雄 、 成田三樹夫 、 前田吟 、 木村俊恵 、 松平純子 、 加藤嘉 、 北村英三 、 汐路章 、 八名信夫

33
12/23(木・祝)11:00am 2/4(金)7:00pm
八幡 (28分・16mm・白黒) '52(インターナショナル映画) 製監 イアン・ムツ (陸奥陽之助) 監 浅井達三 脚 シュ・タグチ 監 符谷篤 脚 村田達二 音 近衛磨璃子 脚 宮田輝 民俗映画体系 菱の実まつり (ペカンベ祭)(11分・16mm・白黒) '55(インターナショナル映画) 製 陸奥陽之助 監 村田達二 脚 更科源蔵 脚 池清 音 坂本良隆 脚 宮田輝 毒婦夜嵐お絹と天人お玉 (69分・16mm・白黒) '57(新東宝) 脚 明智十三郎 (相馬小十郎)、 江見渉 (俊太郎) (中村仙三郎) 監 並木鏡太郎 脚 岡戸利秋 、 岡戸嘉外 脚 友成達雄 脚 朝生治男 音 陽啓 脚 筑紫あけみ 、 若杉嘉津子 、 中村彰 、 澤井三郎 、 小倉繁 、 高松政雄 、 泉田洋志 、 若月輝夫 、 天知茂 、 岬洋二 、 三村俊夫

34
12/23(木・祝)2:00pm 2/2(水)7:00pm
俺は待ってるぜ (90分・35mm・白黒) '57(日活) 監 蔵原惟繕 脚 石原慎太郎 監 高村倉太郎 脚 美松山崇 佐 藤勝 脚 石原裕次郎 、 北原三枝 、 小杉勇 、 植村謙二郎 、 二谷英明 、 波多野憲 、 草薙幸二郎 、 藤代鮎子 、 青木富夫 、 河上信夫 、 宮崎準 、 河合健二 、 深江章喜 、 英原穰二 、 榎木兵衛

35

12/23(木)5:00pm 2/9(水)3:00pm

銀座の恋の物語 (93分・35mm・カラー)

’62(日活) 監蔵原性繕田清川虹子(お松) 脚山田信夫、熊井啓 監間宮義雄 美松山崇 音楠木創 田石原裕次郎、浅丘ルリ子、江利チエミ、ジェリー藤尾、和泉雅子、清水将夫、牧村旬子、深江章喜、高品格、井上昭文、下條正巳、木浦佑三、南風洋子

36

12/24(金)3:00pm 2/13(日)11:00am

愛の渴き (99分・35mm・パートカラー)

’67(日活) 監脚蔵原性繕原三島由紀夫 脚藤田繁夫(敏八) 監間宮義雄 美千葉一彦 音黛敏郎 田浅丘ルリ子、山内明、中村伸郎、楠侑子、小園蓉子、紅千登世、石立鉄男、小高雄二、久遠利三、藤井昭雄、志波順香、岩間隆之

37

12/24(金)7:00pm 2/19(土)11:00am

宇宙大戦争 (93分・35mm・カラー)

’59(東宝) 田安西郷子(白石江津子) 監本多猪四郎 原丘見丈二郎 脚関沢新一 監小泉一美 安倍輝明 音伊福部昭 田池部良、千田是也、土屋嘉男、村上冬樹、レオナルド・スタンフォード、ハロルド・コンウェイ、ジョージ・ワイマン、伊藤久哉、桐野洋尾、野村浩三、沢村いき雄、高田稔

38

12/25(土)11:00am 2/8(火)3:00pm

女人哀愁 (74分・35mm・白黒)

’37(P.C.L.映画製作所) 田澤蘭子(洋子)、佐伯秀夫(北村良介) 監原脚成瀬巳喜男 脚田中千禾夫 監三浦光雄 美戸塚正夫 音江口夜詩 田入江たか子、堤真佐子、神田千鶴子、水上怜子、清川玉枝、初瀬浪子、大川平八郎、北沢彪、伊東薫、御橋公

39

12/25(土)2:00pm 2/9(水)7:00pm

ギャング対Gメン (82分・35mm・カラー)

’62(東映東京) 監深作欣二 田沢たまき(ナオミ) 脚但馬栄(村尾昭) 監山沢義一 美北川弘 音河辺公一 田鶴田浩二、梅宮辰雄、千葉真一、佐久間良子、丹波哲郎、曽根晴美、織本順吉、砂塚秀夫、神田隆、加藤嘉、富田仲次郎、春日俊二、沢彰謙、安藤三男、八名信夫

40

12/25(土)5:00pm 2/10(木)7:00pm

君が若者なら (89分・35mm・カラー)

’70(新星映画=文学座) 監脚深作欣二 田河原崎長一郎(矢部清)、室田日出男 脚中島丈博、松本孝二 監江連高元 美平川透徹 音いずみたく 田石立鉄男、前田吟、林秀樹、峰岸隆之介、寺田路恵、小川真由美、藤田弓子、中原早苗、吉村実子、荒木道子、矢吹寿子、太地喜和子

41

12/26(日)11:00am 2/10(木)3:00pm

獄門島[総集篇] (102分・35mm・白黒)

’49(東横映画京都) 監松田定次 原横溝正史 脚比佐芳武 監伊藤武夫 美嵯峨一平 音深井史郎 田片岡千恵蔵、喜多川千鶴、三宅邦子、小杉勇、大友柳太郎(柳太郎)、齋藤達雄、進藤英太郎、水原洋一、上代勇吉、戸上城太郎、沢村國太郎、月宮乙女、千石規子、朝雲照代、谷間小百合

42

12/26(日)2:00pm 2/8(火)7:00pm

太夫さんより 女体は哀しく (113分・35mm・カラー)

’57(宝塚映画) 美植田寛 監下村一夫 監稲垣浩 原北條秀司 脚八住利雄 監岡崎宏三 美伊藤嘉朗 音深井史郎 田乙羽信子、淡路恵子、田中絹代、扇千景、伊藤久哉、小沢栄太郎、浪花千栄子、田中春男、平田昭彦、東郷晴子、千石規子、山茶花究

43

12/26(日)5:00pm 2/15(火)7:00pm

殺人狂時代 (99分・35mm・白黒)

’67(東宝) 田天本英世(溝呂木省吾)、団令子(鶴巻啓子)、山本廉(咆える狂人) 監岡本喜八 原都筑道夫 脚小川英、山崎忠昭 監西垣六郎 美阿久根巖 音佐藤勝 田仲代達矢、砂塚秀夫、江原達治、小川安三、二瓶正也、久野征四郎、富永美沙子、川口敦子、沢村いき雄

44

1/18(火)3:00pm 2/20(日)5:00pm

マタンゴ (89分・35mm・カラー)

’63(東宝) 美育野重一 田天本英世(変身中のマタンゴ) 監本多猪四郎 原星新一、福島正実 脚木村武 監小泉一音 別宮貞雄 田久保明、土屋嘉男、小泉博、太刀川寛、佐原健二、水野久美、八代美紀、中島春雄、手塚勝巳、熊谷二良、草間璋夫、岡豊

45

1/18(火)7:00pm 2/16(水)3:00pm

ヒポクラテスたち (126分・35mm・カラー)

’80(シネマハウト=ATG) 田古尾谷雅人(荻野愛作)、宮沢元(神経科の便所の男) 監脚大森一樹 監堀田泰寛 美大谷和正 音千野秀一 田伊藤蘭、光田昌弘、狩場勉、柄本明、西塚肇、真喜志きさ子、小倉一郎、阿藤海、内藤剛志、金子吉延、斉藤洋介、加納省吾、宮崎雄吾、牟田悌三、草薙幸二郎

46

1/19(水)3:00pm 2/13(日)2:00pm

キクとイサム (117分・35mm・白黒)

’59(大東映画) 脚水木洋子 監今井正 監中尾駿一郎 美江口準次 音大木正夫 田高橋恵美子、奥の山ジョージ、北林谷榮、清村耕次、朝比奈愛子、三国連太郎、三井弘次、織田政雄、高原駿雄、中村是好、殿山泰司、多々良純、岸輝子、荒木道子、賀原夏子、長岡輝子、滝沢修、東野英治郎、宮口精二、三島雅夫

47
1/19(水)7:00pm 2/19(土)2:00pm

純愛物語(130分・35mm・カラー)
 ’57(東映東京) 脚**水木洋子**監**進藤誠吾**監今井正 堀中尾駿一郎 宮大木正夫 田江原真二郎、中原ひとみ、岡田英次、木村功、加藤嘉、宮口精二、東野英治郎、楠田薫、小林トシ子、藤里まゆみ、戸田春子、高木二郎、松本克平、神田隆、増田順二、嵯峨善兵、北澤彪

48
1/20(木)3:00pm 2/19(土)5:00pm

私は泣かない(91分・35mm・白黒)
 ’66(日活) 監脚**吉田憲二**脚石森史郎 堀姫田真佐久 美川原資三 宮小杉太一郎 田和泉雅子、山内賢、芦川いづみ、太田雅子、奈良岡朋子、本郷淳、下條正巳、波多野恵、鈴木瑞穂、佐野浅夫、藤間紫、市川久伸、北村和夫、山田禪二

49
1/20(木)7:00pm 2/20(日)2:00pm

やさしいにっぽん人(112分・35mm・白黒)
 ’71(東プロ) 脚**前田勝弘**田**河原崎長一郎**(シャカ) 監脚音東陽一 堀池田傳一 堀平田免郎、永沼宗夫 宮田山雅光 田緑魔子、伊丹十三、伊藤惣一、石橋蓮司、蟹江敬三、寺田矩、横山リエ、渡辺美佐子、大辻同郎、平田守、桜井浩子、東山千栄子、秋浜悟史、陶隆

50
1/21(金)3:00pm 2/13(日)5:00pm

さびしんぼう(112分・35mm・カラー)
 ’85(東宝映画＝アミューズ・シネマ・シティ) 脚**剣持亘**宮**崎尚志** 監脚大林宣彦 原山中恒 堀内藤忠司 堀阪本善尚 美薩谷和夫 田富田靖子、尾美としのり、藤田弓子、小林稔侍、佐藤允、岸部一徳、秋川リサ、入江若葉、小林聡美、樹木希林、浦辺粂子、峰岸徹、根岸季衣、大山大介

51
1/21(金)7:00pm 2/20(日)11:00am

少年合唱隊(47分・35mm・白黒)
 ’56(東映教育映画部) 田**野々村潔**(**テルオの父**) 監関川秀雄 脚片岡薫 堀仲沢半次郎 宮三木稔 田栗林義信、小塚十紀雄、久保田浩司、戸田春子

警視庁物語 遺留品なし(67分・35mm・白黒)
 ’59(東映東京) 脚**長谷川公之**監村山新治 堀佐藤三郎 美北川弘 宮富田勲 田松本克平、神田隆、堀雄二、南廣、花澤徳衛、山本麟一、須藤健、佐原広二、藤里まゆみ、長谷部健、東美恵子、木村功、成瀬昌彦、八代万智子、星美智子、殿山泰司

52
1/22(土)11:00am 2/15(火)3:00pm

与太郎戦記(83分・35mm・カラー)
 ’69(大映東京) 原田**春風亭柳昇**(**軍医**) 監弓削太郎 脚舟橋和郎 堀渡辺公夫 美山口熙 宮池野成 田フランキー堺、南美川洋子、水木正子、露口茂、春風亭柳橋、春風亭柳好、春風亭小柳枝、春風亭柏枝、柳亭痴楽、柳家金語楼、三遊亭小円馬、三遊亭金馬、三遊亭歌奴、月の家円鏡

53
1/22(土)2:00pm 2/17(木)7:00pm

薔薇の標的(99分・35mm・カラー)
 ’80(東映セントラルフィルム) 田**沢たまき**(**柴田加代**) 監村川透 脚白坂依志夫、桂千穂 堀仙元誠三 美前田博之 宮羽田健太郎 田館ひろし、中島ゆたか、本間優二、沢田かずみ、今井健二、草薙幸二郎、佐藤慶、内田良平、松田優作

54
1/22(土)5:00pm 2/18(金)3:00pm

てなもんや三度笠(81分・35mm・白黒)
 ’63(東映京都) 田**夢路いとし**(**糸四郎**) 監内出好吉 原香川登志緒 堀野上龍雄 堀羽田辰治 美桂長四郎 宮古川益雄 田藤田まこと、白木みのる、喜味こいし、平参平、大村崑、大泉滉、芦屋雁之助、芦屋小雁、トニー谷、花菱アチャコ、茶川一郎、若水ヤエ子、坂本スミ子、鉄砲光三郎

55
1/23(日)11:00am 2/16(水)7:00pm

日本ニュース第14号、第24号、第33号(9分と9分と8分・16mm・白黒)
 ’40 - 41(日本映画社) 堀**浅井達三**ほか

東京ラブソディ(68分・35mm・白黒)
 ’36(東宝映画) 田**星玲子**(**マキ**) 監伏水修 原佐伯孝夫 堀永見隆二 堀三村明 美戸塚正夫 宮古賀政男 田藤山一郎、椿澄枝、井染四郎、宮野照子、伊達里子、御橋公、千葉早智子、竹久千恵子、神田千鶴子、山縣直代、梅園龍子、藤原釜足、岸井明

56
1/23(日)2:00pm 2/18(金)7:00pm

素晴らしい悪女(89分・35mm・白黒)
 ’63(東宝) 田田**令子**(**嶋中ミカ**)、**小松方正**(**田口**) 監恩地日出夫 原石原慎太郎 堀白坂依志夫 堀内海正治 美阿久根 巖宮武満 堀久保明、田村奈巳、内田裕也、鹿内タカシ、神山繁、木村俊恵、藤原釜足、武智豊子、山田竹子、上原ゆかり、宮口精二、小池朝雄、小栗一也

57
1/23(日)5:00pm 2/17(木)3:00pm

人も歩けば(99分・35mm・白黒)
 ’60(東京映画) 田**小林千登勢**(**成金清子**) 監堀川島雄三 原梅崎春生 堀岡崎宏三 美小島基司 宮真鍋理一郎 田フランキー堺、淡路恵子、加東大介、桂小金治、森川信、藤木悠、沢村貞子、若水ヤエ子、横山道代、春川ますみ、奥村恵津子、ロイ・ジェームス、八波むと志、南利明、由利徹

<p>＊ 監＝監督 製＝製作 原＝原作・原案 脚＝脚本・劇作・脚色 堀＝撮影 美＝美術・美術デザイン 宮＝音楽・音楽監督 照＝照明 堀＝編集 田＝出演 解＝解説</p>
<p>＊ 太字の人名は今回の上映で追悼する方々です(出演者の場合、カッコ内は映画中の役名です)。</p>

会 期
平成17年1月5日～1月16日 (11日間)
会 場
大ホール
上映回数
22回
入場者総数
2,850人 (1回平均130人)
雑誌・新聞関連記事
日本経済新聞 平成16年12月20日夕刊
THE JAPAN TIMES 平成16年12月24日
朝日新聞 平成17年1月6日夕刊
しんぶん赤旗 平成17年1月13日
月刊ピアノ 2005年1月号
ムジカノヴァ 2005年1月号
CGワールド 2005年2月号
なぎさ1月号 平成17年1月1日

225 シネマの冒険 闇と音楽：アメリカ無声映画傑作選

「シネマの冒険 闇と音楽」は、国内外の無声映画の秀作に音楽のライブ演奏を付して上映する、フィルムセンターの毎年恒例の企画である。上映に当たっては、クラシック音楽の演奏家及び愛好者層に重点的に上映カレンダーを配布するほか、音楽雑誌とも緊密な連携を取り、伴奏ピアニストへのインタビュー記事が実現した。

今回はアメリカ無声映画の秀作15本(長篇11本、短篇4本)を選び、アメリカを代表する無声映画の伴奏ピアニスト、フィリップ・カーリ氏を招聘してすべての上映に生演奏を付した。フィリップ・カーリ氏の高い即興演奏能力と、日本人でありながら最初のハリウッド・スターの一人となった早川雪洲に脚光を当てて初期アメリカ映画の複雑な歴史を示したことで、魅力的かつ興味深い上映となった。

Silent Film Renaissance : An American Tradition

Silent Film Renaissance is a continuous project that shows quality silent films with piano accompaniment. This year, the program showed important American silent films (11 features and 4 shorts) and invited pianist Philip Carli from the United States who played at all the screenings. Carli's exceptional talent in improvisational play impressed many audience members. By focusing especially on the career of Sessue Hayakawa, the Japanese man who became one of the first Hollywood stars, we successfully showed the complexity of the early history of American cinema.

We made extra efforts to publicize the event to musicians and fans of classical music in addition to film fans by distributing flyers and contacting specialty magazines. This year, the long interview with the pianist appeared in both music magazine and film magazine.



1/5(水)3:00pm 1/11(火)7:00pm

メーベルの劇的な半生 MABEL'S DRAMATIC CAREER(15分・16fps・35mm・白黒)

'13 監 田 マック・セネット 田 メーベル・ノーマンド、アリス・ダヴェンポート、ロスコー・アーバックル、フォード・スターリング、ヴァージニア・カートリー、チャールズ・エイヴリー、マック・スウェイン、ポール・ジェイコブス

颱風 THE TYPHOON(63分・16fps・35mm・白黒)

'14 監 レジナルド・バーカー 原 メニヘルト(メルヒオール)・レンジェル 脚 トーマス・H・インス 田 セッシュー・ハヤカワ(早川雪洲)、グラディス・ブロックウェル、フランク・ボゼーギ、ヘンリー・コタニ(小谷ヘンリー)、レオナ・ハットン、トーマス・クリハラ(栗原喜三郎)、ツル・アオキ(青木鶴子)、チャールズ・K・フレンチ、ハーシェル・メイオール

1/5(水)7:00pm 1/13(木)3:00pm

メーベルのわがまま MABEL'S WILFUL WAY(17分・16fps・35mm・白黒)

'15 監 田 ロスコー・アーバックル 田 メーベル・ノーマンド、アリス・ダヴェンポート、エドガー・ケネディ、アル・セント・ジョン、グレン・カヴェンダー **火の海(神々の怒り)** THE WRATH OF THE GODS(56分・16fps・35mm・染色)

'14 監 レジナルド・バーカー 脚 トーマス・H・インス、ウィリアム・H・クリフォード、C・ガードナー・サリヴァン 田 セッシュー・ハヤカワ(早川雪洲)、ツル・アオキ(青木鶴子)、フランク・ボゼーギ、トーマス・クリハラ(栗原喜三郎)、ヘンリー・コタニ(小谷ヘンリー)、グラディス・ブロックウェル、ハーシェル・メイオール

1/6(木)3:00pm 1/12(水)7:00pm

カルメン CARMEN(65分・18fps・35mm・染色)

'15 監 セシル・B・デミル 原 プロスペル・メリメ 脚 ウィリアム・C・デミル 監 アルヴィン・ワイコフ 美 ウィルフレッド・バックランド 田 ジェラルディン・ファーラー、ウォレス・リード、ペドロ・デ・コルドバ、ホレス・B・カーペンター、ウィリアム・エルマー、ジニー・マクファーソン、アニタ・キング、ミルトン・ブラウン、テックス・ドリスコル、レイモンド・ハットン

1/6(木)7:00pm 1/15(土)4:00pm

機械人形 A CLEVER DUMMY(27分・16fps・35mm・白黒)

'17 監 ハーマン・レイメイカー ほか 脚 マック・セネット 監 エルジン・レスリー 田 ベン・ターピン、チェスター・コンクリン、ウォレス・ビアリー、フアニータ・ハンセン、クレア・アンダーソン、ジェームズ・ドネリー、ジェームズ・デラー

チート THE CHEAT(59分・18fps・35mm・染色)

'15 監 セシル・B・デミル 脚 ジニー・マクファーソン、ヘクター・ターンブル 監 アルヴィン・ワイコフ 美 ウィルフレッド・バックランド 田 ファニー・ウォード、ジャック・ディーン、セッシュー・ハヤカワ(早川雪洲)、ジェームズ・ニール、ジャック・ユタカ・アベ(阿部豊)、ダナ・オング、ヘーゼル・チルダーズ、レイモンド・ハットン、ディック・ラ・レノ、ルシエン・リトルフィールド

1/7(金)3:00pm 1/15(土)1:00pm

シヴィリゼーション CIVILIZATION(87分・18fps・35mm・白黒)

'16 監 トーマス・H・インス 脚 C・ガードナー・サリヴァン 監 アーウィン・ウィラット ほか 田 ハーシェル・メイオール、ローラ・メイ、ハワード・ヒックマン、イーニッド・マーキー、ジョージ・フィッシャー、J・フランク・パーク、チャールズ・K・フレンチ、J・バーニー・シェリー、ジェローム・ストーム、イーセル・ウルマン、ケイト・ブルース、リリアン・リード

1/7(金)7:00pm 1/16(日)4:00pm

ヘルズ・ヒンジス HELL'S HINGES(66分・18fps・35mm・白黒[一部染色])

'16 監 田 ウィリアム・S・ハート 監 チャールズ・スウィッカー(監修)トーマス・H・インス 原 脚 C・ガードナー・サリヴァン 監 ジョセフ・オーガスト 田 クララ・ウィリアムズ、ジャック・スタンディング、アルフレッド・ホリングスワース、ロバート・マッキム、J・フランク・パーク、ルイズ・グローム、ジョン・ギルバート

1/8(土)1:00pm 1/12(水)3:00pm

囁きの合唱 THE WHISPERING CHORUS(93分・18fps・35mm・染色)

'18 監 セシル・B・デミル 原 バーリー・ブア・シーハン 脚 ジニー・マクファーソン 監 アルヴィン・ワイコフ 美 ウィルフレッド・バックランド 田 レイモンド・ハットン、キャスリン・ウィリアムズ、イーディス・チャップマン、エリオット・デクスター、ノア・ビアリー、ガイ・オリヴァー、ジョン・パートン、タリー・マーシャル、ウィリアム・H・ブラウン、ジェームズ・ニール、グスタフ・フォン・ザイファーティッツ、ウォルター・リンチ、エドナ・メイ・クーパー

1/8(土)4:00pm 1/14(金)7:00pm

神秘の箱 THE MYSTERY BOX(13分・18fps・35mm・白黒・不完全)

'22 監 J・A・ノーリング

蛟龍を描く人 THE DRAGON PAINTER(LE PEINTRE DE DRAGONS)(51分・18fps・35mm・白黒・フランス語インタータイトル)

'19 監 ウィリアム・ワーシントン 原 メアリー・マクニール・フェノロサ 脚 リチャード・シェイヤー 監 フランク・D・ウィリアムズ 美 ミルトン・メナスコ 田 セッシュー・ハヤカワ(早川雪洲)、トーヨー・フジタ(藤田東洋)、エドワード・ピール・シニア、ツル・アオキ(青木鶴子)

1/9(日)1:00pm 1/13(木)7:00pm

十誠 THE TEN COMMANDMENTS(134分・24fps・35mm・白黒)

'23監セル・B・デミル脚ジニー・マクファーソン監バート・グレン
美ポール・アイリブ脚[第1部]セオドア・ロバーツ、シャルル・ド・ロシュ、
エステル・テイラー、ジュリア・フェイ、テレンス・ムーア、ジェームズ・ニー
ル、ローソン・バット、クラレンス・バートン、ノーブル・ジョンソン[第2部]
イーディス・チャップマン、リチャード・ディックス、ロッド・ラ・ロック、リー
トリス・ジョイ、ニタ・ナルディ、ロバート・エドソン、チャールズ・オーグ
ル、アグネス・エアーズ

1/9(日)4:00pm 1/14(金)3:00pm

バグダッドの盗賊 THE THIEF OF BAGDAD(140分・24fps・35mm・白黒)

'24監ラオール・ウォルシュ原エルトン・トーマス(ダグラス・フェアバ
ンクス)脚ロッタ・ウッズ監アーサー・エドソン美ウィリアム・キャメロン・
メンジース脚ダグラス・フェアバンクス、スニッツ・エドワーズ、ジュラ
ンヌ・ジョンストン、アンナ・メイ・ウォン、チャールズ・ベルチャー、ウイ
ンター＝ブラッサム、エッタ・リー、ブランドン・ハースト、トート・デュ・
クロウ、上山草人、南部邦彦、定吉ハートマン

1/11(火)3:00pm 1/16(日)1:00pm

栄光 WHAT PRICE GLORY(122分・24fps・16mm・白黒)

'26監ラオール・ウォルシュ原ローレンス・ストーリングズ、マクスウェル・
アンダーソン脚ジェームズ・T・オドナヒュー監バーニー・マギル、ジョ
ン・マータ、ジョン・スミス美ウィリアム・S・ダーリング脚ヴィクター・
マクラグレン、エドマンド・ロウ、ドロレス・デル・リオ、ウィリアム・V・
モンク、フィリス・ヘイヴァー、エレナ・ジュラド、レスリー・フェントン、オー
ガスト・トレア、バリー・ノートン、サミー・コーエン、テッド・マクナマラ

* 監=監督 原=原作・原案 脚=脚本・脚色 監=撮影
美=美術 出=出演

会 期	
平成17年2月22日～3月27日 (30日間)	
会 場	
大ホール	
上映回数	
60回	
入場者総数	
6,050人(1回平均101人)	
雑誌・新聞関連記事	
公明新聞	平成17年1月14日
朝日新聞	平成17年1月27日
東京新聞	平成17年2月1日夕刊
図書新聞	平成17年2月5日
中央公論	2005年3月号
日本経済新聞	平成17年2月14日夕刊
信濃毎日新聞	平成17年2月17日夕刊
茨城新聞	平成17年2月17日
上毛新聞	平成17年2月17日
週刊金曜日	545号 2005年2月18日
新潟新聞	平成17年2月21日夕刊
しんぶん赤旗	平成17年3月3日
民映研通信:初声の号	平成17年1月1日
東京カレンダー	2005年3月号
中央公論	2005年3月号
情況	2005年3月号
なぎさ3月号	平成17年3月1日
Weeklyびあ	平成17年3月3日
Weeklyびあ	平成17年3月10日
中央区タウンHP	平成17年2月8日

226 フィルムは記録する2005:日本の文化・記録映画作家たち

これまで1997年、1998年、2001年の3回の企画で日本のノンフィクション映画の系譜を追ってきた「フィルムは記録する」シリーズの最終回として、1970年代以降に製作されたノンフィクションの秀作55本を作家別、製作会社別に上映した。

「フィルムは記録する」シリーズにおける特徴として、映像文化製作者連盟やドキュメンタリー映画関係者など、映画作家やスタッフと直接交流する機会の多さが挙げられ、このことが日本の文化・記録映画に関する研究を促進する結果ともなった。その交流の中で、作り手側に映画アーカイヴの考え方を伝え、信頼を得ることで、オリジナルのネガ・フィルムをフィルムセンターに寄贈する映画作家も複数現れている。

また、上映を通じて、ドキュメンタリーへの関心が高まっている近年の状況を反映し、若年層を主とする新たな観客層を得ることができた。

Glimpses of Nippon 2005: A Japanese Documentary Tradition

The 4th and last installment of the “Glimpses of Nippon” series that have happened in 1997, 1998, and 2001, the program showed 55 nonfiction films made after the 1970s.

One of the characteristics of this series is that the process of acquiring the films helps building trustful relationship between NFC and documentary filmmakers. As a result, a number of filmmakers have donated original negatives to NFC trusting that NFC will store them in the best condition as film archive.

It should also be noted that the program this year drew the new type of audience including young viewers.



1
2/22(火)3:00pm 3/12(土)1:00pm

土本典昭[1]

バルチザン前史 (121分・16mm・白黒)
'69(小川プロダクション) 監編土本典昭製市山隆次、小林秀子攝大津幸四郎、一之瀬正史録久保田幸雄田滝田修(竹本信弘)

2
2/22(火)7:00pm 3/13(日)4:00pm

土本典昭[2]

水俣一揆 一生を問う人びと (108分・16mm・白黒)
'73(青林舎) 監土本典昭製高木隆太郎攝大津幸四郎、高岩仁録浅沼幸一宮真鍋理一郎齋宮沢信雄

3
2/23(水)3:00pm 3/12(土)4:00pm

小川紳介[1]

日本解放戦線 三里塚 (142分・16mm・カラー)
'70(小川プロダクション) 監小川紳介製小林秀子、野坂治雄、伏屋博雄、市山隆次、飯塚俊男ほか攝田村正毅録久保田幸雄宮真鍋理一郎

4
2/23(水)7:00pm 3/13(日)1:00pm

小川紳介[2]

三里塚 第二砦の人々 (140分・16mm・白黒)
'71(小川プロダクション) 監小川紳介製野坂治雄、伏屋博雄、飯塚俊男ほか攝田村正毅

5
2/24(木)3:00pm 3/19(土)1:00pm

東陽一

沖縄列島 (91分・35mm・白黒)
'69(東プロダクション) 監脚編東陽一製高木隆太郎攝池田伝一録久保田幸雄、本間喜美雄宮松村禎三齋岡村春彦、村松克巳

6
2/24(木)7:00pm 3/20(日)4:00pm

岩佐寿弥[1]

叛軍No.4 (98分・16mm・白黒)
'72(「叛軍」製作集団) 監岩佐寿弥攝堀田泰寛録岡本光司演出助手大月英明田和田周

7
2/25(金)3:00pm 3/20(日)1:00pm

岩佐寿弥[2]

眠れ蜜 (100分・16mm・パートカラー)
'76(シネマ・ネサンス) 監編岩佐寿弥製平田豪成、坂本時久圃佐々木幹郎攝田村正毅美渡辺睦福山敦夫田根岸とし江(季衣)、長谷川泰子、吉行和子、和田周、岸部シロー

8
2/25(金)7:00pm 3/19(土)4:00pm

松川八洲雄(計130分)

一粒の麦 (28分・35mm・カラー)
'62(日本産業映画センター) 監松川八洲雄製田代博茂攝鈴木喜代治、佐藤昌道宮間宮芳生

土くれ 木内克の芸術 (17分・35mm・カラー)
'72(隆映社) 監脚松川八洲雄製灰野謙三攝製楠田浩之、喜屋武隆一郎録甲藤勇宮製木下忠司田木内克

不安な質問 (85分・16mm・カラー)
'79(たまごの会映画製作委員会) 監脚松川八洲雄攝瀬川順一録弦巻裕宮間宮芳生

9
2/26(土)1:00pm 3/11(金)3:00pm

原一男[1]

さようならCP (83分・16mm・白黒)
'72(疾走プロダクション) 監攝原一男製小林佐智子録栗林豊彦

10
2/26(土)4:00pm 3/15(火)7:00pm

原一男[2]

極私的エロス・恋歌1974 (93分・16mm・白黒)
'74(疾走プロダクション) 監攝原一男製小林佐智子録久保田幸雄鍋島惇宮加藤登紀子

11
2/27(日)1:00pm 3/11(金)7:00pm

青林舎からシグロへ[1](計109分)

新せつけん物語 (54分・16mm・カラー)
'82(青林舎) 監若月治製米田正篤攝清水良雄録久保田幸雄宮横田年昭

水俣の甘夏 (55分・16mm・カラー)
'84(青林舎＝水俣病患者家庭果樹同志会＝水俣病センター相思社) 監小池征人製米田正篤、柳田耕一、高木隆太郎攝一之瀬正史、清水良雄録久保田幸雄宮堤政雄齋伊藤惣一

12

2/27(日)4:00pm 3/15(火)3:00pm

青林舎からシグロへ[2]

ゆんたんざ沖縄(110分・16mm・カラー)

’87(シグロ) 監西山正啓製山上徹二郎攝大津幸四郎録本間喜美雄画小室等

13

3/1(火)3:00pm 3/26(土)1:00pm

自主製作の広がり[1]

黄金の旅チュンドワ アフリカ東部海岸文なし漂流記(90分・16mm・カラー)

’72(日本映画研究所) 監製脚攝録編西江孝之

14

3/1(火)7:00pm 3/27(日)1:00pm

自主製作の広がり[2]

やま山谷 やられたらやりかえせ(110分・16mm・カラー)

’85(「山谷」制作上映委員会) 監製佐藤満夫監山岡強一(スタッフ)赤松和子、荒木剛、赤松陽構造、池内文平、神田十吾、菊地進平、小見恵、佐藤聡美、高田明、平井玄、福田憲二

15

3/2(水)3:00pm 3/26(土)4:00pm

亀井文夫

生物みなトモダチ<教育編> トリ・ムシ・サカナの子守歌(166分・16mm・カラー)

’87(生物みなトモダチ製作委員会) 監亀井文夫製阿部隆、楠木徳男、谷川義雄攝菊地周、奥村裕治ほか録甲藤勇ほか画今井重幸

16

3/2(水)7:00pm 3/17(木)3:00pm

柳沢寿男

そっちゃやない、こっちゃ コミュニティ・ケアへの道(113分・16mm・カラー)

’82(記録映画「コミュニティ・ケアへの道」製作委員会) 監構柳沢寿男製伊藤方文攝塩瀬申幸録小林賢画冬木透解伊藤惣一

17

3/3(木)3:00pm 3/16(水)7:00pm

勅使河原宏(計87分)

動く彫刻 ジャン・ティンゲリー (15分・35mm・白黒)

’81(勅使河原プロダクション) 監勅使河原宏攝瀬川浩、青木利夫録瀬川徹夫攝守隋房子画一柳慧画中村吉右衛門

アントニー・ガウディー (72分・35mm・カラー)

’84(勅使河原プロダクション) 監製編勅使河原宏製野村紀子攝瀬川順一、柳田義和、瀬川龍録浅利公治編吉田栄子画武満徹、毛利蔵人、堀真慈

18

3/3(木)7:00pm 3/18(金)3:00pm

羽田澄子と自由工房[1](計126分)

薄墨の桜(42分・16mm・カラー)

’77(藤プロダクション) 監脚羽田澄子製工藤充攝西尾清、瀬川順一、若林洋光録片山幹男編加納宗子解香椎くに子

痴呆性老人の世界(84分・16mm・カラー)

’86(岩波映画製作所) 監羽田澄子製河上裕久攝西尾清録久保田幸雄、滝沢修(選曲)戸高良行解斎藤季夫

19

3/4(金)3:00pm 3/27(日)4:00pm

羽田澄子と自由工房[2]

AKIKO あるダンサーの肖像(107分・16mm・カラー)

’85(自由工房) 監羽田澄子製工藤充攝宗田喜久松ほか録滝沢修ほか画アキコ・カンダとアキコ・カンダ・ダンス・カンパニー

20

3/4(金)7:00pm 3/16(水)3:00pm

時枝俊江(計84分)

文教の歩みをたずねて(30分・16mm・カラー)

’75(岩波映画製作所) 監脚時枝俊江製安達弘太郎攝八木義順録佐久間俊夫解伊藤惣一

絵図に偲ぶ江戸のくらし 吉左衛門さんと町の人々 (32分・16mm・カラー)

’77(岩波映画製作所) 監脚時枝俊江製安達弘太郎攝八木義順録佐久間俊夫解伊藤惣一

光った水とろうよ ―幼児の知的好奇心をさぐる― (22分・16mm・カラー)

’79(岩波映画製作所) 監時枝俊江製藤瀬季彦攝八木義順録佐久間俊夫解伊藤惣一

21

3/5(土)1:00pm 3/17(木)7:00pm

桜映画社(計99分)

伊勢型紙(30分・35mm・カラー)

’77(桜映画社) 監製脚村山英治攝金山富男画山内忠解伊藤惣一画宮原敏明、六谷進一、長谷川重雄、中村勇二郎、児玉博、城之口みえ、清水幸太郎、小宮康孝

歌舞伎の立廻り(34分・16mm・カラー)

’81(桜映画社) 監脚藤原智子製村山英治、利光久輝攝植松永吉、村山和雄編吉田栄子解相川浩画坂東八重之助、市村羽左衛門、中村橋之助、市川銀之助、尾上松鶴、坂東羽之助、岩井若次郎、市川男女二郎、市川笑也、中村芝喜松ほか

につぼん洋食物語(35分・35mm・カラー)

’85(桜映画社) 監脚山下秀雄製村山英世画小菅桂子脚村山英治、山田三枝子攝北川英雄録清島竹彦画杉田一夫解山本圭

22

3/5(土)4:00pm 3/18(金)7:00pm

産業映画の展開[1]: 岩波映画製作所(計96分)

見えない鉄道員(20分・16mm・カラー)

’70(岩波映画製作所) 監脚堀越慧製田村勝志脚吉原順平攝久米義男

はかる(25分・16mm・カラー)

’73(岩波映画製作所) 監脚堀越慧製高橋宏暢脚牧衷攝中谷英雄

水を創る(30分・35mm・カラー)

’75(岩波映画製作所) 監脚北條美樹製堀谷昭暲小村静夫

フィルムをつくる フジカラーの誕生(21分・35mm・カラー)

’77(岩波映画製作所) 監脚小村静夫製影片野満麗城達也

23

3/6(日)1:00pm 3/22(火)3:00pm

産業映画の展開[2]: 鹿島映画(計116分)

超高層霞ヶ関ビル(44分・35mm・カラー)

’67(日本技術映画社) 監製脚岩佐氏寿攝大野洋

水のある沙漠 ―イラン― (38分・16mm・カラー)

’73(鹿島映画) 監製脚岩佐氏寿攝大野洋音富田勲麗城達也

青函トンネル 本州側工事の記録(34分・16mm・カラー)

’77(鹿島映画) 監脚吉田巖製井上祐吉脚田代公幸攝大鹿隆一郎

24

3/6(日)4:00pm 3/23(水)7:00pm

科学映画の展開[1]: 東京シネマ新社(計89分)

マリン・フラワーズ 腔腸生物の生活圏(31分・35mm・カラー)

’75(東京シネマ新社) (構)脚岡田一男製岡田桑三攝西山東男ほか音宮本光雄麗平光淳の助

ムーン・ジェリー ミズクラゲのライフサイクル(33分・16mm・カラー)

’77(東京シネマ新社=下中記念財団EC日本アーカイブズ) 監岡田一男製岡田桑三攝谷口常也、草間道則ほか音佐々木敦

生きものは動く 微小管の機能(25分・16mm・カラー)

’79(東京シネマ新社) 監製岡田一男監脚後藤雅毅製岡田桑三攝谷口常也、草間道則麗草野仁

25

3/8(火)3:00pm 3/24(木)7:00pm

科学映画の展開[2]: 小林米作とヨネ・プロダクション(計87分)

ぜんそくを探る(17分・35mm・カラー)

’69(ヨネ・プロダクション) 監脚杉山正美製小林米作脚実験高岡成好攝小林米作音鈴木明麗城達也

脳と潰瘍(22分・35mm・カラー)

’71(ヨネ・プロダクション) 監脚杉山正美製小林米作脚実験高岡成好攝明石太郎音小杉武久麗城達也

スキンカラー (30分・35mm・カラー)

’74(ヨネ・プロダクション) 監脚杉山正美製小林米作脚明石太郎、春日友喜脚実験高岡芳男音小杉武久麗城達也

感染症シリーズVol.1 つつが虫病(18分・16mm・カラー)

’87(ヨネ・プロダクション) 監脚小林正製牧茂治、大沼鉄郎攝上原剛、鈴木博之、浅野勲脚実験忍足と彦音甲藤勇麗和田篤

26

3/8(火)7:00pm 3/23(水)3:00pm

科学映画の展開[3]: 樋口源一郎とシネ・ドキュメント(計78分)

きのこ シイタケ菌を探る(28分・16mm・カラー)

’80(シネ・ドキュメント) 監製脚樋口源一郎攝鈴木喜代治、奥村祐治、石井董久録星一郎音深沢康雄麗和田篤

細胞性粘菌の行動と分化 一解明された土壌の生態― (22分・16mm・カラー)

’91(シネ・ドキュメント) 監製脚樋口源一郎攝石井董久録星一郎麗和田篤

真正粘菌の生活史 一進化の謎・変形体を探る― (28分・16mm・カラー)

’97(シネ・ドキュメント) 監製脚樋口源一郎攝石井董久麗和田篤

27

3/9(水)3:00pm 3/25(金)7:00pm

科学映画の展開[4]: シネ・サイエンス(計80分)

生体と大気汚染(24分・16mm・カラー)

’72(シネ・サイエンス) 監脚編武田純一郎(学術監督)浅香時夫製林六郎攝長谷川高久、永井弘道録片山幹男音堀悦子麗城達也

染色体に書かれたネズミの歴史(32分・35mm・カラー)

’75(シネ・サイエンス) 監脚武田純一郎製林六郎攝長谷川高久録片山幹男音堀悦子麗伊藤惣一

たまごからヒトへ(24分・16mm・カラー)

’76(シネ・サイエンス) 監脚攝武田純一郎脚岸田衿子作画森日出朝音池野成麗岸田今日子

28

3/9(水)7:00pm 3/24(木)3:00pm

民俗学映画の展開[1]: 野田真吉

ゆきははなである 新野の雪まつり(130分・16mm・カラー)

’79監製野田真吉攝巨真幸録井上洋右麗高島陽

3/10(木)3:00pm 3/22(火)7:00pm

民俗学映画の展開[2]：姫田忠義と民族文化映像研究所(計98分)

チセ ア カラ われらいえをつくる(57分・16mm・カラー)

'74(民族文化映像研究所) 監製脚姫田忠義製小泉修吉攝伊藤碩男、澤幡正範、渡辺昌録惣川修田萱野茂

うつわ 食器の文化(41分・16mm・カラー)

'75(民族文化映像研究所) 監製脚姫田忠義製小泉修吉、宮本千晴攝伊藤碩男、澤幡正範録森本孝、須藤護田林光麗糸博

3/10(木)7:00pm 3/25(金)3:00pm

民俗学映画の展開[3](計147分)

海南小記序説・アカマタの歌 西表島・古見(87分・16mm・カラー)

'73(遊行鬼) 監構北村皆雄構松村修、三上豊、小川克巳、深元敬、内藤陽子攝柳瀬裕史置上地昇解鈴木瑞穂

私の人生 ジプシー・マヌーシュ(60分・16mm・カラー)

'77監製撮大森康宏製撮大森紀美江

* 監＝監督・演出 製＝製作・企画 原＝原作・原案 脚＝脚本
 構＝構成・製作構成 撮＝撮影 美＝美術 編＝編集 録＝録音
 音＝音楽・作曲 解＝解説・かたり・ナレーター 出＝出演

1-3	展示 Exhibitions
-----	----------------

1-3-1	展示企画一覧(新ビル開館より平成15年度まで) Exhibitions from the Opening of NFC's New Building in 1995 until 2003
-------	--

回数	企画展示名
----	-------

平成7年度[1995]	1 映画生誕百周年記念 ポスターでみる日本映画史 — みそのコレクションより — Japanese Film History in Posters — From the Collection of Kyohei Misono —
平成8年度[1996]	2 写真で見る「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」 — UCLAジャン・ルノワール・コレクションより — Le Grand Théâtre de Jean Renoir A Photo Exhibition from UCLA Arts Library Special Collections Jean Renoir Papers
平成9年度[1997]	3 ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」 Soviet Film Posters in the Late Silent Era
平成10年度[1998]	4 ポスターでみる日本映画史PARTII — みそのコレクションより — Japanese Film History in Posters, Part II — From the Collection of Kyohei Misono —
平成11年度[1999]	5 フリッツ・ラング：映像とそのイメージの原型 Fritz Lang: Filmbilder Vorbilder
平成12年度[2000]	6 ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」 PART II Soviet Film Posters in the Late Silent Era, Part 2
平成13年度[2001]	7 「イタリア映画大回顧」ポスター展 Cartelloni del Cinema Italiano in Giappone 8 資料でみる日本映画史 — みそのコレクションより — Japanese Film History in Documents — From the Collection of Kyohei Misono—
平成14年度[2002]	9 展覧会 映画遺産 — 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより — The Japanese Film Heritage — From the Non-Film Collection of the National Film Center —
平成15年度[2003]	10 映画資料でみる蒲田時代の小津安二郎と清水宏 Days of Youth: Ozu and Shimizu at Shochiku Kamata Studio

会 期

平成16年4月6日～6月27日、
平成16年7月6日～8月29日
(120日間)

会 場

展示室

協 力

保坂純子、株式会社桜映画社

特別協力

株式会社エコー

入場者

5,897人(1日平均49人)

雑誌・新聞関連記事

ぱど:中央区・江東区西エリア 平成
16年4月9日

公明新聞 平成16年4月30日

REAL TOKYO HP 平成16年4月
30日

Cabinett No.50 平成16年5月1日
夕刊

朝日新聞 平成16年5月14日夕刊

My SEASON 2004.6 平成16年5
月20日

Directors MAGAZINE 平成16年
6月1日

足立 朝日 平成16年6月1日

中央区fan 35号 平成16年7月9日

図書新聞 平成16年7月10日

しんぶん赤旗 平成16年7月16日

朝日新聞 平成16年7月22日夕刊

hanako No.795 平成16年7月21日

BM-芸術の杜 2004.Vol.01

SUMMER 平成16年7月25日

東京国際映画祭メールマガジン
平成16年8月25日

Tokyo Walker No.24 平成16年8
月

小学三年生 2004.8月号

1-3-2 平成16年度展示記録 Records of Exhibitions, 2004

造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界

本展は、『花ともぐら』(1970)や『おこんじょうり』(1982)など手作りのアニメーション作品で知られる岡本忠成のユニークな世界を、実際の映画製作で用いられた造形作品の数々を通して紹介する試みであり、同監督に関する展示イベントとしては初めての本格的な催しとなった。また、平成14年の開室以来、当展示室としては初めて、展示品の大部分を外部から借用して開催したものである。

開催に当たっては、岡本が設立したエコー社と、初期より岡本作品を支え続けた人形作家・保坂純子氏の協力を得て、荒々しい木彫りの人形を使った『おじいちゃんが海賊だった頃』(1968)や張り子の質感を生かした『おこんじょうり』など、大小300点あまりの人形やセル画が会場に並んだ。また、完成作品のクリップや関係者の証言を集めた映像、監督自身の絵コンテなどを対比できる構成は、一作ごとに全く異なる表現様式に挑むという世界的にも類例を見ない岡本アニメーションの魅力に触れる絶好の機会となった。

また、7月から8月にかけては、本展に併せて上映企画「日本アニメーション映画史」「こども映画館」で岡本忠成作品の連続上映を行うとともに、子ども向けにガイドツアーの開催やセルフガイドの配布を試みた。

Artworks from the Animation Films of Tadanari Okamoto

The first exhibition on Tadanari Okamoto who is known for hand-made animation films such as *Hana to mogura* (1970) and *Okon jōruri* (1982), this exhibition showcased his creativity by presenting the art objects that were used in the actual filmmaking processes of his films. This was the first time NFC organized the exhibition with the objects that were mostly borrowed from outside parties since the current space opened in 2002.

Among Okamoto's collaborators, doll creator Sumiko Hosaka was an especially important figure who participated in most of Okamoto's films since Okamoto established his production company, Echo. Thanks to Hosaka's cooperation, over 300 items including art objects and cells from the films were exhibited such as roughly-carved wooden dolls from *Ojichan ga kaizoku datta koro* (1968) and papier-mâché from *Okon jōruri*. In addition, by exhibiting video clips of Okamoto's animation films and the interviews of his collaborators as well as storyboards drawn by Okamoto himself, this exhibition intended to expose the viewers to the multi-faceted creativity of Okamoto, who ventured something new in each piece unlike other animation directors around the world.

In July and August, animation films by Okamoto were screened in "History of Japanese Animation" program and "Kids ★ Cinema" program.



会 期
平成16年9月3日－11月28日、 12月7日－12月26日、 平成17年1月5日－3月27日 (164日間)
会 場
展示室
協 力
株式会社秋山庄太郎事務所、財団法人川喜多記念映画文化財団、財団法人土門拳記念館、日本ドリームコンテンツ株式会社、株式会社マーランド、松下電器産業株式会社、明治製菓株式会社、森永製菓株式会社、株式会社リュウスタジオ、池田真魚、木村尚子、田沼武能
入場者数
6,992人(1日平均43人)
雑誌・新聞関連記事
朝日新聞 平成16年8月28日 読売新聞 平成16年9月3日夕刊 信濃毎日新聞 平成16年9月16日 茨城新聞 平成16年9月16日 下野新聞 平成16年9月16日 日本カメラ12月号 平成16年12月1日 Enjoy Tokyo 平成17年1月5日 産経新聞 平成17年2月1日 美術の柱Vol.03 2005年3月


映画女優 高峰秀子展

上映企画「映画女優 高峰秀子」にあわせて開催された本展は、1929年の子役デビューから1979年の引退までの半世紀におよぶ国民的映画女優の業績を核としながら、一流の文化人たちとの交流やエッセイストとしての活躍など、しばしば映画という枠をも超えて展開されたその多彩な足跡を、150点以上に及ぶ展示品によってたどるものである。

これらの展示品の中心を占めているのは、1985年に高峰秀子氏本人から川喜多記念映画文化財団へ寄贈された撮影台本や写真アルバムなどの資料であり、最初の出演作となった1929年(当時6歳)の野村芳亭作品『母』の撮影台本や1933年(当時9歳)の五所平之助作品『十九の春』の撮影風景を記録した16mmフィルムなど、遠く無声映画(松竹蒲田映画)の時代にまで遡る貴重なコレクションが同財団の全面協力により公開の運びとなった。

さらに本展では、上記のような映画関係資料の他にも森永製菓や明治製菓、松下電器産業などの商業広告から、高峰をモデルにした梅原龍三郎の油彩画(東京国立近代美術館所蔵)、木村伊兵衛や土門拳、早田雄二、秋山庄太郎たちの写真作品まで集め、多種多様な《メディア》そして《時代》の中の《高峰秀子像》を浮き彫りにしようと試みた。

Exhibition: Hideko Takamine, Film Actress

Debuted as a child actress in 1929, Hideko Takamine remained to be one of the key film actresses throughout her career until 1979 when she announced retirement. Spanning half a century, her career highlights various significant moments of the history of Japanese cinema. Organized in conjunction with the screening program of the same title, this exhibition showcased over 150 pieces of documentations and reference materials that deal with Takamine's acting career, her social relationships with the first-rate cultural figures, and her career as a highly regarded essayist.

Central in the exhibited pieces were the materials which Hideko Takamine donated to the Kawakita Memorial Film Institute in 1985. Thanks to the full support by the Institute, important and rare materials such as the script of *Haba* (1929, when Takamine was 6) and the 16mm film documenting the shoot of *Jūku no haru* (1933, when Takamine was 9.)

In addition, this exhibition aimed to portray Takamine's character within the socio-historical context and across various media by presenting materials such as the advertisements for Morinaga & Co., Ltd., Meiji seika kaisha Ltd., and Matsushita Electric Industrial Co., Ltd; Ryūzaburō Umehara's oil painting of Takamine (collection of the National Museum of Modern Art, Tokyo) and photographs by Ken Domon, Yūji Hayata, and Shōtarō Akiyama.

「優秀映画鑑賞推進事業」は、文化庁とフィルムセンターが日本映画製作者連盟、全国興行環境衛生同業組合連合会などの協力のもと、全国各地の公立文化施設などと共同して、優れた日本映画の良質な35mmプリントを提供する巡回上映事業のプログラムである。平成16年度の上映作品は4作品を1プログラムとし、20プログラムでの実施となった。なお、親子が揃って楽しめる番組も、4番組編成した。

16回目となる平成16年度は、福井、徳島、鹿児島県の3県において開催がなかったため、全国44都道府県で実施したが、会場数は本事業始まって以来の減少で、8会場減の全国168会場での実施となった。市町村合併や財政の緊縮といった情勢変化の影響がうかがわれた。なお、中越地震の影響で、新潟県十日町市での開催は会期直前にやむなく中止となった。一方、新規会場は41会場と例年並みの伸びを示しており、従来の公民館や市民ホールだけでなく、新規に開館した美術館やNPO法人運営による映画館などでも開催され、当該事業をめぐる環境の変化がうかがわれた。しかしながら、期間中の入場者数は総計で83,901人にのぼり、これまでで最も多い入場者数となった。

Our Circulation Program “Promotion of the Viewing of Superior Japanese Films” marked the 16th year since its inception in 1989. With the support by Motion Picture Producers Association of Japan, Inc. and Japan Association of Theatre Owners, NFC and Agency for Cultural Affairs showed select Japanese films at venues around Japan such as municipal cultural institutions. As in the previous year, 20 programs with 4 titles each were created for this program including 4 programs specifically designed for family viewing.

168 venues in 44 prefectures utilized this program, marking the first drop in the number of participating venues since the inception of this program. The decrease seems to have happened due to consolidations of municipalities and the reduction of municipal budgets. The screening in Tōkamachi City was cancelled due to the Niigata Earthquake. At the same time, 41 new venues participated in the program, marking the same level of increase as the previous years. New venues included newly opened museums and cinemas run by NPO in addition to the municipal hall, showing the change of the climate surrounding this program. The number of viewers for the program this year totalled 83,901, marking the largest figure since the program started.

プログラム別作品一覧

Aプログラム

西鶴一代女 (1952年・溝口健二・新東宝他・137分)
 近松物語 (1954年・溝口健二・大映・103分)
 王将 (1948年・伊藤大輔・大映・93分)
 弁天小僧 (1958年・伊藤大輔・大映・86分)

Bプログラム

おかあさん (1952年・成瀬巳喜男・新東宝・98分)
 浮雲 (1955年・成瀬巳喜男・東宝・123分)
 血槍富士 (1955年・内田吐夢・東映・94分)
 飢餓海峡 (1964年・内田吐夢・東映・183分)

Cプログラム

酔いどれ天使 (1948年・黒澤明・東宝・98分)
 羅生門 (1950年・黒澤明・大映・88分)
 日本の悲劇 (1953年・木下恵介・松竹・116分)
 喜びも悲しみも幾歳月 (1957年・木下恵介・松竹・159分)

Dプログラム

生きる (1952年・黒澤明・東宝・143分)
 天国と地獄 (1963年・黒澤明・東宝・143分)
 女の園 (1954年・木下恵介・松竹・141分)
 野菊の如き君なりき (1955年・木下恵介・松竹・92分)

Eプログラム

青い山脈 (1949年・今井正・東宝・172分)
 また逢う日まで (1950年・今井正・東宝・109分)
 野火 (1959年・市川崑・大映・104分)
 ぼんち (1960年・市川崑・大映・104分)

Fプログラム

くちづけ (1957年・増村保造・大映・73分)
 青春残酷物語 (1960年・大島渚・松竹・96分)
 にっぽん昆虫記 (1963年・今村昌平・日活・123分)
 心中天網島 (1969年・篠田正浩・表現社他・103分)

Gプログラム

夫婦善哉 (1955年・豊田四郎・東宝・120分)
 夜の河 (1956年・吉村公三郎・大映・104分)
 五番町夕霧楼 (1963年・田坂具隆・東映・137分)
 夢千代日記 (1985年・浦山桐郎・東映・129分)

Hプログラム

稲妻 (1952年・成瀬巳喜男・大映・87分)
 紀ノ川 (1966年・中村登・松竹・166分)
 華岡青洲の妻 (1967年・増村保造・大映・99分)
 サンダカン八番娼館 望郷 (1974年・熊井啓・俳優座他・121分)

Iプログラム

隠し砦の三悪人 (1958年・黒澤明・東宝・138分)
 反逆児 (1961年・伊藤大輔・東映・110分)
 次郎長三国志 (1963年・マキノ雅弘・東映・102分)
 風林火山 (1969年・稲垣浩・三船プロ・166分)

Jプログラム

嵐を呼ぶ男 (1957年・井上梅次・日活・101分)
 悪名 (1961年・田中徳三・大映・94分)
 沓掛時次郎 遊侠一匹 (1966年・加藤泰・東映・90分)
 人生劇場 飛車角と吉良常 (1968年・内田吐夢・東映・109分)

Kプログラム

二十四の瞳 (1954年・木下恵介・松竹・156分)
 西遊記 (1960年・薮下泰司・東映動画・88分)
 ※アニメーション
 伊豆の踊子 (1974年・西河克己・東宝他・82分)
 火垂るの墓 (1988年・高畑勲・新潮社・89分)
 ※アニメーション

Lプログラム

長靴をはいた猫 (1969年・矢吹公郎・東映動画・80分)
 ※アニメーション
 野菊の墓 (1981年・澤井信一郎・東映他・91分)
 次郎物語 (1987年・森川時久・キネマ東京他・110分)
 ぼくらの七日間戦争 (1988年・菅原比呂志・角川春樹事務所・94分)

Mプログラム

裸の島 (1960年・新藤兼人・近代映画協会・96分)
 風の又三郎 ガラスのマント
 (1989年・伊藤俊也・日本ヘラルド映画他・107分)
 大誘拐 (1991年・岡本喜八・喜八プロ他・120分)
 毎日が夏休み (1994年・金子修介・パイオニアLDC他・94分)

Nプログラム

転校生 (1982年・大林宣彦・ATG他・113分)
 ロックよ、静かに流れよ
 (1988年・長崎俊一・ブルミエインターナショナル他・100分)
 櫻の園
 (1990年・中原俊・ニューセンチュリープロデューサーズ他・100分)
 お引越し (1993年・相米慎二・読売テレビ・124分)

Oプログラム

大江戸五人男 (1951年・伊藤大輔・松竹・132分)
 銭形平次捕物控 人肌蜘蛛
 (1956年・森一生・大映・82分)
 旗本退屈男 (1958年・松田定次・東映・108分)
 赤穂浪士 (1961年・松田定次・東映・150分)

Pプログラム

幕末太陽伝 (1957年・川島雄三・日活・110分)
 駅前旅館 (1958年・豊田四郎・東宝他・109分)
 ニッポン無責任時代 (1962年・古沢憲吾・東宝・86分)
 喜劇・女は男のふるさとヨ
 (1971年・森崎東・松竹・90分)

Qプログラム

おかしな奴 (1963年・沢島忠・東映・110分)
 喜劇・大安旅行 (1968年・瀬川昌治・松竹・94分)
 吹けば飛ぶよな男だが
 (1968年・山田洋次・松竹・91分)
 あゝ軍歌 (1970年・前田陽一・松竹・88分)

Rプログラム

キューボラのある街 (1962年・浦山桐郎・日活・99分)
 伊豆の踊子 (1963年・西河克己・日活・87分)
 けんかえれじい (1966年・鈴木清順・日活・86分)
 遠雷 (1981年・根岸吉太郎・ATG他・135分)

Sプログラム

おとうと (1960年・市川崑・大映・98分)
 肉弾 (1968年・岡本喜八・ATG他・116分)
 旅の重さ (1972年・斎藤耕一・松竹・91分)
 時をかける少女
 (1983年・大林宣彦・角川春樹事務所・104分)

Tプログラム

エノケンの頑張り戦術 (1939年・中川信夫・東宝・74分)
 ジャンケン娘 (1955年・杉江敏男・東宝・92分)
 大学の若大将 (1961年・杉江敏男・東宝映画・82分)
 君も出世ができる (1964年・須川栄三・東宝・100分)

平成16年度優秀映画鑑賞推進事業実施報告

会場名	開催期間	プログラム	日数	映写回数	入場者数	映画館数	人口規模
■北海道							
1 札幌生涯学習総合センター(ちえりあ)	平成16年10月 7日(木)～平成16年10月 9日(土)	A	3	12	788	42	1,848,500
2 千歳市民文化センター	平成16年 8月14日(土)～平成16年 8月15日(日)	Q	2	6	461	0	90,864
3 たきかわホール	平成16年10月29日(金)～平成16年10月31日(日)	K	3	6	219	0	46,000
4 北見芸術文化ホール中ホール	平成16年10月30日(土)～平成16年10月31日(日)	R	2	7	364	7	110,000
5 厚岸情報館	平成16年11月19日(金)～平成16年11月21日(日)	G	3	5	47	0	12,400
■青森県							
6 六ヶ所村文化交流プラザ(スワニー)★	平成16年 8月28日(土)～平成16年 8月29日(日)	O	2	8	230	0	12,000
■岩手県							
7 久慈市文化会館(アンバーホール)	平成16年10月16日(土)～平成16年10月17日(日)	L	2	4	175	0	39,000
8 藤沢町文化交流センター(縄文ホール)	平成16年10月31日(日)	P	1	4	396	0	10,252
9 釜石市民文化会館	平成16年11月 6日(土)～平成16年11月 7日(日)	D	2	4	199	0	45,000
■宮城県							
10 中新田パッパホール	平成16年 9月12日(日)	A	1	4	560	0	28,000
11 気仙沼市民会館	平成16年11月14日(日)	P	1	4	820	0	60,557
■秋田県							
12 横手市ふれあいセンターかまくら館	平成16年 9月26日(日)	L	1	4	181	0	40,000
13 中仙町町民会館(ドンパル)★	平成16年 7月24日(土)～平成16年 7月25日(日)	D	2	4	442	0	11,875
14 小坂町康楽館	平成17年 2月19日(土)～平成17年 2月20日(日)	I	2	8	482	1	7,000
15 大館市民文化会館	平成17年 2月26日(土)～平成17年 2月27日(日)	D	2	8	1,087	1	66,176
16 雄勝町総合文化会館(オービオン)	平成16年 9月18日(土)	O	1	4	210	0	9,500
■山形県							
17 米沢市市民文化会館	平成16年 9月12日(日)	Q	1	5	1,150	7	94,000
18 河北町総合交流センター(サハトベに花)★	平成16年 8月22日(日)	J	1	2	357	0	21,000
■福島県							
19 会津若松市文化センター	平成16年12月10日(金)	D	1	2	545	4	118,000
■茨城県							
20 東海文化センター	平成17年 2月 5日(土)～平成17年 2月 6日(日)	I	2	8	1,263	0	35,000
21 土浦市民会館	平成16年11月 3日(水)	C	1	3	971	7	135,155
22 玉里村総合文化センター	平成16年 8月28日(土)	L	1	3	227	0	8,595
23 日立市視聴覚センター★	平成16年11月13日(土)～平成16年11月14日(日)	R	2	6	326	7	189,780
24 水戸芸術館(ACM劇場)	平成17年 2月12日(土)～平成17年 2月13日(日)	C	2	4	468	10	249,000
■栃木県							
25 栃木県総合文化センター(サブホール)	平成17年 2月13日(日)	R	1	4	1,320	23	450,000
■群馬県							
26 笠懸野文化ホール(パル)★	平成17年 1月15日(土)～平成17年 1月16日(日)	R	2	4	701	0	27,748
27 新田町文化会館(エアリスホール)	平成16年 9月 1日(水)～平成16年 9月 2日(木)	A	2	4	1,228	0	30,500
28 桐生市市民文化会館シルクホール★	平成16年10月24日(日)	C	1	2	600	0	114,692
■埼玉県							
29 北川辺町生涯学習センター★	平成17年 1月29日(土)～平成17年 1月30日(日)	K	2	4	73	0	13,593
30 八潮市民文化会館(八潮メセナ)★	平成17年 2月26日(土)～平成17年 2月27日(日)	R	2	4	158	0	76,000
31 深谷シネマチネ・フェリーチェ★	平成16年11月 7日(日)～平成16年11月11日(木)	A	5	20	262	1	104,000
■千葉県							
32 茂原市東部台文化会館	平成17年 3月12日(土)～平成17年 3月13日(日)	R	2	4	361	6	95,040
■東京都							
33 多摩市立関戸公民館(やまばとホール)	平成16年11月24日(水)～平成16年11月25日(木)	I	2	5	336	3	143,000
34 小平市民文化会館大ホール(ルネこだいら)	平成17年 2月19日(土)～平成17年 2月20日(日)	G	2	4	3,550	0	175,879

	会場名	開催期間	プログラム	日数	映写回数	入場者数	映画館数	人口規模
35	町田市民ホール★	平成16年 8月17日(火)～平成16年 8月18日(水)	K	2	4	622	5	400,000
■神奈川県								
36	相模原南市民ホール	平成16年11月 6日(土)～平成16年11月 7日(日)	G	2	4	352	4	625,000
37	小田原市民会館★	平成17年 2月 5日(土)～平成17年 2月 6日(日)	K	2	4	560	17	128,000
■新潟県								
38	南魚沼市民会館(旧六日町文化会館)★	平成17年 1月29日(土)～平成17年 1月30日(日)	I	2	6	526	1	29,000
39	十日町市市民会館	中越地震により開催中止						
40	中条町産業文化会館	平成16年 7月 2日(金)～平成16年 7月 4日(日)	G	3	9	686	0	28,000
41	糸魚川市民会館	平成16年10月 3日(日)	G	1	4	189	0	32,000
42	小出郷文化会館小ホール	平成17年 2月18日(金)～平成17年 2月20日(日)	A	3	9	51	1	13,000
■富山県								
43	滑川市西地区コミュニティホール	平成16年12月 4日(土)～平成16年12月 5日(日)	G	2	4	311	0	34,000
44	クロスランドおやべ	平成17年 1月15日(土)～平成17年 1月16日(日)	Q	2	4	925	0	35,000
■石川県								
45	金沢21世紀美術館シアター 21★	平成17年 1月14日(金)～平成17年 1月16日(日)	N	3	8	211	19	450,000
46	田鶴浜町文化ホールサンビーム日和ヶ丘	平成16年 9月 9日(木)～平成16年 9月12日(日)	E	4	4	62	0	6,000
■山梨県								
47	甲府市総合市民会館	平成17年 3月 5日(土)～平成17年 3月 6日(日)	D	2	4	935	21	200,000
48	増穂町文化会館	平成17年 1月15日(土)～平成17年 1月16日(日)	A	2	4	398	0	13,340
49	三珠町歌舞伎文化公園(ふるさと会館)	平成16年 8月21日(土)	C	1	2	227	0	4,300
50	須玉町農村総合交流ターミナル★	平成16年 7月10日(土)～平成16年 7月11日(日)	K	2	4	1,200	0	7,300
■長野県								
51	若里市民文化ホール★	平成16年10月16日(土)～平成16年10月17日(日)	R	2	4	338	0	364,492
52	上田市文化会館	平成16年11月14日(日)	F	1	2	192	3	123,000
53	鼎文化センター	平成16年 9月 4日(土)	K	1	2	713	6	106,000
54	須坂市文化会館(メセナホール)	平成17年 1月29日(土)～平成17年 1月30日(日)	D	2	6	681	0	54,824
55	駒ヶ根市文化会館	平成16年 8月27日(金)～平成16年 8月29日(日)	R	2	8	179	0	34,510
56	上山田文化会館	平成16年 8月14日(土)～平成16年 8月15日(日)	P	2	8	389	0	64,436
57	山形村トレーニングセンター	平成16年12月 4日(土)～平成16年12月 5日(日)	L	2	4	532	6	8,398
58	小布施町勤労青少年ホーム(北斎ホール)★	平成16年11月26日(金)～平成16年11月27日(土)	F	2	2	200	0	12,000
■岐阜県								
59	武儀町生涯学習センター★	平成16年 7月18日(日)	L	1	4	25	0	4,212
60	可児市文化創造センター(ala)アーラ	平成16年 8月27日(金)～平成16年 8月30日(月)	T	4	16	186	0	97,882
61	瑞浪市総合文化センター	平成16年 8月 8日(日)	P	1	4	429	0	42,000
62	明智町かえでホール	平成16年 8月 1日(日)	K	1	4	161	0	6,900
63	美濃市文化会館	平成16年 9月17日(金)～平成16年 9月18日(土)	G	2	6	706	0	24,575
64	久々野町中央公民館	平成16年12月14日(火)～平成16年12月17日(金)	C	4	4	50	0	4,300
65	県民文化ホール未来会館	平成16年11月 7日(日)	T	1	4	493	9	404,140
■静岡県								
66	大東町文化会館(シオーネ)	平成17年 1月15日(土)～平成17年 1月16日(日)	G	2	6	852	0	20,900
67	大井川町文化会館(ミュージコ)	平成16年 7月17日(土)～平成16年 7月18日(日)	K	2	6	266	0	25,000
68	天竜市民ホール	平成16年10月 2日(土)	R	1	2	176	0	22,962
69	藤枝市民会館	平成16年 9月 4日(土)	J	1	4	541	0	130,000
70	静岡市清水文化センター★	平成16年 9月 3日(金)～平成16年 9月 4日(土)	D	2	8	812	24	712,180
71	菊川町文化会館アエル	平成16年 9月18日(土)～平成16年 9月19日(日)	P	2	4	62	0	33,000
■愛知県								
72	東郷町民会館	平成16年10月 2日(土)～平成16年10月 3日(日)	F	2	4	124	0	38,000
73	碧南市芸術文化ホール(シアターサウス)	平成17年 1月30日(日)	A	1	3	351	0	70,635
■三重県								
74	名張市青少年センター	平成16年 9月26日(日)	T	1	4	515	0	85,000

	会場名	開催期間	プログラム	日数	映写回数	入場者数	映画館数	人口規模
75	伊勢市生涯学習センター (いせトピア)	平成16年 7月31日(土)～平成16年 8月 1日(日)	G	2	4	1,260	3	100,346
76	大門交流プラザ	平成16年10月 5日(火)～平成16年10月 8日(金)	E	4	12	284	7	165,227
77	海山町立中央公民館	平成16年 8月22日(日)	M	1	3	36	0	9,939
78	ふるさと会館いかに★	平成16年 8月29日(日)	K	1	4	227	0	10,862
■滋賀県								
79	甲南町情報交流センター (忍の里プラザ)★	平成17年 2月 5日(土)～平成17年 2月 6日(日)	G	2	4	492	0	20,000
80	甲西文化ホール	平成16年10月11日(月)	O	1	4	484	0	43,259
81	水口町立碧水ホール	平成17年 1月22日(土)～平成17年 1月23日(日)	C	2	6	703	5	38,789
82	山東町立町民交流プラザルッチプラザ	平成16年10月 3日(日)	O	1	4	438	0	13,658
83	あいの土山文化ホール	平成16年 7月17日(土)～平成16年 7月18日(日)	D	2	6	239	0	9,500
84	日野町町民会館わたむきホール虹	平成16年 8月 1日(日)	S	1	3	184	0	23,000
85	滋賀県立文化産業交流会館(ぶんさん)	平成16年 9月11日(土)～平成16年 9月12日(日)	G	2	6	292	0	12,500
■京都府								
86	文化パルク城陽	平成16年 7月24日(土)～平成16年 7月25日(日)	G	2	8	856	1	83,032
■大阪府								
87	河内長野市立文化会館(ラプリーホール)★	平成16年11月12日(金)～平成16年11月13日(土)	C	2	4	131	0	120,000
88	大東市立文化ホール(サーティホール)	平成16年11月28日(日)	D	1	4	602	0	129,117
89	守口市生涯学習情報センター (ムーブ21)	平成16年12月 5日(日)	I	1	4	115	0	150,259
90	箕面市立市民会館(グリーンホール)	平成16年10月23日(土)～平成16年10月24日(日)	A	2	4	381	9	124,956
91	アクア文化ホール★	平成16年 8月 3日(火)	D	1	4	131	1	388,750
92	摂津市民文化ホール	平成16年 9月11日(土)	L	1	4	182	0	86,000
93	すばるホール	平成16年10月26日(火)～平成16年10月29日(金)	I	4	8	318	0	126,000
94	岸和田市立文化会館(マドカホール)	平成16年12月11日(土)～平成16年12月12日(日)	F	2	4	324	19	204,567
95	天王寺公園映像館★	平成16年10月 1日(金)～平成16年10月 3日(日)	H	3	8	853	92	60,000
■兵庫県								
96	兵庫県立美術館(芸術の館)	平成16年 8月27日(金)～平成16年 8月28日(土)	E	2	5	793	42	1,000,000
97	豊岡市民プラザ多目的ホール★	平成17年 2月10日(木)～平成17年 2月14日(月)	N	5	10	53	2	47,308
98	小野市民会館★	平成16年10月16日(土)～平成16年10月17日(日)	K	2	4	314	0	50,703
99	高砂市福祉保険センター中ホール★	平成17年 1月30日(日)	G	1	4	267	0	98,263
100	宝塚市文化施設ソリオホール★	平成16年 7月10日(土)～平成16年 7月11日(日)	E	2	8	291	2	218,842
101	明石市立市民会館(アワーズホール)	平成16年10月13日(水)～平成16年10月14日(木)	G	2	4	1,760	9	290,000
102	川西市みつなかホール	平成17年 3月12日(土)～平成17年 3月13日(日)	D	2	4	770	0	160,182
103	姫路市文化センター大ホール	平成16年12月23日(木)	G	1	3	1,863	11	480,000
104	西宮市なるお文化ホール	平成17年 2月12日(土)～平成17年 2月13日(日)	I	2	4	778	0	456,786
105	加西市民会館	平成16年 8月28日(土)	C	1	4	560	0	51,700
■奈良県								
106	奈良県文化会館★	平成16年11月28日(日)	C	1	1	157	9	365,000
107	斑鳩町文化振興センター(いかるがホール)	平成16年12月11日(土)～平成16年12月12日(日)	G	2	4	376	0	28,893
■和歌山県								
108	和歌山県民文化会館	平成16年 9月 3日(金)	H	1	4	2,083	11	380,000
109	紀南文化会館	平成16年 9月11日(土)～平成16年 9月12日(日)	B	2	6	641	3	71,000
110	貴志川町生涯学習センター★	平成17年 1月15日(土)～平成17年 1月16日(日)	D	2	4	703	0	21,964
111	橋本市教育文化会館2階大ホール	平成16年11月 6日(土)	H	1	2	209	0	57,000
112	かつらぎ総合文化会館(あじさいホール)	平成16年10月24日(日)	F	1	4	217	0	20,303
113	新宮市公民館	平成16年10月 3日(日)	D	1	4	256	2	33,000
■鳥取県								
114	鳥取県民文化会館第1会議室★	平成16年 9月11日(土)～平成16年 9月12日(日)	H	2	4	520	4	150,000
115	鳥取市文化ホール★	平成16年11月28日(日)	P	1	4	936	4	150,000
116	米子市公会堂大ホール	平成16年 9月 4日(土)～平成16年 9月 5日(日)	B	2	4	951	3	141,233
117	倉吉未来中心小ホール	平成17年 1月20日(木)～平成17年 1月23日(日)	I	2	8	308	3	49,242

会場名	開催期間	プログラム	日数	映写回数	入場者数	映画館数	人口規模
■島根県							
118 松江テルサ	平成16年 9月25日(土)～平成16年 9月26日(日)	D	2	5	328	5	150,000
119 石央文化ホール	平成17年 1月29日(土)～平成17年 1月30日(日)	N	2	4	70	0	47,000
120 石川県民文化会館	平成16年10月 9日(土)～平成16年10月10日(日)	P	2	4	166	2	50,000
121 大田市民会館	平成16年11月14日(日)	H	1	2	107	0	33,960
122 安来市民会館	平成16年10月16日(土)	H	1	3	255	0	30,650
123 平田市立文化館★	平成16年 7月19日(月)	O	1	4	831	0	29,282
124 美保関町海の学苑ふるさと創生館	平成16年10月23日(土)	G	1	2	127	0	6,794
125 悠邑ふるさと会館	平成16年10月 9日(土)～平成16年10月10日(日)	L	2	4	79	0	4,700
■岡山県							
126 総社市立総合文化センター★	平成16年 9月12日(日)	K	1	4	420	0	56,000
127 西川アイブラザ★	平成17年 1月22日(土)～平成17年 1月23日(日)	D	2	4	277	14	630,000
128 音楽文化ホール・ベルフォーレ津山	平成17年 1月23日(日)	G	1	4	328	2	90,000
129 勝山町民センター	平成16年 9月 4日(土)	G	1	4	289	0	9,200
130 建部町文化センター	平成17年 2月26日(土)～平成17年 2月27日(日)	K	2	4	167	0	7,051
131 高梁総合文化会館	平成16年10月16日(土)～平成16年10月17日(日)	I	2	4	200	0	22,803
■広島県							
132 田園パラッツォ	平成16年 8月 8日(日)	L	1	2	100	0	4,700
■山口県							
133 山口情報芸術センター★	平成17年 2月10日(木)～平成17年 2月14日(月)	D	5	12	662	5	140,000
134 ルネッサなかと	平成16年 8月 7日(土)～平成16年 8月 8日(日)	C	2	8	515	0	25,000
■香川県							
135 土庄町立中央公民館	平成16年10月23日(土)～平成16年10月24日(日)	L	2	8	491	0	16,935
136 丸亀市生涯学習センター (まなびらんど)	平成16年 9月12日(日)	J	1	4	885	0	82,000
137 ふれあいパークみの★	平成16年 7月31日(土)	E	1	4	276	0	10,009
138 善通寺市民会館ホール	平成17年 2月13日(日)	Q	1	4	1,560	0	36,000
139 ユーブラザうたづ(ハーモニーホール)	平成16年 9月23日(木)	B	1	4	377	7	18,000
■愛媛県							
140 宇和島市生涯学習センター	平成17年 2月27日(日)	C	1	4	328	3	62,000
141 おおず赤煉瓦館★	平成16年 7月29日(木)～平成16年 8月 1日(日)	L	4	4	31	6	39,200
142 吉海町町民会館	平成16年 9月 5日(日)	Q	1	4	47	0	4,752
143 宇和町文化会館	平成16年 8月29日(日)	P	1	4	160	0	18,200
144 御荘町文化センター	平成16年 8月 8日(日)	T	1	4	136	0	9,645
■高知県							
145 春野町文化ホール(ピアステージ)	平成17年 2月19日(土)～平成17年 2月20日(日)	K	2	8	938	0	16,287
146 土佐清水市立市民文化会館(くろしおホール)	平成16年 8月20日(金)～平成16年 8月23日(月)	G	4	8	508	0	18,597
■福岡県							
147 朝倉町民センター	平成16年 7月 3日(土)	E	1	4	227	0	10,000
148 そびあしんぐう	平成17年 2月26日(土)	G	1	4	510	0	23,102
149 小郡市文化会館	平成17年 1月14日(金)～平成17年 1月15日(土)	C	2	4	649	0	57,290
150 田川青少年文化ホール	平成16年 7月31日(土)～平成16年 8月 1日(日)	O	2	8	1,140	0	54,105
151 大牟田文化会館	平成16年 8月13日(金)～平成16年 8月14日(土)	D	2	8	748	4	137,580
152 大野城まどかぴあ	平成16年 9月11日(土)～平成16年 9月12日(日)	T	2	8	267	8	91,000
■佐賀県							
153 上峰町民センター★	平成16年 7月27日(火)～平成16年 7月28日(水)	M	2	5	349	7	9,192
154 東与賀町文化ホール(ふれあい館)	平成16年11月 6日(土)～平成16年11月 7日(日)	I	2	6	374	0	7,900
■長崎県							
155 国見町文化会館(まほろば)★	平成16年 7月 3日(土)	O	1	3	269	0	12,000
■熊本県							
156 宇土市民会館	平成16年 7月24日(土)～平成16年 7月25日(日)	C	2	8	439	0	38,856

	会場名	開催期間	プログラム	日数	映写回数	入場者数	映画館数	人口規模
157	小川町総合センター	平成16年 8月21日(土)～平成16年 8月22日(日)	O	2	8	906	8	13,939
158	大津町文化ホール	平成16年11月20日(土)	L	1	4	82	0	28,781
159	益城町文化会館	平成16年 7月24日(土)～平成16年 7月25日(日)	P	2	8	696	0	32,389
■大分県								
160	上津江村役場★	平成16年11月21日(日)	H	1	4	24	0	1,300
161	くにしき総合文化センター (アストくにきき)	平成16年 9月11日(土)～平成16年 9月12日(日)	C	2	4	274	0	13,274
162	コアやまくに	平成16年10月 8日(金)～平成16年10月11日(月)	C	4	16	142	0	3,497
163	日田市中央公民館(文化センター)	平成16年 9月 5日(日)	R	1	4	591	1	61,957
164	国見町生涯学習センターみんなかん	平成16年 9月12日(日)	R	1	4	219	0	5,800
165	湯布院町中央公民館★	平成17年 3月12日(土)	K	1	2	179	0	11,542
■宮崎県								
166	門川町総合文化会館	平成16年 9月 4日(土)～平成16年 9月 5日(日)	O	2	8	1,338	0	19,335
■沖縄県								
167	宮古広域文化ホール(マティダ市民劇場)	平成16年 8月14日(土)～平成16年 8月15日(日)	H	2	4	338	0	35,000
168	浦添市民会館	平成16年 9月11日(土)～平成16年 9月12日(日)	M	2	8	344	0	106,000
169	バレット市民劇場	平成16年10月29日(金)～平成16年10月31日(日)	E	3	12	3,015	15	310,741
合 計				303	858	83,901		

★印ははじめての会場

国内外の主要映画祭や国際フィルム・アーカイヴ連盟 (FIAP) 加盟機関などを対象に行われる所蔵フィルムの貸与は39件、貸与フィルム数は114本に上り、前年度をはるかに上回る伸びを見せた。国外では、ミュンヘン映画博物館で当センターを特集する企画上映が組まれ、英語字幕付プリント16本の貸与を行うとともに、東京フィルメックスとの共催で行った清水宏及び内田吐夢特集の反響を受けて、ブリスベン国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭、オーストリア映画博物館で組まれた特集上映に貸与を行った。国内では京都映画祭、横浜美術館などの企画上映に、多くのフィルムを貸与した。また、文化庁主催による韓国ソウルでの日本映画上映にも、13本の貸与を行った。貸与状況は下記のとおりである。

大学等の教育機関や研究機関、映画やテレビの制作会社、日本映像職能連合の加盟団体、出版社などの組織を対象に行われている特別映写は、90件が実施され、195本が上映された。また、テレビ番組の制作会社や著作権を持つ映画会社などに所蔵フィルムを提供して複製を認める複製利用は、件数として38件、フィルム本数としては83本であった。

映画関係資料については貸与、出版物等への図版提供を下記のとおり行った。

展示施設等を対象とする貸与では、日本近代文学館で開催された「チェーホフ展」、森アートセンターギャラリー 9を会場とする第17回東京国際映画祭企画催事「映画大博物館」、世田谷文学館の「生誕100年 映画監督・成瀬巳喜男」など4件に対し、映画ポスターや写真を中心とする関係資料計171点の貸与を行った。

出版や放送などに対しては海外からの申請1件を含め計48件の申請に対し256点の図版提供や撮影の許可を行った（上映用フィルム貸与に伴う写真図版の提供を除き、資料複写3件13点を含む。）。これらには雑誌復刻への原本提供や、映画会社による自社保存用スチル写真素材の作成、大学による大規模な資料の熟覧などが含まれている。また平成16年度は、東京都現代美術館で開催された「日本漫画映画の全貌」、野田市郷土博物館の「小津安二郎監督と野田」、横浜都市発展記念館の「映画生誕110年 シネマ・シティー横浜と映画―」など7件に対し、展示品作成のための資料の複製を許可した。

[Films]

We received 39 requests and loaned 114 prints to both domestic and international film festivals as well as FIAP member archives. These figures marked a significant increase from the previous year.

NFC loaned a number of Japanese films that were requested by film festivals around the world. NFC loaned 16 prints of Japanese films with English subtitles to Filmmuseum, München, which organized the screening program focusing on NFC. In addition, following the retrospectives of Hiroshi Shimizu and Tomu Uchida at NFC (co-organized with Tokyo FILMeX), NFC loaned the prints of their works to the Brisbane International Film Festival, the Rotterdam International Film Festival, and Oesterreichisches Filmmuseum. In Japan, NFC loaned many prints to the Kyoto Film Festival and the Yokohama Museum. In addition, NFC loaned 13 prints to the screening event of Japanese films in Seoul which was organized by the Agency

for Cultural Affairs.

Our Special Screening Programs that are targeted at universities, TV production companies, film production companies, member associations of Nippon Eizo Shokuno Rengo, and publishers were organized 90 times showing 195 films this year, and NFC allowed 83 films to be duplicated in 38 occasions by TV production companies and copyright holding production companies.

[Non-Film Materials]

NFC loaned 171 items of non-film film-related materials such as posters and still photographs to 4 outside museums including the Museum of Modern Japanese Literature, the 2004 Tokyo International Film Festival, and the Setagaya Literary Museum.

As for loans to the broadcasting and printing media, NFC received 48 requests (including one from abroad) and loaned or gave permission to take photographs (or shoot moving images) of the items that totaled 256 pieces. (This figure does not include the loan of still photographs of the films that were loaned.) They include the loan of the original copies of the magazines to publishers who wished to make reprint versions, those of the still photographs to film studios who wished to duplicate them in order to fill in the gap of their own collection, and a large-scale close examination of the materials at universities. In addition, NFC gave permission to duplicate the materials in its collection to 7 museums including the Museum of Contemporary Art, Tokyo, the Noda City Museum, and the Museum of Yokohama Urban History in relation to the exhibitions at these venues.

[国内貸出]

開館20周年記念展示「民衆文化とつくられたヒーローたち」上映会

上映会場：国立歴史民俗博物館講堂／主催：国立歴史民俗博物館

「忠次旅日記」(伊藤大輔、1927年) 上映日：2004年4月18日

第5回宝塚映画祭 プレイベント

上映会場：宝塚ソリオホール／主催：宝塚映画祭実行委員会

「新雪」(五所平之助、1942年) 上映日：2004年4月27日

阿部知二原作 映画「冬の宿」上映会

上映会場：姫路市文化センター大ホール／主催：姫路文学館

「冬の宿」(豊田四郎、1938年) 上映日：2004年5月2日

「瀧の白糸」上映会

上映会場：札幌市教育文化会館大ホール／主催：財団法人札幌市芸術文化財団

「瀧の白糸」(溝口健二、1933年) 上映日：2004年5月29日

上映会「フランス恐怖映画の系譜」

上映会場：東京日仏学院上映ホール／主催：東京日仏学院

「アッシャー家の末裔」(ジャン・エプスタイン、1928年) 上映日：2004年5月1日

「チューブ博士の狂気」(アベル・ガンズ、1915年) 上映日：2004年5月1日

「顔のない眼」(ジョルジュ・フランジュ、1960年) 上映日：2004年5月21日

咸臨丸フェスティバル

上映会場:住友重機械工業(株)浦賀工場内造船ビル/主催:神奈川県横須賀三浦地区行政センター
「八十八年目の太陽」(滝沢英輔、1941年) 上映日:2004年5月2日

ケルト映画祭

上映会場:NTT夢天神ホール/主催:日本ケルト協会
「ザ・ジェネラル」(ジョン・ブアマン、1997年) 上映日:2004年5月30日

大阪・上海友好都市提携30周年記念「中国映画の全貌2004」～「小城之春」「春の惑い」比較上映会～

上映会場:シネ・ヌーヴォ/主催:財団法人大阪都市協会
「田舎町の春(小城之春)」(フェイ・ムー、1948年) 上映日:2004年6月26日、27日

シンポジウム「探偵小説の考古学から今日の探偵小説家へ」上映会

上映会場:法政大学スカイホール/主催:法政大学国際文化学部
「ジゴマ[鳥羽版]」(ヴィクトラン・ジャッセ、1911年) 上映日:2004年6月13日

演習授業

上映会場:早稲田大学/主催:早稲田大学地域社会と危機管理研究所
「関東大震災火災実況」(文部省製作、1923年) 上映日:2004年6月24日
「帝都復興」(大日本教育映画協会製作、1930年) 上映日:2004年6月24日

あいち国際女性映画祭2004「日本映画名作」

上映会場:愛知県女性総合センター(ウィルあいち)ウィルホール/
主催:財団法人あいち女性総合センター
「瀧の白糸」(溝口健二、1933年) 上映日:2004年9月12日

第4回京都映画祭

上映会場:京都府京都文化博物館別館/主催:京都映画祭実行委員会
「武士道」(賀古残夢、1926年) 上映日:2004年9月20日
「幕末剣史 長恨」(伊藤大輔、1926年) 上映日:2004年9月22日、25日
「勝鬨」(勝見正義、1926年) 上映日:2004年9月22日、25日
「斬人斬馬剣」(伊藤大輔、1929年) 上映日:2004年9月22日、25日
「護寺院ヶ原の火華」(後藤岱山、1933年) 上映日:2004年9月22日、25日
「丹下左膳餘話 百万両の壺」(山中貞雄、1935年) 上映日:2004年9月20日、23日
上映会場:京都府京都文化博物館別館, 祇園会館
「鞍馬天狗 横浜に現る」(伊藤大輔、1942年) 上映日:2004年9月20日、22日、24日
「丹下左膳」(松田定次、1952年) 上映日:2004年9月19日、22日、24日

第17回東京国際映画祭「ニッポン・シネマ・クラシック」森田芳光ONE DAYスペシャル
「第17回東京国際女性映画祭」「文化庁映画週間」「第2回全国映画祭コンベンション」

上映会場：渋谷Bunkamura ル・シネマ1／主催：東京国際映画祭実行委員会
「恋の花咲く 伊豆の踊り子」(五所平之助、1933年) 上映日：2004年10月24日、25日
「東海道四谷怪談」(中川信夫、1959年) 上映日：2004年10月23日、26日
上映会場：VIRGIN TOHO CINEMAS 六本木ヒルズ
「39 刑法第三十九条」(森田芳光、1999年) 上映日：2004年10月24日
上映会場：東京ウィメンズプラザ
「お吟さま」(田中絹代、1962年) 上映日：2004年10月27日
上映会場：オリベホール
「女人哀愁」(成瀬巳喜男、1937) 上映日：2004年10月27日

神戸100年映画祭プレイベント

上映会場：神戸文化ホール 中ホール／主催：神戸市教育委員会
「新雪」(五所平之助、1942年) 上映日：2004年11月18日

第13回中世の里なみおか映画祭

上映会場：浪岡町 中世の館／主催：中世の里なみおか映画祭実行委員会
「樋口一葉」(並木鏡太郎、1939年) 上映日：2004年11月22日
「殺陣師段平」(マキノ雅弘、1950年) 上映日：2004年11月22日

「失楽園：風景表現の近代1870-1945」展「展覧会セクション外プログラム」失楽園：風景表現の近代1870-1945映画上映会

上映会場：横浜美術館レクチャーホール／主催：横浜美術館
「関東大震災火災実況」(文部省製作、1923年) 上映日：2004年11月21日
「飛行船による震災前の京浜」(横濱シネマ商会製作、1926年) 上映日：2004年11月21日
「公衆作法 東京見物」(文部省製作、1926年) 上映日：2004年11月21日
「航空船にて復興の帝都へ」(文部省製作、1926年) 上映日：2004年11月21日
「復興帝都シンフォニー」(東京市政調査会製作、1929年) 上映日：2004年11月21日
「隅田川」(文部省製作、1931年) 上映日：2004年11月21日
「時局下の臺灣」(台湾總督府製作、1937年) 上映日：2004年11月23日
「内鮮満周遊の旅 満州篇」(満鐵映画製作所製作、1937年) 上映日：2004年11月23日
「娘々廟會」(満鐵映画製作所製作、1939年) 上映日：2004年11月23日

平成16年度(第59回)文化庁芸術祭主催公演「日本映画名作鑑賞会
【映画に描かれた関西】」

上映会場：フィルムセンター、天王寺公園映像館／主催：社団法人日本映画製作者連盟
「大日本スリ集団」(福田純、1969年) 上映日：2004年10月15日
「メイク・アップ」(中原俊、1987年) 上映日：2004年10月20日、11月13日

第1回レンガドック活用イベント「歴史のまち・浦賀フォーラム」上映会

上映会場：浦賀行政センター／主催：レンガドック活用イベント実行委員会
「八十八年目の太陽」(瀧澤英輔、1941年) 上映日：2004年11月2日、3日

日本映画ソウル上映会「日本映画：愛と青春1965-1998」

上映会場：メガ・ボックス／主催：文化庁

「なつかしい風来坊」(山田洋次、1966年) 上映日：2004年11月11日、16日、24日

「あこがれ」(恩地日出夫、1966年) 上映日：2004年11月12日、15日、19日

「めぐりあい」(恩地日出夫、1968年) 上映日：2004年11月14日、17日、22日

「喜劇一発大必勝」(山田洋次、1969年) 上映日：2004年11月16日、18日、24日

「やくざ絶唱」(増村保造、1970年) 上映日：2004年11月13日、17日、23日

「新幹線大爆破」(佐藤純弥、1975年) 上映日：2004年11月13日、20日、21日

「爆発!暴走遊戯」(石井輝男、1976年) 上映日：2004年11月13日、20日、21日

「新宿乱れ街 いくまで待って」(曾根中生、1977年) 上映日：2004年11月18日、20日、23日

「さすらいの恋人 眩暈」(小沼勝、1978年) 上映日：2004年11月18日、21日、23日

「神様のくれた赤ん坊」(前田陽一、1980年) 上映日：2004年11月11日、16日、18日

「私をスキーに連れてって」(馬場康夫、1987年) 上映日：2004年11月11日、18日、24日

「ウエルター」(村上修、1987年) 上映日：2004年11月13日、16日、20日

「ラブ・ストーリーを君に」(澤井信一郎、1988年) 上映日：2004年11月21日、23日、24日

特別講演会「早坂暁のえひめ映画塾 映画(キネマ)の青春」上映会

上映会場：テレビ愛媛ビットホール／主催：株式会社テレビ愛媛

「忠次旅日記」(伊藤大輔、1927年) 上映日：2004年12月11日

第1回小田原映画祭

上映会場：小田原市民会館大ホール／主催：小田原映画祭実行委員会

「波」(中村登、1952年) 上映日：2005年2月4日

日本映画：愛と青春1965-1998 セレクト・プログラム

上映会場：シアター・イメージフォーラム／

主催：「日本映画：愛と青春 1965-1998」国内上映委員会

「あこがれ」(恩地日出夫、1966年) 上映日：2005年2月12日、13日、14日、15日

「新幹線大爆破」(佐藤純弥、1975年) 上映日：2005年2月19日、20日、21日、22日

「新宿乱れ街 いくまで待って」(曾根中生、1977年)

上映日：2005年2月23日、24日、25日、26日

「ラブ・ストーリーを君に」(澤井信一郎、1988年)

上映日：2005年2月25日、27日、3月1日、2日

「灘百選の会」設立1周年記念行事上映会

上映会場：神戸市立王子動物園・動物園ホール／主催：神戸市灘区

「新雪」(五所平之助、1942年) 上映日：2005年3月13日

[海外貸出]

第28回香港国際映画祭及び清水宏監督回顧展「清水宏101年祭」上映会

上映会場：香港アーツ・センター アニエスb劇場, 香港フィルム・アーカイヴ／

主催：香港国際映画祭

「港の日本娘」(清水宏、1933年) 上映日：2004年4月17日、5月15日

上映会場：香港アーツ・センター アニエスb劇場, 香港宇宙博物館講義室

「有りがたうさん」(清水宏、1936年) 上映日：2004年4月16日、5月1日

「花形選手」(清水宏、1937年) 上映日：2004年4月17日、5月2日

上映会場：香港フィルム・アーカイヴ

「歌女おぼえ書」(清水宏、1941年) 上映日：2004年4月25日、5月15日

上映会場：香港アーツ・センター アニエスb劇場, 香港宇宙博物館講義室

「簪」(清水宏、1941年) 上映日：2004年4月19日、5月9日

「大正シッター日本の近代性、ノスタルジア、デコ」特集関連企画上映会

上映会場：シカゴ大学内フィルム・スタディーズ・センター・オーディトリウム／

主催：シカゴ大学映画メディア研究学部

「瀧の白糸」(溝口健二、1933年) 上映日：2004年5月14日

チョンジュ国際映画祭2004「ATG映画回顧展」

上映会場：プリムス・シアター2／主催：チョンジュ国際映画祭

「忍者武芸帳」(大島渚、1967年) 上映日：2004年4月28日、30日

上映会場：チョンジュCGV5, チョンジュ・シネマ1

「無常」(実相寺昭雄、1970年) 上映日：2004年4月26日、5月1日

ATG映画特別展

上映会場：ソウルアートシネマ／主催：韓国シネマテーク協議会

「無常」(実相寺昭雄、1970年) 上映日：2004年5月7日、9日

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵作品展

上映会場：ミュンヘン映画博物館上映ホール／主催：ミュンヘン映画博物館

「小林富次郎葬儀」(不詳、1910年) 上映日：2004年6月25日

「長恨」(伊藤大輔、1926年) 上映日：2004年6月22日

「忠次旅日記」(伊藤大輔、1927年) 上映日：2004年6月22日

「愛の町」(田坂具隆、1928年) 上映日：2004年6月18日

「風雲城史」(山崎藤江、1928年) 上映日：2004年6月19日

「紅蝙蝠」(田中都留彦、1929年) 上映日：2004年6月23日

「和製喧嘩友達」(小津安二郎、1929年) 上映日：2004年6月19日

「突貫小僧」(小津安二郎、1929年) 上映日：2004年6月18日

「石川五右エ門の法事」(齊藤寅次郎、1930年) 上映日：2004年6月25日

「國土無双」(伊丹万作、1932年) 上映日：2004年6月23日

「折鶴お千」(溝口健二、1935年) 上映日：2004年6月25日

「バルシファル」(マリオ・カゼリーニ、1912年) 上映日：2004年6月23日

「母の眼」(マックス・マック、1913年) 上映日：2004年6月23日

「サタン」(F・W・ムルナウ、1919年) 上映日：2004年6月25日

「除夜の悲劇」(ルブ・ピック、1924年) 上映日：2004年6月23日

「燈台守」(ジャン・グレミヨン、1929年) 上映日：2004年6月25日

ボン無声映画祭

上映会場：ボン大学構内屋外上映会場／主催：ミュンヘン映画博物館

「愛の町」(田坂具隆、1928年) 上映日：2005年8月11日

「風雲城史」(山崎藤江、1928年) 上映日：2005年8月6日

東アジア・メロドラマ回顧展

上映会場：ソウルアートシネマ、韓国映像資料院／主催：韓国映像資料院

「君の名は 第一篇」(大庭秀雄、1953年) 上映日：2005年7月5日、7日

「君の名は 第二部」(大庭秀雄、1953年) 上映日：2005年7月5日、8日

「君の名は 第三部」(大庭秀雄、1954年) 上映日：2005年7月6日、9日

第13回ブリスベン国際映画祭 清水宏監督回顧展

上映会場：ブリスベン市ホイツ・リージェント劇場／主催：スクリーンサウンド・オーストラリア

「港の日本娘」(清水宏、1933年) 上映日：2005年7月31日

「歌女おぼえ書」(清水宏、1941年) 上映日：2005年8月8日

「簪」(清水宏、1941年) 上映日：2005年8月1日

日本アニメーション映画巡回上映会

上映会場：ビルバオ美術館、フィルモテカ・エスパニョーラ、コルドバ国際アニメーション映画祭、IVAC-ラ・フィルモテカ／主催：フィルモテカ・エスパニョーラ

「海の神兵」(瀬尾光世、1945年) 上映日：2005年9月2日、3日、16日、10月28日、31日

第5回アジアティカ・フィルメディアレ「フォーカス・オン・トーキョー」

上映会場：ローマ市カプラニカ劇場／主催：アジアティカ・フィルメディアレ

「東京戦争戦後秘話」(大島渚、1970年) 上映日：2005年11月26日

ニューヨーク近代美術館開館記念映画・ビデオ上映会「プレミアズ」

上映会場：ニューヨーク近代美術館内ロイ・アンド・ニウタ・タイタス劇場1／

主催：ニューヨーク近代美術館

「新・平家物語」(溝口健二、1955年) 上映日：2006年1月5日、9日

第34回ロッテルダム国際映画祭「取り戻された映画」部門

上映会場：パテ、ヴェンスター／主催：オランダ映画博物館

「たそかれ酒場」(内田吐夢、1955年) 上映日：2006年2月2日、5日

「浪花の恋の物語」(内田吐夢、1959年) 上映日：2006年2月1日、5日

「酒と女と槍」(内田吐夢、1960年) 上映日：2006年1月28日、2月4日

「恋や恋なすな恋」(内田吐夢、1962年) 上映日：2006年1月29日、2月4日

「飢餓海峡」(内田吐夢、1965年) 上映日：2006年1月30日、2月4日

中平康回顧展

上映会場：ソウルアートシネマ／主催：韓国シネマテーク協議会

「街燈」(中平康、1957年) 上映日：2006年1月16日、20日

「美徳のよろめき」(中平康、1957年) 上映日：2006年1月17日、21日

清水宏監督回顧展

上映会場：オーストリア映画博物館内劇場, フィルムボディウム劇場, ドイツ映画博物館内劇場／
主催：オーストリア映画博物館

「港の日本娘」(清水宏、1933年) 上映日：2006年3月3日、5日、4月6日、3月4日、6日
「有りがたうさん」(清水宏、1936年)

上映日：2006年2月28日、3月5日、4月2日、1日、5月10日、11日

「花形選手」(清水宏、1937年) 上映日：2006年3月6日、4月7日、12日、5月1日、3日
「歌女おぼえ書」(清水宏、1941年)

上映日：2006年3月1日、6日、4月16日、20日、5月19日、20日

「簪」(清水宏、1941年) 上映日：2006年3月4日、4月17日、21日、5月21日、22日

第55回ベルリン国際映画祭 インターナショナル・フォーラム・オブ・ヤング・シネマ部門

上映会場：デルフィ映画劇場, アルゼナール劇場, パピロン劇場／主催：ベルリン映画博物館

「恋や恋なすな恋」(内田吐夢、1962年) 上映日：2006年2月18日、19日

ナト映画祭 内田吐夢映画回顧展

上映会場：デンマーク国立シネマテーク／主催：デンマーク・フィルム・インスティテュート

「浪花の恋の物語」(内田吐夢、1959年) 上映日：2006年4月9日、10日

「恋や恋なすな恋」(内田吐夢、1962年) 上映日：2006年4月9日

「飢餓海峡」(内田吐夢、1965年) 上映日：2006年4月9日

◆入江良郎

『十九の春』撮影風景について/『NFCニューズレター』第57号(2004年10月 - 11月号)

◆岡島尚志

スウェーデンの映画保存〔下〕—“シネマテーク”の事業、映画をめぐる“協定”を考える—/『NFCニューズレター』第54号(2004年4 - 5月号)

ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真映画博物館・映画部のアーカイヴ事業/『NFCニューズレター』第54号(2004年4 - 5月号)

福岡市総合図書館・映像資料課と共催した上映企画「巨匠たちの幻の映画～東京国立近代美術館「フィルム・アーカイブの意味するもの」/シンポジウム「映画発掘!フィルム・アーカイブの仕事」基調講演・討議(2004年5月3日)

米国の公的フィルム・アーカイブ(1)—国立公文書館・特殊メディア保存サービス部/『NFCニューズレター』第56号(2004年8 - 9月号)

東南アジア太平洋地域の映画保存運動—その新たな展開/『NFCニューズレター』第56号(2004年8 - 9月号)

米国の公的フィルム・アーカイブ(2)—議会図書館・映画放送録音物部/『NFCニューズレター』第57号(2004年10 - 11月号)

FIATが発表した視聴覚資料遺産の保存に関するパリ・アピール/『NFCニューズレター』第58号(2004年12月 - 2005年1月号)

◆岡田秀則

239枚の履歴書—日本アニメーション映画史/『NFCニューズレター』第56号(2004年8月 - 9月号)

高村倉太郎氏に聞く—先輩カメラマン・桑原昂と三浦光雄/『NFCニューズレター』第57号(2004年10月 - 11月号) [聞き手・構成]

岡崎宏三氏に聞く—先輩カメラマン・青島順一郎/『NFCニューズレター』第58号(2004年12月 - 2005年1月号) [聞き手・構成]

《不可視》の彼岸へ1970年代日本のノンフィクション映画素描/『NFCニューズレター』第59号(2005年2月 - 3月号)

吉原順平氏インタビュー 移りゆく産業映画と岩波映画製作所の変容/『NFCニューズレター』第59号(2005年2月 - 3月号) [聞き手・構成]

◆常石史子

ヨハン・プライス講演会&ワークショップ報告/『NFCニューズレター』第54号(2004年4月 - 5月号)

「デジタル復元の現在」における講演(2005年12月7日)

『新・平家物語』のデジタル復元/『NFCニューズレター』第59号(2005年2月 - 3月号)

◆榎本 章(とちぎあきら)

清水宏作品ほか、フィルムセンター企画の展開/『NFCニューズレター』第56号(2004年8月 - 9月号)

『チョコレートと兵隊』の発見/『NFCニューズレター』第57号(2004年10 - 11月号)

1 普及活動 Educational Activities

1-1 資料の収集及び図書室の公開 Library

NFC図書室の公開図書数は平成17年3月末日現在で24,401冊を数えた(和書20,736冊／洋書3,665冊。複本を含むアイテム数。開架閲覧の図書や逐次刊行物を除く)。前年からの増加は2,024冊である。

上記とは別に、平成16年度には新たな試みとして国内で開催された様々な映画祭のカタログ類を対象に装備と登録作業を行い、現在は計545冊のカタログを登録しOPAC上での検索にも対応している。また、II-3で述べた資料の提供には、ゆまに書房による「映画旬報」の復刻(「資料・〈戦時下〉のメディア 第1期 統制下の映画雑誌」第5回配本)のための原本提供が含まれている。

閲覧業務では、これまで火曜日～金曜日であった開室日を改め、平成16年度より土曜日の開室を増やすとともに、開室時間を従来の10:30～18:00から12:30～18:30に改めた。なお、平成16年度の開室日数は228日間で、利用者は3,120人(1日平均14人)を数えた。

【年間利用者数】

■開室日数 228日間

■入場者総数 3,120人 一般78% 学生22%

■1日平均 14人

The NFC library made accessible to the public 24,401 books in total (20,736 in Japanese and 3,665 in foreign languages) as of March 31, 2005. 2,024 books were added to the holding of the previous year.

In addition, NFC newly sorted out and entered the information of domestic festival catalogs and as a result, 545 catalogs are now searchable on OPAC (Online Public Access Catalog.) Also, the loan of non-film materials described under article II-3 includes those to Yumani shobō for its project of reprinting *Eiga jumpō*.

NFC started to open the library on Saturday in addition to the weekdays, and changed the opening hours from 10:30 ~ 18:00 to 12:30 ~ 18:30. The library was open for 228 days during the fiscal year 2004, and received 3,120 patrons in total, that is, 14 patrons per day on average.

将来の映画観客となる小・中学生を主たる観客に想定して、こどもたちに映画の面白さ、とりわけ日本映画の素晴らしさを知ってもらい、同時に映像に対する理解力を高め、情操教育にも資するよう企画する上映会「こども映画館」を夏休みと春休みの時期に開催した。平成16年度は、上映企画「日本アニメーション映画史」や展示企画「造形作品でみる岡本忠成アニメーションの世界」を実施したこともあり、日本の短篇アニメーションの秀作を選んで番組を編成し、さらに研究員による解説を加えて展示企画との連動も図った。民間企業(映画現象所)の協力を得て、来館者へのプレゼント贈呈も行った。

また、フィルムセンター分館のある相模原市内の小・中学校生徒を対象にした学校上映は、2回実施した(参加者数：216人)。

NFC held special screening series “Kids★Cinema” for elementary and junior high school students during school holidays in spring and summer. This series is designed to educate the future generation of filmgoers by giving them the opportunities to enhance film literacy through aesthetic experiences of viewing high quality films. This year, in conjunction with the screening programs, NFC organized the special screenings for kids with Japanese animation shorts and the exhibition with the curator’s talks. In addition, with the help of the film laboratory, NFC gave out small gifts to the participants.

NFC also organized 2 screenings for the elementary and junior high school students in Sagami-hara city where the annex of NFC is located a drawing 216 viewers.

会 期
平成16年12月7日 (火)
会 場
小ホール
講 師
常石史子 (フィルムセンター研究員)
入場者
106人

1-3	講演会・シンポジウム等	Lecture / Symposium
-----	-------------	---------------------

「デジタル復元の現在」講演会

平成16年、フィルムセンターが角川映画株式会社と共同で『新・平家物語』（1955年、溝口健二監督）のデジタル復元を行ったことを踏まえ、社団法人日本映画テレビ技術協会との共催で講演会「デジタル復元の現在」を開催した。カラー長篇映画のデジタル復元はわが国初の試みで、実作業はオランダの復元専門ラボが担当しているが、いくつかの修復結果をフィルム映写で比較しつつ、フィルムセンター研究員がヨーロッパにおけるデジタル復元技術の現状を紹介した。後半では『瀧の白糸』（1933年、溝口健二監督）の例に即して、ようやく端緒についた国内のこの分野での取り組みと、今後の展開について考察した。

The Status Quo of Digital Restoration

As a way to share the experience of digitally restoring the color feature film *Shin beike monogatari* (dir. Kenji Mizoguchi, 1955) for the first time in Japan in collaboration with the Kadokawa Pictures, NFC co-organized this lecture with Motion Picture & TV Engineering Society of Japan, Inc. The actual restorative process for this project was done at the foreign laboratory. NFC curator reported the current states of digital restoration in Europe by projecting variously restored prints. In the latter half of the lecture, the curator discussed the future development of the digital restoration based on the example of *Taki no Shiraito* (dir. Kenji Mizoguchi, 1933.).

コーディネーター：宮澤誠一氏

第1講

平成17年3月9日(水)

講師：長沼六男(撮影監督)

受講者数：62人

第2講

平成17年3月10日(木)

講師：長沼六男(撮影監督)

受講者数：59人

第3講

平成17年3月11日(金)

講師：安藤庄平(撮影監督)

受講者数：58人

第4講

平成17年3月12日(土)

講師：川上皓市(撮影監督)

受講者数：54人

日本映画の優れた伝統を継承するとともに将来の映画人を育成することを目的として平成9年度より開講された映画製作専門家養成講座は、平成17年3月9日から12日にかけて、小ホールを会場にその第8回目を開催した。今回は前回に続き、日本大学芸術学部の教授として教鞭をとりつつ、現役の映画編集者としても活躍中の宮澤誠一氏をコーディネーターとして迎え、各日のゲスト講師として招かれた撮影監督とともに「撮影技術－伝承のかたち2」というテーマで講義を実施した。今回の講座で招かれた講師は、現在最前線で活躍している中でもベテランに属するカメラマンばかりであり、それぞれの担当作品を通じて、技術の伝承が具体的に語られた。

“Educational Program for Young Filmmakers” was launched in 1997 in order to help young filmmakers learn important skills and tradition of Japanese cinema. This year, the 8th program met for four days from March 9th till 12th at Cinema 2 of NFC. Coordinated by Seiichi Miyazawa who is both film editor and professor at Nihon University (College of Art), directors of photography spoke as guest lecturers. The subject of all the lectures was the same as the previous years: “techniques of motion picture photography: oral traditions.” The four veteran directors of photography discussed their art in concrete term after screenings of the films they worked on.



平成16年度は11大学より16名の実習生を受け入れ、フィルムセンターの歴史と運営、フィルム・アーカイヴの理念、各部門の仕事、相模原分館におけるフィルム保存の実際、フィルムの取り扱いなどを講義するとともに、実習として9.5mmフィルムのデータ作成、スチル写真の整理作業、上映企画の事前調査に当たらせた。例年、網羅的な映画の収集・保存・復元を行うフィルム・アーカイヴ活動の重要性を伝えるために講義に力点を置いてきたが³、今回は具体的な実務体験も充実させることができ、さらに効果的な実習になった。

In 2004 NFC admitted 16 curatorial trainees from 11 universities. The training included lectures on topics such as the history and management of NFC, principles of film archives, roles of different division of NFC, film preservation practices at Sagamihara annex, and how to handle films. In addition to the lectures, the trainees engaged in practical training consisting of making data of 9.5mm films and sorting out still photographs. In order to inform the trainees of the importance of the comprehensive work of film archives that deal with collection, preservation, and restoration of films, the training curriculum was put together so as to let the trainees focus on lectures in the beginning and then proceed to the practical training based on the knowledge gained through the lectures. This year the work with 9.5mm films was added to enrich the program.

2 刊行物

2-1 NFCカレンダー等

NFCカレンダー

29.7×21cm

大ホール上映作品解説／上映スケジュール



□2004年4月号
キューバ映画への旅
4p



□2004年5-6月号
アジア映画―“豊穣と多様”
6p



□2004年7-8月号
日本アニメーション映画史
8p



□2004年9月号
映画女優 高峰秀子 (1)
6p



□2004年10-11月号
映画女優 高峰秀子 (2)
6p



□2004年12月-2005年2月号
特集・逝ける映画人を偲んで
2002-2003
6p



□2005年1月特別号
シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ
無声映画傑作選
4p



□2005年3月号
フィルムは記録する2005
6p

展示チラシ



造形作品でみる岡本忠成
アニメーションの世界
2p



映画女優 高峰秀子展
2p



□2004年の夏休み
2p



□2005年の春休み
2p

こども映画館

29.7×21cm / 16p

制作：印象社



□第54号(2004年4-5月号)

特集1：キューバ映画への旅 特集2：アジア映画―“豊穣と多様”(1)

Guest Editorial

ユニークで自由な創造性 キューバ映画の魅力■山田和夫

企画の見所

ラテンアメリカ現代史の中のキューバ映画■太田昌国

キューバもうひとつの映画の都■樋口聡

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説41 「ルシア」金谷重朗

《アジアフォーカス・福岡映画祭》と福岡市総合図書館のアジア映画■佐藤忠男
トピック

福岡市総合図書館、FIAPFに加盟■H2O

DVD「日本アートアニメーション映画選集」に協力■H2O

ピリー・ワイルダーの“遺産”：UCLAキャンパスの新しい映画館計画■HO

「FIAPFリール・エマージェンシー・プロジェクト」の反響■HO

ヨハン・プライス講演会&ワークショップ報告■常石史子

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第50回

スウェーデンの映画保存(下) ―“シネマテーク”の事業、映画をめぐる“協定”を考える■岡島尚志

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第51回

ジョージ・イーストマン・ハウス国際写真映画博物館・映画部のアーカイヴ事業■岡島尚志



□第55号(2004年6-7月号)

特集1：アジア映画―“豊穣と多様”(2) 特集2：日本アニメーション映画史(1)

企画の見所

グル・ダット、タヒミック、そしてアーキヴィスト魂■石坂健治

アジアの映画保存事情アップデート：シンガポール、ラオス、フィリピン、ウズベキスタン、台湾の場合■(翻訳・構成：溝口彰子)

写真でみる岡本アニメーションの造形作品

《短篇アニメの巨人》岡本忠成のアニメーション■おかだえみこ

人形作家・保坂純子が語る岡本忠成アニメーションの世界「十人の小さなインディアン」から「おこんじょうり」まで■(聞き手：おかだえみこ)

「日本アニメーション映画史」の人々■森卓也

トピック

「キューバ映画への旅」開幕と舞台挨拶■H2O

平成15年度映画製作専門家養成講座(第7回)の成果■HO



□第56号(2004年8-9月号)

特集：日本アニメーション映画史(2)

企画の見所

239枚の履歴書―日本アニメーション映画史■岡田秀則

大藤信郎 その業績と評価■津堅信之

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説42 「三匹の小熊さん」■田中真澄

CURATOR'S CHOICE/上映作品解説43 「茶釜音頭」■安井喜雄

平成15年度フィルムセンター入場者数

トピック

清水宏作品ほか、フィルムセンター企画の展開■AT

福岡で開催されたシンポジウム「映画発掘!〜フィルム・アーカイヴの仕事」■HO

「FIAPFナイトレート・ブック」がKKブック・アワーズを受賞■HO

平成16年度優秀映画鑑賞推進事業、スタート■AT

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第52回

米国の公的フィルム・アーカイヴ(1)―国立公文書館・特殊メディア保存サービス部■岡島

尚志

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第53回

FIAFハノイ会議報告 東南アジア太平洋地域の映画保存運動—その新たな展開■岡島尚志



□第57号(2004年10-11月号)

特集：映画女優 高峰秀子

企画の見所

高峰秀子・にんげん渡世■田中真澄

『十九の春』撮影風景について■人江良郎

『チョコレートと兵隊』の発見■とちぎあきら

9歳のプライベート・フィルムから梅原龍三郎の肖像画まで(グラビア)

連載：ゲスト・トーク@NFC 第2回

「シリーズ・日本の撮影監督(1)」トークショーより(上) 高村倉太郎氏に聞く—先輩カメラマン・桑原昂と三浦光雄■(聞き手：岡田秀則)

連載：フィルム・アーカイヴの諸問題 第52回

米国の公的フィルム・アーカイヴ(2)—議会図書館・映画放送録音物部■岡島尚志



□第58号(2004年12月-2005年1月号)

特集：逝ける映画人を偲んで2002-2003

企画の見所

逝ってしまった懐かしい人たち■品田雄吉

プログラム・ピクチャーの栄光 蔵原惟繕小論■渡辺武信

深作欣二と笠原和夫■上野昂志

下戸の酒 佐伯清監督を偲ぶ■野上照代

映画作りの名コンビ 笠原良三氏を悼む■松林宗恵

わが師匠・松田定次■松村昌治

水木洋子美容室■白坂依志夫

連載：ゲスト・トーク@NFC 第3回

「シリーズ・日本の撮影監督(1)」トークショーより(下) 岡崎宏三氏に聞く—先輩カメラマン・青島順一郎■(聞き手：岡田秀則)

トピック

FIATが発表した視聴覚資料遺産の保存に関するバリ・アピール■HO

2004年度(第4回) FIAF賞がジェラルディン・チャップリンに授与■HO

シネマテーク・ド・トゥールーズの創立者、レイモン・ボルド氏逝去■H2O



□第59号(2005年2-3月号)

特集：フィルムは記録する2005

企画の見所

《不可視》の彼岸へ 1970年代日本のノンフィクション映画素描■岡田秀則

「空間」の政治学『パルチザン前史』をめぐって■北小路隆志

吉原順平氏インタビュー 移りゆく産業映画と岩波映画製作所の変容■(聞き手：岡田秀則)

映画『不安な質問』をつくる■松川八洲雄

立ち止まったまま前に進める■岩佐寿弥

監督樋口源一郎 追究する喜び■石井董久

沖縄で作った二つの民俗誌映画■北村皆雄

検証：早川雪洲の無声映画期のスターダム■宮尾大輔

トピック

『新・平家物語』のデジタル復元■常石史子



□平成16年度優秀映画鑑賞推進事業 鑑賞の手引

29.7×21cm / 6p

A-T各プログラム(20種、各4作品)の作品解説

会場一覧

プログラム作品リスト

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター

制作：美術出版デザインセンター



□造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界 出品リスト

22.5×10cm / 8p

制作：印象社



□映画女優 高峰秀子展 出品リスト

22.5×10cm / 8p

制作：印象社



□のぞいてみよう!アニメーションの不思議 造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界 セルフガイド

22.5×10cm / 8p

制作：印象社

企画の広報活動としては、上映企画ごとの「NFCカレンダー」や展示企画及び「こども映画館」のチラシを作成し、それらの情報をフィルムセンターのウェブサイトでも公開した。平成16年度は、企画の内容に応じた情報掲載の依頼先（新聞・雑誌・ラジオ・テレビなど）の分析、外部メディアを通じた招待券の提供、掲載媒体のデータ蓄積など、企画の効果的な紹介をさらに増強した。また、フィルムセンターの事業紹介媒体としては、隔月刊の「NFCニューズレター」がある。企画関連の記事から映画保存の最新情報までの幅広いテーマを扱い、映画関係者、研究者などに広く配布している。

そのほか、修学旅行で東京を訪れる小・中学校の児童・生徒などの訪問者を積極的に受け入れ、研究員がフィルムセンターの役割と事業を解説するなど将来のフィルムセンターの観客への理解促進に努めた。

In order to publicize the events, NFC used various methods. As for publications, we published NFC Calendar for each screening series, and flyers for “Kids★Cinema.” All the information was also put on the web. In order to conduct publicity activities more effectively, we strategically contacted appropriate media (newspaper, magazines, radio and television) for each event by analyzing the target audiences of each. We also gave out free tickets through mass media as a means of promotion. We also published a bi-monthly publication, *NFC Newsletter*, which addressed a wide range of issues including essays related to the current events and the latest topics of film preservation to widely distribute to film specialists and scholars.

In order to publicize the role and function of NFC, our curators actively gave tours of the facility to the students of elementary school and junior high school who visited Tokyo on school trips.

ウェブサイトについては、平成13年度にフィルムセンターの事業を総合的に紹介する構成に大幅拡充したのちコンテンツの充実に努め、平成15年度は、フィルムセンターの上映・展示企画や刊行物などの最新情報を電子メールで提供する「NFCメールマガジン」を創刊した。平成16年度はその購読者が1700名を超すこととなり、観覧の促進を通じて、従来のフィルムセンター・ファンをつなぎとめるとともに新しい観客層の掘り起こしを見込んでいる。

The NFC website was expanded in 2001 so as to comprehensively represent various aspects of NFC. In 2003, NFC launched the “NFC mail magazine” which provides the latest information of NFC’s screening series, exhibitions, and publications through email. The “NFC mail magazine” has been increasingly gaining readership and the number of subscribers exceeded 1,700 during the past year, supposedly catering to both old-time NFC patrons and new ones..

記録

国際交流

International Exchange

日誌

Record of Events

予算

Expenditure

名簿

Nominal List

1	国際交流 International Exchange
1-1	平成16年度招聘者一覧

氏名

目的

滞在期間

ニコラウス・ヴォストリー Nikolaus Wostry
(オーストリア/ Filmarchiv Austria)

田中路子に関する映像及び映画機材に関する調査並びに交流事業に関する意見交換のため
平成16年4月26日－5月2日

カティア・ローレド Catia Louredo
(ブラジル/ Museu de Arte Moderna Rio de Janeiro)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展出品作品のクーリエとして
平成16年5月30日－6月3日

ブリジダ・バルタール Brigida Baltar
(ブラジル/ 出品作家)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展展示作業及びレセプション出席のため
平成16年5月30日－6月20日

サンドラ・ブリトー Sandra Brito
(ブラジル/O Mondo de Lygia Clark Associação Cultural)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展出品作品のクーリエとして
平成16年6月2日－6月9日

マウリシオ・ディアス Mauricio Dias
(ブラジル/ 出品作家)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展展示作業及びレセプション出席のため
平成16年6月1日－6月8日

ワルター・リートヴェーク Walter Riedweg
(ブラジル/ 出品作家)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展展示作業及びレセプション出席のため
平成16年6月1日－6月8日

エルネスト・ネト Ernesto Neto
(ブラジル/ 出品作家)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展展示作業及びレセプション出席のため
平成16年6月2日－6月11日

アドリアナ・ヴァレジョン Adriana Varejão
(ブラジル/ 出品作家)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展展示指導及びレセプション出席のため
平成16年5月26日－6月9日

ミゲル・リオ・ブランコ Miguel Rio Branco
(ブラジル/ 出品作家)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展展示指導及びレセプション出席のため
平成16年6月3日－6月13日

リヴァーネ・ノイエンシュワンダー Rivane Neuenschwander
(ブラジル/ 出品作家)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展展示作業及びレセプション出席のため
平成16年6月1日－6月8日

パウロ・ロベルト・バルボサ Paulo Roberto Barbosa
(ブラジル/Museu de Arte Contemporânea de VSP)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展出品作品のクーリエとして
平成16年6月4日－6月9日

マリリア・コルボ Marilya Corbot
(フランス/音楽家)

「ブラジル・ボディ・ノスタルジア」展にちなむトーク・イベントでのパフォーマンスのため
平成16年7月18日－7月27日

ヨハネス・ヴィーニングャー Johannes Wieninger
(オーストリア/ Österreichisches Museum für Angewandte Kunst)

琳派国際シンポジウムへの参加・発表のため
平成16年8月13日－8月29日

フィリップ・カミーロ・カーリ Philip Camillo Carli
(米国/ 無声映画伴奏ピアニスト)

「シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ無声映画傑作選」開催に係るピアノ伴奏のため
平成17年1月4日－1月17日

イ・ヒョイン 李 孝仁
(大韓民国/ 韓国映像資料院)

2005日韓友情年記念の交換映画上映のための準備調査及び意見交換
平成17年3月2日－3月6日

パク・ジンソク 朴 珍石
(大韓民国/ 韓国映像資料院)

2005日韓友情年記念の交換映画上映のための準備調査及び意見交換
平成17年3月2日－3月6日

1-2 平成16年度来館者 Visitors

前記の招聘者ほかに、平成16年度中に海外からフィルムセンターを訪問したゲストは以下のとおりである。いずれの場合も、映画保存、フィルム・アーカイヴ事業などについてさまざまな情報・意見の交換を行った。

2004年7月13日	釜山国際映画祭グループ4名(韓国)
2004年8月24日	アラン・ベルガラ(フランス/映画評論家、パリ第3大学教授)、ウェンディ・アール(英国/英国映画協会教育部門)
2004年9月16日	スティーヴン・プリンス(米国/映画研究者)
2004年9月22日	シェリフ・シューバーシー(エジプト/カイロ国際映画祭最高責任者)
2004年10月19日	東南アジア映画人グループ10名(インドネシア、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール)
2004年10月19日	マックス・テシエ(フランス/映画評論家)
2004年10月20日	ヴラディーミル・ドミトリエフ(ロシア/ゴスフィルモフォンド副所長)
2004年10月28日	アンドレアス・シュトレール(ドイツ/ミュンヘン映画祭ディレクター)
2004年11月20日	ジェームズ・クワント(カナダ/シネマテーク・オンタリオ・シニア・プログラマー)
2004年11月20日	サイモン・フィールド(英国/映画プロデューサー)
2004年11月26日	ニコラ・マッツァンティ(イタリア/映画復元技術者)
2004年12月3日	韓国映像資料院グループ4名(韓国)
2004年12月14日	ヴァー・ゲオルガクー(ギリシア/ギリシア・フィルムセンター)
2005年1月12日	リチャード・ペーニャ(米国/ニューヨーク映画祭ディレクター)
2005年2月3日	マルコ・ミュレール(イタリア/ヴェネチア国際映画祭ディレクター)
2005年2月19日	デヴィッド・ロビンソン(英国/映画史家、ボルデノーネ無声映画祭ディレクター)
2005年3月23日	劉顯惠(台湾/高雄市電影図書館館長)

In addition to the invited guests, the following individuals visited NFC from overseas. These visitors all discussed with NFC staff members topics such as preservation of film culture and film archiving projects.

July 13, 2004	Busan International Film Festival Group(Korea)
August 24, 2004	Alain Bergala(Film Critic, Professor of Paris III University, France), Wendy Earle(British Film Institute, UK)
September 16, 2004	Stephen Prince(Film Researcher, USA)
September 22, 2004	Cherif El Shoubashy(President, Cairo International Film Festival, Egypt)
October 19, 2004	South East Asian Film Journalists and Film Festival Staff Group(Indonesia, Philippines, Thailand, Malaysia, Singapore)
October 19, 2004	Max Tessier(Film Critic, France)

October 20, 2004	Vladimir J. Dmitriev(Deputy Director, Gosfilmofond, Russia)
October 28, 2004	Andreas Ströhl(Director, Munich Film Festival, Germany)
November 20, 2004	James Quandt(Senior Programmer, Cinematheque Ontario, Canada)
November 20, 2004	Simon Field(Film Producer, UK)
November 26, 2004	Nicola Mazzanti(Film Restorer, Italy)
December 3, 2004	Korean Film Archive Group(Korea)
December 14, 2004	Voula Georgakakou (Greek Film Center, Greece)
January 12, 2005	Richard Peña(Program Director, New York Film Festival, USA)
February 3, 2005	Marco Müller(Director, Venice International Film Festival, Italy)
February 19, 2005	David Robinson(Film Historian, Director of Pordenone Silent Film Festival, UK)
March 23, 2005	Liu Hsien-Huei(Director, Kaoshung Municipal Film Archive, Chinese Taipei)

□平成16年6月7日

ブラジル・コネクツとの共催展「ブラジル:ボディ・ノスタルジア」の開会式及びレセプションを挙行政。

□平成16年6月11日

文部科学省独立行政法人評価委員会委員7名美術館・工芸館視察。

□平成16年6月15日

評議員会(映画部会)開催。

□平成16年6月16日

評議員会(美術・工芸部会)開催。

□平成16年7月14日

第1回東京国立近代美術館コンサート「ペルンハルト直樹ヘーデンボルクーチェロリサイタル&トーク」をエントランスホールにおいて開催。

□平成16年8月4日

遠山前文部科学大臣「近代日本の美術」展視察。

□平成16年8月20日

東京新聞との共催展「琳派 RIMPA」展の開会式及びレセプションを挙行政。

□平成16年9月2日

秋篠宮妃殿下眞子内親王殿下「動物のモチーフ」展御成り。

□平成16年9月10日

天皇后両陛下「琳派 RIMPA」展行幸啓。

□平成16年9月17日

特別展「非情のオブジェ—現代工芸の11人」の開会式及びレセプションを挙行政。

□平成16年9月24日

第2回東京国立近代美術館コンサート「邦楽の夕べ」を講堂において開催。

□平成16年10月12日

「木村伊兵衛展」の開会式及びレセプションを挙行政。

□平成16年10月25日

特別展「草間彌生展」の開会式及びレセプションを挙行政。

□平成16年12月7日

NHK、NHKプロモーション、東京新聞との共催展「ゴッホ展 孤高の画家の原風景」の記者発表会を開催。

□平成17年1月11日

「河野鷹思のグラフィック・デザイン」の開会式及びレセプションを挙行政。

□平成17年1月14日

「人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉」の懇談会を開催。

□平成17年2月7日

美術作品購入等選考委員会(工芸部門)開催。

□平成17年2月17日

「第3回東京国立近代美術館コンサート 黒沼ユリ子ヴァイオリンコンサート&トーク」をエントランスホールにおいて開催。

□平成17年2月21日

評議員会(美術・工芸部会)開催。

□平成17年2月23日

美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。

□平成17年3月11日

美術作品購入等選考委員会(写真部門)開催。

□平成17年3月18日

評議員会(映画部会)開催。

□平成17年3月22日

NHK、NHKプロモーション、東京新聞との共催展「ゴッホ展 孤高の画家の原風景」の開会式及びレセプションを挙行政。

3	予算 Expenditure
---	----------------

3-1	平成16年度歳出予算一覧(当初予算)
-----	--------------------

事項	予算額(単位:千円)
1 一般管理費	334,015
2 収集・保管事業費	762,867
陳列品購入費	504,234
資料収集整備費	258,633
3 展示事業費	398,070
特別展経費	128,873
企画展経費	5,289
常設展経費	263,908
4 調査研究事業費	82,667
5 教育普及事業費	211,303
合計	1,788,922

東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)

(平成17年3月31日現在)

現職	氏名
栃木県立美術館副館長補佐・学芸課長	青木 宏
東京国立博物館事業部長	金子啓明
東京大学大学院人文社会系研究科助教授	木下直之
東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科助教授	熊倉純子
群馬大学非常勤講師	黒田亮子
朝日新聞社事業本部文化事業部専任部長兼企画委員	小林淑郎
ブリティッシュ・カウンシル アドバイザー	櫻井 武
明星大学日本文化学部教授	宝木範義
東京文化財研究所美術部黒田記念近代現代美術研究室長	田中 淳
財団法人セゾン現代美術館常務理事館長	難波英夫
財団法人日本オペラ振興会理事長	西崎清久
青森県立八戸南高等学校校長	橋本 都
写真家	松本徳彦
神奈川県立近代美術館館長	山梨俊夫
社団法人日本経済団体連合会事務総長	和田龍幸

東京国立近代美術館評議員(映画部会)

(平成17年3月31日現在)

現職	氏名
早稲田大学文学部教授	岩本憲児
社団法人映像文化制作者連盟事務局長	大久保 正
財団法人川喜多記念映画文化財団理事長	岡田正代
東京大学大学院総合文化研究科教養学部教授	刈間文俊
映画評論家(日本映画ペンクラブ代表幹事)	河原畑 寧
映画監督(協同組合日本映画監督協会理事長)	崔 洋一
株式会社近代映画協会取締役社長 (協同組合日本映画製作者協会代表理事)	新藤次郎
日本大学芸術学部教授	田島良一
映画字幕翻訳家	戸田奈津子
イメージ・フォーラム映像研究所代表	富山加津江
社団法人日本映画製作者連盟専務理事・事務局長	福田慶治
映画プロデューサー(特定非営利活動法人映画美学校代表理事)	堀越謙三
映画評論家	村山匡一郎
ぴあ株式会社代表取締役会長兼社長	矢内 廣
映画評論家(東海大学文学部文芸創作学科教授)	山根貞男

東京国立近代美術館職員

(平成17年3月31日現在)

現職	氏名
館長	辻村哲夫
副館長	尾崎正明
庶務課	
庶務課長	高岡道久
庶務課課長補佐	諸田 清
庶務課課長補佐	岩下健吾
庶務係長	小山寛俊
	田島秋桜
	布施岳人
	宮本由紀子
人事係長	白石英司
	畑中賢治
展覧会運営係長	小谷松誠司
	吉田智美
経理係長	小田嶋輝明
	荒井英俊
用度係長	佐々木毅
	諏訪部吉洋
	小川雄一郎
汽かん士(中央監視室)	宮腰幸昭
専門職員	小山和子
企画課	
企画課長	松本 透
主任研究官	企画・渉外係長(併) 藏屋美香
主任研究官	鈴木勝雄
	保坂健二郎
主任研究官	教育・普及係長(併) 一條彰子
主任研究官	情報・資料係長(併) 水谷長志
美術課	
美術課長	展示係長(併) 中林和雄
主任研究官	絵画・彫刻係長(併) 古田 亮
	三輪健仁
	中村麗子
主任研究官	版画係長(併) 都築千重子
主任研究官	写真係長(併) 増田 玲
展示係	大谷省吾

現職	氏名
工芸課	
工芸課長	金子賢治
主任研究官	工芸係長(併) 諸山正則
	デザイン係長(併) 木田拓也
主任研究官	展示係長(併) 唐澤昌宏
主任研究官	教育・資料係長(併) 北村仁美
	今井陽子
フィルムセンター	
主幹	大場正敏
主幹補佐	生島達久
管理係長	相模原分館管理係長(併) 古澤 誠
	春日義孝
業務係長	島 裕子
主任研究官	企画・普及係長(併) 岡島尚志
主任研究官	岡田秀則
主任研究官	映画係長(併) 栩木 章
	常石史子
映写技術士	高屋吉丘
主任研究官	情報・資料係長(併) 入江良郎

平成16年度
独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館年報

発行者： 辻村哲夫
発 行： 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館
東京都千代田区北の丸公園3-1
電話03(3214) 2561(代表)
印 刷： 株式会社 ギョウセイ
発行日： 平成17年6月30日

■非売品

2004 Annual Report
Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo

Publisher: Tetsuo Tsujimura
Edited & Published by:
Independent Administrative Institution National Museum of Art
The National Museum of Modern Art, Tokyo ©2004
3-1 Kitanomaru-koen, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan
phone: 03(3214)2561
Printed by: Gyosei Co., Ltd

Printed in Japan

■Not for Sale